

東海大学大学院令和4年度博士論文

日本語母語話者とアラビア語母語話者（サウジアラビア人）の母語場面及び日本語接触場面における依頼会話—金銭及び時間の依頼会話における参加者の規範の分析—

指導 加藤好崇教授

東海大学大学院文学研究科

日本文学専攻

アルドレーミ ヤジード / ALDULAIMI YAZED

# 目次

第1章 序論.....	1
1. はじめに.....	1
1.1. 研究の背景.....	1
1.1.1. 両国の関係.....	1
1.1.2. 友達と親友.....	4
1.2. 研究の目的.....	6
1.3. 本研究の構成.....	7
第2章 先行研究と本研究の課題.....	9
2. 先行研究.....	9
2.1 先行研究と本研究の課題.....	9
2.2. 日本語母語場面における依頼会話で日本人が負担に感じる依頼内容.....	9
2.3. 日本語母語場面と他言語母語場面の依頼会話を比較した先行研究.....	11
2.4. 日本語接触場面における依頼会話を比較している先行研究.....	19
2.5. アラビア語母語場面の依頼会話を対象としている先行研究.....	27
2.5. アラビア語接触場面における再依頼を対象としている先行研究.....	31
2.6. 問題提起と本研究の課題.....	32
第3章 理論的枠組み.....	36
3. 理論的枠組み.....	36
3.1. 発話行為における「依頼」.....	36
3.2. 言語管理理論.....	38
3.2.1. 規範の定義.....	43
3.2.2. フォローアップ・インタビュー.....	48
3.3. ポライトネス理論.....	51
第4章.....	55

<b>4. 日本人とサウジアラビア人の両母語場面における依頼の負担度に関するアンケート調査</b> .....	<b>55</b>
4.1. はじめに .....	55
4.2. 研究方法 .....	55
4.2.1. 被調査者と調査期間 .....	55
4.2.2. アンケート内容.....	56
4.3. 結果と考察.....	64
4.3.1. 日本人が感じる負担度.....	64
4.3.2. サウジアラビア人が感じる負担度.....	68
4.3.3. 日・サ被調査者間の負担度の比較 .....	74
4.4. アンケート結果から得られた「依頼」の発話行為に関わる規範.....	83
4.5. まとめ.....	88
<b>第5章.....</b>	<b>92</b>
<b>5. DCTによる日本人とアラビア語母語話者（サウジアラビア人）の依頼会話.....</b>	<b>92</b>
5.1. はじめに .....	92
5.2. 研究方法 .....	92
5.2.1. 被調査者.....	92
5.2.2. 談話完成テスト（DCT） .....	93
5.2.3. 意味公式.....	98
5.2.4. 依頼に対する応答の分類.....	100
5.3. 結果と考察.....	100
5.3.1. 日・サ被調査者が依頼者の立場で使用した意味公式とその規範.....	101
5.3.2. 日・サ被調査者が被依頼者の立場で使用した依頼に対する応答 .....	122
5.4. まとめ.....	130
<b>第6章.....</b>	<b>140</b>
<b>6. 日本人とサウジアラビア人を参加者とするロールプレイによる依頼会話の接触場面分析</b> .....	<b>140</b>
6.1. はじめに .....	140
6.2. 研究方法 .....	140
6.2.1. 被調査者の属性.....	140
6.2.2. 場面設定とロールプレイカード.....	142

6.2.3. 発話の定義.....	146
6.2.4. 意味公式の分類.....	147
6.2.5. 依頼に対する応答の分類.....	149
<b>6.3. 結果と考察.....</b>	<b>150</b>
6.3.1. 場面 1 で使用された意味公式と規範.....	151
6.3.2. 場面 2 で使用された意味公式と規範.....	160
6.3.4. 場面 4 で使用された意味公式と規範.....	179
<b>6.4. フォローアップインタビューの分析.....</b>	<b>189</b>
6.4.1. ペア 2 のロールプレイ会話.....	189
6.4.2. ペア 4 のロールプレイ会話.....	206
6.4.3. ペア 7 のロールプレイ会話.....	222
<b>6.5. まとめ.....</b>	<b>238</b>
6.5.1. 日本語接触場面における日・サ依頼者の意味公式とその規範のまとめ.....	239
6.5.2. 日本語接触場面の日・サ被依頼者の依頼への応答・情報要求とその規範のまとめ.....	242
6.5.3. フォローアップインタビューの分析のまとめ.....	249

## 第 7 章.....271

### 7. 結論と今後の課題.....271

7.1. はじめに.....	271
7.2. 第 4 章で明らかになった結果.....	271
7.3. 第 5 章で明らかになった結果.....	273
7.4. 第 6 章で明らかになった結果.....	276
7.5. 母語場面の規範と日本語接触場面の規範の比較.....	277
7.6. 日本語教育への示唆と今後の課題.....	279

#### 表一覧

表 2-1 張雪梅 (2013:169) のロールプレイカード.....	13
表 2-2 趙 (2021 : 59) の意味公式の分類.....	15
表 2-3 日本語学習者と母語話者の属性 (小池 2000 : 61).....	21
表 2-4 徐 (2007b:221) のロールプレイカード.....	22
表 2-5 徐 (2007 : 223-224) の意味公式の分類.....	23
表 2-6 ロールプレイカード 1 負担小の場面 (ヤズィード 2019 : 3-4).....	29
表 2-7 ロールプレイカード 2 負担大の場面 (ヤズィード 2019 : 4-5).....	30
表 2-8 ロールプレイカード 1 負担小の場面 (ヤズィード 2015 : 15-16).....	31

表 2-9	ロールプレイカード 2 負担大の場面（ヤズィード 2015：16）	32
表 3-1	参加者の領域に基づく規範の分類の定義	46
表 3-2	本研究におけるロールプレイの場面設定	54
表 4-1	被調査者の所属・人数・年齢・性別	56
表 4-2	本研究におけるロールプレイの場面設定	56
表 4-3	表各場面の詳細な設定	57
表 4-4	アンケート調査の説明（依頼する側の立場）（日本語版）	58
表 4-5	アンケートの設問（依頼する側の立場）（日本語版）	59
表 4-6	アンケート調査の説明（依頼する側の立場）（アラビア語版）	61
表 4-7	アンケート調査の設問（依頼する側の立場）（アラビア語版）	61
表 4-8	各場面における日本人の規範傾向及び最も選ばれた選択肢	90
表 4-9	各場面におけるサウジアラビア人の規範傾向及び最も選ばれた選択肢	90
表 5-1	被調査者の所属・人数・年齢・性別	92
表 5-2	実際に使用した DCT（依頼する側の立場）（日本語版）	94
表 5-3	実際に使用した DCT（依頼する側の立場）（アラビア語版）	96
表 5-4	被調査者が使用した意味公式の定義と例	98
表 5-5	依頼に対する応答の分類	100
表 5-6	日本人が金銭貸借に使用した意味公式	101
表 5-7	日本人が貸借を表す動詞を使用した使用率（%）	102
表 5-8	【状況説明】と他の意味公式との発話の順番	105
表 5-9	サウジアラビア人が金銭貸借に使用した意味公式	106
表 5-10	サウジアラビア人が貸借を表す動詞を使用した使用率（%）	107
表 5-11	日本人が時間の提供の依頼に使用した意味公式	112
表 5-12	DCT の回答で【状況説明】が置かれた位置	114
表 5-13	サウジアラビア人が時間の提供の依頼に使用した意味公式	119
表 5-14	日本人の金銭貸借（500 円）における依頼に対する応答	123
表 5-15	サウジアラビア人の金銭貸借（15 リヤル）における依頼に対する応答	123
表 5-16	日本人の金銭貸借（10,000 円）における依頼に対する応答	124
表 5-17	サウジアラビア人の金銭貸借（300 リヤル）における依頼に対する応答	126
表 5-18	日本人の時間の提供（5 分）における依頼に対する応答	127
表 5-19	サウジアラビア人の時間の提供（5 分）における依頼に対する応答	127
表 5-20	日本人の時間の提供（30 分）における依頼に対する応答	128
表 5-21	サウジアラビア人の時間の提供（30 分）における依頼に対する応答	129

表 5-22	加藤（2006）の分類方法に基づく規範の分類 .....	132
表 5-23	日・サ被調査者の使用した「依頼」に対する応答の分類 .....	136
表 6-1	調査対象者の属性とペアの組み合わせ .....	141
表 6-2	場面 1（少額の金銭貸借の依頼） .....	143
表 6-3	場面 2（高額な金銭貸借の依頼） .....	144
表 6-4	場面 3（短時間の提供依頼） .....	144
表 6-5	場面 4（長時間の提供依頼） .....	145
表 6-6	会話データの表記法（加藤 2010:60 を参考に作成） .....	146
表 6-7	被調査者が使用した意味公式の定義と例.....	147
表 6-9	日本人依頼者が場面 1 に使用した意味公式と使用率.....	153
表 6-10	サウジアラビア人被依頼者が場面 1 で使用した依頼に対する応答 .....	154
表 6-11	サウジアラビア人依頼者が場面 1 に使用した意味公式と使用率.....	157
表 6-12	日本人被依頼者が場面 1 で使用した依頼に対する応答.....	158
表 6-13	日本人依頼者が場面 2 に使用した意味公式と使用率 .....	162
表 6-14	サウジアラビア人被依頼者が場面 2 で使用した依頼に対する応答 .....	164
表 6-15	サウジアラビア人依頼者が場面 2 に使用した意味公式と使用率.....	168
表 6-16	日本人被依頼者が場面 2 で使用した依頼に対する応答.....	170
表 6-17	日本人被依頼者が場面 2 で使用した依頼に対する応答.....	173
表 6-18	サウジアラビア人被依頼者が場面 3 で使用した依頼に対する応答 .....	174
表 6-19	サウジアラビア人依頼者が場面 3 で使用した意味公式と使用率.....	176
表 6-20	日本人被依頼者が場面 3 で使用した依頼に対する応答.....	177
表 6-21	日本人依頼者が場面 4 に使用した意味公式と使用率 .....	181
表 6-22	サウジアラビア人被依頼者が場面 4 で使用した依頼に対する応答 .....	182
表 6-23	サウジアラビア人依頼者が場面 4 で使用した意味公式と使用率.....	186
表 6-24	日本人被依頼者が場面 4 で使用した依頼に対する応答.....	187
表 6-25	各場面における日本人依頼者の意味公式と対応する規範の顕在化・潜在化 .....	241
表 6-26	各場面におけるサウジアラビア人依頼者の意味公式と対応する規範の顕在化・潜在化.....	241
表 6-27	各場面における日本人被依頼者の依頼への応答と応答規範の動態性.....	244
表 6-28	各場面におけるサウジアラビア人被依頼者の依頼への応答と応答規範の動態性 .....	245
表 6-29	フォローアップインタビューで明らかになった J2 と S2 の依頼者の立場の規範 .....	249

表 6-30	フォローアップインタビューで明らかになった J4 と S4 の依頼者の立場の規範 .....	253
表 6-31	フォローアップインタビューで明らかになった J7 と S7 の依頼者の立場の規範 .....	257
表 6-32	フォローアップインタビューで明らかになった J2 と S2 の被依頼者の立場の規範 .....	261
表 6-33	フォローアップインタビューで明らかになった J4 と S4 の被依頼者の立場の規範 .....	264
表 6-34	フォローアップインタビューで明らかになった J7 と S7 の被依頼者の立場の規範 .....	268

#### 図一覧

図 3-1	ネウストプニーの管理プロセス (加藤, 2010:12 から作成) .....	39
図 3-2	フェアブラザーの管理プロセス (フェアブラザー, 2000:56 から作成) .....	41
図 3-3	加藤 (2010:42) の管理プロセス .....	42
図 3-4	規範の動態性タイプの分類 (加藤, 2010:45 から作成) .....	44
図 3-5	規範の分類 (加藤 2010:45 から作成、改変) .....	48
図 4-1	日本人の金銭貸借の負担度 (依頼する側) .....	64
図 4-2	日本人の時間の提供の負担度 (依頼する側) .....	65
図 4-3	日本人の金銭貸借の負担度 (依頼を受ける側) .....	66
図 4-4	日本人の時間の提供の負担度 (依頼を受ける側) .....	67
図 4-5	日本人の最大負担 (依頼する側・依頼される側) .....	68
図 4-6	サウジアラビア人の金銭貸借の負担度 (依頼する側) .....	69
図 4-7	サウジアラビア人の時間の提供の負担度 (依頼する側) .....	70
図 4-8	サウジアラビア人の金銭貸借の負担度 (依頼を受ける側) .....	71
図 4-9	サウジアラビア人の時間の提供の負担度 (依頼を受ける側) .....	72
図 4-10	サウジアラビア人の最大負担 (両立場の比較) .....	73
図 4-11	金銭貸借(500 円)依頼場面 (依頼する側) .....	74
図 4-12	金銭貸借(500 円)依頼場面 (依頼される側) .....	75
図 4-13	金銭貸借(10,000 円)依頼場面 (依頼する側) .....	76
図 4-14	金銭貸借(10,000 円)依頼場面 (依頼される側) .....	77
図 4-15	時間の提供(5 分)を依頼する場面.....	78
図 4-16	時間の提供(5 分)を依頼される場面 .....	79
図 4-17	時間の提供(30 分)を依頼する場面.....	80
図 4-18	時間の提供(30 分)を依頼される場面 .....	81
図 4-19	日・サ被調査者が依頼時に最も負担を感じる場面 .....	81
図 4-20	日・サ被調査者が被依頼時に最も負担を感じる場面.....	82

図 5-1 日本人から確認された依頼の際の規範の階層図.....	135
図 5-2 サウジアラビア人から確認された依頼の際の規範の階層図.....	136
参考文献.....	282
付録 1 実際に使用したアンケート調査.....	288
付録 2 実際に使用した談話完成テスト.....	299
付録 3 実際に使用したロールプレイカード.....	305



# 第1章 序論

## 1. はじめに

### 1.1. 研究の背景

本研究では、日本語母語話者（以下日本人）とサウジアラビア人アラビア語<sup>1</sup>を母語とするサウジアラビア人日本語学習者（以下サウジアラビア人）の依頼に対する捉え方や方法について、社会言語学の観点から研究を進める。これまで日本とサウジアラビアの間には、地理的、文化的、社会構造的に距離があり、両国民の交流は盛んではなかった。しかしながら、両国の経済面、文化面での交流が近年進みつつあり、日本人とサウジアラビア人が友情を育む機会が創出されつつある。本節では、両国の関係や友情の捉え方について概観する。

#### 1.1.1. 両国の関係

日本とサウジアラビアの外交関係は1955年6月に開始された。当時、両国は貿易を軸にした友好的な関係がメインで、両国民が顔を合わせて親睦を深めるような交流はほとんどなかった。それ故1980年代の終わりまで、サウジアラビア人は日本のアニメやゲームといったポップカルチャーや自動車を愛していたが、日本の実情やマナー、日本人の性格などについては疎かった。

しかし、1994年にサウジアラビア政府がキングサ우드大学<sup>2</sup>に日本語専攻課程を設立したことにより、サウジアラビア人の若者が日本や日本語に接する機会が生まれた。ファーリス（2015：1-2）は、以下のプロセスを経て、湾岸諸国で唯一日本語を専門的に学ぶことができるキングサ우드大学の日本語専攻課程が設立されたと述べている。

日本語専攻課程の開設は、イスラーム歴1411年（西暦1990年）11月13日付の内閣

---

<sup>1</sup> アラビア語はサウジアラビアから、エジプト、モロッコまでのアラブ諸国で母語と認定されている言語だが、国によって方言が異なる。本研究では、サウジアラビア方言を対象とする。

<sup>2</sup> 「キングサ우드大学」は1957年にサウジアラビアの首都であるリヤドに設立され、中東の湾岸諸国では日本語を専門として教える唯一の日本語学科である。

告示の手紙を大学側が受け取った後、おおよそ3年の準備期間をおいて1993年に着手され、1994年2月5日第2セメスターからスタートした。(中略)この背景には、学部が開設された際と同じようにサウジアラビア国民のニーズに応える目的に加えて、1999年の閣議決定の国策として多くの言語の教育を目標としてあげる多言語主義が依然として強く影響しており、日本語をも含む外国語専攻課程の昇格が順調に実現したのである。(筆者訳)

ファーリス (2015:1-2)

更に2005年からアブドラ国王奨学金制度が始まり、高等教育省の要件を満たせば、国費留学で日本を含める様々な国へ留学することができるようになった。宮崎(2017)は相手の言語を学ぶことに関して、次のように述べている。

相手国の言語を身につけることはその国を理解する基盤であると同時に、他者を知ることにより、顧みる鏡にもなる。自国の言語を対外的に伝えることは積極的なコミュニケーションであり、共通認識に達し、互いの気持ちを結びつける主なルートでもある

宮崎 (2017 : 160)

多くのサウジアラビア人の若者は、幼少期から慣れ親しんだポップカルチャーをより身近に感じる事ができるだけでなく、最新のテクノロジーも同時に学ぶことができる日本への留学を決めた。こういった留学生達が日本に留学し、日本で日本人とインターアクションを行ったことによって、両国民は真に異文化交流を体験したと言えるだろう。しかしながら、従来まで民間での交流が皆無であったことから目につかなかった両国の文化的摩擦が表面化し始めた。そのため、多くのサウジアラビア人留学生がサウジアラビア大使館の文化部やキングサワード大学の日本語学科へ、日本人とのコミュニケーション問題に関する相談を行うようになった。とりわけ多かった相談内容は、「日本人の仲の良い友だちに相談しても助けてくれない」であった。筆者もキングサワード大学の言語翻訳学部日本語学科のコーディネーターとして、多くの

サウジアラビア人留学生から依頼の仕方に関する相談を受けたが、相談をしてきたほとんどの留学生はなぜコミュニケーション問題が起きたのか、その要因に見当がついていないようであった。

また留学生の日本滞在年数によってコミュニケーション問題に違いが見られた。滞在歴が短い留学生の相談に共通する問題は、サウジアラビア人の親しい友達に依頼する方法で日本人の親しい友達にも依頼をしていたことであった。サウジアラビア社会で好まれる依頼方法と日本社会で好まれる依頼方法は正反対と言っても過言ではない。サウジアラビア人留学生が、サウジアラビア人の親しい友達に対するのと同じように日本人の友達に依頼をしていたのであれば、その依頼は日本人にとって、心的距離をわきまえない負担の大きい依頼だと感じられたはずである。相談をしてきた留学生達には、この点と間接的に距離を保ちつつ依頼をすることが重要だと伝えた。

日本滞在歴が長い留学生からの相談に共通する問題は、日本で生活する中で身につけた日本人が好ましく感じるであろう依頼方法を実践しても、親しい日本人の友人が受け入れてくれる依頼と、そうでない依頼があり、その違いがわからないということであった。そしてさらに、受け入れてくれないようお願いをすると、日本人が急によそよそしい態度を取り始めることから、今までの友情が壊れたのではないかと心配になるという相談も同時に受けた。

以上の問題の原因として考えられることは、滞在歴が短いサウジアラビア人留学生はサウジアラビアのアラビア語母語場面の規範<sup>3</sup>に、滞在歴が長い留学生は日本語母語場面の規範に注意を向けていたことだと考える。日本人とサウジアラビア人が日本語でコミュニケーションを取る接触場面<sup>4</sup>では、日本語の規範でもアラビア語の規範でもない、日本語接触場面の規範が生成され、母語場面でならば意識される規範が潜在化したり、逆に顕在化したりする。この日本語

---

<sup>3</sup> ネウストプニー(1998:8)は、「規範」を「コミュニケーションあるいはインターアクションというプロセスの背景に参加者が内在した種々の『行動規定』と言えるものがある。これらの規定は私達の記憶に保存され一つの共同体に原則的に共有される。」と定義している。

<sup>4</sup> Neustupný (1987:9) は「接触場面」を“Contact” (or “foreign”) situation is a situation in which members of two or more cultures interact. Contact situation normally contain more than one language, more than one system of communication, and more than one culture. と定義している。

接触場面の規範を考慮して、日本人とサウジアラビア人のコミュニケーション問題の解決策あるいは、問題の回避策を考える必要がある。しかしながら、日本人とサウジアラビア人の日本語接触場面における規範、特に依頼に関する研究は管見の限り存在しない。そのため、日本語接触場面における両話者のコミュニケーション問題の解決策や回避策のマニュアルのような指針を作成しようとしても困難である。

平成 29 年、『日本・サウジアラビアビジョン 2030』<sup>5</sup>が策定された。これにより、両国間の幅広い分野で協力プロジェクトや民間の交流が今後一層進展し、両国間の人的交流がこれまで以上に増えることが期待される。そのため、早急に日本人とサウジアラビア人の日本語接触場面におけるコミュニケーション問題の解決策、回避策を構築しなければ、文化摩擦による問題が増加し、サウジアラビア人と日本人の友好関係だけでなく、国家間の関係にも影響を与えてしまうのではないかと危惧される。

本研究ではとりわけ相談の多かった依頼のコミュニケーション問題に焦点を当て、両言語母語場面での依頼に対する捉え方の相違点や日本語接触場面における両言語話者の依頼のコミュニケーション行動の特徴を明らかにすることを目的とする。

### 1.1.2. 友達と親友

友情に対する考え方は、国によって様々であろう。ある文化では、初対面の時に知り合うだけで、「友達」になったと考える。一方、親しくならない限り「友達」ではなく、「知り合い」と呼ぶ文化もあるだろう。初めて会って、挨拶するぐらいで「友達」と呼んでいいのか、何回か会って親しくなったら、「友達」あるいは、「親友」と呼ぶのかの判断を統一するのは難しいところである。それでは、日本とサウジアラビアの両国において、「友達」と「親友」という概念がどのように異なるのだろうか。

まず、日本語では「友達」と「親友」という別の言葉がある。「親友」は一つの言葉で表して

---

<sup>5</sup> 『日本・サウジアラビアビジョン 2030』は両国関係の新たな方針盤として、2017 年 3 月に安倍総理（当時）とサルマン国王によって、策定された。石油を軸にした供給国と消費国という関係から、日本の成長戦略とサウジアラビアの「ビジョン 2030」を発展していくという「戦略的パートナーシップ」を目指しているということである。

いるが、アラビア語には「親友」に相当する言葉はない。アラビア語で「友達」は「サディーク」だが、アラビア語で「親友」を表したい場合は「サディーク アズィーズ」のように「アズィーズ=親しい」という言葉を加えなければならない。ネウストプニー（1987:49）は日本語の「友達」という概念に関して次のように述べている。

In Japan the concept of “a friend” covers a wide range of relationships between two extreme points: one is a simple *tomodachi* (friend); the second is referred to as *shin'yu* (close friend). Both of the two forms of friendship are less casual than what we are likely to call “being a friend” in America or in Australia.

Neustupný (1987:49)

日本で友達という概念は二つ幅広い関係をカバーしていると述べている。一つ目は単純な「友達」であり、二つ目は「親友」である。友情のこの二つの形式はどちらもアメリカやオーストラリアでいう「友達になる」というニュアンスと比較すると、あまりカジュアルではないということを指摘している。アラビア語も英語とほぼ同様だが、「サディーク」という概念は「友達」と「親友」の両方の意味を持つ。しかし、日本語の「友達」と「親友」のニュアンスと比べると、アラビア語の「サディーク」のほうがカジュアルなニュアンスであると言えるだろう。アルモーメン（2010 : 60）はアラブ人が考える友達の全体像を以下のように述べている。

「アラブでは、人との出会いが尽きず、常に人との輪が広がり続けていくような実感があつた。友人もたくさんいた。近所の友達、学校の友達、親戚関係の友達、どこかへ寄ったときにできた友達など」

アルモーメン（2010 : 60）

最後の「どこかへ寄ったときにできた友達」に注目したい。アラブでは、知り合うだけで

「友達になった」と言える。これには驚く日本人が多いのではないだろうか。おそらく、それは「友達」ではなく、「知り合い」だと思える人は多いだろう。

加えて、アルモーメン（2010：108）は「サディーク」という概念に関して、次のように述べている。

「アラブ人は『サディーク』（友人）という言葉が大好きである。一緒に仕事をする人は『サディーク』であってほしいと願っている。お互いをよく知りたいと望んでいる。早く敬称なしの名前で呼び合いたいと望んでいる。」

アルモーメン（2010：108）

このことから、アラブ人は「サディーク」に対しては、敬称なしの名前で呼びあうことを望んでいることが分かる。日本では家族の人、あるいはとても親しい人ではないと、敬称なしで呼ばない傾向があるが、これもアラブと日本の大きな違いだと言えるだろう。以上のような違いが研究結果に影響を及ぼすことを避けるため、本研究の場面の設定では、「会話相手は同じ大学に通う親友」のように統一している。

## 1.2. 研究の目的

本研究では、日本人日本語母語場面とサウジアラビア人アラビア語母語場面及び日本人とサウジアラビア人の日本語接触場面における依頼の相違点を規範の観点から検討する。

相手に何かを依頼する場合、その方法は人それぞれ異なるであろう。相手をあだ名で呼び、親しみのあるお願いをする人もいるし、いくら親しくなっても、頼む時は気を遣う人もいる。加えて、相手に何かを依頼する時に、前後に使う言葉の順番も言語または文化によって異なっている。このような両言語や文化の違いに焦点を当て、比較し、実際の日本語接触場面ではどのような結果が見られるのかを明らかにすることで、母語話者と非母語話者の誤解や摩擦を減らすことができると考えられる。

そこで本研究は、両言語話者にとって馴染みがあり、日常生活で起こりうる依頼場面に限定

する。日常生活で起こりうる場面に限定する理由は、今後とも増加するサウジアラビア人と日本人のコミュニケーションで、最も起きる発話行為の一つである依頼に関する文化摩擦を明らかにしたかったためである。

データは、アンケート調査、談話完成テスト及びロールプレイを用いて収集し、分析方法としては、3章理論的枠組で述べる意味公式や言語管理理論によって分析をすすめる。

また、日本人とサウジアラビア人の友情を壊す原因になり得る依頼の考え方の違いを明らかにするため、両母語話者にとってどのような依頼内容の負担度が大きいのか、また負担の大小により依頼方法や意識がどのように変化するのかも明らかにする。その上で、日本とサウジアラビアの共通点と相違点を明らかにすることを目的とする。尚、同じアラビア語を母語とする国であっても、国によって成り立ちや経済的な豊かさが異なるので、依頼に対する捉え方が異なる。そのため本研究で明らかになった、依頼に関する結果はサウジアラビアでのみ一般化することができると考えられる。

### 1.3. 本研究の構成

本研究では、日本人とサウジアラビア人が日本語でインターアクションをする接触場面の依頼会話の問題点を明らかにすることを目的とする。そのため、両母語話者は特定の場面に対する負担度の意識を調査する必要があると思われる。また、両母語話者の母語場面における依頼の特徴や問題点を視野に入れたほうが良いと考えられる。依頼場面に対する負担度の意識と両母語場面の特徴を把握することで、両母語話者がインターアクションをする接触場面の問題点も解釈できるだろう。そして、接触場面の問題点を解釈する枠組みとして、言語管理理論を用いる。本研究の論文構成は以下の通りである。

第1章では、本研究の背景として日本とサウジアラビアの関係について、また日本語とアラビア語で扱われる「友達」及び「親友」という概念及び本研究の目的について述べた。

続く第2章では、日本人とサウジアラビア人の母語場面及び接触場面の依頼を対象にした先行研究を概観する。これまで、日本語母語場面と他言語母語場面の依頼を比較した先行研究は多く行われており、その中で先駆的な論文を取りあげ、その研究で明らかになったことをまとめる。

また日本語接触場面の依頼会話に関する研究は、日本語母語場面と他言語母語場面の依頼を比較した研究は非常に数が少ないため、すべての論文を取り上げる。そして、他言語母語場面とサウジアラビア人母語場面の依頼会話を比較した先行研究は、英語母語場面との比較を行った研究だけであった。また、サウジアラビア人を対象とした依頼接触場面の先行研究は管見の限り存在しなかった。そのため、サウジアラビア人アラビア語母語場面と日本語母語場面の再依頼を研究した論文と日本語接触場面における日本人とサウジアラビア人の再依頼の研究を取り上げ、サウジアラビア人の依頼の特徴を明らかにする。

第3章では、本研究で扱う理論的枠組み、発話行為と言語管理理論について述べる。また、データ収集方法であるアンケート調査と談話完成テスト及びロールプレイの定義を明らかにする。そして、分析方法である意味公式やフォローアップインタビューの定義も明確にする。

第4章では、日常生活で親しい友人同士ならば比較的頻繁に起こりえる依頼をする場合もしくは依頼を受けた場合、日本人とサウジアラビア人がその依頼をどの程度負担に感じるのかという相違点を明らかにするためアンケート調査を行う。対象となる場面は両言語話者ともに母語場面である。

第5章では、談話完成テストを使用し、日本語母語場面及びサウジアラビア人のアラビア語母語場面の依頼会話の意味公式やその出現順序など、両母語話者間の比較を行いながら、様々な特徴を明らかにする。

第6章では、言語管理理論を用いて、日本人とサウジアラビア人の日本語での依頼会話において、どのような相違点があるのか、そしてその相違から生じる恐れのある誤解を考察する。そのための方法として、ロールプレイでデータを収集し、フォローアップインタビューを用いて分析する。

第7章では、以上の章の考察をまとめ、本研究の結論を述べる。そして、サウジアラビア人日本語学習者及び日本人アラビア語学習者への示唆を提示し、今後の課題や今後の展望について述べる。



## 第2章 先行研究と本研究の課題

### 2. 先行研究

#### 2.1 先行研究と本研究の課題

日本語母語場面と他言語母語場面の依頼会話を比較する研究は、両言語話者が依頼会話で選択するストラテジーや談話構成の順序などを研究の対象としている。依頼の場面設定としては、日常生活で確認されやすい場面を用いている。また、日本語と対照される他言語の多くは、中国語であり、他には、韓国語、タイ語、インドネシア語、フランス語、ビルマ語、ベトナム語なども比較されている。しかしながら、日本語母語場面とサウジアラビア人を対象としたアラビア語場面の依頼会話を対象とした研究は、筆者の修士論文以外は数少ない。また、日本語接触場面における日本人とサウジアラビア人の依頼場面を対象とした研究も管見の限りほとんど存在しない。そこで本研究では日本人とサウジアラビア人の依頼の特徴を母語場面での比較と接触場面での分析から明らかにする。

2.1 では本研究において分析する依頼の場面設定を構成するため、日本人が負担だと感じる依頼場面を明らかにした研究を概観する。2.2 では日本語とアラビア語以外の他言語母語場面の依頼会話場面を比較対照した研究を、2.3 では日本語母語場面と日本語接触場面の依頼会話を比較対照した研究を取り上げ、日本人の依頼の特徴を概観する。そして、2.4 はサウジアラビア人アラビア語母語場面と他言語母語場面の依頼会話場面を比較対照した研究を、2.5 ではサウジアラビア人アラビア語母語場面とサウジアラビア人が参加した日本語接触場面の再依頼会話を比較対照した研究を取り上げ、サウジアラビア人の依頼の特徴を概観する。

#### 2.2. 日本語母語場面における依頼会話で日本人が負担に感じる依頼内容

岡田・安藤（2001）は日中間の依頼摩擦の要因として、依頼の許容範囲が両言語で異なるのではないかと考え、日中の大学生に対し「あつかましさ」に関する調査を行い、両母語話者の被依頼者の負担の意識を明らかにした。被調査者は中国人と日本人の大学生または大学院生で、性差は中国人の場合、男性 23 名、女性 64 名の合計 87 名で、日本人の場合、男性 33 名、女性 35 名

の合計 68 名であった。

分析データはアンケートで収集された。分析方法は、親疎関係、上下関係の異なる人物から 15 の依頼をされた場合、どの程度「あつかましさ」を感じるかを 3 段階で評価してもらい、各項目の平均値を両言語で比較する方法である。なお、評定の段階は [0 が最低値で 2 が最高値] であり、上下関係の異なる人物とは（親しい上級生、それほど親しくない上級生、親しい同級生、それほど親しくない上級生、親しい下級生、それほど親しくない下級生、親友、初対面の学生）を指す。

質問項目は「金銭的負担」、「物質的負担」、「労力的負担」の上位カテゴリから構成され、それぞれの負担カテゴリには、「必要度が高く負担度が小さい質問」「必要度が低く負担度が小さい質問」「必要度が高く負担度が大きい質問」「必要度が低く負担度が大きい質問」「第 3 者からの依頼」といった下位分類が存在する。

以上の質問項目に基づくアンケートを分析した結果、全 15 項目で日本人は中国人よりも「あつかましさ」を強く感じていたことを報告している。また、中国人は「親友」からの依頼であれば必要性が低くても、負担度が大きくてもあまり「あつかましさ」を感じない傾向があると述べている。一方、日本人の場合、「親友」であっても負担度が高い場面では、負担度が低い依頼に比べ「あつかましく」感じると答えた平均値が高かったと述べている。

また、呉（2020）は、調査協力者自身が負担度をどのように捉えているかを明らかにした先行研究が極めて少ないことを指摘し、アンケート調査により日本人と中国人が感じる負担度の差異を明らかにしている。

この研究における被調査者は、20 代から 30 代の中国人日本語学習者 10 名と日本人 10 名で、アンケートは「お金を借りる」「本を借りる」などの 9 つの依頼場面によって構成されている。被調査者には、各場面で親しい先生、親しくない先生、親しい友達、親しくない友達、親しい後輩、親しくない後輩に依頼をする、もしくは依頼された場合の負担度をランクづけするよう求めた。

分析の結果、日本人依頼者は上下関係や親疎関係に関わらず「お金を借りる」依頼を最も負担に感じており、「本を借りる」依頼を最も負担が小さい依頼と捉えていたことを明らかにした。

また被依頼者側も上下関係や親疎関係に関わらず負担度が最も低い依頼に「本を貸す」依頼を挙

げていた。一方で、最も負担に思う依頼は上下関係や親疎関係によって異なっていたと述べている。具体的には親しい友達、親しくない友達、親しい後輩、親しくない後輩からの依頼の場合、「お金を貸す」依頼が最も負担度が高かったが、親しい先生の場合は「会場準備の手伝い」と「発表会の司会」の依頼が、親しくない先生の場合は「発表会の司会」と「空港へ迎えに行く」依頼が最も負担度が高い依頼であったと報告している。

以上の先行研究の結果から、日本人は親友からの依頼であっても、負担度の大きい事柄を依頼されることは否定的に思ってしまう傾向があるということや、金銭の貸し借りを非常に負担度の大きい依頼と捉える傾向があることが明らかになった。しかしながら呉（2020）が指摘するように、依頼の負担度を被依頼者自身がどの程度感じているかを明らかにした研究はそれほど多くない。そのため、本研究では日常生活で遭遇する可能性が高い依頼場面において、日本人とサウジアラビア人の依頼者と被依頼者、それぞれの意識について第4章で明らかにしていきたい。

### 2.3. 日本語母語場面と他言語母語場面の依頼会話を比較した先行研究

日本語母語場面と他言語母語場면을比較した依頼会話の先行研究には、張穎（2004）、柳（2004）、張雪梅（2013）、趙（2021）、グエン（2017）等がある。

張穎（2004）は日本語母語場面と中国語母語場面における依頼会話を依頼者と被依頼者の相互行為の観点から分析し、両言語の依頼会話の好ましい展開パターンを明らかにすることを目的とした。この研究の調査協力者の属性は、大学院生と会社員の20～30代の日本人と中国人で、両言語話者ともに男性22人、女性26人の合計48人であった。また、会話データはロールプレイにより収集された。この研究で張は、会話相手の性別が会話に影響すると考え、ロールプレイの組み合わせを全ペア同性同士で行ったと述べている。

また、ロールプレイを用いた理由として、自然会話で統制が困難な相手との関係、負担の重さなど各種の要素をコントロールし、依頼の言語行動を安定化させるためであると述べている。当該研究における場面設定は、「親しい友達に5000円を貸してもらうように頼む」と「親しい友達に自分の代わりにアルバイトに行ってもらうように頼む」であった。なお、張穎（2004）の定義した親しい友達とは、「年齢、身分において大きい差がなく、よく顔を交わせる程度の人を指す」

である（張穎 2004 : 9）。

以上の二つの場面を設定した理由は、金銭の貸し借りとアルバイトの代行は負担が大きい設定であること、また複雑な会話展開が起こりやすく、かつ親しい間柄では日常的に起こり得る場面であるためとしている。

分析の結果、張穎は日本語母語場面の依頼の順序が『情報提供型先行発話→依頼』という展開であるのに対し、中国語母語場面の依頼の順序は『情報要求型先行発話→依頼』の展開になっていることを明らかにした。

日本語母語場面で『情報提供型先行発話→依頼』という依頼の順序が多い要因として、日本語母語場面では明示的な依頼を避けるため、依頼者が依頼に関する情報を提供し、被依頼者が自ら依頼を申し出ることを期待しているため、情報を最初に提供するのではないかと述べている。一方、中国語母語場面では、まず相手に依頼遂行の能力があるかどうかを確認している。これは相手が依頼を遂行できるかどうかを見極めてから、依頼するか否かを判断するためなのではないかと考察している。

そして、日本語母語場面と中国語母語場面の依頼会話で最も異なる点としては、前者では被依頼者は距離を保ったまま会話を進めているのに対し、後者では被依頼者は積極的に依頼者の心理的負担を軽減させようという動きが見られた点であるとしている。

また、日本語母語場面で被依頼者が、【情報提供型先行発話】を受けず【情報要求型先行発話】を受けた場合、なぜそういう情報を知りたいのか、その理由を聞き出すための発話を多くしていることを明らかにした。そしてその要因として、依頼をする際には理由を述べるのが日本語会話では不可欠な行為であり、理由を述べる発話の欠落が許されていないためと推論している。

また、日本語母語場面で依頼者が被依頼者の「3000 円貸そっか?」という発話に対して、「え、マジ! いいの?」や「本当に? いいの?」、「マジで、え、じゃ」など負担軽減の形で被依頼者を気遣っている事例を報告している。

そして、日本語母語場面と中国語母語場面の依頼会話で最も異なる点としては、前者では被依頼者が距離を保ったまま会話が進められているのに対し、後者では被依頼者が積極的に依頼者の心理的負担を軽減させようという点にあったとしている。

また、張雪梅（2013）は日本母語場面と延辺朝鮮語母語場面における依頼会話がどのように展開するのかを明らかにするため、ロールプレイで収集した依頼談話データの依頼内容の提示から依頼終了段階までの会話展開を明らかにした。

この研究の被調査者は、20代から30代までの日本人と延辺朝鮮族の大学生、大学院生で各言語場面62名の合計124名である。性別の内訳は、日本人学生が男性25名、女性37名で、延辺朝鮮族学生が男性26名、女性36名である。

場面設定に際し張雪梅（2013）は、Cody et al. (1994)の「受け手の行動を変容させる大学生の影響目標(Influence goal)は、情報提供、金銭提供/貸与、労力提供、物品提供/貸与が半数近くを占めている」という指摘から、金銭提供と労力提供を依頼する以下の表1のような場面を設定したと述べている。延辺朝鮮語の依頼場面では場面1の金額を20元に、場面2の金額を300元にしてはいるが、それ以外は日本語の依頼場面と同じであった。

表 2-3 張雪梅（2013:169）のロールプレイカード

あなたの役割:大学生 A（依頼する人）	
場面①教材費の締め切りが今日なのに、あなたは財布を家に置いて来ました。あなたは友人に2000円借りたいです。	
場面②実家の都合で生活費の仕送りが2日か3日遅れそうです。あなたは友達に1万円借りたいです。	
場面③来週、あなたは必修科目の授業で先生の指示した論文を読んで、まとめたレジュメをみんなの前で説明しなければなりません。しかし、その論文は英語で書かれたものです。英語の苦手なあなたにはなかなか難しいです。そこで、英語の得意なBさんに2頁ぐらい英訳してもらいたいです。	
場面④は場面3と同じ内容で今度はBさんに10頁ぐらい英訳してもらいたいです。	
時間的制限:各場面 2分ずつ	場所:Bさんの家または寮
[1] Bさんと普段通りに話し合ってください。	
[2] Bさんに依頼をしてください。相手があなたの依頼を承諾しなくても根気強く続けて	

頑張ってください。尚、ロールプレイは、あなたが相手と向かい合った状態から始めてください。

あなたの役割:大学生 B(依頼される人)

場面①教材費の締め切りが今日なのに、Aさんは財布を家に置いて来ました。あなたはAさんに2000円借りたいという依頼を受けます。

場面②Aさんは実家の都合で生活費の仕送りが2日か3日遅れるようです。あなたはAさんに1万円借りたいという依頼を受けます。

場面③来週Aさんは必修科目の授業で先生の指示した論文を読んでまとめたレジュメをみんなの前で説明しなければなりません。しかし、その論文は英語で書かれています。英語の苦手なAさんは英語の得意なあなたに2頁ぐらい和訳してほしいと頼みます。

場面④は3と同じ内容で今度はAさんに10頁ぐらい和訳してほしいと依頼を受けます。

時間的制限:各場面2分ずつ

場所:Bさんの家または寮

あなたのすること:

[1] Aさんの依頼を聞いて普段通りに話し合ってください。[2] あなたは金銭的・時間的・能力的(英語が得意)に手伝えることが可能です。

場面1~場面4の中、少なくとも一度は相手の依頼を断ってください。もし、相手が根気強く依頼を続けたら、その時は、仕方なく承諾するか最後まで断るか自由に決めてください。尚、ロールプレイはあなたがAさんと向かい合った状態から始めてください。

張は両言語で依頼ストラテジーの相違点が明確に確認された負担度が大きい場面2と4を取り上げ、分析している。

分析の結果、日本語母語場面では依頼の経緯や依頼者が置かれている状況を被依頼者に説明し、ゆっくりと被依頼者に依頼を切り出す特徴があり、依頼の前の説明が重視されていると指摘している。また日本語では「依頼」から「拒絶」に到るまでの会話展開の最中、単刀直入な拒絶を行わず、拒絶の前に様々な発話を行い、徐々に相手に拒絶することを予測させる傾向が見られたと報告している。それに対して、延辺朝鮮語の場合、明示的に「拒絶」する被調査者が日本語の2

倍ほどいたと報告した。また「拒絶」の前に負担軽減の発話がなされていたとしても依頼と依頼内容に対する不満が述べられていた。

その他の研究として、日本語母語場面と中国語母語場面の依頼会話データをロールプレイによって収集し、依頼の負担度と依頼者の母語が依頼の意味公式選択に与える影響を明らかにした趙（2021）の研究がある。

当該研究における被調査者の属性は、社会的地位が同等の知り合い関係の大学生であり、20歳～21歳の日本語母語話者男性9名、女性11名の合計20名、および21歳～27歳の中国語母語話者男性20名である。

当該研究もデータの収集方法としてロールプレイを用いているが、依頼発話行為に与える影響を考慮して、負担度が軽度の場面と重度の場面を次の通り設定した。負担度が軽度の場面では「大学の書店で新学期の授業のテキストを買おうとしたのですが、手持ちのお金が足りなくて、3000円を借りる」場面とし、重度の場面では「両親からの仕送りが10日ほど遅れ、家賃の支払いの期限が迫り、3万円を借りる」場面としている。負担度大・小ともに金銭の貸し借りの依頼というテーマであることから、趙の研究も前述の張穎（2004）と共通のテーマであると言える。

この研究では各場面で日本語母語話者20名からなる日本語母語場面10ペアと中国語母語話者20名からなる中国語母語場面10ペアでロールプレイを演じてもらい、会話例40を収録している。趙（2021）は、以下の表2のような意味公式の分類に従って収集されたデータを分析している。

表 2-4 趙（2021：59）の意味公式の分類

ストラテジーの型	発話機能タイプのストラテジー		分類例
A1：主張型 依頼者に行ってほしい依頼事項を単に伝える	1	直接依頼： 被依頼者に直接的に頼む	・貸してくれないかな？ ・借我点钱呗。
	2	間接依頼： 被依頼者に間接的に頼む	・我有个事拜托你。（ちょっとお願いがあるんですけど。）

A2：論理型 自分の置かれている状況や依頼行為の必要性を理解してもらうために置かれている情報を説明する	3	状況説明： 自分の状況、様々な情報を説明する	・ちょっと、なんか、親から都合なんか、10日くらいちょっと、仕送りができないって言われてさあ、3万、ちょっと足りないんだけどさあ
	4	情報要求・確認要求： 被依頼者に情報や確認を求めたりする（下記 A4-7 参照）	・B, 你带钱了么, 身上有 3000 块钱吗? (B さん、お金を持ってる? 3000 円持ってる?)
A3：正当型 人が持っている個人的・社会的価値を尊重、することを指摘・強要する	5	親密・依存： 極めて仲のよいこと、被依頼者に頼らなければならないと説明する	該当データなし
	6	称賛：被依頼者を褒め称える	該当データなし
A4：負担感関連型 相手が感じる負担を少しでも減らそうとする働き、被依頼者にも利益があることを示したり、負担をかけたことについて埋め合わせる意思を伝えたりする	7	A2-4 の被依頼者への情報要求・確認要求の形式を取っているが、実際に、配慮表現である。 負担感の軽減：被依頼者の感じる負担感を少しでも減らそうとする働きである	・え、マジ?! いいの? ・你不够不够? 你要不够也没事儿, 我找别人借。(どうかな? 足りなくても大丈夫、他の人に聞いてみるから。)
	8	負担感の埋め合わせ： 被依頼者の感じる負担感を償おうとする様々な働きである	・申し訳ないけど、 ・到时候请你吃饭。(今度おごるよ。)
A5：对人的配慮型 相手の立場を考えたり、よい人間関係作り	9	配慮発話か受け止め： 被依頼者の否定的な情報を一旦受け止め、理解を示す類	・あ、そうか。わかった。ありがとう。



をする	10	感謝：お礼を言う	・ 谢谢。(ありがとう)
	11	被依頼者への返事	・ うん、うん、はい。
A6：圧力型 依頼を強制したり、不満、批判、罵り、非難、皮肉をすることで圧力をかける	12	被依頼者への配慮また、相手の発話を確認したりして、ただ繰り返して読む	・ そうなんですよね。 ・ 行、行行行(いいよ、いいよ。)
	13	強要：依頼を承諾するように押し付ける加圧：被依頼者への不満、批判、非難、皮肉。自己非難と自己皮肉	・ いや、できれば、3万円が良くて、まあ、 ・ 我，很快就能还给你的。(すぐに返します。)
A7：被依頼者への呼びかけ	14	呼びかけ： 依頼者が被依頼者に発話を開始する際の呼びかけ	・ 诶，B，忙吗？(あの、Bさん、ちょっといいですか?)

分析の結果、日本語母語話者は依頼が承諾された後、被依頼者に対して負担を軽減させる働きを持つ発話を行う特徴があると報告している。具体的には、日本語母語場面で依頼者が被依頼者の「3000 円貸そっか？」という発話に対して、「え、マジ！いいの？」や「本当に？いいの？」、「マジで、え、じゃ」など負担軽減の形で被依頼者を気遣っている例が報告されている。

また、日本語母語話者は中国語母語話者と比較して、状況説明をする際、一つ一つの情報を、被依頼者の理解を確認しながら述べていくのに対して、中国語母語話者の場合には、要点を簡潔に述べる傾向があるとしている。

さらに、趙は両言語話者が直接的な依頼と間接的な依頼のどちらの方法を好むのか以下のように言及している。まず負担度が小さい場面では、日本語母語話者の直接依頼は6回で、間接依頼は9回であったのに対し、中国語母語話者の場合、直接依頼は9回、間接依頼は2回であった。負担度が重い場面では、日本語母語話者の直接依頼は6回で、間接依頼は7例に対し、中国語母語話者では直接依頼は9回で、間接依頼は4例であったと報告している。そのため趙は、中国語

話者にとって直接的な依頼が間接的な依頼より好ましい傾向があったことを報告している。

また、負担度が大きい日本語母語場面では、10 ペア中依頼が成立した全 7 ペアで依頼の保証についての言及がなされており、残りの 3 ペアは、被依頼者が依頼者の依頼行為を拒否したので確認されなかったのではないかと述べている。さらに、保証に言及したのは依頼者だけではなく、被依頼者からの言及もあったことを報告している。

次に、グエン（2017）は日本語母語場面とベトナム語母語場面の依頼会話における待遇ストラテジーの特徴を分析し、両言語の共通点と相違点を考察した。

当該研究の調査協力者は、20 代後半から 40 代後半までの日本語母語話者男性 4 名と女性 6 名、ベトナム語母語話者 4 名と女性 6 名である。調査協力者の選定基準として、社会人経験のある大学院生及び会社員という条件とされている。これは、当該研究の場面設定には金銭の貸し借りという依頼があるため、学生と社会人では金銭の感覚が大きく異なるのではないかと推論されたためである。

調査データは、ロールプレイによって収集されたが、性別の違いによって会話に影響が出る可能性があることから、ペアの組み合わせを両母語場面ともに同性同士としている。また、すべての場面とも社会人同士の会話として設定し、自然場面により近づけるため、実際に親しい関係にある相手と一緒にロールプレイを実演してもらったと述べている。

当該研究において依頼場面を設定する基準として、グエンは上下関係、親疎関係、場面の負担度が影響することを踏まえながらも、上下関係に差がなく、親しい間柄で 3 つの負担度の異なる場面を設定している。場面 1（負担度軽）：親しい友達との本・小説の貸し借り、場面 2（負担度中）：親しい同僚とのビデオカメラの貸し借り、場面 3（負担度大）：親しい同僚との大金の貸し借り、の 3 場面である。場面 1 と場面 2 は物の貸し借りであることから、共通のテーマであると考えることができる。

なおこの研究における親しい間柄とは、「年齢、身分において差がなく、よく顔を合わせ、相談に乗れる程度の間柄」（グエン 2017：23）を指している。

場面 1 及び場面 2 の事例は、日本、ベトナム両社会において日常的に親しい間柄で起こりえる場面であるため選択したと述べている。一方、場面 3 の大金の貸し借りに関しては、日本社会で

は非常に珍しい場面だが、ベトナム社会では起こり得る場面であることから、両言語場面のギャップを考察するため、あえて設定している。

分析の結果として、日本語母語場面とベトナム語母語場面ともに、依頼を達成し、かつ人間関係を保つため、依頼会話を「1:会話開始→2:説得→3:働きかけ→4:相談→5:会話終了」という5つの段階で行っていたと報告している。

特に「2:説得」の段階は、依頼者が自身の陥っている状況を説明したり、被依頼者の現在の状況を確認したりして、依頼者が被依頼者に依頼の予告をする段階だと考察している。また、当該研究における日本語母語場面すべての場面で、この段階が確認され、負担度が重くなるほど多くのストラテジーを使用すると報告している。

また日本語母語場面における「3:働きかけ」の段階の特徴として、依頼を明示的に行う前に、依頼者が【前置き】を用いている。これは、依頼相手に心理的な準備をさせようとしているのではないかと考察している。

そして、最後に「4:相談」の段階における日本語母語場面では、依頼が承諾された後も、人間関係を良好に保つストラテジーが会話参加者によって行われていると報告している。例えば依頼者は、相手が承諾した後、「あ、ほんと」や「いいの」のように被依頼者からの恩恵を強調して被依頼者の心理的な負担を軽くしようとしている。

さらに被依頼者が依頼を拒否する際には、人間関係を保つため「無理です」のような明示的な拒否を行わずに拒否の理由を説明して、負担を軽減させるような丁寧な断り方を取っていると報告している。

#### **2.4. 日本語接触場面における依頼会話を比較している先行研究**

日本語接触場面における依頼会話を対象とした研究には、柏崎(1993)、猪崎(2000)、小池(2000)、徐(2007b)がある。

柏崎(1993)は、日本語母語場面と日本語接触場面における話しかけから依頼・要求などの要件表現までを録音収集し、日本語母語話者と日本語学習者の談話構造の相違点を分析した。

データは、大学の助手室や留学生担当事務室、留学生相談室でおこなわれた談話の音声を録音

して収集された。分析の対象となる談話は、日本人学生及び留学生が大学の助手や職員に対して行った依頼や要求表現で、日本語母語話者の談話は 110 ケース、留学生の談話が 43 ケースであった。

調査の結果、日本語母語場面の特徴として、依頼行動を取る前に説明や確認など何らかの働きかけを行う傾向があると指摘している。また日本語学習者と日本語母語話者の違いとして、前者は相手の反応や相づちを待ち、相手の反応を確認しながら会話を進める傾向があったが、後者ではそのような働きかけがみられなかったと報告している。

猪崎（2000）は、日本語母語話者とフランス人日本語学習者の日本語接触場面と日本語母語場面及びフランス語母語場面の依頼の談話ストラテジーの相違とその原因をロールプレイから明らかにした。

猪崎の研究の被調査者は、日本語母語話者 9 名（20～40 代）とフランス人日本語学習者 8 名（20～30 代）である。日本語学習者の日本語レベルは述べられていないが、後述するロールプレイの場面設定は国立国語研究編『日本語教育映像教材中級』から選択されている。このことから、猪崎（2000）のフランス人日本語学習者のレベルは中級以上だと推論できる。

使用されたデータは、3 種類の依頼会話のロールプレイ 24 例で、いずれも録音された会話データである。また、日本語接触場面と同様の場面設定で、日本語母語場面におけるロールプレイ会話 3 例とフランス語母語場面におけるロールプレイ会話 3 例もあわせて実施された。研究方法としてロールプレイ方式を選択した理由として、自然な会話場面では状況や人間関係に異なりが生じ、比較できない場合もあるからであると述べている。ロールプレイ終了後、猪崎はロールプレイ参加者に、コミュニケーション上の問題点や感想などを聞き取った。

分析の結果、日本語母語話者は日本語母語場面・接触場面の両方で、〈依頼の予告〉 > 〈依頼〉 > 〈依頼応答〉といった会話展開で、フランス語母語話者はフランス語母語場面及び日本語接触場面の両方で、〈依頼の先行発話〉 > 〈先行発話応答〉 > 〈依頼〉 > 〈依頼応答〉といった展開になっていたと報告している。すなわち日本語では依頼者が被依頼者に向けて、これから話すことが相手に負担をかけることだということを〈依頼の予告〉で明示的に示す。そしてこの〈依頼の予告〉で依頼者が被依頼者に予め依頼の意図を伝えているからこそ、被依頼者は直接的な依頼を

受けなくても、依頼者の事情説明を伴った「～んだけど」という表現だけで、それが間接的な依頼だということを推測するのである。このことはフランス語の依頼が〈先行発話応答〉で、依頼を暗示的に示すことによって依頼の発話行為を避けようとする傾向があることと対照的であると考察している。

このような相違が日本語とフランス語にあるため、双方の期待にずれが生じ、誤解の要因に談話ストラテジーの選択が影響しているのではないかと猪崎（2000）は推論している。

小池（2000）は、日本語接触場面における日本語学習者の依頼の発話行為を収集し、そのデータを日本語母語話者に評価してもらい、どのような依頼発話が日本語母語話者にとって失礼だと感じるのかを明らかにした。研究の手順としては、日本語接触場面における学習者の依頼発話データをロールプレイで収集後、日常的に留学生と接している日本人大学職員 6 名にデータを提示し、彼らに自由にコメントを求めた。被調査者は、日本語教師である日本語母語話者 2 名と、中級の中から後半レベルの日本語能力を有する日本語学習者 3 名である。被調査者の詳細な属性は以下の表 3 のとおりである。

表 2-5 日本語学習者と母語話者の属性（小池 2000 : 61）

		性別	母語	年齢	滞在年数	日本語学習歴
日本語学習者 (NNS)	NNS-1	女	インドネシア語	37	3 年 3 ヶ月	540 時間
	NNS-2	男	韓国語	38	11 ヶ月	492 時間
	NNS-3	男	スペイン語	35	4 年 3 ヶ月	756 時間
日本語母語話者 (NS)	NS-1	男	日本語	24	8 ヶ月 (カナダ)	
	NS-2	女	日本語	26	1 ヶ月 (英国)	

データ収集方法は、日本語学習者が依頼者で日本語母語話者が被依頼者のロールプレイである。場面設定は以下の通りである。

「明日の午後 5 時、あなたの国の友達が千歳空港に着きます。あなたは迎えに行く約

束をしましたが、急用ができて行けません。先輩に、あなたの代わりに迎え行ってくれるように頼んでください。理由も考えてください。」(小池 2000:61)

分析の結果、日本語学習者の語用論上の問題点として、小池は「1: 依頼相手の被る負担に遠慮を示す発話行為が不足していること、2: 依頼相手の負担を軽減する発話行為が不足していること、3: 依頼相手の反応に応じたネゴシエーションが不足している」ことを報告している。

以上3つの指摘は6名の日本人大学職員によるものである。そして、日本語母語話者は、依頼会話場面では依頼相手の負担を軽減しつつ、配慮を示し、会話の状況に即した言語行動をとっているのではないかと推論している。

徐(2007b)は、上級の台湾人日本語学習者と日本人による接触場面の依頼行動と日本人同士の日本語母語場面と台湾人同士の中国語母語場面における依頼の言語行動を比較している。

データ収集の方法は、以下の表4のロールプレイを用いてデータを収集している。

表 2-6 徐(2007b:221)のロールプレイカード

ロールカードA:あなたは大学院に入るための勉強をしており、そのために「応用言語学」という授業を取っています。しかし、英語がまだ十分ではないので、授業が分からないのです。親友のBは去年あなたが受けようとしている大学院に合格しており、応用言語学の授業をとっていました。それでBに助けてほしいと思っています。Bは論文やバイトで忙しいのを知っていますし、謝礼を払うゆとりもありません。それでも悩んだ末にあなたはBに頼むことにしました。Bの家を訪問し、しばらく雑談をしてから依頼を始め、Bが承諾するまで依頼を続けてください。

ロールカードB:親友のAが訪ねてきました。何か頼みごとがあるようです。しばらく世間話をしたら、受験のことで依頼の相談をしはじめました。あなたはAを助けてあげたいのですが、自分の論文やアルバイトが忙しいので依頼を受けるためには何らかの犠牲を払わなければなりません。断りたい気持ちをAに2、3回匂わせた後、仕方なく依頼を引き受けることにしました。

以上のような場面設定を選択した理由について、徐は日本の大学院への進学を目指している留学生にとって、入学試験がもっとも大きい心配の種であり、留学生にとって身近な問題だからと述べている。

次にこの研究の被調査者の属性についてであるが、日本語母語場面及び中国語母語場面における被調査者は、日本語母語場面の場合は日本に在住する日本人大学生及び大学院生で、中国語母語場面では台湾に在住する日本人大学生及び大学院生である。両母語場面ともに平均年齢は22歳で、それぞれ男性60名からなる30組と女性60名からなる30組、合計120名、60組のロールプレイを収集している。

そして、接触場面の被調査者は、台湾人30名と日本人30名からなる30ペアである。この研究における台湾人日本語学習者は、日本語能力検定試験1級に合格し、日本語で論文を書くことができるレベルを有している者である。日本人はいずれも台湾人被調査者の親しい友人である。

分析の対象としているのは、依頼発話の依頼【先行部】に現れる意味公式とその特徴で、当該研究における意味公式の定義は以下表5の通りである。

表 2-7 徐 (2007 : 223-224) の意味公式の分類

談話構成	意味公式の名称と定義	日本語の例
中核成分	1. 「相手の状況」:相手に情報提供や確認を求めて、依頼実現の可能性を確かめる発話	あの授業とったことあるよね
	2. 「苦境の説明」:困っている状況を説明する発話	先生が早口でついていけないの
	3. 「依頼の予告」:依頼するときの決まり語句	お願いがあるんだけど
補助	4. 「配慮発話」:相手の負担への配慮発話	迷惑だと分かってるんだけど
	5. 「条件緩和」:限定をつけて依頼の負担を軽減	少していいから

成 分	する発話	
	6. 「見かえり」:相手への貢献の申し出	御飯おごるから
	7. 「相手を立てる」:相手を持ち上げる発話	Bは頭いいから
	8. 「友情の強調」:お互いの親しさを強調する発話	だって友達なんでしょう
	9. 「冗談」:冗談を言うことによって明るい雰囲気を作る発話	私のような天才でもさすがに参ったのよ
	10. 「注目要求」:言い淀みや呼びかけなど相手の注意を喚起する発話	あのう/ねえ/Aちゃん
	11. 「相槌的発話」:先行発話に対する相槌的な応答	被依頼側:大変だよね 依頼側:そうだよね
	12. 「情報提供」:相手の質問への応答	被依頼側:週何回バイトに行くの? 依頼側:2、3回かな

分析の結果、依頼行動の事前段階で使用率が高い意味公式は、3 場面で共通して「苦境の説明」と「相手の状況」であったことが明らかにされた。ただし、「相手の状況」は日本語母語場面では全員が使用していたのに対して、日本語接触場面と中国語母語場面では日本語母語場面の半数ほどであったと徐（2007b）は報告している。

また、日本語母語場面で「相手の状況」と「苦境の説明」が用いられるとき、「よね」などの表現形式を多く使用していたと指摘している。これは相手に確認を求め、話題と相手の関連性が分かるように話を展開しているためだと考察している。

そして、日本語母語場面と比べて日本語接触場面と中国語母語場面では「相槌的発話」の使用が少ないだけでなく、台湾人日本語学習者は日本語母語場面で確認されなかった「ほう」「お」のような「相槌的発話」が見られたことから、中国語の影響を受けているのではないかと推論している。以上の日本語母語場面と日本語接触場面の差異は、台湾人日本語学習者が日本語上級レベ



ルであったとしても確認された事例である、そのためこれらの差異の要因は、彼らの母語である中国語の影響による可能性があることを示唆している。

2.2 と 2.3 で概観した日本語母語場面及び日本語接触場面における日本人依頼者と被依頼者の明らかとなった依頼の特徴を以下にまとめる。

まず1つ目の特徴は「日本人は日本語母語場面だけでなく日本語接触場面でも『依頼の前に自身の情報や状況の説明をする』』という特徴で、柏崎(1993)、張穎(2004)、猪崎(2000)、徐(2007b)、グエン(2017)の先行研究から明らかになった。例えば、柏崎は「日本語母語話者の特徴として、依頼行動を取る前に依頼の説明や相手の状況を確認するなどの働きかけを取る」と指摘し、猪崎も「日本人は、日本語母語場面・接触場面の両方で、〈依頼の予告〉 > 〈依頼〉 > 〈依頼応答〉とといった依頼展開をとる」と報告している。また、張も「日本語母語場面の依頼の順序が『情報提供型先行発話→依頼』と展開している」ことを、徐も日本語母語場面及び日本語接触場面で日本人が依頼行動を取る前に「苦境の説明」と「相手の状況」といった意味公式を使用していたことを指摘している。さらにグエンも「日本人が日本語母語場面で、『1:会話開始→2:説得→3:働きかけ→4:相談→5:会話終了』の5段階で依頼会話を展開していた」と報告している。以上の報告から、日本人が「依頼前に情報や状況の説明をする」ことを重視していると推論できる。

2つ目の特徴は「日本人は母語場面・接触場面に関係なく、『依頼発話後も依頼相手の負担に配慮を見せる』』という特徴で、小池(2000)、張穎(2004)、趙(2021)、グエン(2017)の先行研究から明らかになった。例えば小池は「日本語母語話者が日本語学習者の依頼会話で抱いた違和感として、聞き手の負担に遠慮・軽減させる発話行為が不足している」と指摘し、張も「日本人依頼者が日本人被依頼者の依頼了承発話に対して気遣う発話を行っていた」と報告している。また趙は「日本人依頼者は依頼承諾を受け取った後も、被依頼者に対して負担を軽減させる働きを持つ発話を行う」と述べ、グエンも「依頼者は被依頼者の依頼承諾後もその恩恵を強調し、心理的負担を軽減させていた」と報告している。このことから、「母語場面・接触場面に関係なく日本人は、依頼発話後も依頼相手の負担に配慮を見せる」という特徴があると考えられる。

3つ目の特徴は「日本語母語場面や日本語接触場面に関わらず、依頼会話で日本人依頼者は相手の反応を確認しながら会話を展開する」という特徴で、柏崎(1993)、小池(2000)、柳(2004)、

徐（2007b）、趙（2021）の先行研究から明らかになった。例えば柏崎の「日本人は相手の反応や相づちを確認しながら会話を進める傾向があった」という報告や、小池の「日本語母語話者が日本語学習者の依頼会話で抱く違和感として、開き手の反応に応じたネゴシエーションが不足している」という指摘がある。また、柳の「日本人の場合、相手の都合や様子を確認しながら依頼談話を展開していく傾向が強い」という言及や、徐の「日本人は相手に確認を求め、話題と相手の関連性が分かるように話を展開しているのではないか」との指摘もある。さらに趙も「日本語母語話者は状況説明をする際、情報を一つ一つ被依頼者の理解を確認しながら述べていく」と報告している。以上のことから、「日本人にとって依頼会話で相手の反応を伺うことは重要なこと」であると推論できよう。

4 つ目の特徴は「日本人は日本語母語場面と日本語接触場面の両場面で、間接的な依頼方法を取る」という特徴で、猪崎（2000）、張穎（2004）、趙（2021）の先行研究から明らかになった。例えば猪崎は「明示的な〈依頼の予告〉によって予め被依頼者に依頼の意図を伝えることで、被依頼者は依頼者からの事情説明だけで、それが間接的な依頼だと推測する」と述べており、〈依頼の予告〉と間接的な依頼が結びついていることを指摘している。そして張も「日本人が依頼の前に情報を説明する要因として、依頼者が被依頼者に自ら依頼を申し出ることを期待しているから」と考察している。この張の考察でも依頼前の説明と間接的な依頼が結びついていることがわかる。また趙も「日本語母語話者は場面の負担度に関わらず、直接的な依頼よりも間接的な依頼を用いたペアの方が多かった」ことを報告している。以上のことから、「日本人は直接的な依頼方法よりも間接的な依頼方法を好む」という特徴があると言えよう。

5 つ目の特徴は「日本語母語場面で日本人は負担度の大きい依頼をする際に、その負担に対する保証に言及する」で、これは趙（2021）の研究でのみ確認された特徴である。趙は「負担度が大きい金銭の依頼場面で、依頼が成立した全7ペアが金銭の保証について言及していた。そして保証について言及するのは、依頼者だけではなく、被依頼者からの言及もあった」と報告している。

6 つ目の特徴は「日本語母語場面で日本人被依頼者は間接的に依頼を断る傾向がある」という特徴で、張雪梅（2013）とグエン（2017）の報告から明らかになった。グエンは「日本人被依頼



ウジアラビア語場面とアメリカ英語母語場面でのどのような依頼ストラテジーが出現するのか」、  
「2:社会的距離、負担度、力などの社会的要因は、両方のグループの依頼ストラテジーにどのよ  
うな影響をあたえるのか」の2つである。

被調査者はランダムに選出された学部課程に所属する 18～24 歳のサウジアラビア人およびア  
メリカ人の男女 30 名ずつである。

当該研究のデータ収集方法は、Reiter (2000) の Discourse Completion Test (DCT) を踏襲し  
ている。しかし、サウジアラビア人用の DCT は、サウジアラビア社会に適した名前や場所が考慮  
されたアラビア語版の翻訳されたものである。

分析の結果、親しい者同士の場面では、直接的表現は失礼というよりもむしろ協調、親密さ、  
グループの連帯をとして解釈され、サウジアラビア人にもっとも好まれるストラテジーであった。  
Ayman & Emran (2012)は下のように報告している。

Directness was the most preferred strategy among Saudi students in intimate  
situation where directness is interpreted as an expression of affiliation,  
closeness, and group-connectedness rather than impoliteness. (Ayman & Emran  
2012 : 85)

以上の報告から、サウジアラビア人にとって直接的な依頼表現は、友情や仲間意識を明示的に  
表現する手段であると考えることができる。

またヤズィード (2019) は、サウジアラビア人が親友に対して、頻繁に再依頼をすることを指  
摘し、どのような再依頼のストラテジーを多用するのかを分析している。当該研究の被調査者は  
キングサウド大学に所属する 20 代の男性 20 名で、ロールプレイのペアの組み合わせは 1 対 1  
の親友同士の合計 10 ペアである。被調査者の中で日本語学習歴がある者は 5 名で、残りの 15 名  
は学習歴がなかった。分析データは、ロールプレイ形式で 2015 年 3 月にサウジアラビアのキン  
グサウド大学で収集された。ロールプレイの場面設定には、負担度の異なる 2 種類の設定があ  
るが、これは負担度の違いによる依頼展開を考察するためだと述べている。またデータ収集の手

順は、ロールプレイ開始直前、参加者に後述するロールプレイカード 1、2 を配り、研究目的とロールプレイの方法をアラビア語で説明した。依頼者はアラビア語で相手に依頼し、被依頼者は依頼内容に関する情報を聞いた後で、一回断るという設定とした。そして、被依頼者に断られた後、再び依頼するか、またはそのまま受け入れるかを自分で判断するように依頼者に指示した。

以下の表 6 と表 7 は調査対象者が実際に使ったアラビア語のロールプレイカード 1、2 とその日本語訳である。ヤズィード (2019) は、全ての場面で「被依頼者が大学の喫茶店で暇な時間を過ごしている時に親友が来た」という場面設定をしている。

表 2-8 ロールプレイカード 1 負担小の場面 (ヤズィード 2019 : 3-4)

<p>依頼者 :</p> <p>相手はサウジアラビア人の親友です。相手はあなたと同じクラスで英語を勉強していて、あなたより英語が上手です。あなたはあさってまでに授業に対する簡単な感想文を、英語で書いて提出しなければなりません。文法の間違いなどをチェックしてくれるように、その親友に頼んでください。</p> <p>親友に断られたら、あなたは①再び依頼するか、または②そのまま受け入れるかを自分で決めてください。</p> <p>الشخص الذي يتقدم بالطلب:</p> <p>الشخص الذي أمامك صديق سعودي عزيز عليك جدا، تدرسون سويا اللغة الإنجليزية وهو يجيد اللغة الإنجليزية أكثر منك، لديك تقرير قصير جدا وهو عبارة عن أنطباعاتك عن محاضرة باللغة الإنجليزية وانتهيت من كتابته، يجب أن تسلم التقرير بعد غد. وتريد أن تطلب من صديقك العزيز عليك أن يدقق المحتوى.</p> <p>إذا رفض صديقك العزيز عليك، فهل: 1- ستعيد الطلب عليه من جديد؟ 2- أم ستتقبل رفضه؟ (اختيار أحدهما يعتمد عليك أثناء المحادثة)</p>
<p>被依頼者 :</p> <p>相手はサウジアラビア人の親友です。相手に依頼されたら、一回断ってください。もし、もう</p>

一回依頼されたら、そのまま受け入れてください。

الشخص الذي يتلقى الطلب:

الشخص الذي أمامك هو صديق سعودي عزيز عليك جداً، سيطلب منك طلب ولكن أرفض مبدئياً، إذا أعاد عليك الطلب مره اخرى اقبله منه.

表 2-9 ロールプレイカード2 負担大の場面 (ヤズィード 2019 : 4-5)

依頼者 :

相手はサウジアラビア人の親友です。相手はあなたと同じクラスで英語を勉強していて、あなたより英語が上手です。あなたはあさってまでに専門分野に関するレポート (A4, 3枚) を、英語で書いて提出しなければなりません。文法の間違いなどをチェックしてくれるように、その親友に頼んでください。

親友に断られたら、あなたは①再び依頼するか、または②そのまま受け入れるかを自分で決めてください。

الشخص الذي يتقدم بالطلب:

الشخص الذي أمامك صديق سعودي عزيز عليك جداً، تدرسون سوياً اللغة الإنجليزية وهو يجيد اللغة الإنجليزية أكثر منك، لديك تقرير باللغة الإنجليزية عن مجال علمي معين من ثلاث صفحات ،

يجب أن تسلم التقرير بعد غد وتريد أن تطلب من صديقك العزيز عليك أن يدقق المحتوى.

إذا رفض صديقك العزيز عليك، فهل: 1- ستعيد الطلب عليه من جديد؟ 2- أم ستتقبل رفضه؟ (اختيار أحدهما يعتمد عليك أثناء المحادثة)

被依頼者 :

相手に依頼されたら、一回断ってください。もし、もう一回依頼されたら、そのまま受け入れてください。

الشخص الذي يتلقى الطلب:

الشخص الذي أمامك هو صديق سعودي عزيز عليك جداً، سيطلب منك طلب ولكن أرفض مبدئياً، إذا أعاد عليك الطلب مره

اخرى اقبله منه.

サウジアラビア人は依頼相手が親友であれば、負担度に関係なく再依頼をするのではないかと考察した。そして、負担度に関わらず両場面で最も使用された意味公式は【情報要求】であった。また、負担度大場面では【理由説明】と【情報要求】を併用して再依頼を行っていたことから、依頼の負担度と【理由説明】の意味公式は関連しているのではないかと推論している。

## 2.5. アラビア語接触場面における再依頼を対象としている先行研究

ヤズィード (2015) は、日本語接触場面におけるサウジアラビア人の再依頼のストラテジーを明らかにするため、意味公式を用いてロールプレイによって収集したデータを分析した。

分析データは、サウジアラビア人 8 名と日本人 8 名の 1 対 1 の合計 8 ペアによる親友同士のロールプレイ会話で収集された。実際に親友同士のペアを作るために、サウジアラビア人に自分の親友と呼べる日本人を会話相手として連れてきてもらっている。また、サウジアラビア人留学生はキング・アブドラ奨学金<sup>6</sup>によって日本に留学している中級以上の日本語能力を有する 20 代の大学生・大学院生で、日本滞在歴が 2~3 年の者が 4 名、5 年以上の者が 4 名であった。

ロールプレイの場面設定は以下の表 8 と表 9 のとおりで、分析の対象となるデータは、依頼・再依頼をする役を演じるサウジアラビア人のみであった。

表 2-10 ロールプレイカード 1 負担小の場面 (ヤズィード 2015 : 15-16)

依頼者 :

相手は日本人の親友です。相手は大学でアラビア語を勉強しています。あなたは日本に留学しています。あなたはあさってまでに授業に対する簡単な感想文を、日本語で書いて提出しなければなりません。文法の間違いなどをチェックしてくれるように、その親友に頼ってください。親友に断られたら、あなたは①再び依頼するか、または②そのまま受け入れるかを自分で決めてください。

被依頼者：

相手に依頼されたら、一回断ってください。もし、もう一回依頼されたら、そのまま受け入れてください。

表 2-11 ロールプレイカード 2 負担大の場面 (ヤズィード 2015 : 16)

依頼者：

相手は日本人の親友です。相手は大学でアラビア語を勉強しています。あなたは日本に留学しています。あなたはあさってまでに提出しなければならない専門分野に関する日本語のレポートがあります (A4, 3 枚)。文法の間違いなどをチェックしてくれるように、その親友に頼んでください。

親友に断られたら、あなたは①再び依頼するか、または②そのまま受け入れるかを自分で決めてください。

被依頼者：

相手に依頼されたら、一回断ってください。もし、もう一回依頼されたら、そのまま受け入れてください。

分析の結果、最も使用された意味公式は【情報要求】で、再依頼を実行した被調査者は7名であった。また被調査者の滞在歴によって、使用に差が見られた意味公式として、【相手との関係の強調】があったことが報告されている。具体的には、この意味公式を、日本滞在歴が2~3年のサウジアラビア人は再依頼をする際に使用しているが、日本滞在歴が4~5年以上のサウジアラビア人は誰も使用しなかった。

## 2.6. 問題提起と本研究の課題

まず、先行研究から明らかになった日本人の依頼の特徴を概観する。



日本人が日本語母語場面における依頼会話で負担に感じる依頼内容の特徴として、以下のことが明らかになった。

1. 「親友からの依頼であっても、負担度の大きい事柄を依頼されることを否定的に思う傾向がある」
2. 「金銭の貸し借りを非常に負担度の大きい依頼と捉える」

そして日本語母語場面及び日本語接触場面の依頼会話を分析した先行研究の結果から、日本人依頼者と被依頼者の有する特徴が以下のように明らかになった。

1. 「日本人は日本語母語場面だけでなく日本語接触場面でも『依頼の前に自身の情報や状況の説明をする』」
2. 「日本人は日本語母語場面だけでなく日本語接触場面でも、『依頼発話後も依頼相手の負担に配慮を見せる』」
3. 「日本語母語場面だけでなく日本語接触場面の依頼会話で、日本人依頼者は相手の反応を確認しながら会話を展開する」
4. 「日本人は日本語母語場面と日本語接触場面の両場面で、間接的な依頼方法を取る」
5. 「日本語母語場面で日本人は負担度の大きい依頼をする際に、その負担に対する保証を求める」
6. 「日本語母語場面で日本人被依頼者は間接的に依頼を断る」
7. 「日本語母語場面で被依頼者は依頼理由の説明を求める」

次にサウジアラビア人アラビア語母語場面及び日本語接触場面の依頼会話を分析した先行研究の結果から、サウジアラビア人依頼者と被依頼者の特徴が以下のように明らかになった。

「直接的な依頼表現を好む」

「直接的な依頼表現は親密さを強調させる」

また、データ収集の観点から先行研究を概観すると、依頼会話の研究はロールプレイを用いてデータを収集している研究がほとんどで、例外は、自然場面の依頼を収集した柏崎（1993）と談話完成テストを用いた Ayman & Emran（2012）であった。

さらに、ロールプレイの場面設定を外観すると、多くの先行研究で、日常生活で起こり得る依

頼という前提条件のもと、各研究は金の貸し借り、物の貸し借り、相手の助力を得る依頼といったロールプレイでテーマを設定していた。このような結果を踏襲し、本研究では、日本語母語場面、サウジアラビア人アラビア語母語場面、日本語接触場面の日常生活でしばしば起こりえる場面を設定する。また本研究は、趙（2021）やグエン（2017）のように同一テーマで異なる負担度の依頼を分析対象とし、負担度の違いによって依頼のストラテジーがどのように変化するのか比較する。

以上の先行研究から明らかになった課題として、日本人とサウジアラビア人の接触場面（これ以降は日ア接触場面と省略する）における依頼会話の研究は少ないことが明確になった。他にも、依頼者の依頼行動だけでなく、被依頼者の言語行動にも焦点をあてた研究が存在しないことも明らかになった。この要因として、依頼会話を対象とする研究で最も採用されるデータ収集方法のロールプレイで、役を演じきるために中上級のレベル以上の日本語能力が必要となるからではないかと推論する。例えば、徐（2007b）の日本語接触場面における台湾人日本語学習者は、日本語能力検定試験1級に合格していて、日本語で論文を書くことができるレベルを有している者である。また猪崎（2000）の場合も、中級レベル以上の日本語能力を持つフランス人を被調査者として選択している。さらに小池（2000）の被調査者も492時間以上の日本語学習歴をもつ日本語中上級レベルである。日本人と滞りなくロールプレイを実践できるレベルの日本語能力を有するアラブ人日本語学習者を確保することは、非常に困難なことである。その上、研究の対象とする日本語学習者の属性、とりわけ母語を指定するとなると、被調査者を確保することがより困難になる。このような課題があるため、日本語接触場面における依頼会話を対象とした研究が少ないのではないかと推論する。

本章の先行研究を概観して、明らかになった主な課題として、以下の3つが挙げられる。

- 依頼者の依頼行動のみを分析した研究がほとんどであること。
- 接触場面を対象とした依頼会話の研究が殆ど行われていないこと。
- 日本語母語場面、アラビア語母語場面、日本語接触場面、アラビア語接触場面における日本人とサウジアラビア人の依頼会話を対象とした研究がほとんど行われていないこと。

以上の先行研究の結果や課題を踏まえて、本研究の目的は次のように設定する。

- ① アンケート調査を使用し、日本語母語場面とサウジアラビア人のアラビア語母語場面の依頼会話で両言語話者が金銭及び時間に関わる依頼をどの程度負担に感じるのかを明らかにする。
- ② 談話完成テストを使用し、日本語母語場面とサウジアラビア人のアラビア語母語場面の依頼会話において、どのような意味公式とその意味公式の出現順序が現れるかを明らかにする。
- ③ 言語管理理論を使用し、日本語による日ア接触場面で、両母語話者が感じ取った誤解や不快な思い等をフォローアップインタビューから明らかにする。

## 第3章 理論的枠組み

### 3. 理論的枠組み

#### 3.1. 発話行為における「依頼」

哲学者の Austin(1962)は「発話は行為である」と指摘している。彼の弟子である Searle(1969)も「あらゆる発話は行為である」と主張したと同時に、Austin の理論を参考に、発話行為は三つの段階からなっていると言及している。

1. 発話行為 (locutionary act) :ある定めた意味と指示とを持つ文を発話する行為。
2. 発話内行為 (illocutionary act) :ある発話により陳述・約束・命令・依頼などを行う行為。
3. 発話媒介行為 (perlocutionary act) :発話を通して聞き手にある効力を及ぼす行為。

橋内 (1999:68)

これを端的に表すと、人間は発話をする時に、ものを言うだけではなく、その発話に行為も含まれているということである。親友との会話の場面を次に取り上げよう。例えば、「コーヒーをおごるから、友達のアンケートに答えてくれない？」という例を Austin と Searle の見解を通して見てみる。まず「コーヒーをおごるから」という発話は、単に相手に伝達するだけではなく、その内容に約束という行為も含んでいるということになる。そして、「友達のアンケートに答えておいて」という発話は、その内容に依頼という行為も含まれているということである。このように、すべての発話はその内容に即した行為が含まれる。本研究では、発話行為を主な概念とし、日本人とサウジアラビア人の日常生活で使われる依頼行動を分析していく。

また、Searle(1975)は直接発話行為と間接発話行為について、次のような考えを提唱している。それはある発話内行為（依頼、約束、謝罪など）は他の発話内行為により、間接的に表現することができるということである。例えば、先ほどの「コーヒーをおごるから、友達のアンケートに答えられる？」という例で考えてみよう。依頼者はここで被依頼者に直接的提案という発話内行

為をしていると分かる。しかし、それと同時に間接的に依頼という発語内行為も行っているということになる。

本研究では発話行為理論の観点から依頼を捉え、直接発話行為の依頼と間接発話行為の依頼を研究の対象とする。

依頼の定義は先行研究によって多少の差異があるが、概ね「自身の要求や要望を相手に頼むが、決定権は依頼相手が持つ」という定義である。

例えば、Trosborg (1995:187) は依頼を「依頼とは話し手（依頼者）が聞き手（被依頼者）に対して、話し手の利益となる特定の行為を聞き手に遂行してほしいと伝える発話行為（筆者訳）」と定義づけている。

A request is an illocutionary act whereby a speaker (requester) conveys to a hearer (requestee) that he/she wants the requestee to perform an act which is for the benefit of the speaker.

(Trosborg 1995:187)

蒲谷・川口・坂本(1998:21)は依頼を、「自分の利益になることを相手が行動し、決定権を相手をもつ表現」と定義づけている。

また岡田・安藤（2001:113）は「『依頼』というのは自分のためにある行為を行うように相手に頼むことであり、意識の差はあるが、相手に負担をかける行為である。」と述べている。

頼（2008:9）は、「依頼という行為は、依頼者（依頼主体）に、『相手』にある『自分の利益』になる行動を実行してもらいたいという意志があり、その『行動』を『相手』に実行させようとする行為である。依頼場面においては、依頼者と被依頼者が『コミュニケーション主体』となる。依頼者は『表現主体』となり、依頼の『意図』を表現する（『表現行為』を行う）場合、被依頼者は『理解主体』となり、依頼者の『表現』、『意図』などを把握する（『理解行為』を行う）と考えられる」と述べている。

張（2013:22）は「依頼とは、依頼者が利益を受けるために、被依頼者の好意に基づき、強制

的ではないが、被依頼者に何かの行為の実行を求めることである。その際に、選択権は被依頼者のほうにあって、被依頼者に負担がかかる。」と定義している。

趙（2017:57）は「依頼は自己あるいは自己と関係する者が恩恵を受けるために、ある行動をとるよう、他者に申し出ると同時に他者に負担をかけることを述べる、比較的丁寧な表現」としている。

グエン（2017:32）は、上述の蒲谷・川口・坂本(1998:121)の定義を援用し、「依頼」を「依頼者が自分の利益となることを被依頼者にするように求め、決定権を被依頼者がもつ言語行動」としている。

すなわち依頼という発話行為は、依頼者が被依頼者に自分の利益になることを実行してもらう言語行動、言い換えると、被依頼者が依頼者にとっての利益を実行する時、被依頼者は何らかの負担を被ることになり、被依頼者は損をしたと感じる可能性がある。

一方、被依頼者が依頼者の利益になること、つまり依頼を受け入れなければ、被依頼者は負担を回避することができるが、依頼者が負担を被る可能性が高くなる。このように依頼場面は依頼者、被依頼者、依頼内容という三つの要因から構成されると考えられる。

本研究では以上の定義を踏まえて、依頼を「話し手が聞き手に何らかの負担をかけながらも自分の利益になることを実行してもらうように求める発話行為」とする。

### 3.2. 言語管理理論

言語管理理論は、「伝統的な言語政策と 1960 年代からアメリカを中心に発達してきた言語計画の考え方を修正しようとした language correction の理論から出発したもの」（ネウストプニー 1995b : 69）だと、ネウストプニー（1995b）は述べている。

ネウストプニーは言語管理理論をパラダイム転換にも対応した異なる広範囲の言語問題を解決もしくは問題の負担を軽減するための理論で、解決には「管理プロセス」の過程が取られると述べている。また「管理プロセス」は規範からの逸脱から始まり、「1.逸脱がある」、「2.それが留意される」、「3.留意された逸脱が評価される」、「4.評価された逸脱の調整のための手続きが選ばれる」、「5.その手続きが実施される」のプロセスを辿り、以下の図 3-2 のように表される。

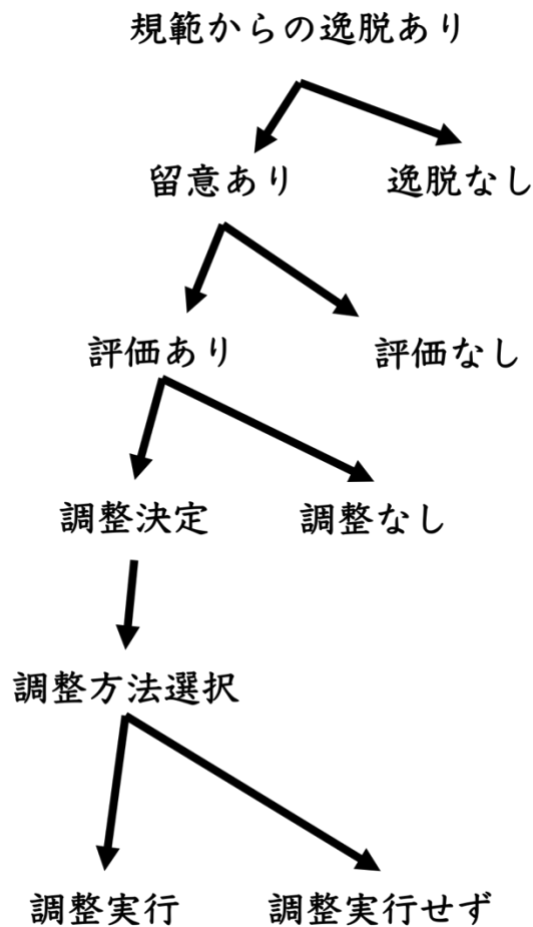


図 3-3 ネウストプニーの管理プロセス (加藤, 2010:12 から作成)

もう少し詳しく図 3-4 の管理プロセスを説明すると次のようになる。1:ある場面では何らかのインターアクションの規範からの逸脱が生じる。2:この逸脱が参加者の誰かによって留意される場合とされない場合がある。3:留意された場合、それが評価される場合と評価自体されない場合がある。評価に関しても否定的あるいは肯定的な評価の 2 種類がある。4:否定的評価だけで終わる場合と問題解決に向けた調整の策定を行う場合がある。5:策定された調整が実行される場合だけでなく、延期や中止されたりするも場合がある。また、実行された調整行動を見つけ出すことで、管理プロセスを遡り、どのような規範の逸脱が留意されたのかを明らかにすることができるため、規範を同定することが可能である。しかし、ネウストプニー (1995b) は実際に規範からの逸脱が生じた場合のプロセスはより複雑で、「交渉 (negotiation)」の形を取るとしているが、規範

からの逸脱によって始まるこの管理プロセス自体は普遍的なものだと加藤（2010）は指摘している。

フェアブラザー（2002:50）は「言語管理の目標は、言語問題がなぜ生じるのか、その問題は誰の問題なのか、問題解決のために何をするのかを明らかにすること」だとしている。

大場（2006）は言語管理理論を次のように述べている。

言語管理理論は談話上に現れた問題の記述だけではなく、その問題の発生から管理までを1つのプロセスとしてとらえて分析する。つまり、問題に対し、どのように意識し、なぜその表現を使用し、なぜその言語行動をとったのか、というプロセスをみるものである。そして、このような参加者の問題の管理を、規範からの逸脱、留意、評価、調整計画、調整の実施という言語管理プロセスから分析するものである。

（大場 2006:37）

さらに、高（2013:182）は管理プロセスを「接触場面で起こる言語問題の処理を分析する枠組みの一つ」としている。

以上のように研究者によって言語管理理論の定義は若干異なるが、概ね上述のニューストプニー（1995b）の定義に基づいていると言えよう。

フェアブラザー（2000）は社会文化、社会言語的要素の強いインターアクションのプロセスについて、理論的に留意と評価の段階を考え直すため、図 3-2 のようなインターアクションを考慮した管理プロセスを構築した。



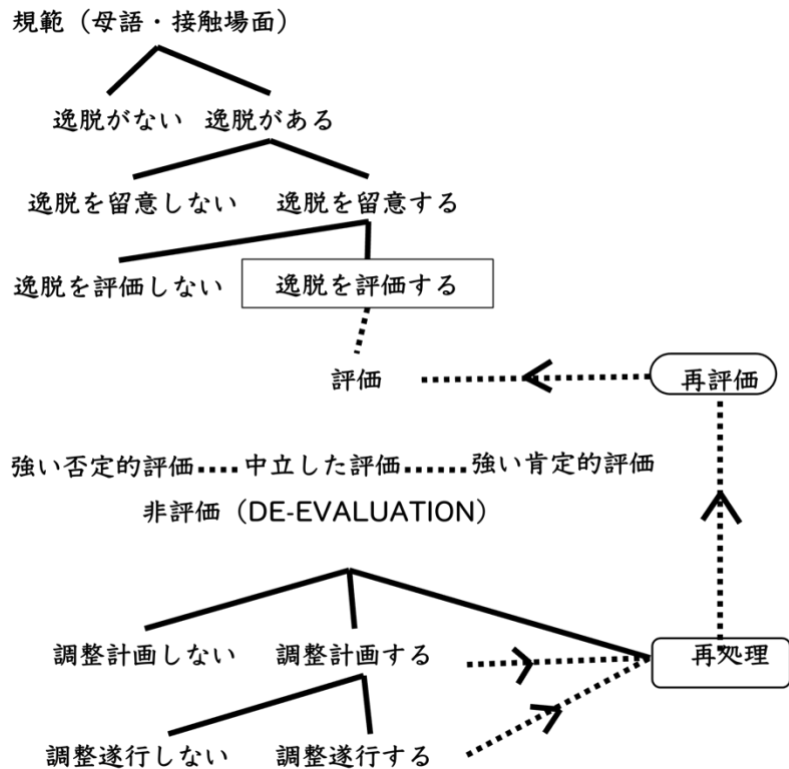


図 3-2 フェアブラザーの管理プロセス (フェアブラザー, 2000:56 から作成)

このフェアブラザーの管理プロセスとネウストプニー (1995b) の管理プロセスには以下の三つの異なる箇所が存在する。1つ目は、規範を母語規範と接触規範に分けていることである。2つ目は、評価の段階を細分化し、強い否定的評価から強い肯定的評価に達する尺度となっており、その間に中立の領域も含まれるものと考えられている。そして3つ目は、「再処理」という新しい段階が構築され、このプロセスによって、評価の段階、調整計画及び調整計画の遂行段階のどの段階からも進むことができるようになった。図 3-3 で見られるように、一端「再処理」が終わると再び評価へ戻ることができる。フェアブラザー (2000) はこの働きを「再評価」と名づけ、名前自体が示すように、評価の段階を再び繰り返すことが可能としている。

加藤 (2006,2010) の管理プロセスの基本的な流れは、ネウストプニー (1995a) の管理プロセスと同様の道程をたどるが、新たに規範からの逸脱がない場合も想定し、以下の図 3-3 のような管理プロセスを構築している。

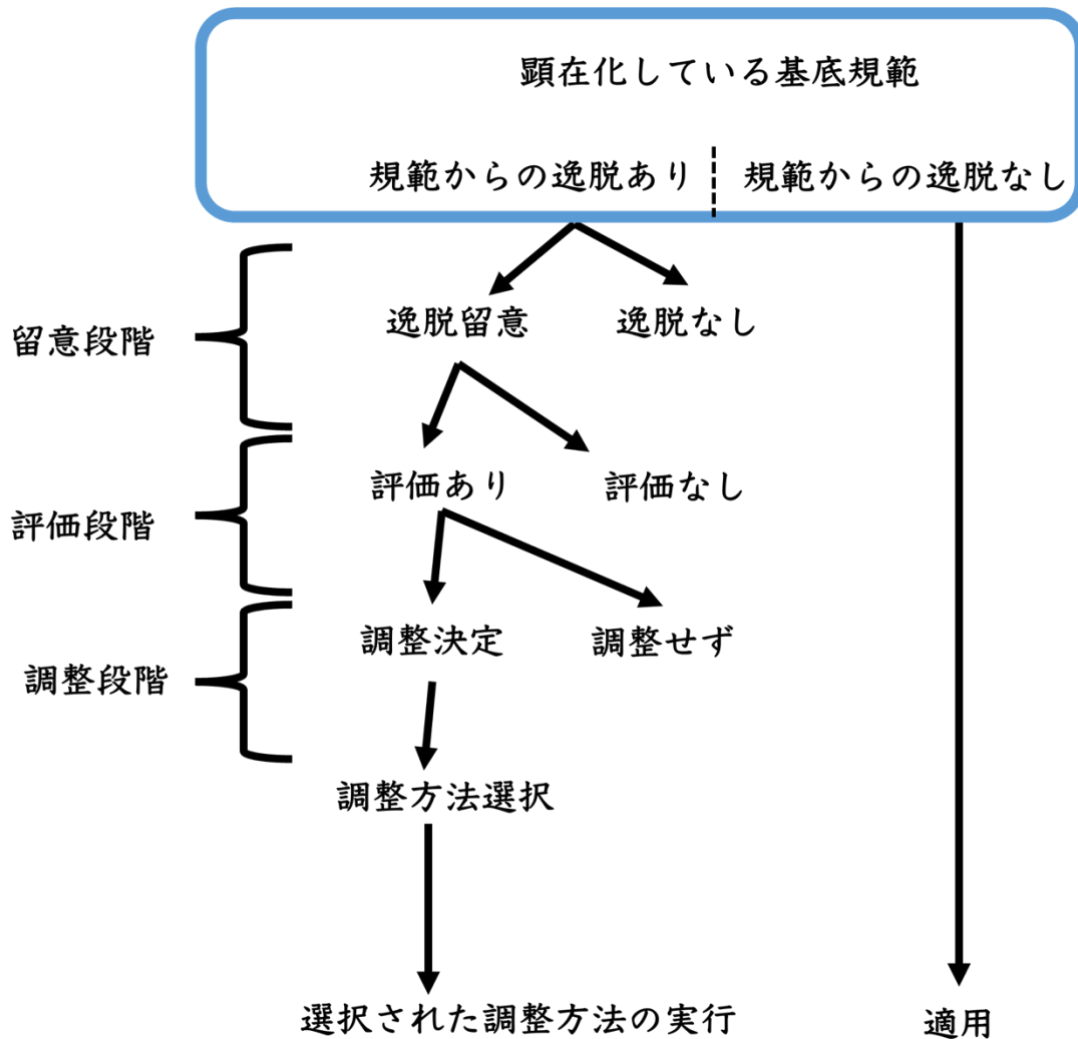


図 3-3 加藤 (2010:42) の管理プロセス

図 3-3 の左側に位置しているのが管理プロセスで、右側に位置しているのが規範からの逸脱が  
起こらず、そのままインターアクションが適用されている状態を示している。

加藤 (2010) は管理プロセスを用いることによって、会話の参加者の規範を確認することが容  
易になるとしている。例えば、談話上に現れる調整行動は常に何らかの規範意識に基づくインタ  
ーアクション行動であるため、実際に行われた調整行動から管理プロセスを逆向きに辿っていく  
ことにより、最初の規範へ到達することが可能だとする。もし、規範からの逸脱が調整段階にま  
で到達せず、留意の段階や評価の段階で終了したとしても、フォローアップ・インタビュー(3.2.2  
参照)などで意識を確認することによって、規範の存在を確かめていくこともできるとしている。

また、図 3-3 の右側のように規範に沿ってインターアクションが行われた場合、逸脱が生じていないため意識化されることは少ないが、質問の仕方によって意識化させる可能性もあるとしている。

本研究では図 3-3 の加藤 (2010) の管理プロセスを第 6 章で用いて、談話上に現れた調整行動や、フォローアップ・インタビューで確認された逸脱や評価を管理プロセスから逆に辿ることによって、各依頼場面の参加者の依頼に関する規範を明らかにする。

### 3.2.1. 規範の定義

「規範」は図 3-3 から分かるように管理プロセスの出発点に位置し、言語管理理論の根幹をなす概念である。ネウストプニー(1998)は、以下の行動規定を規範として捉えている。

コミュニケーションあるいはインターアクションというプロセスの背景に参加者が内在した種々の「行動規定」と言えるものがある。これらの規定は私達の記憶に保存され一つの共同体に原則的に共有される。

ネウストプニー(1998:8)

加藤(2010)はネウストプニーの規範の定義を援用した上で、当該接触場面にはそれぞれの参加者がその場で適用している規範があり、基本的にその場面の参加者以外がそれらの規範を正確に同定することには困難が伴うと述べている。

各場面の参加者は数多くの規範を内在しているが、もちろんすべての規範が常に意識されているわけではない。Neustupný (1985b) はある場面において規範が意識される状態 (overt) と規範が意識されない状態 (covert) があると指摘しており、加藤 (2010:25) は意識された規範を「顕在的規範」、意識されていない規範を「潜在的規範」としている。フェアブラザー (2000) も規範は 1 つの種類に限らず、潜在的と顕在的、自覚的と無自覚的という種類の規範が存在すると指摘している。そして更に非母語話者が適用する規範は不完全で、改変適合されており母語・母文化からの干渉があり、ある場面では硬直している場合があることを報告している。また加藤 (2010)

は一般的に規範の顕在化は、初対面の相手と話したり、非母語話者による聞き返しや説明により、メタ言語的意識が活性化されるような場合や、逸脱が少なく、たまに起きると目立ちやすいような状況などで起こりやすいと考えた。さらに規範が顕在化されたとしても常に意識されていない場合や、意識的に規範を顕在化させようと試みる場合、意識的に顕在化された規範においても、強く意識されている場合とそうではなく弱く意識されている場合があると述べている。以上の事例から加藤（2010）は、規範が場面や状況に連動して顕在化・潜在化するだけでなく、参加者の意識によって顕在化する規範もあれば、無意識的に使用される規範があることや、たとえ意識され顕在化した規範だとしても、その意識にも強弱があることを報告している。

さらに、加藤（2010）は上記のような規範の動態性を含めて（図 3-4 動態性1）、三つのタイプの動態性が存在するとしている。

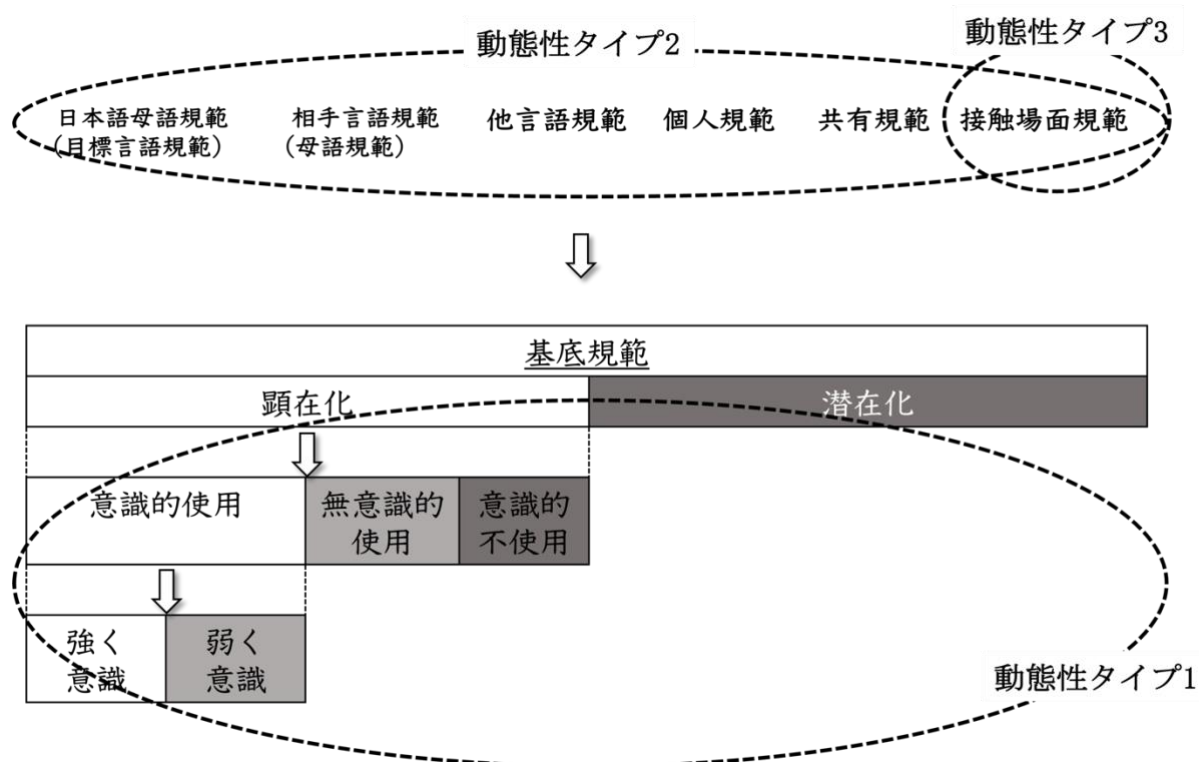


図 3-4 規範の動態性タイプの分類（加藤, 2010:45 から作成）

図 3-4 の動態性タイプ 1 は、上述したように潜在化していた規範が顕在化されたり、弱く意識されていた規範が強く意識されるようになるなどの規範の適用のされ方のタイプである。この動

態性タイプ 1 が生起する要因として、加藤（2010）は場面や相手の特徴に慣れた場合、逸脱が繰り返された場合、コミュニケーション問題が生じた場合、隠れていた相手の属性や場面などの新情報が判明した場合、複数の規範の影響を受ける場合などを挙げている。

動態性タイプ 2 は、今まで相手言語規範に基づいて運用されてきた基底規範<sup>7</sup>が、目標言語規範に基づいて運用されるようになるといった基底規範を構成する規範群の変更に関するタイプであるとしている。

動態性タイプ 3 は、接触場面用の新規規範生成に関するタイプである。

本研究の第 6 章では上述の加藤（2010）の枠組みを用いて規範の動態性についても分析する。

次に、そもそもある接触場面開始時の基底規範は、どのように選択されるのであろうか。

Neustupný（1985b）はある接触場面で参加者が規範を選択する基準として、ある言語 A がある場面で選択され、少なくとも会話参加の一人以上が言語 A の母語話者である場合、一般的に言語 A の規則はその場面の基底規範として選択される可能性が高いと述べている。

What, then, is the more general strategy for the selection of a suitable norm in a speech situation? We can say that if language A is spoken in a situation and at least one central participant is a native speaker of A, rules of A normally serve as the base for the norm of that situation.

(Neustupný 1985b:163)

しかしながら、実際の場面では参加者の母語規範が基底規範として選択されたとしてもそれがある程度省略される場合や、その場で新たな規範が生成される可能性があるとして加藤（2010）は指摘している。

その他、ネウストプニー(1995a)はインターアクション能力を構成する三つの能力を基にした規範の分類も提示している。すなわち、インターアクション能力を言語能力、社会言語能力、社

---

<sup>7</sup> 加藤（2010）は基底規範を無数に存在する規範の中から、会話の参加者がその場面に応じて選択した規範としている。

会文化能力<sup>8</sup>に分け、言語能力と社会言語能力を合わせた能力をコミュニケーション能力、コミュニケーション能力と社会文化能力をまとめた能力をインターアクション能力としている。そして、言語能力には言語的規範、社会言語能力には社会言語的規範、社会文化能力には社会文化的規範と各能力に対応する規範が存在するとしている。

本研究でもネウストプニーのインターアクション能力による規範の分類方法を用いる。

加藤（2006）は、以下のように当該談話の参加者が有している選択領域からの分類も提案しており、これは加藤（2010）の規範の動態性タイプ2にあたるものである。

母語話者側では、母語規範（相手の言語や文化などを知っている場合）、相手言語規範（英語などの）、他言語規範、個人規範、共通規範（比較的ユニバーサルな、少なくとも当該接触場面の参加者が共通して持っている規範）、接触場面規範（先の規範を緩和・強化した規範や接触場面用の新規範）が挙げられる。一方、非母語話者側では、自国の母語規範、目標言語規範（日本語接触場面では日本語規範）、他言語規範、共通規範、接触場面規範（母語話者と同様の規範の他、目標言語規範の中間言語も含む）が挙げられる。

（加藤 2006:2）

本研究では加藤（2006, 2010）を踏襲して、次の表 10 の定義に基づき、参加者の選択領域から規範を分類する。

表 3-1 参加者の領域に基づく規範の分類の定義

分類名	日本人	サウジアラビア人
母語規範	母語である日本語や日本社会・文化などのインターアクション	母語であるアラビア語やサウジアラビア社会・文化な

<sup>8</sup>ネウストプニー（1982, 1995a）は言語能力を文法、語彙、発音、文字に関する能力で、社会言語能力を「だれが、どこで、何を、どう言うか（聞く、書く、読む）というルール（ネウストプニー1995a:41）」に関する能力とし、ある言語を母語とする社会の政治・経済、思考や日常生活の行動に関する能力を社会文化能力としている。

	ン能力に基づく規範	どのインターアクション能力に基づく規範
相手言語・目標言語規範	相手言語であるアラビア語やサウジアラビア社会・文化などのインターアクション能力に基づく規範	目標言語である日本語や日本社会・文化などのインターアクション能力に基づく規範
他言語規範	英語やフランス語等の両言語話者にとって母語でも相手・目標言語でもない第3言語のインターアクション能力に基づく規範	
個人規範	話者個人の性格や理念に基づく規範	
共通規範	挨拶や感謝など人類社会で共通して重要されている行為に関する規範	
接触場面規範	接触場面で新たに生成された規範や日本語もしくはアラビア語母語規範が緩和または強化された規範	

また加藤（2010）はネウストプニー（1987）の指摘した規範間のヒエラルキーに着目し、上位規範とそれに付随する下位規範という概念を取り入れている。加藤はネウストプニーの指摘したヒエラルキーの上部に一般性の高い原理（例えば、協調の原理）<sup>9</sup>が存在し、その下に上部に位置する原理の影響を受け、生成・変容・再生し、絶えず動態性が変動する下部のストラテジー<sup>10</sup>が存在するとしている。

さらに加藤（2010）は以上の規範の相互関係をより明確にするために、ネウストプニー（1987, 1995a）と加藤（2006）の規範の分類をまとめている。本研究では加藤（2010）のまとめた規範の

<sup>9</sup> Grice（1975）は会話の参加者がコミュニケーションを成立させるため働く会話原則を「協調の原理」とし、量、質、関連性、作法の4つの公理から成り立つとしている。

<sup>10</sup> ネウストプニー（1987）はBrown & Levinsonのポライトネス理論のストラテジーを（3.3.参照）下部に位置するストラテジーとしている。

分類方法を踏襲し、データの分析から明らかになった規範を次の図 3-5 のように分類する。

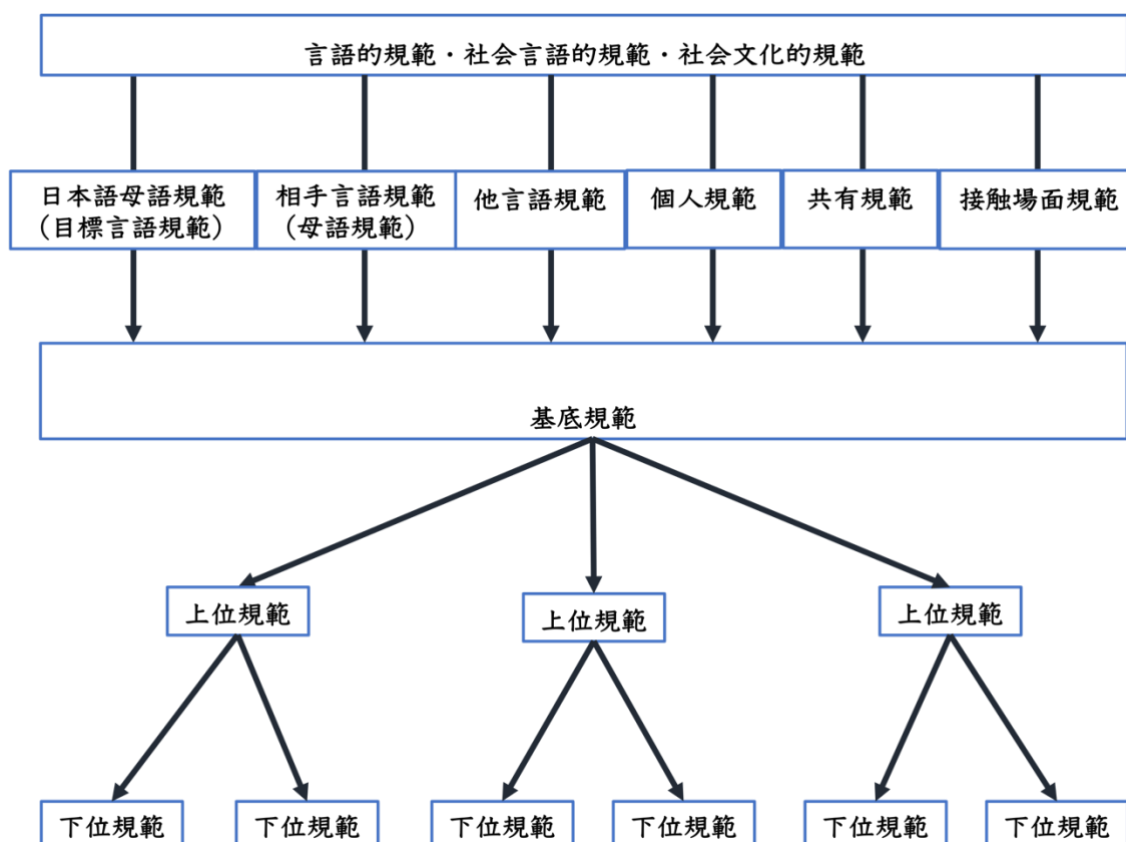


図 3-5 規範の分類 (加藤 2010:45 から作成、改変)

### 3.2.2. フォローアップ・インタビュー

実際の会話では管理プロセスの調整行動の実行段階まで進まず、留意や評価の段階で終了する場合もありえる。そのような場合、調整行動が確認されないため、談話データだけでは規範を同定することが困難である。その問題の解決方法としてフォローアップ・インタビューを談話データの文字化後に実施する。

加藤 (2010) は特定の談話において規範からの逸脱により言語問題が生じた場合、参加者はそれを解決するために管理プロセスを実行する可能性があるが、その際の意識は逸脱しなかったインターアクションの場合に比べ、参加者の記憶に保存されていることが多いと述べている。

また、橋内 (1999:39) は「録音したあと、文字化するのであるが、大抵何ヵ所かは疑問点が生



じるものである。そこで、話し手の発話形式・発話内容と発話機能を明らかにするためにフォローアップ・インタビュー (follow-up interview, 事後面談) を行いたい。その結果、データの記述がより精緻で正確なものになるし、補足説明を加えることができる」と述べている。

さらにファン (2002:88) もフォローアップ・インタビューを「調査対象者の実際の行動に伴う認知プロセスを意識化し、言語化するための方法論である。フォローアップインタビューでは録音や録画で反映されない対象者の調査時の意識や考えを明らかにしようとする目的で行われ、調査データを質的に捕捉する。」と定義している。

橋内 (1999)、ファン (2002)、加藤 (2010) の報告から、フォローアップ・インタビューは当該談話における被調査者の内省を明らかにすることができる手法だと考えられ、談話の表面上に現れなかった規範を同定するため本研究の第 6 章で用いる。本研究のフォローアップ・インタビューの手順は、以下のファン (2002) の方法を踏襲する。

- (1) ウォーミング・アップ: 安心できるインタビュー環境を作ったり、後ほどの意識調査の結果を裏付けるデータを取ったりする目的で、いくつかの事項について話す。
- (2) 本調査前の意識: 本調査の行動に入るに当たって意識変化があったかどうかを確認するために、自分の役割への期待、他の参加者へのイメージなどを質問する。
- (3) 本調査時の意識: 本調査時に行われた行動の全部、または一部に関する意識を確かめるために、自分の行動についての意識の有無、行動のもとになった規範、逸脱として捉えた行動、否定的に評価した行動、相手の行動について、録音・録画データを用いて、コメントを求める。
- (4) 本調査後の意識: 本調査の行動の後にどのような意識変化があったかを確かめる。
- (5) 確認: 各段階の意識と調査結果の確認、仮説の紹介、研究者の分析予定を知らせ、対象者の意見を求める。

(ファン 2002:93-94)

また、各段階で注意する事柄として、加藤 (2010) は、次の事柄を挙げている。

まずウォーミング・アップの段階では、フォローアップ・インタビューが基本的に会話時の意識を確認したいのだということを明確にしておくことが重要だと述べている。また、被調査者が落ち着いてインタビューに応じることができるように、リラックスした雰囲気を作り出すため、被調査者の信頼を得ることも重要になるとしている。

次に本調査前の意識確認の段階で行うべきこととして、被調査者が調査に参加する前に心がけていたことや意識していたこと、心配していたことなどを尋ねることを挙げている。その理由として、多くの参加者は何らかの心構えや話題の準備をした上で会話に望むので、すでに管理プロセスが働いており、そのプロセスを確認する必要があると言及している。

そして本調査時の意識確認の段階で最も重要な事は、ビデオ視聴時のインタビューだと述べ次の手順を取るとしている。まず初めに、録画データを視聴しながらインタビューを行う。その際に数分ごとに会話を区切って、会話当時の意識や気になったところ、思いついたところを発言させるオープンエンドな質問<sup>11</sup>方法を取る。その後、研究者が文字化の際に気になっていた留意点を尋ねる構造的な質問<sup>12</sup>を行うと加藤は述べている。

以上の手順に関連して、ファン（2002）はフォローアップ・インタビューで録画データの視聴とそれに関する質問を行う際の5つの注意点を挙げている。

- (i) 研究者の意識、または解釈を加えない。
- (ii) 内容確認のみで終了しないこと。
- (iii) フォローアップ・インタビュー時点での一般的な印象や意見に関する質問を中心にしないこと。
- (iv) 柔軟性を持つこと。これは、表現力、認知力の異なる様々な対象者がいるので、彼らの気持ちを無視して、機械的に予定の質問を全部こなしても良いデータを収

---

<sup>11</sup> 「会話時について思い出したことを何でもいってもらおう（加藤 2010:61）」方法である。会話時の意識とフォローアップ・インタビュー時の意識が混ざって現れてしまう恐れがあるので明確にする必要があると加藤は言及している。

<sup>12</sup> 「基本的に文字化後の分析において事前に準備された質問（加藤 2010:61）」。質問のタイプとして、被調査者が語らなかつた調整行動を尋ねる構造質問、留意段階や評価段階の意識を尋ねる留意・評価質問、接触場面と母語場面の比較を尋ねる比較質問、会話前の準備や日本語学習動機、外国滞在歴などを尋ねる記述的質問があると加藤は述べている。

集することはできない。

(v) できるかぎりやさしい言葉を使う。

(ファン 2002:92)

本研究は以上の手順及び注意点に従い、次のような手順でフォローアップ・インタビューを行った。

- (1) ウォーミング・アップ：被調査者の緊張を取り除くため、データ収集への協力及びインタビューに応じてくれたことへの感謝やこのインタビューが長時間かからないこと、冗談などを述べる。被調査者の緊張が取り除かれたら、会話時の意識を確認したいから思い出してほしいと伝え、20～30秒ほど待つ。
- (2) 調査前の意識：被調査者に調査参加の前に心がけていたことや意識していたこと、心配していたことなどを尋ねる。
- (3) 本調査時の意識：この段階では上述の加藤（2010）が指摘した（i）～（v）を意識し、録画データを視聴しながらインタビューを行った。録画データは後述の場面ごとで区切り、被調査者に各場面を振り返って会話当時思っていたことや意識、内心考えていたことなどを自由に発言させた。その後、筆者がインタビューで気になっていた留意点を尋ねる。
- (4) 本調査後の意識：調査に参加したうえで、会話内で行った依頼についての感想や、会話終了後もその依頼の意識に変化が生じたかなどを尋ねる。
- (5) 確認：本研究の仮説や分析予定を紹介し、被調査者からの研究全般に対する質問を受ける。

### 3.3. ポライトネス理論

実際の依頼場面では依頼者、被依頼者、依頼内容だけで依頼場面が構成されるわけではない。依頼相手の年齢や社会的地位の影響を受ける上下関係や親しい、もしくは親しくない間柄、または初対面など依頼相手との親疎関係、そして依頼内容が大きいか小さいかで依頼の負担度も変わる。この上下関係、親疎関係、依頼内容の負担度を考慮した上で、日常生活で日本人にもサウジアラビア人にも馴染みがあり、頻繁に起こりえる場面を本研究では設定する。

本研究の依頼場面を設定するにあたり、考慮したことは2つある。1つは日本人とサウジアラビア人の両者にとって馴染みがあり、日常場面で遭遇する可能性が高い依頼場面を選択することで、もう1つはその選択の際にポライトネス理論 (Brown and Levinson 1987) を理論的基盤とすることである。

ポライトネス理論では、人間は誰しも「フェイス」という自身が理想とする自己イメージの欲求を有しており、フェイスには「ポジティブ・フェイス (Positive Face)」と「ネガティブ・フェイス (Negative Face)」という2つのフェイスがあるとされている。「ポジティブ・フェイス」は、他者から好かれないとか認められたいなどのような人との関わりを積極的に求める欲求である。これに対して、「ネガティブ・フェイス」は他者と距離を置きたい、立ち入れられたくないような他者との関わりを避けたいという欲求である。そしてすべての人間は、いかなる場面であっても、両欲求を有しているとされている。また、それぞれの欲求に対応する言語的なストラテジーが存在し、相手のポジティブ・フェイスに配慮するものは「ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー」、ネガティブ・フェイスに配慮するものはネガティブ・ポライトネス・ストラテジー」と呼ばれている。

ポライトネス理論では、すべての言語行動が相手のフェイスを侵害する行為 (FTA: Face Threatening Acts) の可能性を持つと考えられている。例えば、人に何かを頼むという行為は、頼まれる側のネガティブ・フェイスを脅かすものであり、相手からの依頼を断りの発話行為で対応すれば依頼者のポジティブ・フェイスを脅かすことになり、FTAの度合いが大きければ大きいほど、話者はよりポライトネス・ストラテジーを使わなければならないと述べている。またFTAの度合いの大きさは、「相手にかかる負担度」、「社会的距離」、「心理的距離」の三要素が考慮されるとしており、本研究では以上の三要素を考慮し場面を以下のように設定した。

まず依頼場面の「社会的距離」に関しては、社会的属性を友人関係の同等に限定する。その理由は論文の冒頭で言及した通り、日本人とサウジアラビア人が友達に依頼する・される際の特徴を明らかにしたかったからと、留学生にとって最も身近な関係は同じ学生の身分だと考えたからである。またサウジアラビアの社会文化的規範では、日本の社会文化的規範のように上

下関係が意識されない。そのため、サウジアラビア人は先輩・同輩・後輩という上下関係を全て友だちとみなす傾向が強いと考えられる。さらに職場においても身近で親しい相手であれば上司や部下であっても親しければ友達とみなし、親しくなければ上司や後輩であっても同僚とみなすことも要因の一つである。

また「心理的距離」の設定は、親しい相手に限定した。その理由は、先述の通り本論文では両言語話者にとって馴染みがあり、日常生活で遭遇する可能性が高い親しい友人間の依頼を分析の対象にしたいと考えているからである。またサウジアラビア人の場合、親しくない・初対面の相手と依頼会話を行うことは日常生活で珍しいことではない。しかし、日本人の場合は親しくない相手や初対面の相手と依頼会話を行うことは急を要する状況に追い込まれたときだけであり、日常生活で遭遇する可能性が低いと考え、親疎関係を親しい相手に限定した。

そして「相手にかかる負担度」に関しては、本研究では金銭と時間に関する2つの依頼場面を設定し、それぞれの場面に負担度が大きい依頼と小さい依頼を設定した。

金銭と時間を依頼場面に選択した理由は2つある。1つ目の理由は両場面ともに負担の度合いを数字で表すことができることから、被調査者が依頼の負担内容を明確に理解できるのではないかと考えたからである。もう1つの理由は、張雪梅（2013）の依頼場面の設定方法を踏襲したからである。張雪梅は情報提供、金銭提供/貸与、労力提供、物品提供/貸与及び上記の4カテゴリーの複合依頼が大学生にとって身近な依頼テーマだと報告したCody et al.(1994)を踏襲し、金銭提供と労力提供を依頼する場面内容を選択している。

本研究でも張雪梅（2013）を踏襲し、金銭貸与と時間に主軸を置いた労力提供を依頼会話の場面設定とするが、依頼内容の負担度に応じてどのような依頼展開や依頼の成否などが生じるのかを明らかにするため、各依頼のテーマに異なる負担度の依頼を設定する。それ故、金銭貸与の依頼場面では負担が小さい500円の依頼と負担が大きい10,000円の依頼を、労力提供の依頼場面では5分程度かかる負担の小さい作業の依頼と30分程度かかる負担の大きい作業の依頼をそれぞれ設定した。

呉（2020）の「日本人は親友同士の間柄であっても金銭の貸し借りを非常に負担度の大きい依頼と捉える」という報告から、日本人が金銭貸与を負担に思うことは明らかであろうと思わ

れる。しかし、サウジアラビア人も日本人と同様に「親友と金銭の貸し借りの依頼会話をする  
こと」に負担を感じるかどうかを明らかにした研究は管見の限り存在しない。もし日本人と同  
じくサウジアラビア人もこの依頼場面を負担に感じるならば、サウジアラビア人は「親友と金  
銭貸与の依頼会話」を避けるであろう。しかし、彼らが「金銭貸与の依頼会話」に負担を感じ  
ないのであれば、接触場面でも母語場面と同様に親友の日本人に対して「金銭貸与の依頼会  
話」を行い、その結果、文化摩擦が生じる可能性が考えられる。このような問題が本研究の依  
頼会話でも起きるのかを明らかにするため金銭を選択した。

時間指定のある労力提供を依頼場面を選択した理由は、サウジアラビア人だけでなくアラブ  
人が時間と手間のかかる依頼を好まない傾向があると考えたからである。日本人の場合、時間  
と手間のかかる依頼内容は金銭貸与の依頼会話よりも負担が小さい依頼であることは先行研究  
(例えば、岡田・安藤, 2001 や呉, 2020) から明らかである。しかしモーメン (2021) は日本  
人が会議や仕事などの開始時間に厳しいが終了時間に無頓着であるのに対し、アラブ人は開始  
時間に無頓着であるが終了時間に厳しいことも報告している。このような時間に対する捉え方  
の違いが日本人とサウジアラビア人に存在するため、両者が日本語を媒体とした日サ接触場面  
で「時間指定のある労力提供の依頼会話」を行った場合、異文化摩擦によるコミュニケーション  
問題が生じる可能性が高いと考え、この依頼内容を選択した。

上述した社会的属性を踏まえて、本研究の依頼場面を以下のように設定する。

表 3-2 本研究におけるロールプレイの場面設定

金銭	場面 1:負担小	親友に 15 リヤル／500 円を借りる場面
貸借	場面 2:負担大	親友に 300 リヤル／10,000 円を借りる場面
労力提供	場面 3:負担小	親友に 5 分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面
(時間)	場面 4:負担大	親友に 30 分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面

次章ではデータの収集法について説明を行う。

## 第 4 章

### 4. 日本人とサウジアラビア人の両母語場面における依頼の負担度に関するアンケート調査

#### 4.1. はじめに

本章ではアンケート調査を実施し、日本人とサウジアラビア人が金銭貸借と手間のかかる時間の提供の依頼をする・される場合、どのような条件になると、より負担に感じるのかを明らかにする。4.2.1. では被調査者と調査期間を、4.2.2. では場面設定とアンケートの質問内容についての説明を、4.3. では収集したデータから明らかになった結果を述べる。そして、4.4. では言語管理理論を基にした規範の同定を試み、4.5. では本章のまとめを述べる。

#### 4.2. 研究方法

##### 4.2.1. 被調査者と調査期間

本調査は、日本人及びサウジアラビア人の大学生と大学院生を対象としたものである。日本人の被調査者は2019年11月、関東圏にある私立T大学で、また、サウジアラビア人の被調査者は2020年2月、首都リヤドにある国立K大学で、それぞれデータ収集を行った。被調査者は日本人107人、サウジアラビア人110人である。データ収集方法は、日本人、サウジアラビア人共にGoogleフォームを用いてアンケート調査用紙の作成及び配布を行った。日本人に対しては日本語で、サウジアラビア人に対してはアラビア語でアンケートを作成し、また、回答もそれぞれ日本語、アラビア語で記入してもらった。

日本での調査においては、同大学または大学院の各授業担当者の許可のもと、授業開始時か終了時に筆者自身がアンケートの回答方法や目的などを日本語で説明し、研究への調査同意書及びアンケートのQRコードを配布、回答を集めた。

サウジアラビアでの調査においては、筆者が日本に滞在中だったため、現地の各授業担当者の協力を得て、授業開始時か終了時に事前に筆者が準備したボイスメッセージを使用し、アンケートの回答方法や目的などをアラビア語で説明した。その後、授業担当者に研究への調査同意書及

びアンケートの QR コードの配布と回答の収集を行ってもらった。

性別の違いによって依頼場面に感じられる負担度は異なる恐れがあるため、性別による違いも視野に入れておきたかったが、サウジアラビアでは宗教的背景から共学の大学が存在せず、加えて男性が女性のキャンパスで研究することは大変困難となる。このことから本研究では、サウジアラビア人の被調査者は全員男性であり、日本人に対しても条件をそろえるため男性に限定した。表 4-1 に本研究の被調査者の属性をまとめる。

表 4-1 被調査者の所属・人数・年齢・性別

被調査者	日本人	サウジアラビア人
所属	関東圏にある T 大学	リヤドにある国立 K 大学
人数	107 人	110 人
年齢	20 代	20 代
性別	男性	男性
母語	日本語	アラビア語
期間	2019 年 11 月	2020 年 2 月

#### 4.2.2. アンケート内容

本研究で使用する場面設定は、以下の表 4-2 のとおりである。

表 4-2 本研究におけるロールプレイの場面設定

金銭 貸借	場面 1: 負担小	親友に 15 リヤル <sup>13</sup> / 500 円を借りる場面
	場面 2: 負担大	親友に 300 リヤル / 10,000 円を借りる場面
労力提供 (時間)	場面 3: 負担小	親友に 5 分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面
	場面 4: 負担大	親友に 30 分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面

質問表には依頼者の立場の回答欄と被依頼者の立場の回答欄をそれぞれ設け、被調査者にはそ

<sup>13</sup> 調査当時のレートでは、1 リヤル=約 33 円に相当。



れぞれに回答を求めた。依頼者の回答欄の場面設定としては、以下のように設定した。

問.「あなたはこのお願いをする時に、申し訳ないと思いますか。」

また、被依頼者の負担度を尋ねる設問は、以下の通りである。

問.「あなたはこのお願いをされた時に、負担だと思いませんか。」

アンケートの回答に関しては、(①全然思わない ②あまり思わない ③やや思う ④非常に思う)のうち、もっとも当てはまるものを一つ選択する形式とした。

自然なデータを得るために各場面に条件を設定した。このような設定をしたのは、自然なデータを得ることに加えて、被調査者が想像する場面を統一させるためである。以下に各場面の設定を記載する。尚、時間の提供の依頼に関しては、依頼者が依頼するアンケートは本人のものではなく、「別の友達に頼まれたアンケート」として設定した。これは、サウジアラビア人の大学生による予備調査で「大学で開講されている授業でアンケートを実施し、データを収集・発表する課題が頻繁に課されることから、別の友だちに友達に回答を依頼する・されることが自分の課題のために依頼する・されることがよりも頻繁にある。だから日常生活で頻繁におこる別の友達に頼まれたアンケートにしたほうが良いと思う。」という指摘を多数受けたからである。

表 4-3 各場面の詳細な設定

場面	設定
A. 親友に 15 リヤル／500 円を借りる場面	あなたは親友と一緒に <u>食堂</u> <sup>14</sup> へ行って、レジのところでは財布を出したら、現金がありませんでした。そこで、親友に 15 リヤル／500 円を借りることにしました。次の質問に答えてください。
B. 親友に 300 リヤル／10,000 円を借りる場面	あなたは親友と一緒にいつも集まる場所にいます。あなたは月末までにどうしても 10,000 円が必要な状況にいます。親友に 300 リヤル／10,000 円を借りることにしました。次の質問に答えてください。

<sup>14</sup> サウジアラビア人の所属する大学には、ファストフードのレストランがあり、そのランチの定食は約 15 リヤル前後で販売されている。日本の T 大学の大学食堂もおおむね 500 円前後で販売されている。

C. 親友に 5 分ぐ らいのアンケート に答えてもらう場 面	あなたは親友と一緒にいつも集まる場所にいます。あなたは別の 友達に頼まれた 5 分ぐらにかかるアンケートがあります。それに 答えてもらうように親友に頼みます。次の質問に答えてください。
D. 親友に 30 分ぐ らいのアンケート に答えてもらう場 面	あなたは親友と一緒にいつも集まる場所にいます。あなたは別の 友達に頼まれた 30 分ぐらにかかるアンケートがあります。それに 答えてもらうように親友に頼みます。次の質問に答えてください。

また、アンケート調査の最後に、(依頼をする側) 及び (依頼を受ける側) それぞれの立場において (A-B-C-D) の中で、負担度が一番大きいと感じる場面を選択してもらった。これは全体的な負担度に対する感想を明らかにするためである。実際に使用した依頼者役のアンケート調査を日本語版とアラビア語版の順番で以下に提示する。尚、被依頼者役のアンケート調査 (日本語とアラビア語) は、巻末資料を参照。

表 4-4 アンケート調査の説明 (依頼する側の立場) (日本語版)

本調査はアラブ人と日本人のコミュニケーションに関する研究のために行うものです。本調査の対象者は日本人の大学生、大学院生の男性を考えており、あなたにぜひご協力をお願いしたいと思っております。具体的には、ある場面を想像して、もっとも適切な答えを選択していただきます。本調査では、お名前やご住所などのような個人情報はありません。得られたデータは分析をした上で、東海大学内もしくは学外の学会で発表し、論文とすることを考えております。

疑問点や苦情等があれば、いつでも下記の研究者にご連絡下さい。

ご協力を頂き、ありがとうございます。

研究者（連絡先）

東海大学 文学研究科 日本文学専攻 日本語教育学コース

ヤズィード ナーセル

TEL :

Email :

表 4-5 アンケートの設問（依頼する側の立場）（日本語版）

A. 親友に 500 円を借りる場面。

あなたは親友と一緒に食堂へ行って、レジのところで財布を出したら、現金がありませんでした。そこで、親友に 500 円を借りることにしました。次の質問に答えてください。

問. あなたはこのお願いをするときに、申し訳ないと思いますか。

- 全然思わない
- あまり思わない
- やや思う
- 非常に思う

B. 親友に 10,000 円を借りる場面。

あなたは親友と一緒にいつも集まる場所にいます。あなたは月末までにどうしても 10,000 円が必要な状況にいます。親友に 10,000 円を借りることにしました。次の質問に答えてください。

問. あなたはこのお願いをするときに、申し訳ないと思いますか。

- 全然思わない

あまり思わない

やや思う

非常に思う

C. 親友に5分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面。

あなたは親友と一緒にいつも集まる場所にいます。あなたは別の友達に頼まれた5分ぐらいかかるアンケートがあります。それに答えてもらうように親友に頼みます。次の質問に答えてください。

問. あなたはこのお願いをするときに、申し訳ないと思いますか。

全然思わない

あまり思わない

やや思う

非常に思う

D. 親友に30分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面。

あなたは親友と一緒にいつも集まる場所にいます。あなたは別の友達に頼まれた30分ぐらいかかるアンケートがあります。それに答えてもらうように親友に頼みます。次の質問に答えてください。

問. あなたはこのお願いをするときに、申し訳ないと思いますか。

全然思わない

あまり思わない

やや思う

非常に思う

表 4-6 アンケート調査の説明（依頼する側の立場）（アラビア語版）

نفترض وجود أربعة مواقف وهي كالتالي:

أ. تستلف من أعز أصدقاؤك \* مبلغ ١٥ ريال .

ب. تستلف من أعز أصدقاؤك مبلغ ٣٠٠ ريال .

ج. تطلب من أعز أصدقاؤك الإجابة على استبيان مدته ٥ دقائق .

د. تطلب من أعز أصدقاؤك الإجابة على استبيان مدته ٣٠ دقيقة .

المطلوب منك هنا أن تتخيل نفسك في كل موقف وتختار الإجابة المناسبة لك .

ويوجد بعد كل موقف خانة لكتابة أي انطباع أو رأي (إذا وجد) تجاه الموقف نفسه أو الاستبيان بشكل عام .

\*\*المقصود بكلمة أعز أصدقاؤك هو صديقك الذي تدرس معه أغلب المحاضرات وتقضي معه أغلب وقتك في الجامعة.

اسم الجامعة:

العمر:

Email:

表 4-7 アンケート調査の設問（依頼する側の立場）（アラビア語版）

نفترض وجود أربعة مواقف وهي كالتالي:

أ. تستلف من أعز أصدقاؤك \* مبلغ ١٥ ريال .

ب. تستلف من أعز أصدقاؤك مبلغ ٣٠٠ ريال .

ج. تطلب من أعز أصدقاؤك الإجابة على استبيان مدته ٥ دقائق .

د. تطلب من أعز أصدقاؤك الإجابة على استبيان مدته ٣٠ دقيقة .

المطلوب منك هنا أن تتخيل نفسك في كل موقف وتختار الإجابة المناسبة لك .

ويوجد بعد كل موقف خانة لكتابة أي انطباع أو رأي (إذا وجد) تجاه الموقف نفسه أو الاستبيان بشكل عام .

\*\*المقصود بكلمة أعز أصدقاؤك هو صديقك الذي تدرس معه أغلب المحاضرات وتقضي معه أغلب وقتك في الجامعة.

اسم الجامعة:

العمر:

Email:

أ. تستلف من أعز أصدقاؤك مبلغ ١٥ ريال

نفترض أنك ذهبت مع أعز أصدقاؤك إلى كافيتريا أو مطعم الجامعة، وعند الكاشير أخرجت محفظتك ولم يكن معك المال نقداً،

هنا قررت أن تستلف من أعز أصدقاؤك مبلغ ١٥ ريال، أجب على الأسئلة التالية .

هل تشعر بالحرج تجاه أعز أصدقاؤك كونك تطلب منه هذا الطلب؟

لا أشعر مطلقاً

لا أشعر إلى ذلك الحد

نعم أشعر

نعم أشعر بشكل كبير

ب. تستلف من أعز أصدقاؤك مبلغ ٣٠٠ ريال

نفترض أنك كنت مع أعز أصدقاؤك في الجامعة، وكنت عندها تمر بضائقة مالية وقررت أن تستلف من أعز أصدقاؤك مبلغ

٣٠٠ ريال حتى نهاية الشهر، أجب على الأسئلة التالية .

هل تشعر بالحرج تجاه أعز أصدقاؤك كونك تطلب منه هذا الطلب؟

لا أشعر مطلقاً

لا أشعر إلى ذلك الحد

نعم أشعر

نعم أشعر بشكل كبير

ج. تطلب من أعز أصدقائك الإجابة على استبيان مدته ٥ دقائق  
نفترض أنك كنت مع أعز أصدقائك في الجامعة، وكان معك استبيان طلبه منك زميل آخر وقررت حينها أن تطلب من أعز  
أصدقائك أن يقوم بكتابة الاستبيان ومدته ((٥ دقائق)) تقريبا، أجب على الأسئلة التالية .  
هل تشعر بالحرج تجاه أعز أصدقائك كونك تطلب منه هذا الطلب؟

لا أشعر مطلقا

لا أشعر إلى ذلك الحد

نعم أشعر

نعم أشعر بشكل كبير

د. تطلب من أعز أصدقائك الإجابة على استبيان مدته ٣٠ دقيقة  
نفترض أنك كنت مع أعز أصدقائك في الجامعة، وكان معك استبيان طلبه منك زميل آخر وقررت حينها أن تطلب من أعز  
أصدقائك أن يقوم بكتابة الاستبيان ومدته ((30 دقيقة)) تقريبا، أجب على الأسئلة التالية .  
هل تشعر بالحرج تجاه أعز أصدقائك كونك تطلب منه هذا الطلب؟

لا أشعر مطلقا

لا أشعر إلى ذلك الحد

نعم أشعر

نعم أشعر بشكل كبير

### 4.3. 結果と考察

#### 4.3.1. 日本人が感じる負担度

##### 4.3.1.1. 日本人が金銭貸借・時間の提供の依頼をする場合

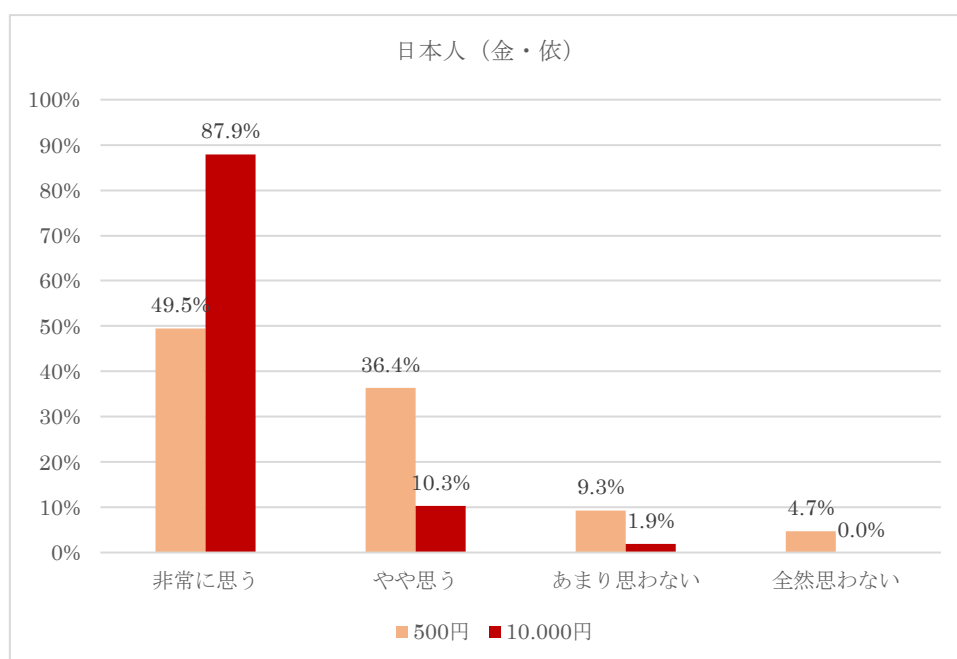


図 4-1 日本人の金銭貸借の負担度（依頼する側）

まず、金銭貸借の負担度の結果について紹介する。日本人が親友に金銭を借りる場合、被調査者自身を感じる心理的負担の結果を図 4-1 に示した。まず、親友に 500 円を借りる場面に、負担だと「非常に思う」と回答した日本人は最も多く 49.5%であり、「やや思う」と回答した人は 36.4%であった。一方、親友に 10,000 円を借りる場面に負担だと「非常に思う」と回答した人は 87.9%と最も多かった。次に、「やや思う」と回答した人は 10.3%だった。両場面とも「非常に思う」の割合が最も多いが、500 円を借りる場面の「やや思う」と回答した人の割合も相対的にそれほど下がってはいない。

親友に 10,000 円を借りる場面のほうが日本人にとっては、圧倒的に心理的負担が大きいことが分かる。一方で、500 円を借りる場面において、「非常に思う」と「やや思う」を選択した人の割合の差はそれほど大きくなく、当然ながら、金額の差が心理的負担の大小に影響している。

次に、日本人の時間の提供の負担度の結果について紹介する。



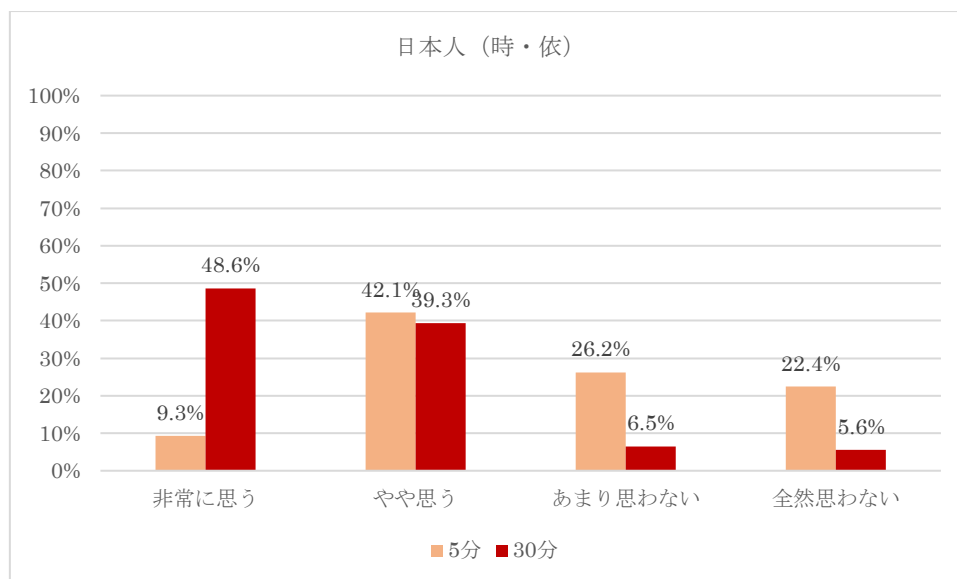


図 4-2 日本人の時間の提供の負担度（依頼する側）

日本人が親友に時間のかかる時間の提供の依頼をする場合、被調査者自身が感じる心理的負担の結果を図 4-2 に示した。まず、親友に 5 分程度のアンケートに答えてもらう場面に、負担だと「やや思う」と回答した日本人の割合は最も多く 42.1%だった。また、「あまり思わない」と回答した人の割合は 26.2%、「全然思わない」と回答した人の割合は 22.4%であった。一方、親友に 30 分程度の長いアンケートに答えてもらう場面では、負担であると「非常に思う」と回答した人は 48.6%と最も多く、次に「やや思う」を選択した人は 39.3%であった。

日本人が親友に金銭及び時間のかかる時間の提供の依頼をする際、依頼内容の負担度が大きくなると、それに比例して日本人も心理的負担をより強く感じるという予想通りの結果となった。また、金銭貸借場面と時間の提供場面の依頼を比べると、金銭の場面では時間の提供よりも「非常に思う」の割合が多かった。特に、日本人にとっては 10,000 円の金銭を借りる場合の方が、30 分の時間の提供を依頼するよりも圧倒的に心理的負担を感じる事がわかる。

#### 4.3.1.2. 日本人が金銭貸借・時間の提供の依頼を受ける場合

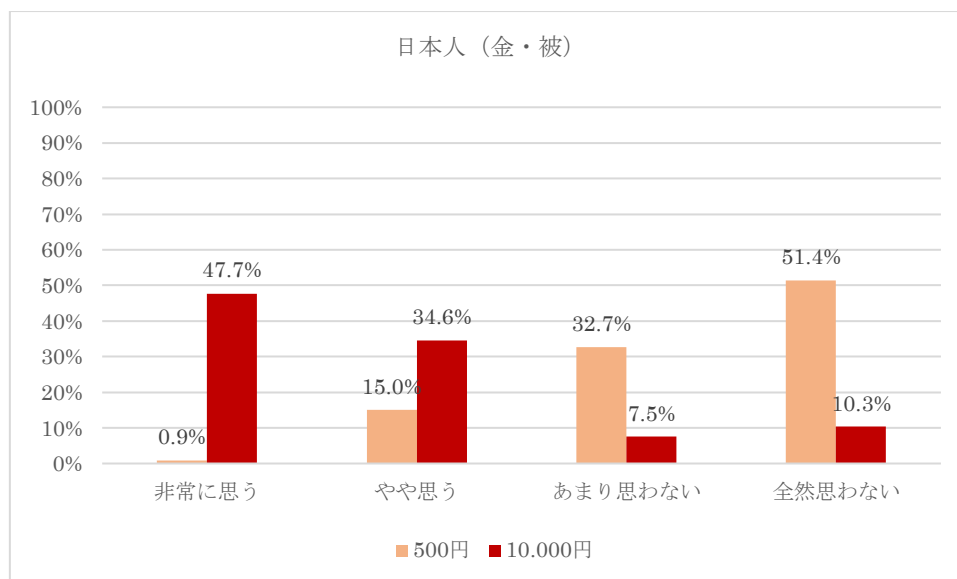


図 4-3 日本人の金銭貸借の負担度（依頼を受ける側）

まず、金銭貸借の負担度の結果について紹介する。日本人が親友から金銭を貸してほしいと依頼される場合に、被調査者自身が感じる心理的負担の結果を図 4-3 に示した。親友に 500 円を貸す場面に、負担に「全然思わない」と回答した人の割合は 51.4%と最も多く、「あまり思わない」と回答した人は 32.7%であった。一方、10,000 円を貸す場面に負担だと「非常に思う」と回答した人の割合は 47.7%であり、「やや思う」と回答した人は 34.6%であった。図 4-3 を見ると、両場面の結果はほぼ正反対になっていることが分かる。当然ながら金銭を貸す場面では金額が大きくなればなるほど、感じる負担度が大きくなっている。

また、図 4-1 でみたように金銭を借りる場面では負担に「非常に思う」や「やや思う」を選択した人が多かったが、逆に金銭を貸す場面になると、負担に「あまり思わない」と「全然思わない」を選択した人が多くなっており、日本人は金銭貸借の場面において、借りる側と貸す側とでは心理的負担に差異が大きいことが分かる。次に、時間の提供の負担度の結果について紹介する。

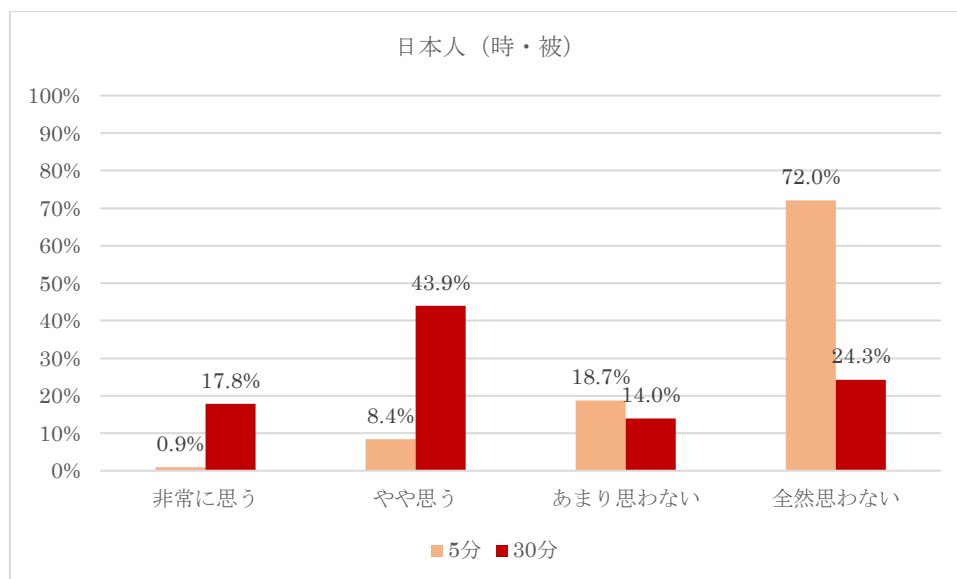


図 4-4 日本人の時間の提供の負担度 (依頼を受ける側)

日本人が親友から時間のかかる時間の提供を依頼された場合、被調査者自身が感じる心理的負担の結果を図 4-4 に示した。親友に 5 分程度のアンケートを答えてもらうように頼まれる場面では、負担に「全然思わない」と回答した人の割合は 72%と最も多く、「あまり思わない」と回答した人は 18.7%であった。一方、30 分程度のアンケートに答えてもらうように頼まれる場面では、負担に「やや思う」と回答した人の割合は 43.9%であり、「全然思わない」と回答した人は 24.3%であった。

5 分程度のアンケートの場合では、「全然思わない」と「あまり思わない」で 90%以上を占め、負担にはほぼ思わないという明らかな傾向があることが分かった。しかし、30 分程度のアンケートの場合になると、あきらかな傾向が見えないものの、負担に「非常に思う」と「やや思う」と回答した人の割合が 61.7%と半数以上となり、負担度が高まることが観察できるだろう。

#### 4.3.1.3. 日本人が最も負担を感じる場面 (依頼する側・依頼される側)

本研究では 4.2.2 で述べているように、依頼をする側、依頼される側の両方において、それぞれの場面が最も負担が大きいかを質問している。その結果、日本人が最も負担を感じる場面は次の図 4-5 のようであった。

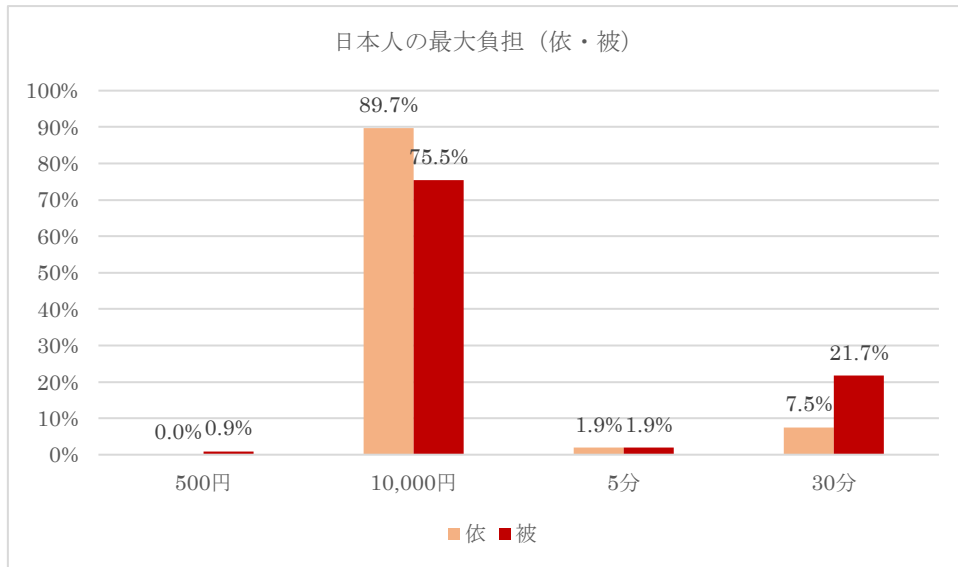


図 4-5 日本人の最大負担 (依頼する側・依頼される側)

まず、日本人が依頼者の立場で最も負担に感じる依頼内容は、10,000円を借りる場面で89.7%であった。一方、30分かかる時間の提供の依頼を最も負担に感じると回答した者は7.5%いた。この結果から、日本人依頼者は30分かかる時間の提供を依頼する場合よりも、10,000円を借りる依頼のほうが負担度の大きい依頼内容だと捉えていることが明らかになった。

次に、日本人が被依頼者の立場で最も負担に感じる依頼内容は、依頼者の立場と同様に10,000円を貸す場面で75.5%だった。一方、30分程度のアンケートの回答を依頼された場面は21.7%であった。このことから、日本人は依頼者の立場でも被依頼者の立場でも、最も負担だと感じる依頼内容は10,000円の貸借であった。また、10,000円の金銭貸借の場合、依頼するときの方が依頼されるときより心理的負担が高いのに対して、30分の時間の提供の場合、依頼するときよりも依頼される時の心理的負担が高い傾向が明らかになった。

#### 4.3.2. サウジアラビア人が感じる負担度

##### 4.3.2.1. サウジアラビア人が金銭貸借・時間の提供の依頼をする場合

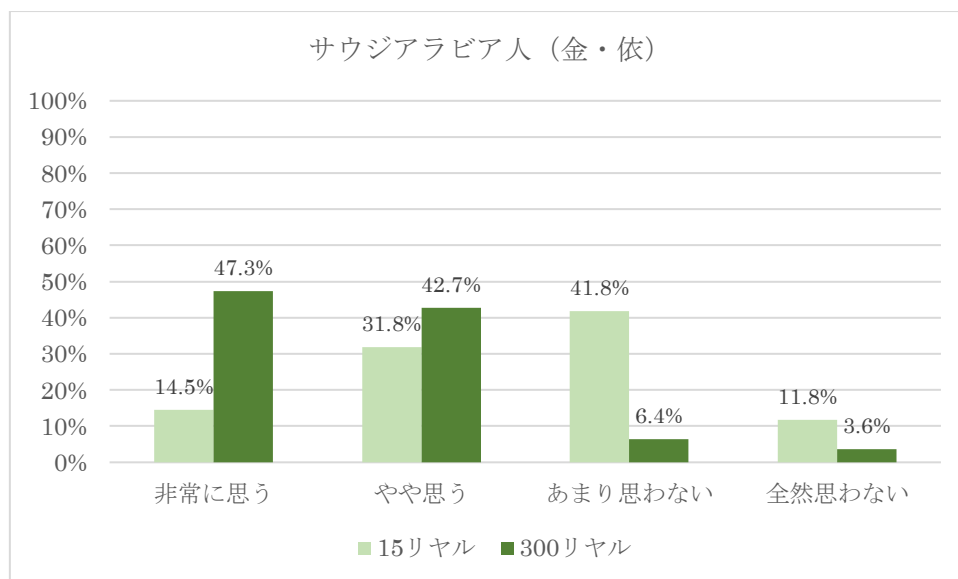


図 4-6 サウジアラビア人の金銭貸借の負担度（依頼する側）

まず、金銭貸借の負担度の結果について紹介する。サウジアラビア人が親友に金銭を借りる場合、被調査者自身を感じる負担度の結果を図 4-6 に示した。親友に 15 リヤル（500 円）を借りる場面に、負担だと「あまり思わない」と回答したサウジアラビア人が最も多く 41.8%であった。次に「やや思う」と回答した人は 31.8%であった。一方、親友に 300 リヤル（10,000 円）を借りる場面に負担だと「非常に思う」と回答した人は 47.3%で最も多かった。同場面で「やや思う」と回答した人も 42.7%だった。

このように、サウジアラビア人は親友に 10,000 円を借りる場合、明らかに負担を感じているということが分かるが、500 円を借りる場合、負担に「思う」と「思わない」の割合がほぼ半々（46.3%と 52.6%）に分かれていた。

次に、時間の提供の負担度の結果について紹介する。

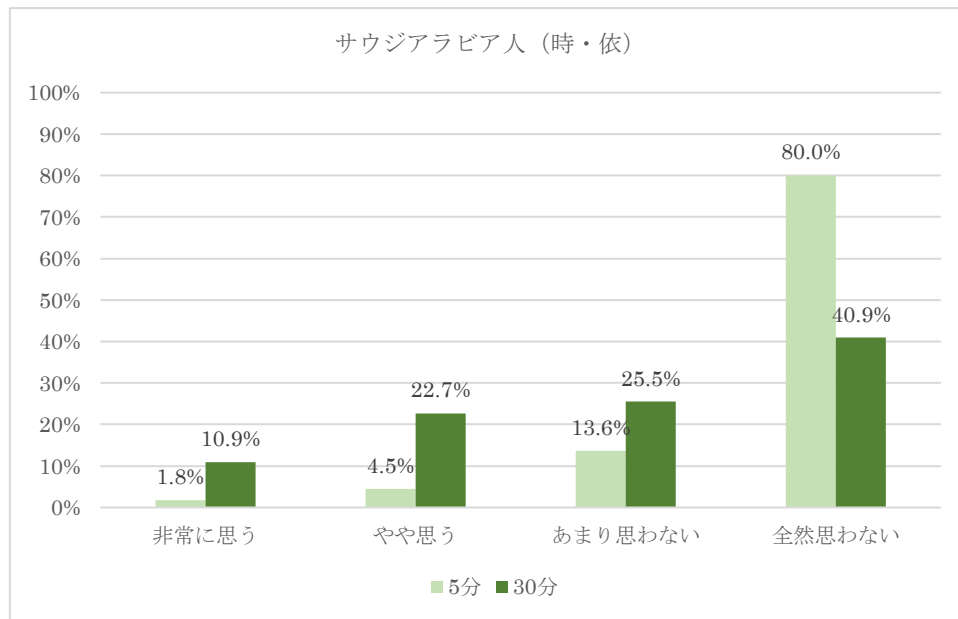


図 4-7 サウジアラビア人の時間の提供の負担度（依頼する側）

サウジアラビア人が親友に時間のかかる時間の提供の依頼をする場合、被調査者自身が感じる心理的負担の結果を図 4-7 に示した。親友に 5 分程度のアンケートに答えてもらう場面に、負担だと「全然思わない」と回答したサウジアラビア人は 80%と最も多く、「あまり思わない」と回答した人は 13.6%であった。

一方、親友に 30 分程度のアンケートに答えてもらう場面に負担だと「全然思わない」と回答した人は 40.9%だったが、「あまり思わない」と回答した人は 25.5%であり、「やや思う」と回答した人は 22.7%であった。

つまり 5 分程度のアンケートの場合は「全然思わない」の割合が圧倒的に多く、サウジアラビア人はこの場面を「負担に思わない」と思われる。30 分程度のアンケートの場合は、「負担に思わない」という傾向が強いものの、非常にまたはやや「負担に思う」と答えている人も約 33%いることが分かる。

図 4-6 と図 4-7 から、サウジアラビア人が親友に金銭及び時間のかかる時間の提供の依頼をする際、依頼内容の負担度が大きくなると、それに比例して心理的負担をより強く感じるという予想通りの結果となった。ただ、金銭の場面では時間の提供よりも「非常に思う」と「やや思う」

の割合が多く、このことは特に 10,000 円を借りる依頼に強く表れる傾向があった。

#### 4.3.2.2. サウジアラビア人が金銭貸借・時間の提供の依頼を受ける場合

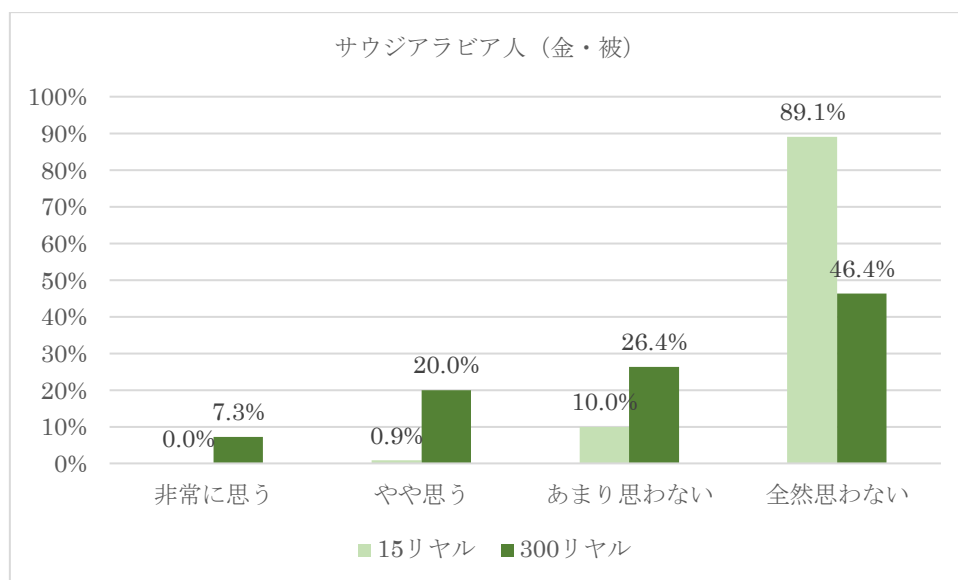


図 4-8 サウジアラビア人の金銭貸借の負担度 (依頼を受ける側)

まず、金銭貸借の負担度の結果について紹介する。サウジアラビア人が親友から金銭の借入を依頼される場合、被調査者自身が感じる心理的負担の結果を図 4-8 に示した。

親友に 15 リヤル (500 円) を貸す場面で、負担に「全然思わない」と回答した人は 89.1%と最も多かった。一方、300 リヤル (10,000 円) を貸す場面に負担に「全然思わない」と回答した人は 46.4%だった。同場面に「あまり思わない」と回答した人は 26.4%であり、「やや思う」と回答した人は 20%であった。両場面ともにサウジアラビア人は負担に「全然思わない」と回答した人が最も多く、サウジアラビア人は金銭を貸すことにあまり負担を感じない傾向があると言えるだろう。

次に、時間の提供の負担度の結果について紹介する。

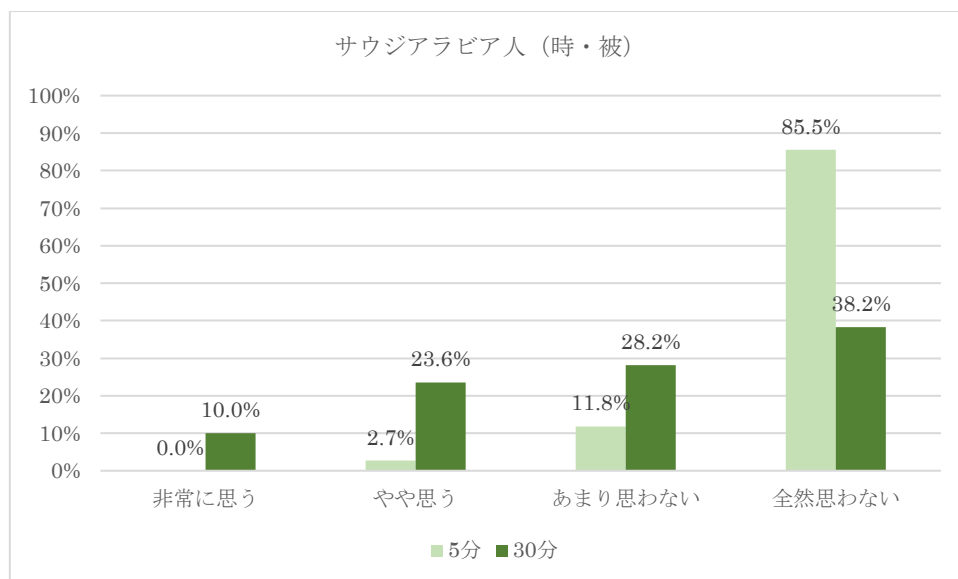


図 4-9 サウジアラビア人の時間の提供の負担度（依頼を受ける側）

サウジアラビア人が親友から時間のかかる時間の提供を依頼された場合、被調査者自身が感じる心理的負担の結果を図 4-9 に示した。親友に 5 分程度のアンケートを依頼される場面に、負担を「全然思わない」と回答した人は、最も多く 85.5%であった。一方、30 分程度のアンケートを依頼される場面に、負担を「全然思わない」と回答した人は 38.2%だった。同場面で「あまり思わない」と回答した人は 28.2%であり、全然、あるいはあまり「思わない」としている人は 66.4%である。両場面ともサウジアラビア人は負担を「全然感じない」と回答した人が最も多く、アンケートを依頼される場面には、あまり負担を感じない傾向があると思われる。

サウジアラビア人が親友に金銭及び時間のかかる時間の提供の依頼をされる際、依頼内容の負担度が大きくなると、それに比例して心理的負担をより強く感じるという予想通りの結果となった。

ただ、金銭及び時間提供の依頼の負担度を比べると、負担度が小さい場面では、ほぼ同様の結果になっているが、負担度が大きい場面において、金銭貸借の「全然思わない」と「あまり思わない」の割合(72.8%)は、時間提供の場面の「全然思わない」と「あまり思わない」の割合(66.4%)より若干多かった。



#### 4.3.2.3. サウジアラビア人の最大負担（依・被）

本研究で取り上げた場面の中で最も負担に感じる場面について、サウジアラビア人にアンケートで回答を求めた結果、次の図 4-10 のようになった。尚、アンケートでは依頼者及び被依頼者の両方の立場の回答を求めた。

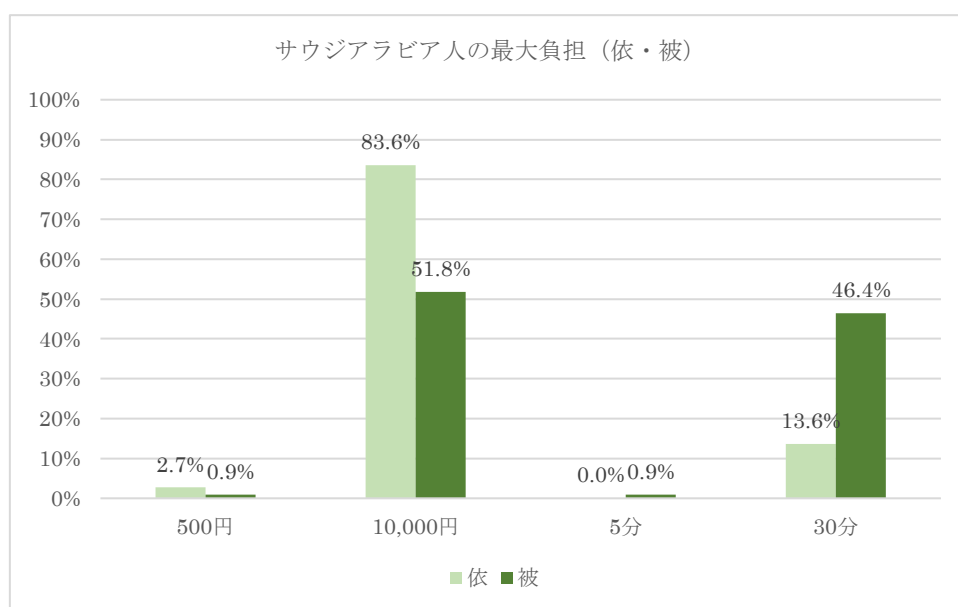


図 4-10 サウジアラビア人の最大負担（両立場の比較）

サウジアラビア人は親友に依頼をする際、「10,000 円を借りる場面」が一番大きい負担度だと回答した人が最も多く 83.6%だった。サウジアラビア人は時間に関わる依頼をするより、金銭に関わる依頼をするほうが大きい負担とを感じるようである。

サウジアラビア人は親友に依頼をされる際に、「10,000 円を貸す場面」が一番大きい負担だと感じ、その割合は 51.8%だった。二番目は 30 分程度のアンケートに答えてもらうように依頼される場面で、その割合は 46.4%だった。サウジアラビア人は依頼時と被依頼時では、負担度が違うということが分かる。被依頼者の立場では、金銭と時間の負担度が 51.8%と 46.4%とほぼ同程度であることが分かる。このことから、サウジアラビア人は 10,000 円を貸してくれるように依頼をされる場面と 30 分かかる時間の提供を依頼される場面を感じる負担度がほぼ変わらないと考えられるだろう。

### 4.3.3. 日・サ被調査者間の負担度の比較

本節では上述の 4.3.1. と 4.3.2. の結果から、被調査者間で心理的負担の回答を比較し、その違いについて分析をおこなう。

#### 4.3.3.1. 金銭貸借(15 リヤル／500 円)を依頼する・される場面

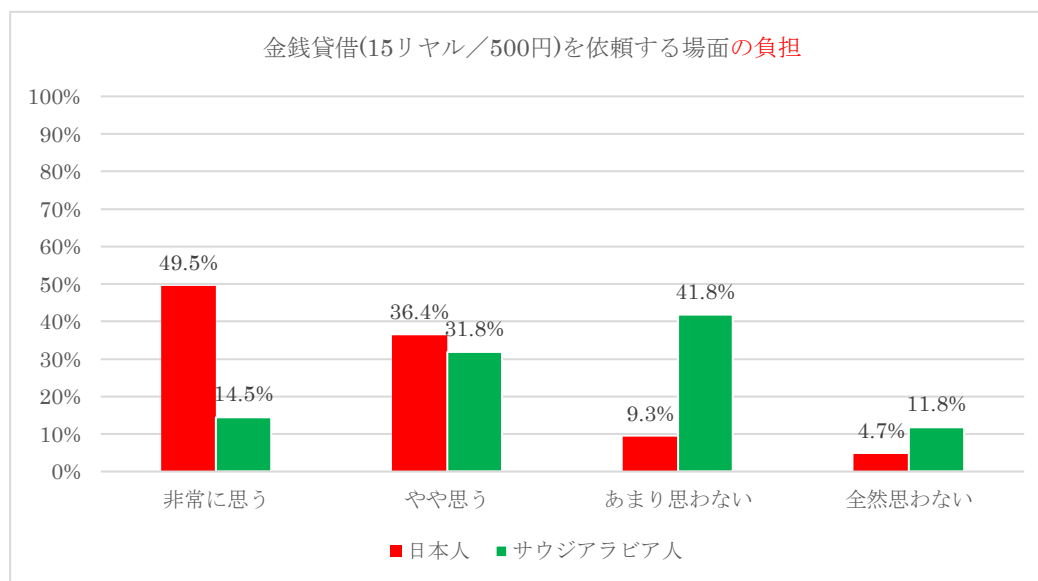


図 4-11 金銭貸借(15 リヤル／500 円)依頼場面 (依頼する側)

図 4-11 に提示したように、親友に 15 リヤル／500 円を依頼する依頼場面で、両母語話者が感じる心理的負担に差があることが分かる。このような、負担度の小さい依頼場面であっても、「非常に思う」と答えた日本人が 49.5%いた一方で、「非常に思う」と答えたサウジアラビア人は 14.5%だった。このデータの比較から、サウジアラビア人は日本人と比べると、親友に 500 円を借りる時の負担度が低いということが分かる。ここで注目したいのは「あまり思わない」と答えたサウジアラビア人が 41.8%いたことである。この割合は「非常に思う」と答えた日本人とほぼ同じである。次に同場面において、依頼される場合の比較をする。

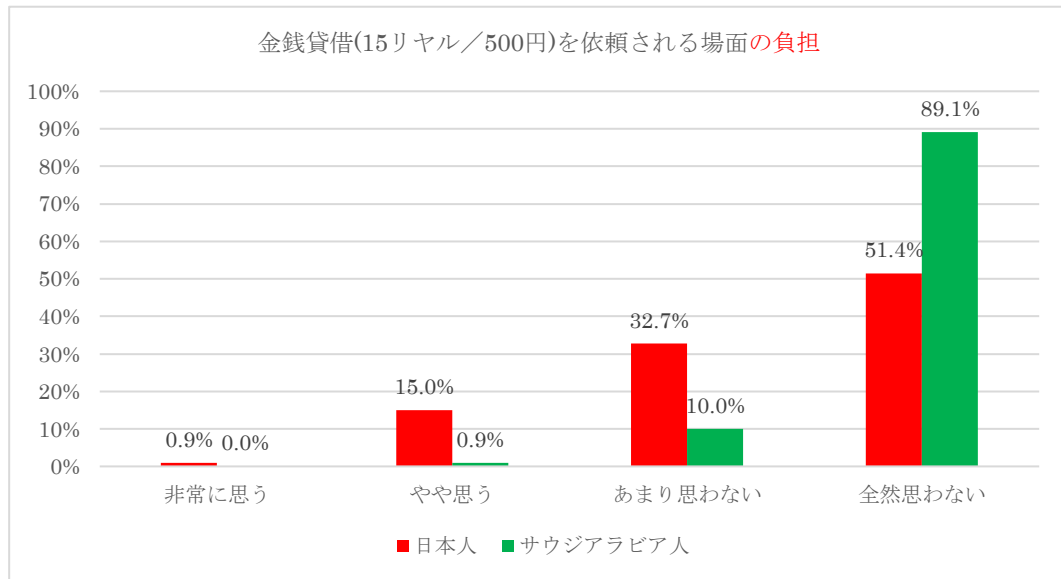


図 4-12 金銭貸借(15 リヤル／500 円)依頼場面 (依頼される側)

図 4-12 に示したように、親友に 15 リヤル／500 円を依頼される依頼場面で、日本人の過半数を超える 51.4%が負担だと「全然思わない」と答えており、「あまり思わない」と答えている人は 32.7%いた。サウジアラビア人は「全然思わない」のみを選択している人は 89.1%おり、「あまり思わない」も加えると 90%ほどの人が負担に思わない傾向があると言える。このようにサウジアラビア人は日本人と比較すると、親友に 15 リヤルを貸す場面において、ほとんど負担には感じない傾向が強いことが分かった。

#### 4.3.3.2. 金銭貸借(300 リヤル／10,000 円)を依頼する・される場面

図 4-13 に示したように、親友に 300 リヤル／10,000 円を依頼する依頼場面で、日本人が負担に「非常に思う」と答えている人は 87.9%であり、負担度が非常に高いと感じているということが分かった。サウジアラビア人は負担に「非常に思う」と答えている人は 47.3%であり、「やや思う」と答えている人は 42.7%である。被調査者は負担に「思う」というところで共通しているが、サウジアラビア人と比較すると、日本人のほうが負担に「思う」傾向が強いということが分かった。

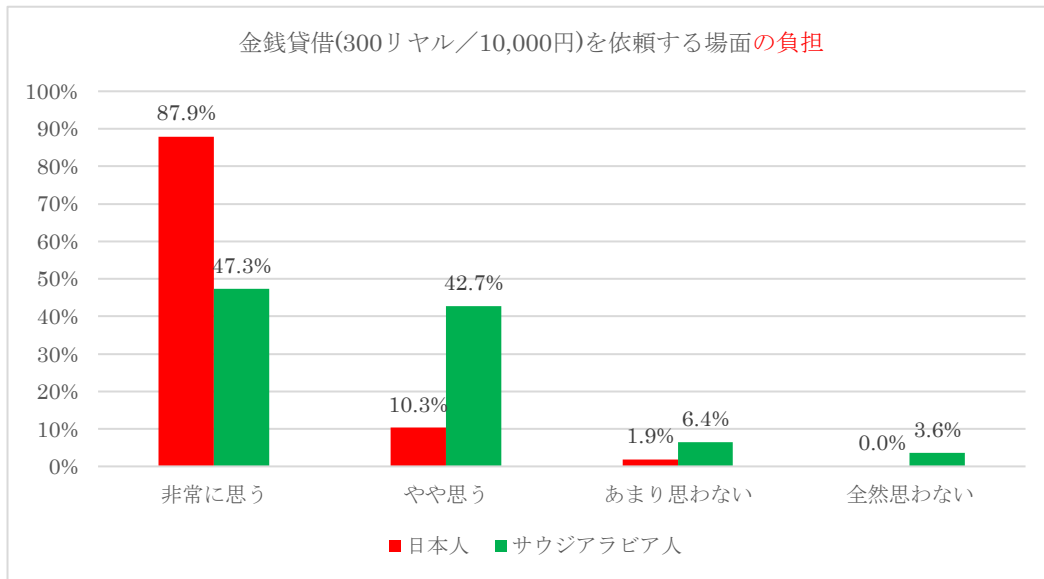


図 4-13 金銭貸借(300 リヤル/10,000 円)依頼場面 (依頼する側)

次に同場面において、依頼される場合の比較をする。

図 4-14 に提示したように、親友に 300 リヤル/10,000 円を依頼される場面で、両母語話者が感じる心理的負担に差があることがわかる。親友に 10,000 円を貸す場面に、負担に「非常に思う」と答えた日本人は 47.7%であり、サウジアラビア人は 7.3%であった。また、負担に「全然思わない」と答えた日本人は 10.3%で、サウジアラビア人は 46.6%だった。10,000 円程度の金銭を親友に貸す時に、日本人とサウジアラビア人は真逆の結果になっている。このような場面を通して、両者が感じる負担度はかなり異なっていると理解できるだろう。

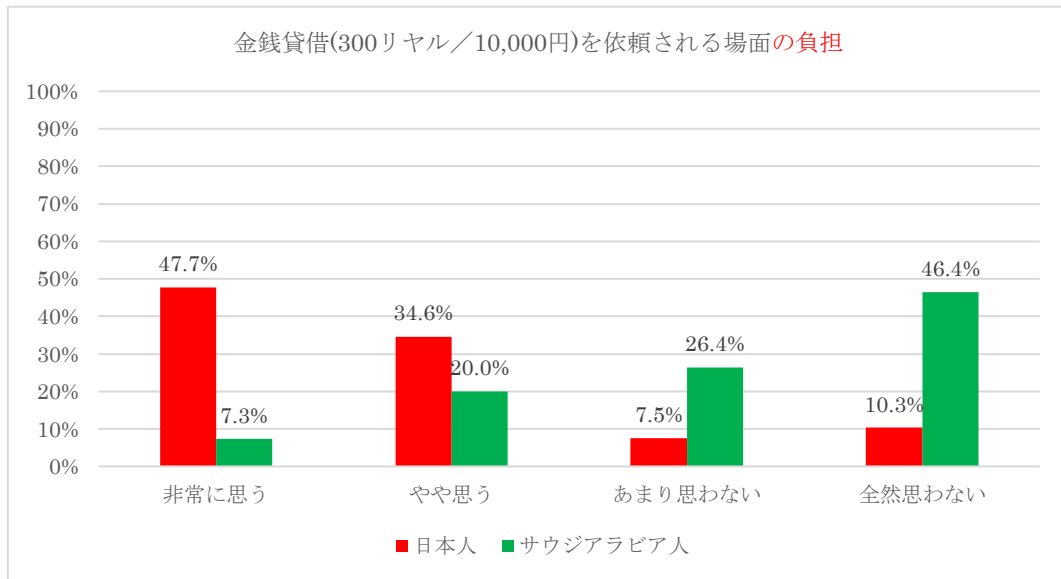


図 4-14 金銭貸借(300 リヤル／10,000 円)依頼場面 (依頼される側)

#### 4.3.3.3. 時間の提供(5分)を依頼する・される場面

図 4-15 に示したように、親友に 5 分程度のアンケートを依頼する場面で、日本人は負担に非常に・やや「思う」と回答している人は 51.4%であり、負担にあまり・全然「思わない」と回答している人は 48.6%であった。一方、サウジアラビア人は負担に「全然思わない」と答えている人が圧倒的に多く、80%であった。サウジアラビア人は親友に 5 分程度のアンケートを依頼する時に、負担だと「全然思わない」という傾向が強い反面、日本人の場合は個人によって判断が異なるように見える。

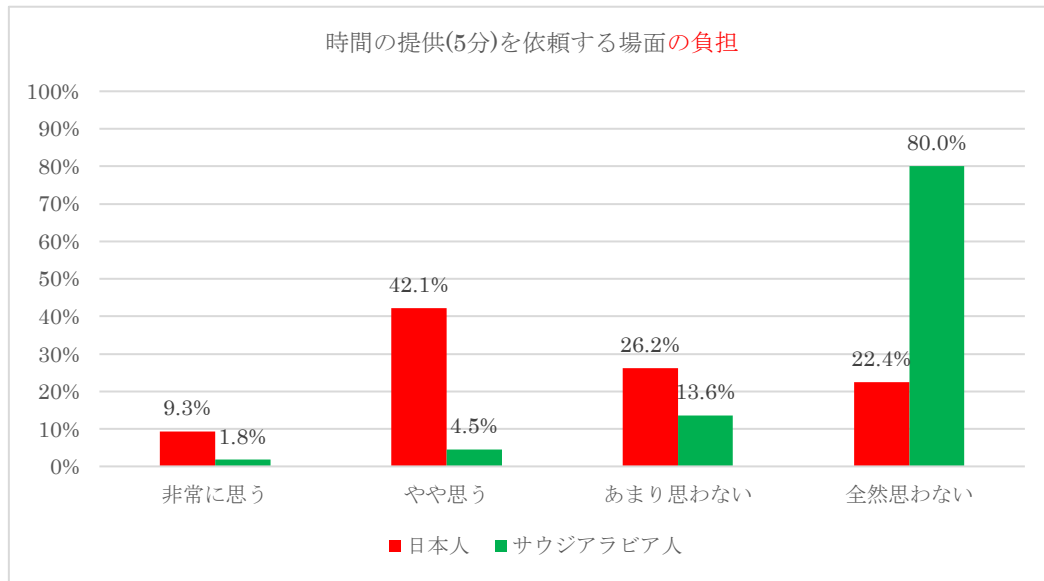


図 4-15 時間の提供(5分)を依頼する場面

次に同場面において、依頼される場合の比較をする。

図 4-16 に示したように、親友に 5 分程度のアンケートを依頼される場面で、日本人は負担に「全然思わない」と答えている人が 72%であり、「あまり思わない」と答えている人が 18.7%であった。日本人はこの場面で依頼をする時と比べると、依頼を受ける時の方が、負担に「思わない」傾向があることが分かる。一方、サウジアラビア人はこの場面に負担に「全然思わない」と答えている人は 85.5%だった。サウジアラビア人は日本人と比較すると、依頼者の立場でも被依頼者の立場でも、負担に「全然思わない」傾向が強いということが分かった。

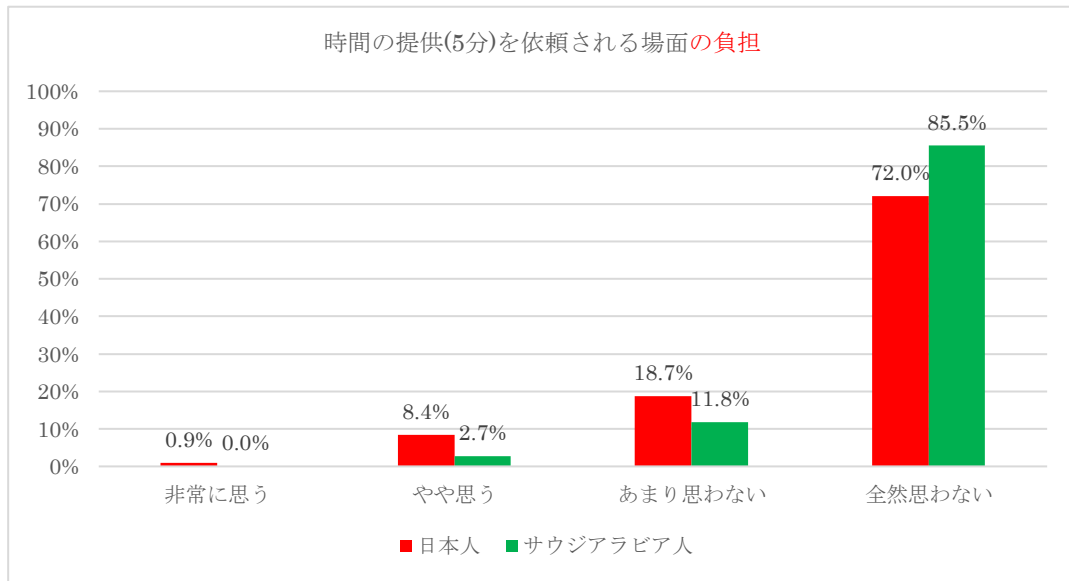


図 4-16 時間の提供(5分)を依頼される場面

#### 4.3.3.4 時間の提供(30分)を依頼する・される場面

図 4-17 に提示したように、親友に 30 分かかる時間の提供の依頼をする場面で、被調査者が感じる心理的負担に差があることが明らかになった。依頼者の立場で 30 分程度のアンケートに答えてもらう依頼内容を負担に「非常に思う」と答えた日本人は 48.6%で、サウジアラビア人は 10.9%だった。また、負担に「全然思わない」と答えた日本人は 5.6%で、サウジアラビア人は 40.9%であった。この結果から、日本人とサウジアラビア人が親友に 30 分程度のアンケートに答えてもらうように依頼する場面で感じる心理的負担が真逆になっていることが分かった。

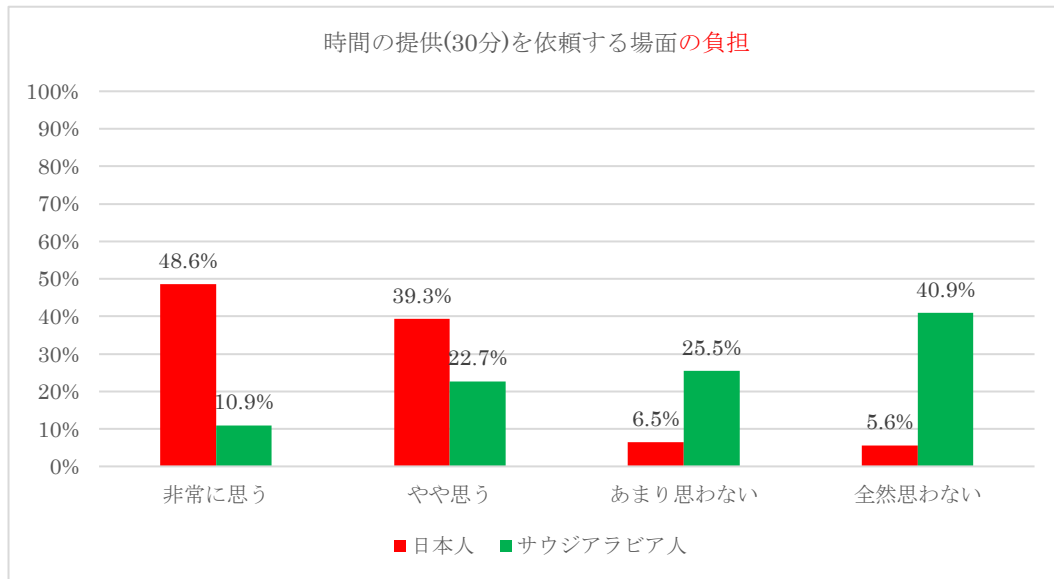


図 4-17 時間の提供(30分)を依頼する場面

次に同場面において、依頼される場合の比較をする。

図 4-18 に提示したように、親友から 30 分かかる時間の提供の依頼をされる場面で、被調査者が感じる心理的負担に差があることが明らかになった。日本人は 30 分程度のアンケートに答えてもらうように頼まれる場面に、負担に「非常に思う」と回答した人が 17.8%であり、負担に「やや思う」と回答した人が 43.9%であった。一方、サウジアラビア人は「全然思わない」と回答した人が 38.2%であり、「あまり思わない」と回答した人が 28.2%であった。日本人は 30 分の時間の提供を負担に感じる傾向がある反面、サウジアラビア人は負担に感じない傾向があることが分かった。



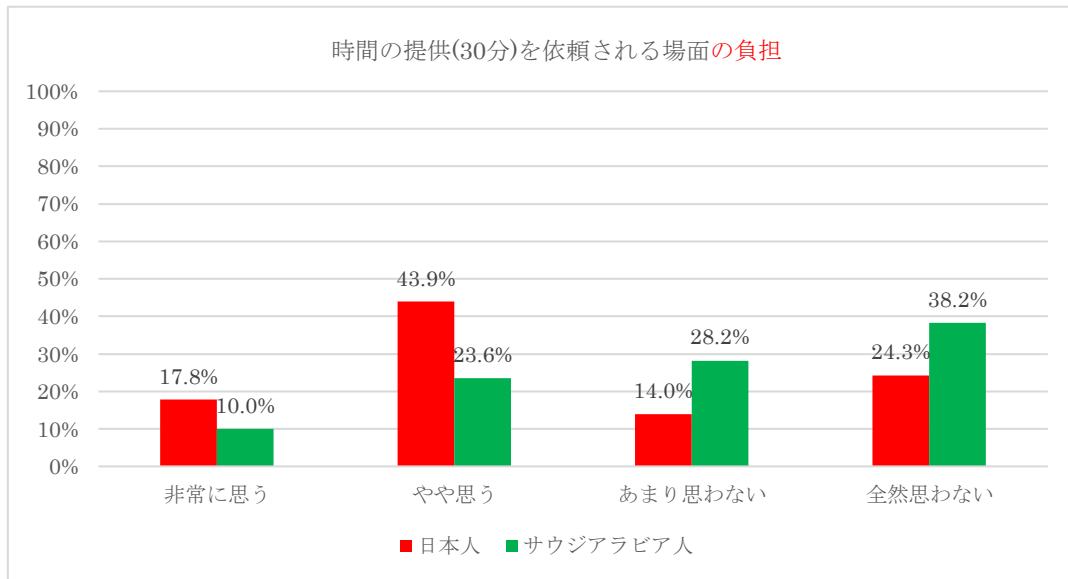


図 4-18 時間の提供(30分)を依頼される場面

#### 4.3.3.5. 日・サ被調査者が依頼時・被依頼時に最も負担を感じる場面

図 4-19 に提示したように、日・サ被調査者は依頼者の立場で最も心理的負担を感じる依頼内容は親友に「300 リヤル/10,000 円を借りる依頼場面」だということが分かる。

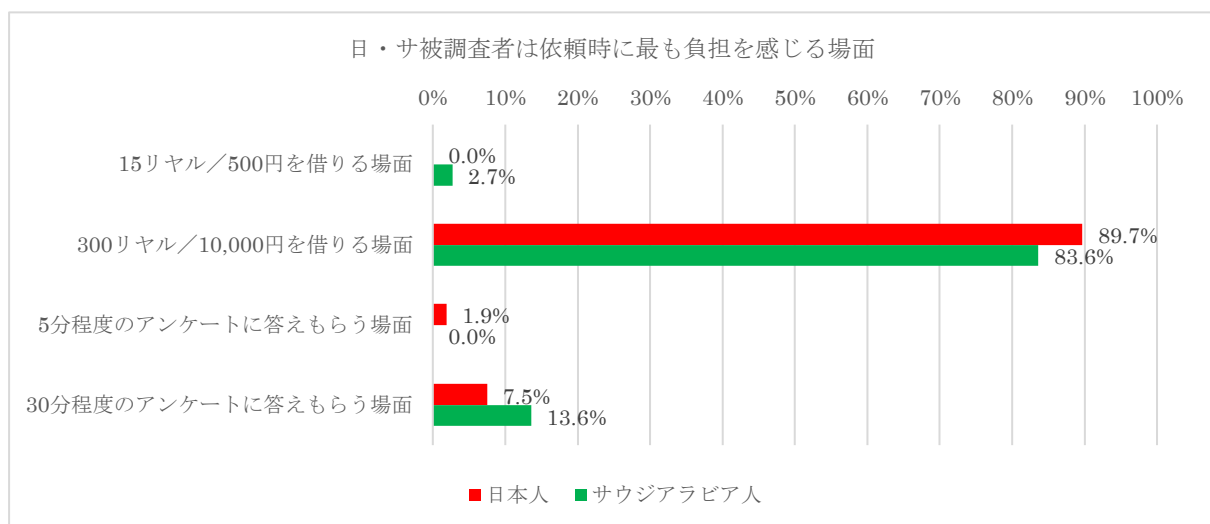


図 4-19 日・サ被調査者が依頼時に最も負担を感じる場面

次に、日・サ被調査者が依頼をされる時に最も負担を感じる場面を提示する。

図 4-20 に提示したように、日・サ被調査者は依頼者の立場と同様に、被依頼者の立場でも「親友に 300 リヤル／10,000 円を貸す依頼場面」を最も負担に感じていることが分かる。

しかしながら、「親友に 30 分程度のアンケートに答えてもらうように依頼される場面」を最も心理的負担に感じると答えたサウジアラビア人は 46.4%もいたのに対して、日本人は 21.7%であった。日本人は依頼をされる時に「親友に 10,000 円を貸す依頼場面」が圧倒的に多いが、サウジアラビア人は親友に「300 リヤルを貸す依頼場面」と「親友に 30 分程度のアンケートに答えてもらうように依頼される場面」の割合の差が大きくない。サウジアラビア人にとって、負担度が大きければ、金銭貸借と時間の提供はほぼ同程度のものだと感じていると思われる。この点は日本人とサウジアラビア人と依頼内容に関わる文化的な違いと言えるだろう。

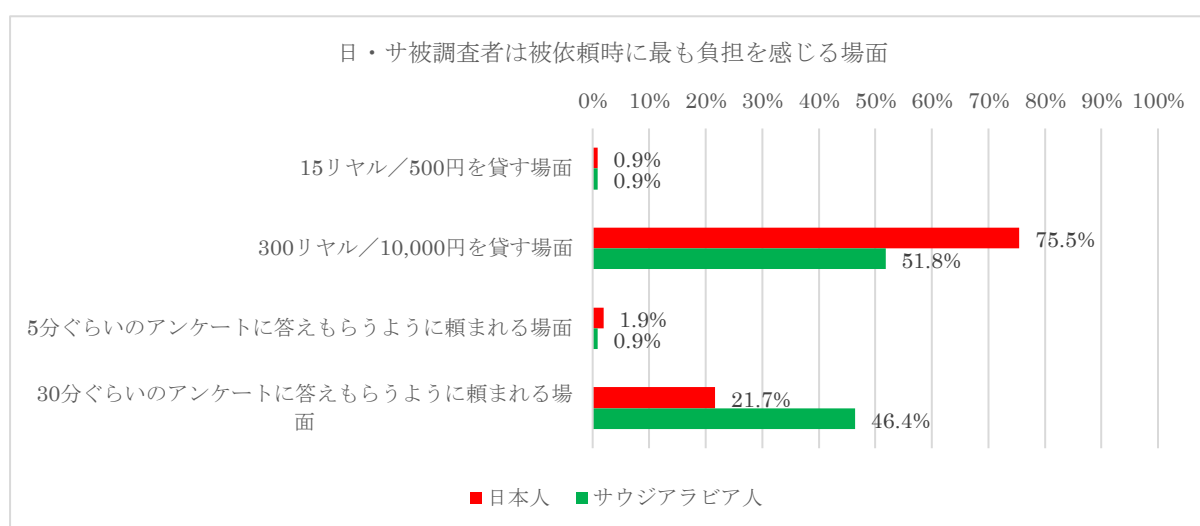


図 4-20 日・サ被調査者が被依頼時に最も負担を感じる場面

被依頼者の場合、日本人は被依頼者の立場でも依頼者の場合と同様に、親友に 10,000 円を貸す場面が最も大きい負担だと答えている。これは 2 章で述べたように、日本人は負担度が大きければ、親友からの依頼でも否定的に思う傾向があることと、金銭の貸借は非常に大きな負担として捉えているということは明らかになった点は、先行研究（呉 2020 等）と同様の結果になった。

サウジアラビア人は、親友に 300 リヤルを貸す場面と 30 分かかるアンケートを依頼された場

面で、前者が 51.8%で、後者が 46.4%とほぼ半々に分かれている。日本人は依頼したりされたりする際、金銭と時間という要因に対して、負担の意識は明確に分かれているが、サウジアラビア人は依頼される際、時間の要因に関しても、金銭の要因に関してもほぼ同様の負担の意識を抱えると思われる。第 3 章の 3.4. で述べたモーメン（2021：20-21）の指摘と類似した結果が本研究でも確認された。

#### 4.4. アンケート結果から得られた「依頼」の発話行為に関わる規範

4.3 で明らかにされたアンケートの結果は、いずれも被調査者が金銭貸借及び時間の提供の依頼をする・される場合の負担度をどのように感じるのか、つまり依頼内容をどのように評価するのかを明らかにするために収集されたものである。そのため、本節では、第 3 章の 3.2. の図 3-3 で示した管理プロセスの「評価」を反映するデータであると捉え、本研究の被調査者が有する金銭貸借と時間のかかる時間の提供の依頼に関する規範を明らかにする。

また、本研究では第 3 章の 3.2.1 で述べた全ての規範は動態性を有しているという考えから、以下で取り上げる規範が場面の負担度や話し手の立場の違いによって、どのように顕在化・潜在化し、またどの程度強く、あるいは弱く意識されるのかについて確認する。

まず、被調査者が有する金銭貸借の依頼に関する規範として、金銭貸借を否定的に捉え、その依頼を負担だと感じる人がいたことから、親友に対して「金銭貸借の依頼を否定的に捉える規範（以後、「金銭貸借依頼否定規範」）」が存在すると言えよう。また、この規範とは対象的に、親友との金銭貸借を肯定的に捉え、その依頼を負担だと感じない人もいたことから、親友に対して「金銭貸借の依頼を肯定的に捉える規範（以後、「金銭貸借依頼肯定規範」）」という 2 つの規範が存在すると考えられる。

次は各場面の依頼内容や被調査者の立場の違いによって、上述の両規範を第 3 章の 3.2.1. の図 3-4 を用いて分析する。

図 4-1（4.3.1.1.）に提示したように、日本人は、負担度が小さい金銭貸借の依頼を親友に行う場合、「非常に思う」と回答した人が 49.5%、負担だと「やや思う」と回答した人が 36.4%、両者の合計が 85.9%いた。そのため、「金銭貸借依頼肯定規範」よりも「金銭貸借依

頼否定規範」の方が強く働いている傾向があると言える。また、規範意識の強弱の観点から分析すると、「非常に思う」人の割合が49.5%だったのに対し、「やや思う」と回答した人は36.4%であったことから、この規範を強く意識する人の方が多かった。

一方、図4-3(4.3.1.2.)に提示したように、日本人被依頼者側は負担度が小さい金銭貸借の依頼を親友にされる場合に、「あまり思わない」と回答した人が32.7%、「全然思わない」と回答した人が51.4%、両者を合計したと回答した人が84.1%いた。日本人の場合、「あまり思わない」と「全然思わない」を選ぶ割合が「非常に思う」や「やや思う」よりも高かったのは場面1の被依頼者の立場のみであった。さらに、後述の10,000円の貸借の依頼場面では依頼者と被依頼者の両立場で「金銭貸借依頼否定規範」が強く顕在化していた。そのため、負担度が小さい金銭貸借の依頼を親友からされる場合は「金銭貸借依頼否定規範」が潜在化し、「金銭貸借依頼肯定規範」が顕在化する傾向があると考えられる。規範意識の強弱の観点から見ると、負担だと「全然思わない」と回答した人が最も多く、51.4%であったことから、被依頼者の立場では同規範を強く意識する傾向が強いのではないかと考えられる。

一方、サウジアラビア人の場合、図4-6(4.3.2.1.)に提示したように、親友への負担度の小さい金銭を依頼する場面では負担だと「あまり思わない」と回答した人が41.8%、負担だと「全然思わない」と回答した人が11.8%で、両者を合計すると53.6%であった。また図4-8(4.3.2.2.)から同場面で親友から少額の金銭を依頼される場面では負担だと「あまり思わない」と回答した人が10%、負担だと「全然思わない」と回答した人が89.1%、両者を合計すると99.1%であった。以上の結果から依頼する場合でも依頼される場合でも、基本的に「金銭貸借依頼肯定規範」がより顕在化する傾向があると考えられる。しかしながら、依頼者と被依頼者の立場では同規範の顕在化の割合に大きな差が見られた。被依頼者の立場では、89.1%が「全然思わない」と答えていることから、同規範を強く意識し、顕在化させる傾向が強いといえるだろう。一方、依頼者の立場では、同規範を顕在化させた人の割合は53.6%であり、反対に「金銭貸借依頼否定規範」を意識していた人の割合が46.4%であったことから、被依頼者の立場のように明確な差が確認されなかった。

次に、負担度が大きい金銭貸借の依頼についての考察を行う。図4-1(4.3.1.1.)に提示した

ように、日本人は負担度が大きい場面における依頼者の立場では負担だと「非常に思う」と回答した人が 87.9%、負担だと「やや思う」と回答した人が 10.3%、両者を合計した負担だと「思う」が 98.1%であった。また図 4-3 (4.3.1.2.) から同場面における被依頼者の立場では負担だと「非常に思う」と回答した人が 47.7%、負担だと「やや思う」と回答した人が 34.6%、両者を合計した負担だと「思う」が 82.3%であった。以上の結果から両立場で負担だと「思う」と回答した人の割合が 80%を超えていたことから、「金銭貸借依頼否定規範」を顕在化させる傾向が強いと言えよう。規範意識の強弱の観点から分析すると、依頼者の立場でも最も多かった回答は「非常に思う」の 87.9%であったことから同規範を強く意識する傾向が極めて高いと言えよう。一方、被依頼者の立場では「非常に思う」が 47.7%で、「やや思う」が 34.6%であったことから、同規範を強く意識する人の方が弱く意識する人よりも若干多かった。

サウジアラビア人の場合、図 4-6 (4.3.2.1.) で提示したように、依頼者の立場では負担だと「非常に思う」と回答した人が 47.3%、負担だと「やや思う」と回答した人が 42.7%、両者を合計した負担だと「思う」と回答した人の割合が 90%を超えていたことから、日本人と同様に負担度が大きい金銭貸借の依頼をする際に「金銭貸借依頼否定規範」を顕在化させる傾向があると言えるだろう。このような結果に対して被依頼者の立場では、負担だと「あまり思わない」と回答した人が 26.4%、負担だと「全然思わない」と回答した人が 46.4%、両者の合計が 72.8%であることが図 4-8 (4.3.2.2.) から分かる。したがって、被依頼者の立場では「金銭貸借依頼肯定規範」を顕在化させる傾向の方が強いと言えよう。また、規範意識の強弱の観点から分析すると、「全然思わない」と回答した人が負担だと「あまり思わない」と回答した人より多かったことから、サウジアラビア人の場合、肯定規範がより強く意識されているものと思われる。

場面 1 と場面 2 の結果から、日・サ被調査者の金銭貸借に関する規範の相違点として、以下のことが明らかになった。

親友へ負担度の小さい金銭 (500 円 / 15 リヤル) を依頼する場面では、日・サ被調査者ともに「金銭貸借依頼否定規範」を顕在化させる傾向が見られたが、日本人の方がこの規範を強く

意識する傾向が見られた。

また、日・サ被調査者ともに親友から負担度の小さい金銭（500 円／15 リヤル）を依頼された場面では、「金銭貸借依頼肯定規範」を強く顕在化させる傾向が見られたことから、日・サ被調査者ともに 500 円／15 リヤル程度の金銭貸借であれば、問題なく依頼を受け入れると考えられる。

しかしながら、親友へ負担度の大きい金銭（1,000 円／300 リヤル）を依頼する場面で、日・サ被調査者が被依頼者の立場になると両者に差が見られた。

場面 1 と同様に場面 2 でも、依頼者の立場では日・サ被調査者ともに「金銭貸借依頼否定規範」を顕在化させる傾向がみられただけでなく、この規範を強く意識する点でも共通していた。

しかしながら被依頼者の立場では、日本人は「金銭貸借依頼否定規範」を強く顕在化させる傾向が極めて強い一方、サウジアラビア人は「金銭貸借依頼肯定規範」を顕在化させる傾向が見られた。この結果からサウジアラビア人は親友に 15 リヤル程度だけでなく、300 リヤル程度の金銭を貸すことも受け入れるが、日本人は親友に 500 円程度を貸すことはできても、1,000 円を貸すことには抵抗があるという日・サ被調査者間の差が明らかになった。

次は日・サ被調査者の時間のかかる労力提供場面において、親友からの依頼に関わる規範を考察する。金銭貸借に関する規範と同様に、「面倒な時間の提供の依頼を否定的に捉える規範（以後、「時間提供依頼否定規範」）」と「親友からの依頼なら面倒な時間の提供の依頼でも肯定的に捉える規範（以後、「時間提供依頼肯定規範」）」という 2 つの大きな規範が想定される。

図 4-2（4.3.1.1.）に提示したように、日本人は負担度が小さい時間の提供の依頼を親友に対してする場合、負担だと「非常に思う」と回答した人は 9.3%と少ないが、負担だと「やや思う」と回答した人が 39.3%おり、両者を合計すると 51.4%であった。僅かではあるが過半数を超えていたので「時間提供依頼否定規範」を顕在化する傾向が若干大きかった。規範意識の強弱の観点から分析すると、最も回答者が多かったのは「やや思う」の 47.3%であったことから同規範を弱く適用させる傾向があると言えるだろう。

一方、図 4-4 (4.3.1.2.) から被依頼者の立場では負担だと「あまり思わない」と回答した人が 18.7%、負担だと「全然思わない」と回答した人が 72%、両者を合計した 90.7%であったことから、「時間提供依頼肯定規範」が顕在化する傾向が見られた。規範意識の強弱の観点から分析すると、最も回答者が多かったのは「全然思わない」の 72%であったことから、同規範を強く意識している傾向があるということが言えるであろう。

また図 4-7 (4.3.2.1.) で示したように、サウジアラビア人が依頼者の立場に置かれた場合、負担度の小さい時間の提供について負担だと「あまり思わない」と回答した人が 13.6%、負担だと「全然思わない」と回答した人が 80%、両者を合計した割合は 93.6%であった。更に図 4-9 (4.3.2.2.) から同場面における被依頼者の立場では、負担だと「あまり思わない」と回答した人が 11.8%、負担だと「全然思わない」と回答した人が 85.5%、両者を合計した割合は 97.3%であった。以上の結果から両立場で「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させる傾向があることがわかる。更に、両立場で負担だと「全然思わない」と回答した人の割合が 80%を超えていたことから、サウジアラビア人は、親友からの負担の小さい時間の提供依頼に、この規範を強く顕在化させる傾向があると考えられる。

次に、負担度が大きい時間の提供の依頼についての考察を行う。図 4-2 (4.3.1.1.) から日本人は負担度が大きい時間の提供の依頼をする場合、負担だと「非常に思う」と回答した人が 48.6%、負担だと「やや思う」と回答した人が 39.3%、両者を合計した負担だと「思う」が 87.9%であった。また図 4-4 (4.3.1.2.) から同場面における被依頼者の立場では負担だと「非常に思う」と回答した人が 17.8%、負担だと「やや思う」と回答した人が 43.9%で、両者を合計した負担だと「思う」が 61.7%であった。このことから、日本人は負担度が大きい依頼では、依頼する場合でもされる場合でも「時間提供依頼否定規範」をより強く顕在化させる傾向があると言えよう。しかし、規範意識の強弱の観点から分析すると、依頼者の立場では「やや思う」よりも「非常に思う」を選ぶ人が多かったが、被依頼者の立場では「やや思う」を「非常に思う」より選ぶ人が多かった。したがって、依頼者の立場では同規範を強く顕在化させる傾向が強いが、被依頼者の立場では同規範がやや弱く意識化させる傾向があることがわかる。

最後に図 4-7 (4.3.2.1.) からサウジアラビア人は負担度が大きい時間の提供の依頼をする場

合、負担だと「あまり思わない」と回答した人が 25.5%、負担だと「全然思わない」と回答した人が 40.9%で、両者の合計が 66.4%であった。また図 4-9 (4.3.2.2.) から同場面における被依頼者の立場では負担だと「あまり思わない」と回答した人が 28.2%、負担だと「全然思わない」と回答した人が 38.2%、両者の合計が 66.4%であった。このことから、サウジアラビア人は「時間提供依頼肯定規範」をより顕在化させる傾向があることがわかった。規範意識の強弱の観点から分析すると、依頼者の立場では「あまり思わない」よりも「全然思わない」を選択した人が多く、被依頼者の立場でも同様に「あまり思わない」より「全然思わない」を選ぶ人が多かった。そのことから、両立場で「時間提供依頼肯定規範」を強く意識化させる傾向があることが分かった。

#### 4.5. まとめ

ここではまず日本人が依頼する立場で感じる各依頼内容の負担度を述べ、次に日本人が依頼される立場の負担度を、その次にサウジアラビア人が依頼する立場の負担度を、そして最後にサウジアラビア人が依頼される立場の負担度をそれぞれまとめる。

日本人は金銭を依頼する場面で、負担度が小さい 500 円の場面でも、10,000 円の大きい場面でも「金銭貸借依頼否定規範」を強く顕在化させる傾向が見られた。規範意識の強弱に関しては、依頼する金銭の負担度が大きくなると、9割近くの日本人が同規範をより強く意識化する傾向が確認された。

時間の提供に関わる依頼をする場面では、負担度が小さい 5 分のアンケートと負担度の大きい 30 分のアンケートの両依頼内容で「時間提供依頼否定規範」を顕在化する人が過半数を超えていた。規範意識の強弱に関しては、依頼の負担度が増加すると規範を強く意識化する人が多くなるという想定通りの結果が見られた。

一方、被依頼者の場合では、500 円を借りる場面において、負担だと「全然思わない」と回答した人のほうが多いが、10,000 円を貸す場面においては、負担だと「非常に思う」と回答した人のほうが多く、正反対になっていることが分かる。

時間の提供に関わる依頼をされる場面において、5 分のアンケートの場合、負担だと「全然思



わない」と回答した人のほうが多く、30分のアンケートの場合、負担だと「やや思う」と回答した人のほうが多かった。日本人は時間に関わる依頼の場面と比べると、金銭に関わる依頼の場面のほうがより負担に感じるということが言えるだろう。

次に、サウジアラビア人は依頼者の場合、15リヤルを借りる場面において、負担だと「あまり思わない」と回答した人のほうが多かった。300リヤルを借りる場面において、負担だと「非常に思う」が多かった。時間に関わる依頼をする場面において、負担だと「全然思わない」と回答した人のほうが多い。

また、被依頼者の場合、金銭を貸す場面において、負担だと「全然思わない」と回答した人のほうが多かった。時間に関わる依頼をされた場面においても、金銭を貸す場面と同様に、負担だと「全然思わない」と答えた者のほうが多かった。サウジアラビア人は被依頼者の場合、金銭と時間という要因が異なっても感じる負担度はほぼ変わらないということが分かる。

日本人とサウジアラビア人は依頼者の場合、親友に10,000円を借りる場面が一番大きな負担と感じていることで共通している。一方、依頼をされる場面では被調査者の相違点が表れた。呉（2020）が指摘したように、日本人は金銭を貸す依頼場面を負担に感じていたが、サウジアラビア人は30分かかるアンケートを依頼される場面は10,000円を貸す場面とほぼ同様に負担度に高かった。

アンケートで収集したデータから、「金銭貸借依頼否定規範」、「金銭貸借依頼肯定規範」、「時間提供依頼否定規範」、「時間提供依頼肯定規範」を日本人及びサウジアラビア人が有していることが想定できる。

日本人が親友からの依頼を肯定的に評価する規範を顕在化させる傾向が高かったのは、場面1で「金銭貸借依頼肯定規範」を、場面3で「時間提供依頼肯定規範」を被依頼者の立場で顕在化させていたときだけであった。他の場面と立場では、依頼を否定的に評価する規範を顕在化させる傾向が強かった。一方、サウジアラビア人の場合、依頼を肯定的に評価する規範を日本人よりも多くの場面で顕在化させる傾向があった。具体的には、場面1と2で被依頼者の立場に置かれた場合に「金銭貸借依頼肯定規範」を、場面3の依頼者と被依頼者の両立場で「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させる傾向が強かった。

以上の結果から日・サ被調査者が「金銭貸借依頼否定規範」「金銭貸借依頼肯定規範」「時間提供依頼否定規範」「時間提供依頼肯定規範」を場面や立場の違いによって、どのような規範を選択するのかという傾向と彼らが最も選んだ選択肢をまとめると次の表 4-5 と表 4-6 のようになった。なお、以下の表 4-5 と表 4-6 の規範の傾向は「非常に思う」と「やや思う」の合計と、「あまり思わない」と「全然思わない」の合計を比べ、50%を超えた方をその場面の規範の傾向とした。

表 4-8 各場面における日本人の規範傾向及び最も選ばれた選択肢

場面 負担度	立場	規範の傾向	評価			
			思う		思わない	
			非常に 思う	やや 思う	あまり 思わな い	全然 思わな い
金銭貸 借・小	依頼者	「金銭貸借依頼否定規範」	49.5%	36.4%	9.3%	4.7%
	被依頼者	「金銭貸借依頼肯定規範」	0.9%	15%	32.7%	51.4%
金銭貸 借・大	依頼者	「金銭貸借依頼否定規範」	87.9%	10.3%	1.9%	0%
	被依頼者	「金銭貸借依頼否定規範」	47.7%	34.6%	7.5%	10.3%
時間提 供・小	依頼者	「時間提供依頼否定規範」	9.3%	42.1%	26.2%	22.4%
	被依頼者	「時間提供依頼肯定規範」	0.9%	8.4%	18.7%	72%
時間提 供・大	依頼者	「時間提供依頼否定規範」	48.6%	39.3%	6.5%	5.6%
	被依頼者	「時間提供依頼否定規範」	17.8%	43.9%	14%	24.3%

表 4-9 各場面におけるサウジアラビア人の規範傾向及び最も選ばれた選択肢

場面 負担度	立場	規範の傾向	評価			
			思う		思わない	
			非常	やや	あまり	全然

			に 思う	思う	思わな い	思わな い
金銭貸 借・小	依頼者	「金銭貸借依頼肯定規範」	14.5%	31.8%	41.8%	11.8%
	被依頼者	「金銭貸借依頼肯定規範」	0%	0.9%	10%	89.1%
金銭貸 借・大	依頼者	「金銭貸借依頼否定規範」	47.3%	42.7%	6.4%	3.6%
	被依頼者	「金銭貸借依頼肯定規範」	7.3%	20%	26.4%	46.4%
時間提 供・小	依頼者	「時間提供依頼肯定規範」	1.8%	4.5%	13.6%	80%
	被依頼者	「時間提供依頼肯定規範」	0%	2.7%	11.8%	85.5%
時間提 供・大	依頼者	「時間提供依頼肯定規範」	10.9%	22.7%	25.5%	40.9%
	被依頼者	「時間提供依頼肯定規範」	10%	23.6%	28.2%	38.2%

本節で明らかになった規範は、被調査者の感じる心理的な負担は第3章の図3-3の加藤(2010)の管理プロセスの評価段階に焦点を当てたアンケートデータから明らかになったといえるだろう。しかし、第3章の3.2.言語管理理論で述べたように、規範からの逸脱が留意されたことにより、評価段階まで進んだとしても、その先の調整行動の実行まで本当に進むのか定かではない。そのため、本節で明らかになった規範が実際の談話で、調整行動まで進むのかを明らかにするため、5章では談話完成テスト、6章ではロールプレイを用いて分析する。

## 第 5 章

### 5. DCT による日本人とアラビア語母語話者（サウジアラビア人）の依頼会話

#### 5.1. はじめに

本章ではデータ収集方法としては後述する談話完成テスト（以下 DCT）を、データ分析方法としては意味公式を用いて、日本人とサウジアラビア人の母語場面の依頼を明らかにする。最初に日・サ被調査者が依頼者の立場で使用した意味公式とその使用率を明らかにし、意味公式から依頼に関する規範を同定する。その後、日・サ被調査者が被依頼者の立場で使用した依頼に対する応答を明らかにする。

#### 5.2. 研究方法

##### 5.2.1. 被調査者

本研究では、DCT により回答を収集した。表 21 に示したように、日本人の被調査者は 2020 年 1 月関東圏にある私立 T 大学 47 人（全員 20 代）からデータを得た。サウジアラビア人の被調査者は同年 3 月サウジアラビア国立 K 大学の言語翻訳学部で 53 人からデータを得た。DCT はネット上で行ったが、直接被調査者に QR コードを配り、携帯電話などで QR コードを読み取り、答えてもらった。

表 5-1 被調査者の所属・人数・年齢・性別

被調査者	日本人	サウジアラビア人
方法	談話完成テスト (DCT)	
人数 (年齢)	47 人 (20 代)	53 人 (20 代)
性別	男性	男性
所属	関東圏にある私立 T 大学	サウジアラビア国立 K 大学
期間	2020 年 1 月	2020 年 3 月

### 5.2.2. 談話完成テスト (DCT)

本研究で使用する場面設定は、以下の表 3-2 のとおりである。尚、これは 3 章で述べた場面設定と同様の表である。

表 3-2 本研究におけるロールプレイの場面設定

種類	場面番号と負担度	依頼内容
金銭	場面 1: 負担小	親友に 15 リヤル / 500 円を借りる場面
貸借	場面 2: 負担大	親友に 300 リヤル / 10,000 円を借りる場面
時間	場面 3: 負担小	親友に 5 分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面
提供	場面 4: 負担大	親友に 30 分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面

DCT について趙雪梅 (2013 : 172) は「談話完成テスト (Discourse Completion Test: DCT) とは、調査協力者に予め設定された状況を与え、実際にその状況に置かれた場合、調査協力者ならどのように答えるかを、空欄に書いてもらうものである。」と説明している。

また羽成 (2016 : 120) は、DCT の長所について以下のように述べている。

DCT とは対話の状況が調査紙に印刷されていて、それぞれの状況で被験者が通常すると思われる発話を書いてもらうデータ収集方法である。DCT は自由記述式のアンケートなので、一度に大量のデータを収集できること、変数のコントロールが比較的容易なことなどから中間言語語用論や発話行為の分野でデータを集めるのに広く使われている。(羽成 2016)

以上の先行研究の指摘から、日本語とサウジアラビア人のアラビア語という 2 つの言語における、負担度の異なる「金銭貸借」と「時間提供」の依頼に関わるデータを短期間で一定数収集したかったため、本研究では DCT を用いた。

実際に使用した日本語とアラビア語の DCT の質問は以下のとおりである。(具体的な DCT の質問項目 (日本語とアラビア語) は、巻末資料を参照)

表 5-2 実際に使用した DCT（依頼する側の立場）（日本語版）

本調査は日本人とサウジアラビア人のコミュニケーションに関する研究のために行うものです。

本調査の対象者は日本人の大学生、大学院生の男性を考えており、あなたにぜひご協力をお願いしたいと思っております。具体的には、ある場面を想像して、質問に答えていただきます。本調査では、お名前やご住所などのような個人情報は何いませぬ。得られたデータは分析をした上で、東海大学内もしくは学外の学会で発表し、論文とすることを考えております。

疑問点等があれば、いつでも下記の研究者にご連絡下さい。

ご協力を頂き、ありがとうございます。

研究者（連絡先）

東海大学 文学研究科 日本文学専攻

ヤズィード ナーセル

TEL :

Email :

次の（A-B-C-D）のような場面があります。

- A. \*親友に 500 円を借りる場面。
- B. 親友に 10,000 円を借りる場面。
- C. 親友に 5 分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面。
- D. 親友に 30 分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面。

上記の場面で（依頼をする側）と（依頼を受ける側）の立場で、それぞれ回答してください。

尚、コメントを書く欄があります。もしその場面に対して何か感じたことや思ったこと

などがあれば、とても参考になるので、コメント欄にご記入をお願いします。

\*ここでいう「親友」というのは、大学でほとんどの授業を一緒にとって一番親しい友達のことです。

大学名：

年齢：

Email：

A. 親友に 500 円を借りる場面

あなたは親友と一緒に食堂へ行って、レジのところで財布を出したら、現金がありませんでした。そこで、親友に 500 円を借りることにしました。何と言いますか。

答え： \_\_\_\_\_  
—。

B. 親友に 10,000 円を借りる場面。

あなたは親友といつも集まる食堂にいます。あなたは月末までにどうしても 10,000 円が必要な状況にいます。親友に 10,000 円を借りることにしました。何と言いますか。

答え： \_\_\_\_\_  
—。

C. 親友に 5 分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面。

あなたは親友といつも集まる食堂にいます。あなたは別の友達に頼まれた 5 分ぐらいかかるアンケートがあります。それに答えてもらうように親友に頼むことにしました。何と言いますか。

答え： \_\_\_\_\_  
—。

D. 親友に 30 分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面。

あなたは親友といつも集まる食堂にいます。あなたは別の友達に頼まれた 30 分ぐらい

かかるアンケートがあります。それに答えてもらうように親友に頼むことにしました。

何と言いますか。

答え : \_\_\_\_\_

—。

アンケートはこれで終わりです。ご協力を頂き、ありがとうございました。

表 5-3 実際に使用した DCT (依頼する側の立場) (アラビア語版)

أنا اخوكم يزيد الدليمي وحاليا طالب في مرحلة الدكتوراه في جامعة توكاي اليابانية، وهذا الاستبيان هو تحضير لرسالتي في الدكتوراه وهي عن أوجه التشابه والاختلاف في المحادثات اللغوية لدى اليابانيين والسعوديين، الفئة المستهدفة في هذا الاستبيان هم طلاب الجامعات السعوديين (ذكور) وإذا كنت من هذه الفئة أمل التكرم بالإجابة على الأسئلة.

الأسئلة هي عبارة عن مواقف معينة تحصل في الحياة اليومية بحيث تكتب الإجابة المناسبة لك إذا حصل لك ذلك الموقف.

تعاونكم يعني لي الكثير خصوصا أن النتائج سيتم الاعتماد عليها في بحثي للدكتوراه، لذا أتقدم مسبقاً بالشكر للجميع متمنياً لكم دوام التوفيق والنجاح.

للتواصل مع الباحث

الاسم: يزيد ناصر الدليمي

:الايمل

:رقم الجوال

نفترض وجود أربعة مواقف وهي كالتالي

أ. تستلف من أعز أصدقائك \* مبلغ ١٥ ريال

ب. تستلف من أعز أصدقائك مبلغ ٣٠٠ ريال

ج. تطلب من أعز أصدقائك الإجابة على استبيان مدته ٥ دقائق

د. تطلب من أعز أصدقائك الإجابة على استبيان مدته ٣٠ دقيقة

المطلوب منك هنا أن تتخيل نفسك في كل موقف وتكتب الرد المناسب لك



و يوجد خانة لكتابة أي انطباع أو رأي (إذا وجد) تجاه الموقف نفسه أو الاستبيان بشكل عام

\*المقصود بكلمة أعز أصدقاؤك هو صديقك الذي تدرس معه أغلب المحاضرات وتقضي معه أغلب وقتك في الجامعة

اسم الجامعة:

العمر:

Email:

أ. تستلف من أعز أصدقاؤك مبلغ ١٥ ريال

نفترض أنك ذهبت مع أعز أصدقاؤك إلى كافيتيريا أو مطعم الجامعة، وعند الكاشير أخرجت محفظتك ولم يكن معك المال

نقدًا، هنا قررت أن تستلف من أعز أصدقاؤك مبلغ ١٥ ريال، ماذا ستقول؟

الجواب:

\_\_\_\_\_.

ب. تستلف من أعز أصدقاؤك مبلغ ٣٠٠ ريال

نفترض أنك كنت مع أعز أصدقاؤك في الجامعة، وكنت عندها تمر بضائقة مالية وقررت أن تستلف من أعز أصدقاؤك

مبلغ ٣٠٠ ريال حتى نهاية الشهر، ماذا ستقول؟

الجواب:

\_\_\_\_\_.

ج. تطلب من أعز أصدقاؤك الإجابة على استبيان مدته ٥ دقائق

نفترض أنك كنت مع أعز أصدقاؤك في الجامعة، وكان معك استبيان طلبه منك زميل آخر وقررت حينها أن تطلب من

أعز أصدقاؤك أن يقوم بكتابة الاستبيان ومدته ٥ دقائق تقريبًا، ماذا ستقول؟

الجواب:

\_\_\_\_\_.

د. تطلب من أعز أصدقاؤك الإجابة على استبيان مدته ٣٠ دقيقة

نفترض أنك كنت مع أعز أصدقاؤك في الجامعة، وكان معك استبيان طلبه منك زميل آخر وقررت حينها أن تطلب من

أعز أصدقاؤك أن يقوم بكتابة الاستبيان ومدته ٣٠ دقيقة تقريبًا، ماذا ستقول؟

الجواب:

\_\_\_\_\_.

نهاية الاستبيان،، أشكر الجميع متمنياً لكم دوام التوفيق والنجاح

### 5.2.3. 意味公式

本研究では分析方法として意味公式(semantic formula)を用いる。藤森 (1995:89)は『意味公式(semantic formula)』は発話を社会の相互作用の中で見た場合の発話行為具現化のための最小の機能単位」、徐 (2008 : 223) は「発話行為を構成する最小の機能的な意味単位」、趙翻 (2012:118) は「意味公式とは、発話をまとまりのある意味内容に区切った最小単位」とそれぞれ定義している。本研究では上述の徐の意味公式の定義を援用する。

本研究の意味公式の認定作業は、徐 (2008) を踏襲し、意味内容を最小の機能単位に区切り、藤森 (1995)、池田他 (2002)、徐 (2008) 及び李 (2008, 2009) を参考に作成した。以下の表 24 に従って意味公式のコーティングを行った。

表 5-4 被調査者が使用した意味公式の定義と例

意味公式	定義	日本語例	アラビア語例
依頼	話し手が聞き手に何らかの負担をかけながらも自分の利益になることを実行してもらうように求める表現	例：「500 円借りていい？」 例：「書いて貰えないうい？」	例： ممكن تسلفني 貸してもらっていい？ 例： ممكن تجاوب على الاستبيان アンケートに答えてもらっていい？
状況説明	自分の状況や依頼内容などの説明	例：「お金おろすの忘れちゃって」 例：「なんかアンケート頼まれてるんだけど」	例： مامعي كاش 「現金はないね」 例： عندي استبيان مدته 5 دقائق 「5分ぐらいかかるアンケートがあるけど」
約束	依頼者が被依頼者に頼むものに対し、その物の返却か別の行為で恩返しをする発話	例：「今度返すからさー」 例：「寿司奢るから」	例： ارجعلك لا سحبت فلوس : 「お金を下ろしたら、返すよ」 例 : واعتمد على العشاء

			「晩御飯をおごるよ」
謝罪	依頼相手に与えてしまう負担に対する申し訳ない気持ちの表明	例：「ごめんね、」 例：「ちょっと悪いんだけど、」	例： عفوًا يا صديقي 「すみませんが、」 例： بقروشك 「悪いけど、」
実行しやすさの強調	依頼内容が被依頼者の負担にならないことを強調する表現	例：「簡単なアンケートだから」 例：「これすぐ終わるアンケートなんだけど」	例： مراح ياخذ منك وقت 「そんなに時間はかからないよ」 例： كلها د مراح تضر 「5分しかかからないよ」
情報要求	被調査者の都合や依頼内容の実現が可能かを探る表現	例：「500円ある？」 例：「ちょっと時間ある？」	例： معك فلوس زايدہ شيء 「お金の余裕がある？」 例： ممكن خمس دقائق بس 「5分ぐらいがある？」
呼びかけ	お互いの親しさを強調する表現や被依頼者の名前やあだ名を呼ぶ行為	例：（確認されず）	例： ما جيتك الا عشان المعزة الي بيننا 「～君は親しいし、」 例： يا عزم صديق عندي 「やあ 私の一番親しい友達」 例： با فلان 「～君」
相手への配慮	相手が被る負担への配慮の表明	例：「本当にもし余裕あったらでいいんだけど」 例：「今日中じゃなくていいから」	例： اذا ما فيها كلافه عليك 「無理なければ、」 例： متى ما فضيت 「暇な時でもいいけど」
懇願	依頼を受け入れてもらうため、依頼相手に頼み願う行為	例：「お願いがあるんだけど」 例：「お願い！」	例： واتمنى منك اذا ما عليك امر 「お願いだけど」 例： قاصدك بخدمه 「お願いがある」

## 5.2.4. 依頼に対する応答の分類

本研究では李（2004）を踏襲し、依頼に対する応答を以下の表 25 の四つに分類した。

表 5-5 依頼に対する応答の分類

分類		定義
承諾	1. 積極的な承諾	「はい、どうぞ」「いいよ」「分かった」「大丈夫だよ」「了解です」等のように、依頼者の依頼をその場で無条件に実行する意味を持つ応答のこと。
	2. 消極的な承諾	「いいけど、返してね」「いいけど、なんで?」「しょうがないな!」「時間がある時にやるね」「奢ってくれるなら!」等のように、消極的で、時間が経過してから、あるいはなんかの条件付きで依頼を実行する意味を持つ応答のこと。
断り	3. 間接的な拒否	「私が借りたいくらいなんだよなー」「〇〇〇円はちょっと厳しいかなー」「ちょっと時間ないかな」等のように、依頼者の依頼を間接的かつあいまいに断る意味を持つ応答のこと。
	4. 直接的な拒否	「できない」「嫌だ」「無理」等のように、依頼者の依頼を直接的かつ率直に断る意味を持つ応答のこと。

## 5.3. 結果と考察

本節では日・サ被調査者が依頼者の立場で使用した各場面の意味公式を比較する。尚、分析の対象とする意味公式は使用率が 10%を超えた意味公式に限定する。

本節で分析の対象とする意味公式は、依頼者が抱えている金銭貸借と時間の提供の問題を解決するため、親友に依頼を行うという設定の下で行われた DCT から収集された。そのため DCT の根幹である自身の抱えた問題解決のため親友に依頼を行うという設定は DCT の根幹となる規範だと

捉え、その設定を「問題依頼解決規範」とする。それ故、すべて DCT の回答はこの「問題依頼解決規範」に基づいた回答であると捉え、以下で明らかにする意味公式の規範すべてが「問題依頼解決規範」の下位規範であると考え。

### 5.3.1. 日・サ被調査者が依頼者の立場で使用した意味公式とその規範

#### 5.3.1.1. 日本人が金銭貸借（500 円と 10,000 円）に使用した意味公式と規範

本研究の日本人が使用した依頼に関する意味公式の中で使用率が 10%を超えたものは場面 1 と場面 2 とともに、多いものから【依頼】、【約束】、【謝罪】、【状況説明】の順番であった。本節では以上の意味公式が使用された要因を考察し、その規範を同定する。

最初は日本人が金銭貸借に最も多く使用した意味公式の【依頼】で、表 26 の結果から場面 1 と場面 2 とともに 47 人中 47 人全員がこの意味公式を使用していたことがわかる。

表 5-6 日本人が金銭貸借に使用した意味公式

意味公式	場面 1 (500 円)		場面 2 (10,000 円)	
	意味公式数	使用率	意味公式数	使用率
依頼	47/47	100%	47/47	100%
状況説明	8/47	17%	11/47	23.4%
約束	22/47	46.8%	28/47	59.5%
謝罪	13/47	27.6%	24/47	51%
実行しやすさの強調	0/47	—	0/47	—
呼びかけ	0/47	—	0/47	—
情報要求	2/47	4.2%	0/47	—
相手への配慮	0/47	—	1/47	2.1%
懇願	0/47	—	0/47	—

談話完成テストの質問は、「親友に借りることにしました。何と言いますか」という設定なので、【依頼】が最も使用されるという当然の結果が確認されたといえよう。

また【依頼】で使われた動詞に注目すると、以下の例 5-1～例 5-4 の灰色で示したように日本人は親友に金銭を借りる場面で貸借を表す動詞（貸す・借りる）を使用する傾向が見られた。以下の表 27 に、場面 1 と場面 2 で使用された貸借を表す動詞（貸す・借りる）の使用率を示した。

表 5-7 日本人が貸借を表す動詞を使用した使用率 (%)

金銭貸借場面	場面 1 (500 円)	場面 2 (10,000 円)
貸借動詞の使用率	91.5%	97.8%

例 5-1： 明日返すので 500 円貸してください。

【約束】                      【依頼】

例 5-2： ごめん、 お金無かったんだけど 500 円貸してくれない？

【謝罪】                      【状況説明】                      【依頼】

例 5-3： 本当にごめんなんですけど、 明日返すから 10,000 円借りてもいいですか？

【謝罪】                      【約束】                      【依頼】

例 5-4： 絶対に返すからさ、 10,000 円貸してくれないかな？

【約束】                      【依頼】

表 27 の結果から、日本人は貸借を意味する動詞を使用する傾向が極めて高いと言える。この要因として、4.3.1.1 で述べた「金銭貸借依頼否定規範」が強く顕在化されているからではないかと考えられる。4.3.1.1 で 500 円を借りる依頼において、負担であると「非常に思う」と答えた

人は 49.5%、「やや思う」と答えた人は 36.4%で、場面 2 では負担であると「非常に思う」と答えた人は 87.9%、「やや思う」と答えた人は 10.3%であった。日本人は「金銭貸借依頼否定規範」を強く顕在化させる傾向があるため、少額であろうと多額であろうと金銭貸借という行為を否定的に捉え、依頼者が被依頼者に対して借りを負うことを明確に伝えるため、貸借の動詞を使用したのではないかと考えられる。

以上の分析から、本研究の日本人（場面 1 では 47 人中 43 人、場面 2 では 47 人中 46 人）が親友に金銭を借りる依頼を行う場合、借りを負うことを明確に伝えるために貸借動詞を使用するという「貸借動詞使用規範」を有しており、それを場面 1 と場面 2 で強く顕在化させたのではないかと推論する。

さらに表 27 の貸借動詞の使用率を比較すると、場面 1 の使用率 91.5%よりも場面 2 の使用率 97.8%の方が若干大きいことから、金額の負担が大きくなると、この規範が強く顕在化される可能性もある。

そして 3.2.1. で述べた加藤（2006）の参加者の有する選択領域からこの規範を分類すると、金銭を借りる際に貸借動詞を選択するのはユニバーサルな行為であるため、この規範は共有規範だと考える。

2 番目に多く使用された意味公式は、場面 1 と場面 2 ともに【約束】だということが表 26 の結果からわかる。場面 1 では 47 人中 22 人が、場面 2 では 47 人中 28 人がこの意味公式を使用していた。特に場面 2 では過半数を超える 59.5%がこの意味公式を使用していた。（この意味公式が使用された DCT の回答例は、上述の例 5-1 と例 5-3、例 5-4 を参照されたい）

この意味公式が 2 番目に使用されて要因としては、日本社会では金銭の貸し借りを否定的に評価する傾向が極めて強いことから、金銭を借りる際に返却の約束を宣言することで被依頼者を安心させるために、この意味公式を使用する人が多かったのではないかと考えられる。また上述したように依頼内容の負担が大きくなるにつれて、この意味公式を使用する人が増えていた。

このことから、本研究の日本人が親友に金銭を借りる依頼を行う際には、返却の約束も行うという「返却約束規範」を顕在化させたのではないかと推論する。そして【約束】の使用率を比較すると、場面 1 の使用率 46.8%よりも場面 2 の使用率 59.5%の方が増加していたことから、金

額の負担が大きくなると、この規範が強く顕在化される傾向があるのではないかと考えられる。

そして 3.2.1. で述べた加藤（2006）の参加者の有する選択領域からこの規範を分類すると、この規範は共有規範だと考える。これは、後述するサウジアラビア人にも確認された規範であり、借りた金銭の返却をするという行為はユニバーサルな行為だからである。

3 番目に多く使用されていた意味公式は場面 1 と場面 2 とともに【謝罪】で表 26 の結果からわかる。場面 1 では 47 人中 13 人が、場面 2 では 47 人中 24 人がこの意味公式を使用していた。（この意味公式が使用された DCT の回答例は、上述の例 5-2 と例 5-3 を参照されたい）

この意味公式が使用された要因として、4.4. で述べた「金銭貸借依頼否定規範」の影響と日本社会で金銭貸借の依頼が否定的に捉えられているからではないかと考える。

上で述べたように、日本人は金銭を借りる依頼を行う場合、「金銭貸借依頼否定規範」を強く顕在化させる傾向がある。そのため、DCT で【謝罪】という調整行動を実行したのではないかと考えられる。また、山本他（2003）は、日本では中国や韓国と比べ、子ども同士の金銭貸借が厳しく禁止される傾向が特に強いと報告しており、竹尾他（2005）も中国や韓国と比べ、日本では金銭の貸借を否定的に捉える傾向があると述べている。

以上の要因から、【謝罪】を使用した日本人（場面 1 では 47 人中 13 人、場面 2 では 47 人中 24 人）は、日本社会で否定的に評価される金銭を借りるという行為を親友に依頼することに対して、申し訳ないと感じ、謝罪表現を用いるという規範（以下「金銭依頼謝罪規範」）を顕在化させたのではないかと推論する。そして【謝罪】の使用率を比較すると、場面 1 の使用率 27.6% よりも場面 2 の使用率 51% の方が増加していたことから、金額の負担が大きくなると、この規範は強く顕在化される傾向があるのではないかと考えられる。

そして 3.2.1. で述べた加藤（2006）の参加者の有する選択領域からこの規範を分類すると、この規範は日本語母語規範だと考える。なぜなら、山本他（2003）や竹尾他（2005）が報告しているように、金銭を借りることが他国に比べ日本社会では特に否定的に捉えられる行為であり、それを依頼することに対して謝罪を行うからである。

4 番目に使用されたものは【状況説明】で、場面 1 では 47 人中 10 人、場面 2 では 47 人中 11 人であった。（この意味公式が使用された DCT の回答例は、上述の例 5-2 と以下の例 5-5 を参照



されたい)

例 5-5： 月末にどうしても 10,000 円必要なんだけど 貸してくれない？

【状況説明】

【依頼】

また DCT の回答における【状況説明】の意味公式の位置に着目すると、以下の表 28 のように、【状況説明】の意味公式を使用したほとんどの日本人が【依頼】の前にこの意味公式を使用していた（19 例中 18 例）。

表 5-8 【状況説明】と他の意味公式との発話の順番

場面 1	人数 (割合)	場面 2	人数 (割合)
状況説明→依頼	5/47 (10.6%)	状況説明→依頼→約束	4/47 (8.5%)
謝罪→状況説明→依頼	3/47 (6.4)	状況説明→依頼	2/47 (4.2%)
		謝罪→状況説明→依頼	2/47 (4.2%)
		依頼→状況説明	1/47 (2.1%)
		状況説明→相手への配慮→依頼	1/47 (2.1%)
		謝罪→状況説明→約束→依頼	1/47 (2.1%)

柳（2012）等の先行研究で、日本人は依頼の前に説明を行うケースが多いという報告がなされていたが、表 26 に提示したように【状況説明】の使用率は、場面 1 では 17%、場面 2 では 23.4% でしかなかった。この要因として考えられることは、データ収集方法が DCT であるため、被調査者にとって依頼が成り立つ必要最低限の回答しか書かなかったという点が挙げられる。そのため、自然会話に近いロールプレイでは先行研究の報告のように【状況説明】の意味公式を用いる日本人が増える可能性もあると考えられる。しかしながら、場面 1 では 17%、場面 2 では 23.4%と

20%前後の使用率が見られたことと、日本人は依頼の前に説明を重要視するという報告から、6章のロールプレイで【情報説明】に関連する規範が確認される可能性を考慮して、本節で規範の同定を行う。

本研究の日本人（場面1では8人、場面2では11人）が親友に金銭を借りる依頼を行う際に、依頼者が置かれた状況を説明するという「理由説明規範」を有していたのではないかと考える。また日本人の場合、この規範を依頼の前に置く傾向があることが確認された。

そして3.2.1.で述べた加藤（2006）の参加者の有する選択領域からこの規範を分類すると、この規範は共有規範だと考える。なぜなら、依頼の理由を説明するという発話行為はユニバーサルな行為だからである。

#### 5.3.1.2. サウジアラビア人が金銭貸借（15リヤルと300リヤル）に使用した意味公式と規範

サウジアラビア人が使用した意味公式の中で使用率が10%を超えたものは、場面1では多い方から順に【依頼】、【約束】、【状況説明】で、場面2では多い方から順に【依頼】、【約束】、【状況説明】、【相手への配慮】、【呼びかけ】であった。本節では以上の意味公式が使用された要因を考察し、その規範を同定する。

最初にサウジアラビア人が500円を借りる場面1でも10,000円を借りる場面2でも、最も使用した意味公式である【依頼】について述べる。表29の結果から場面1と場面2ともに53人中53人がこの意味公式を使用していたことがわかる。

表 5-9 サウジアラビア人が金銭貸借に使用した意味公式

意味公式	場面1 (500円)		場面2 (10,000円)	
	意味公式数	使用率	意味公式数	使用率
依頼	53/53	100%	53/53	100%
状況説明	20/53	37.7%	31/53	58.5%
約束	25/53	47.7%	35/53	66%
謝罪	0/53	—	0/53	—

実行しやすさの 強調	1/53	1.8%	0/53	—
呼びかけ	4/53	7.5%	9/53	16.9%
情報要求	2/53	3.7%	3/53	5.6%
相手への配慮	0/53	—	27/53	50.9%
懇願	0/53	—	0/53	—

談話完成テストの質問は、「親友に借りることにしました。何と言いますか」という設定なので、日本人の結果と同様に【依頼】が最も使用されるという当然の結果が確認されたといえよう。

また、【依頼】で使われた動詞に注目すると、サウジアラビア人は親友に金銭を借りる場面で貸借を表す動詞「تسلفني (貸す)」や「أستلف (借りる)」を場面1 (例5-6と例5-7)では灰色で示したように使用せず、場面2 (例5-8と例5-9)で灰色で示したように使用する傾向が見られた。以下の表30に、場面1と場面2で使用された貸借を表す動詞「تسلفني (貸す)」や「أستلف (借りる)」の使用率を示した。

表 5-10 サウジアラビア人が貸借を表す動詞を使用した使用率 (%)

金銭貸借場面	場面 1	場面 2
貸借を表す動詞の使用率	30.2%	69.8%
譲渡を表す動詞の使用率	69.8%	30.2%

サウジアラビア人の場合、場面1では例6や例7のような「ياخذ (もらう)」や「أعطني (ください)」という譲渡を意味する動詞を使用する傾向が見られたが、30.2%しか貸借を意味する動詞が使用されなかった。しかし、場面2では例8や例9のような貸借を意味する動詞が69.8%使用されるようになっていた。

例 5-6 : نسيت فلوسي في البيت ممكن أخذ منك؟ وارجعها لك بكره 5-6

お金を家に忘れた。お金をもらっていい？ 明日返すよ。

【状況説明】

【依頼】

【約束】

例 5-7 : عطني واردها لك بعدين 5-7

お金をください。後で返すよ。

【依頼】

【約束】

例 5-8 : والله حالتي المادية ذا الشهر سيئة مره، تسلفني بالله ٣٠٠ ريال؟ 5-8

今月、お金はなくて、困っている。300 リヤルを貸してくれない？

【状況説明】

【依頼】

例 5-9 : عندي حاجه مهمه اليوم اذا اقدر استلف منك ٣٠٠ تقريبا بتسوي خير 5-9

今日ちょっと大事なことがあるけど、300 リヤルを借りれたら、助かる。

【状況説明】

【依頼】

この違いの要因として、4.3.2.1. で述べた「金銭貸借依頼否定規範」と「金銭貸借依頼肯定規範」の影響があるのではないかと考えられる。

すなわち、15 リヤルを借りる場合、負担だと「非常に思う」と答えた人は 14.5%、「やや思う」と答えた人は 31.8%で、場面 2 では負担だと「非常に思う」と答えた人は 47.3%、「やや思う」と答えた人は 42.7%であった。サウジアラビア人は少額の金銭を借りる依頼では「金銭貸借依頼肯定規範」を顕在化させる傾向があるため、金銭貸借という行為を否定的に捉えない。そのため、「أأخذ (もらう)」や「أعطني (ください)」などの譲渡を意味する動詞を用いる。しかし、多額の金銭を借りる依頼では「金銭貸借依頼否定規範」を顕在化させる傾向があるため、「تسلفني (貸す)」や「أستلف (借りる)」などの貸借を意味する動詞を使用する傾向が強くなるのではないかと推論する。

このことから、本研究のサウジアラビア人（場面 2 では 53 人中 37 人）が親友に多額の金銭（300 リヤル程度）を借りる依頼を行う際には、被依頼者に対して借りを負うことを明確に伝えるため貸借動詞を使用するという「貸借動詞使用規範」を顕在化させたのではないかと考えられる。また、少額の金銭（15 リヤル程度）を借りるため、その依頼を行う際には、貸借動詞の使用率が 30.2%（53 人中 16 人）まで下がることから、この規範が弱化される傾向があるのではないかと推論する。表 30 の貸借動詞の場面 1 と場面 2 の使用率を比較すると、場面 1 の使用率 30.2% よりも場面 2 の使用率 69.8%の方が大きいことから、金額の負担が大きくなると、この規範は強く顕在化される傾向があるのではないかと考えられる。

そしてこの規範を 3.2.1. で述べた規範の分類方法に基づき分類すると、5.3.1.1. で述べたように加藤（2006）の分類方法では共有規範だと考える。

2 番目に多く使用された意味公式は場面 1 と場面 2 ともに【約束】であった。表 29 の結果から場面 1 では 53 人中 25 人が、場面 2 では 53 人中 35 人がこの意味公式を使用していたことがわかる。この意味公式が使用された例として、以下の例 5-10 と例 5-11 を挙げられる。

例 5-10 : هل يمكن ان تقوم باقراضني ١٥ ريال واقوم بارجاعها لاحقا

15 リヤルを貸してもらってもいい？ 後で返すから。

【依頼】

【約束】

例 5-11 : ممكن استلف منك ٣٠٠ ريال وبرجعها قريب.

300 リヤルを貸してくれない？ 近いうちに返しておく。

【依頼】

【約束】

上述の表 29 を見ると、サウジアラビア人も日本人と同様に場面 1 と場面 2 で 2 番目に使用した意味公式は【約束】であった。これはサウジアラビア社会でも人から借りたお金を返すことは社会常識であるため、「واقوم بارجاعها لاحقا（後で返すから）」や「وبرجعها قريب（近いうちに返しておく）」等のように、この意味公式を使用する傾向が強かったのではないかと推論する。

このことから、本研究のサウジアラビア人複数（場面1では25人、場面2では35人）が親友に金銭を借りる依頼を行う際には、返却の約束も伴わなければならないという「返却約束規範」を顕在化させたのではないかと推論する。また、【約束】の場面1と場面2の使用率を比較すると、場面1の使用率47.1%よりも場面2の使用率66%の方が増加していたことから、金額の負担が大きくなると、この規範が強く顕在化される傾向があるのではないかと考えられる。

そしてこの規範を3.2.1.で述べた規範の分類方法に基づき分類すると、5.3.1.1.で述べたように加藤（2006）の分類方法では共有規範だと考える。

3番目に多く使用された意味公式は場面1と場面2ともに【状況説明】で、場面1では53人中20人が、場面2では53人中31人がこの意味公式を使用していたことが表29の結果からわかる。（この意味公式が使用されたDCTの回答例は、上述の例5-6、例5-8、例5-9を参照されたい）

この意味公式が使用された要因として、5.3.1.1.で述べた「理由説明規範」を時間の提供依頼、特に5分のアンケート依頼場面でも強く顕在化させたのではないかと考えられる。

4番目は、場面1では使用が見られなかったが、場面2では53人中27人の50.9%の被調査者が使用した【相手への配慮】について考察する。（この意味公式が使用されたDCTの回答例は、以下の例5-12と例5-13を参照のこと）

例5-12 : اذا ما عليك امر ودي تسلفني ٣٠٠، ومع اول مكافاه برجعها لك

無理なければ、300リヤルを貸して欲しい。報酬が入ったら、すぐ返す。

【相手への配慮】

【依頼】

【約束】

例5-13 : اذا ما فيها كلافه عليك عادي تسلفني ٣٠٠ واردها لك نهاية الشهر

無理なければ、300リヤルを貸してくれない？ 月末返すから。

【相手への配慮】

【依頼】

【約束】

場面2で【相手への配慮】が使用された要因として、依頼内容の負担度が影響していると考え

えられる。4.3.2.1. で述べたようにサウジアラビア人は少額の金銭（15 リヤル）を借りる依頼を負担だと思わない傾向が強い一方で、多額の金銭（300 リヤル）を借りる依頼は負担だと思いう傾向が見られた。そのため、場面 2 で【相手への配慮】を使用していたサウジアラビア人 27 人は相手の負担を軽減させるため【相手への配慮】を意味する発話「إذا ما عليك امر」（無理なければ）や「إذا ما فيها كلفة」（無理なければ）を言うという「相手配慮規範」を顕在化させたのではないかと思われる。

また、少額の金銭（15 リヤル程度）を借りる依頼を行う際には、【相手への配慮】の意味公式が使用されていないことから、場面 1 ではこの規範が潜在化している傾向があるのではないかと考える。そして表 29 を見ると、場面 1 では一度も使用されていない一方で、場面 2 では 50.9% 使用されていることから、金額の負担が大きくなると、この規範が強く顕在化される傾向があるのではないかと考える。

そして 3.2.1. で述べた加藤（2006）の参加者の有する選択領域からこの規範を分類すると、この規範は共有規範だと考える。なぜなら、依頼をする際、とりわけ依頼相手の被る負担が大きくなればなるほど、依頼者は相手に対して何らかの配慮を行うことは日本とサウジアラビア社会で一般的な行為だからである。

5 番目は、場面 1 では使用が見られなかったが、場面 2 では 53 人中 9 人（16.9%）の被調査者が使用した【呼びかけ】について考察する。（この意味公式が使用された DCT の回答例は、以下の例 5-14 と例 5-15 を参照されたい）

例 5-14 : فلان ابي بالله مبلغ 300 عندي ظرف ومتى م يتوفر معي رديته

～君、 300 リヤルが欲しい。今ちょっとお金に困っている。いつかお金が入ったら、返すよ。

【呼びかけ】            【依頼】                            【状況説明】                            【約束】

例 5-15 : يابو فلان ابي سلف ٣٠٠ ريال لين نهاية الشهر ومع المكافئه بعطيك اياها لاني مطفر والله

～君、 300 リヤルを貸して欲しい。月末、報酬が入ったら、返す。今ちょっとお金はない。

【呼びかけ】            【依頼】                            【約束】                            【状況説明】

この意味公式が使用された要因として、アラビア語で【呼びかけ】が、親密さだけでなく相手

への敬意も強調する役割を持っているからだと考える。エシーバ（2019：55）は「体系的な敬語がないアラビア語でも、「呼称」表現を待遇的に使用する。」と報告している。また、4.5 で、サウジアラビア人は多額の金銭（300 リヤル程度）の借入依頼を負担に捉える「金銭貸借依頼否定規範」を顕在化させる傾向が確認された。そのため、【呼びかけ】を使用したサウジアラビア人 8 人はこの「金銭貸借依頼否定規範」を顕在化させていたため、依頼相手の被る負担を軽減させる【呼びかけ】をしようしたのではないか。このことから、親友に負担のかかる依頼をする際に、親密さと相手への敬意を表明するため呼称表現を使用するという規範（以下「呼称使用規範」）を顕在化させていたと考える。

そして 3.2.1. で述べた加藤（2006）の参加者の有する選択領域からこの規範を分類すると、この規範はアラビア語の呼称表現の使用についてであるため、アラビア語母語規範だと考える。

#### 5.3.1.3. 日本人が時間の提供（5分と30分）に使用した意味公式と規範

日本人が使用した時間の提供の依頼に関する意味公式の中で、使用率が 10%を超えたものは、5 分のアンケート回答を依頼する場面 3 では、多い方から順に【依頼】、【状況説明】、【実行しやすさの強調】であった。また、30 分のアンケート回答を依頼する場面 4 の場合、多い方から順に【依頼】、【状況説明】、【相手への配慮】、【約束】、【謝罪】であった。本節では以上の意味公式が使用された要因を考察し、その規範を同定する。

表 31 の結果から日本人が場面 3 でも場面 4 でも、最も使用した意味公式は【依頼】で、両場面ともに 47 人中 47 人全員がこの意味公式を使用していた。

表 5-11 日本人が時間の提供の依頼に使用した意味公式

意味公式	場面 3		場面 4	
	意味公式数	使用率 (%)	意味公式数	使用率 (%)
依頼	47/47	100%	47/47	100%
状況説明	12/47	25.5%	41/47	87.2%
約束	0/47	—	8/47	17%
謝罪	3/47	6.4%	7/47	14.9%
実行しやすさの強調	10/47	21.3%	0/47	—



情報要求	1/47	2.1%	3/47	6.4%
相手への配慮	3/47	6.4%	22/47	46.8%
懇願	0/47	—	2/47	—

以下の例 5-16 と例 5-17 は【依頼】の意味公式が使用された DCT の回答例である。談話完成テストの質問は、「親友に答えてもらうように頼むことにしました。何と言いますか」という設定なので、【依頼】が最も使用されるという当然の結果が確認されたといえよう。

例 5-16： 友達のアンケートなんだけど、 やってもらってもいいかな？

【状況説明】

【依頼】

例 5-17： 結構時間かかるアンケートなんだけど 協力してくれない？

【状況説明】

【依頼】

2 番目に多く使用された意味公式は場面 3 と場面 4 とともに【状況説明】だということが表 31 からわかる。場面 3 では 47 人中 12 人 (25.5%)、場面 4 では 47 人中 41 人 (87.2%) がこの意味公式を使用していた。(この意味公式が使用された DCT の回答例は、以下の例 5-18 と例 5-19 を参照のこと)

例 5-18： 友達に頼まれたアンケートがあるんだけど、 協力してもらえたりする？

【状況説明】

【依頼】

例 5-19： 友達が困ってるんだけど 協力して貰っていい？

【状況説明】

【依頼】

また DCT の回答における【状況説明】の意味公式の位置に着目すると、以下の表 5-12 のように、【状況説明】の意味公式を使用した全ての日本人が【依頼】の前にこの意味公式を使用して

いた（53 例中 53 例）。

表 5-12 DCT の回答で【状況説明】が置かれた位置

場面 3	人数（割合）	場面 4	人数（割合）
状況説明→依頼	9/47（19.1%）	状況説明→依頼	11/47（23.4%）
状況説明→実行しやすさの強調→依頼	2/47（4.2%）	相手への配慮→状況説明→依頼	7/27（14.8%）
状況説明→依頼→実行しやすさの強調	1/47（2.1%）	謝罪→状況説明→依頼	5/47（10.6%）
		状況説明→相手への配慮→依頼	5/47（10.6%）
		状況説明→依頼→相手への配慮	2/47（4.2%）
		約束→状況説明→依頼	1/47（2.1%）
		状況説明→依頼→状況説明	1/47（2.1%）
		状況説明→依頼→相手への配慮→情報要求	1/47（2.1%）
		状況説明→約束→依頼	1/47（2.1%）
		懇願→状況説明→依頼	1/47（2.1%）
		約束→状況説明→依頼	1/47（2.1%）
		状況説明→相手への配慮→懇願→約束	1/47（2.1%）
		状況説明→依頼→状況説明	1/47（2.1%）
		状況説明→依頼→相手への配慮	1/47（2.1%）
		情報要求→状況説明→依頼→謝罪	1/47（2.1%）
		状況説明→約束→依頼	1/47（2.1%）

また場面 4 では、5.3.1.1 でも触れたように、日本人は依頼の前に説明を行うケースが多いと

いう先行研究の報告と同様の結果が見られた。

そのため【状況説明】を使用した日本人（場面3では47人中12人、場面4では47人中41人）は、5.3.1.1.で述べた「理由説明規範」を時間の提供依頼、特に30分のアンケート依頼場面で強く顕在化させたのではないかと考えられる。また表31の結果から5分のアンケートの回答依頼場面では、【状況説明】の使用率が低いことから、場面3ではこの規範が弱まる傾向があるのではないかと推論する。

そしてこの規範を3.2.1.で述べた規範の分類方法に基づき分類すると、5.3.1.1.で述べた加藤（2006）の分類方法では共有規範だと考える。

3番目に多い意味公式は場面によって異なっている。場面3では47人中10人が使用した【実行しやすさの強調】で、場面4では47人中27人が使用した【相手への配慮】であった。

前者のDCTの回答例は以下の例5-20と例5-21で、後者のDCTの回答例は以下の例5-22と例5-23である。

例5-20： これすぐ終わるアンケートなんだけど やってこない？

【実行しやすさの強調】

【依頼】

例5-21： 少しの時間で終わるから やって。

【実行しやすさの強調】 【依頼】

例5-22： これ結構時間かかるんだけど やってもらってもいいかな。出来る時で大丈夫！

【状況説明】

【依頼】

【相手への配慮】

例5-23： 時間ある時でいいから、 これ答えてもらっていい？ ジュース奢る！

【相手への配慮】

【依頼】

【約束】

【実行しやすさの強調】を場面3で使用していた日本人10人全員が、例5-18と例5-19のよ

うな依頼の容易さを訴える回答をしていたことから、依頼者自身が5分のアンケート回答の依頼を負担だと捉えていない事がわかる。また4.3. で述べたように日本人は5分程度のアンケートを親友に依頼することを負担だと思わない傾向が確認されている。このことから、【実行しやすさの強調】を場面3で使用していた日本人10人は、短時間（5分程度）のアンケート回答を依頼する場面では依頼内容が容易であることを強調する「容易さ強調規範」を顕在化させていたと考える。

そして3.2.1. で述べた加藤（2006）の参加者の有する選択領域からこの規範を分類すると、この規範は共有規範だと考える。なぜなら、後述するサウジアラビア人にも確認された規範であり、依頼内容の容易さを強調することで依頼相手が負担を被らないことを伝達する行為はユニバーサルな行為だからである。

次に場面4で3番目に多く使用された使用率46.8%の【相手への配慮】の分析を行う。この意味公式を使用していた日本人22人全員が例5-20と例5-21のような依頼相手が負担を被ることを示唆する回答を行っていた。これは4.3で述べたように、日本人は30分かかるアンケートを親友に依頼すると相手に負担を与えてしまうと思う「時間提供依頼否定規範」を顕在化させていたことから【相手への配慮】を使用したのではないかと考える。このことから、この意味公式を使用していた日本人22人は、長時間（30分程度）かかるアンケートの回答依頼を行う際に、依頼者自身が依頼内容を負担だと思い、相手への配慮を行う「相手配慮規範」を顕在化させていたのではないかと推論する。

そしてこの規範を3.2.1. で述べた規範の分類方法に基づき分類すると、5.3.1.2. で述べたように加藤（2006）の分類方法では共有規範だと考える。

またこの意味公式の使用で疑問となることは、金銭貸借に関する依頼場面では【謝罪】の意味公式が使用される傾向が強いが、アンケート回答のため時間の提供を求める依頼場面では、【相手への配慮】が使用される傾向が強かったことである。

これは、5.3.1.1で述べた山本他（2003）や竹尾他（2005）が報告しているように、日本社会で金額の大小に関わらず、金銭貸借の依頼は否定的に評価される傾向がより強いからではないかと考える。一方、時間のかかる作業の協力を依頼する場合、依頼の完遂にかかる時間の長さ（負担度）によっては否定的な評価を受けるかもしれないが、時間提供を依頼すること自体は日本社会

で一般的な行為である。それゆえ日本人は、金額の大小に関わらず金銭を借りる依頼をする際に、「依頼謝罪規範」を顕在化させる一方、時間のかかる作業への協力を依頼する場合は、時間の長さという負担度に応じて、「相手配慮規範」を顕在化させるのではないかと推論できる。

場面4で4番目に多く使用された意味公式は、表31に提示したように【約束】が17%であった。以下の5-24と例5-25がその例となる。

例5-24： お菓子奢るから アンケートやっというて！

【約束】                      【依頼】

例5-25： 30分もかかるけど やったらいい事あるから やってくれない？

【状況説明】                      【約束】                      【依頼】

この意味公式を使用していた8人の日本人全員が例5-24と例5-25のような依頼の報酬を約束していたことから、依頼を受けることに対する報酬を約束する「報酬約束規範」が存在し、場面4で【約束】を使用した日本人全員がこの規範を顕在化させていたのではないかと考える。また、負担度が小さい短時間（5分）の依頼場面では、この意味公式が使用されていなかったため、負担となる時間の長さの影響を受けるのではないかと推測する。

そして3.2.1.で述べた加藤（2006）の参加者の有する選択領域からこの規範を分類すると、この規範は共有規範だと考える。なぜなら、相手に依頼をする際、とりわけ依頼内容の負担度が大きい場合、依頼相手に報いるため何らかの報酬を約束することは、日本とサウジアラビアで共通して見られる行為だからである。

5番目に場面4で使用された意味公式は、14.9%の【謝罪】で、47人中7人が使用していた。場面4で使用された【謝罪】のDCTの回答例は、以下の例5-26と例5-27である。

例5-26： 申し訳ないけど、 時間かかるアンケート 手伝ってくれませんか。

【謝罪】                      【状況説明】                      【依頼】

例 5-27： ごめん、 30 分ぐらいかかるけど ちょっと手伝って欲しい！

【謝罪】

【状況説明】

【依頼】

上述したように、日本人は場面 3 と場面 4 の依頼では、【謝罪】ではなく【相手への配慮】を使用する傾向の方が強かったが、7 人は【謝罪】を使用していた。この要因として、その 7 人は 4.4 で述べた「時間提供依頼否定規範」を強く顕在化させていたのではないかと考えられる。そのため【謝罪】を使用した 7 人は【相手への配慮】では被依頼者に対する負担を十分に軽減させることができないと考え、【謝罪】を使用したのではないかと推論する。このことから、「時間提供依頼否定規範」を強く顕在化させ、親友に長時間（30 分程度）かかる作業を依頼する際には【相手への配慮】ではなく【謝罪】をするという「負担謝罪規範」がより強く顕在化したのではないかと考えられる。

そして 3.2.1. で述べた加藤（2006）の参加者の有する選択領域からこの規範を分類すると、この規範は共有規範だと考える。なぜなら、相手が迷惑や負担を被る場合、それに対して謝罪すべきというモラルが、少なくとも日本とサウジアラビアで共通しているからである。

#### 5.3.1.4. サウジアラビア人が時間提供（5 分と 30 分）の依頼で使用した意味公式と規範

サウジアラビア人が使用した依頼に関する意味公式の中で使用率が 10%を超えたものは、5 分のアンケート回答を依頼する場面 3 では、多い方から順に【依頼】、【実行しやすさの強調】、【状況説明】で、30 分のアンケート回答を依頼する場面 4 の場合、多い方から順に【依頼】、【状況説明】、【相手への配慮】、【呼びかけ】であった。本節では以上の意味公式が使用された要因を考察し、その規範を同定する。

表 5-13 の結果からサウジアラビア人が場面 3 と場面 4 で、最も使用した意味公式は【依頼】で、両場面ともに 53 人中 53 人全員がこの意味公式を使用していた。

表 5-13 サウジアラビア人が時間提供の依頼に使用した意味公式

意味公式	場面 3		場面 4	
	意味公式数	使用率	意味公式数	使用率
依頼	53/53	100%	53/53	100%
状況説明	10/53	18.8%	38/53	71.7%
約束	0/53	—	1/53	1.9%
謝罪	0/53	—	5/53	9.4%
実行しやすさの 強調	16/53	30.2%	0/53	—
呼びかけ	5/53	9.4%	8/53	15%
情報要求	1/53	1.9%	1/53	1.9%
相手への配慮	2/53	3.8%	27/53	50.9%
懇願	0/53	—	4/53	7.5%

【依頼】が使用された DCT の回答例は、以下の例 5-28 と例 5-29 である。

例 5-28 : ابيك تسوي هذا الاستبيان

このアンケートに答えてもらいたい。

【依頼】

例 5-29 : هذا استبيان بالله جاب عليه قصير كلها ٥ دقائق

このアンケートに答えてください。 5分しかかからない短いアンケートだよ。

【依頼】

【実行しやすさの強調】

表 5-13 の結果から、場面 3 で 2 番目に多く使用された意味公式は 53 人中 16 人が使用した【実行しやすさの強調】で、場面 4 では 53 人中 27 人が使用した【状況説明】であった。

【実行しやすさの強調】が使用された DCT の回答例は、以下の例 5-30 と例 5-31 を挙げられる。

例 5-30 : عندي ورقه هنا استبيان خفيف ماياخذ منك ٥ دقائق لواحد عزيز علي راح يفيدہ علاستبيان في بحثه

5分もかからない短いアンケートがある。 親しい友達に頼まれたけど、 協力してくれると、助かる。

【実行しやすさの強調】

【状況説明】

【依頼】

例 5-31 :      تفدر تخلص الشغله ذي كلها ٥ د ما راح تضر

このアンケートに答えられる？ 5分しかかからない。

【依頼】

【実行しやすさの強調】

【実行しやすさの強調】を場面3で使用していたサウジアラビア人16人全員が、例5-28と例5-29のような依頼の容易さを訴える回答をしていた。このことから、5.3.1.3の日本人同様に、サウジアラビア人16人が5分のアンケート回答の依頼を負担だと捉えていない事がわかる。また4.3.で述べたようにサウジアラビア人は5分程度のアンケートを親友に依頼することを負担だと思わない傾向が確認されている。このことから、【実行しやすさの強調】を場面3で使用していたサウジアラビア人16人は、短時間(5分程度)のアンケート回答を依頼する場面では依頼内容が容易であることを強調する「容易さ強調規範」を顕在化させていたと考える。

そしてこの規範を3.2.1.で述べた規範の分類方法に基づき分類すると、5.3.1.3.で述べたように加藤(2006)の分類方法では共有規範だと考える。

次は【状況説明】の分析を行う。この意味公式は、場面3では3番目に使用されているが、場面4では2番目に使用された意味公式であった。場面3では53人中10人(18.8%)が、場面4で53人中38人(71.7%)のサウジアラビア人が【状況説明】を使用していた。【状況説明】が使用されたDCTの回答例は、以下の例5-32と例5-33である。

例 5-32 :      فيه واحد من اخويائي طالب مني استبيان مدته 5 د ودي تجاوب عليه

5分ぐらいのアンケートを友達に頼まれたけど、 それに答えて欲しい。

【状況説明】

【依頼】



例 5-33 :      فيه استبيان مدته نص ساعة حق واحد من العيال إذا بتساعدنا و تشارك أكون شاكر

友達に頼まれた 30 分ぐらいかかるアンケートがある。協力してくれると、ありがたい。

【状況説明】

【依頼】

この意味公式が使用された要因として、5.3.1.1. で述べた「理由説明規範」を時間の提供依頼、特に 30 分のアンケート依頼場面で強く顕在化させたのではないかと考えられる。また場面 3 よりも場面 4 でこの意味公式の使用が増加していたことから、作業に必要な時間が増えると、この規範が強く顕在化される傾向があるのではないかと推測する。

そしてこの規範を 3.2.1. で述べた規範の分類方法に基づき分類すると、5.3.1.1. で述べたように加藤（2006）の分類方法では共有規範だと考える。

その次は、場面 4 で 53 人中 27 人に使用された【相手への配慮】が使用された DCT の回答例は、以下の例 34 と例 35 である。

例 5-34 :      اذا ماعليك أمر ممكن تكتب ذا الاستبيان

無理じゃなければ、このアンケートに答えてもらっていい？

【相手への配慮】

【依頼】

例 5-35 :      هالاستبيان اذا عندك وقت وماعندك مشكلة ياليت تخلصه

無理じゃなければ、時間がある時に 答えてください。

【相手への配慮】

【依頼】

場面 4 の依頼内容は、負担度の大きい 30 分かかるアンケートの回答依頼である。そのため、場面 4 で【相手への配慮】を使用したサウジアラビア人 27 人は 5.3.1.2 で述べた「相手配慮規範」を顕在化させていたのではないかと推論する。

そしてこの規範を 3.2.1. で述べた規範の分類方法に基づき分類すると、5.3.1.2. で述べたように加藤（2006）の分類方法では共有規範だと考える。

そして最後に、場面 3 では使用が見られなかったが、場面 4 では 53 人中 8 人 (15%) の被調査者が使用した【呼びかけ】について考察する。以下の例 5-36 と例 5-37 が、DCT の回答例である。

例 5-36 :

فلان معليش معي استبيان طويل لحد ما لكن مهم ونحتاج لأكبر عدد ممكن اذا امكنت ان تجيب عليه سأكون لك من الشاكرين  
～君、 すみませんが、 長いアンケートがあるけど、大事だし、多くの回答者が欲しい。

【呼びかけ】      【謝罪】              【状況説明】

できれば、答えてくれると、ありがたい。

【依頼】

例 5-37 : أبو فلان اذا مافيه حرج تقدر تكتبلي الاستبيان

(名前) 君、 無理なければ。 このアンケートに答えてもらっていい？

【呼びかけ】      【相手への配慮】                      【依頼】

この意味公式が使用された要因として、アラビア語で【呼びかけ】が、親密さだけでなく相手への敬意も強調する役割を持っているからだと考える。エシーバ (2019 : 55) は「体系的な敬語がないアラビア語でも、「呼称」表現を待遇的に使用する。」と報告している。また、4.5 で、サウジアラビア人は多額の金銭 (300 リヤル程度) の借入依頼を負担に捉える「金銭貸借依頼否定規範」を顕在化させる傾向が確認された。そのため、【呼びかけ】を使用したサウジアラビア人 8 人はこの「金銭貸借依頼否定規範」を顕在化させていたため、依頼相手の被る負担を軽減させる【呼びかけ】をしようしたのではないか。このことから、親友に負担のかかる依頼をする際に、親密さと相手への敬意を表明するため呼称表現を使用するという規範 (以下「呼称使用規範」) を顕在化させていたと考える。

そして 3.2.1. で述べた加藤 (2006) の参加者の有する選択領域からこの規範を分類すると、この規範はアラビア語の呼称表現の使用についてであるため、アラビア語母語規範だと考える。

### 5.3.2. 日・サ被調査者が被依頼者の立場で使用した依頼に対する応答

本節では、日・サ被調査者が DCT で指定された依頼を受けた際にどのような応答をするのか分

析し、その応答がどのような規範に基づき導きだされた結果なのかを考察する。各場面に被調査者間の比較をしながら、分析していく。

### 5.3.2.1. 日・サ被調査者が金銭貸借（500 円／15 リヤル）を依頼される場面で使用した応答

表 5-14 日本人の金銭貸借（500 円）における依頼に対する応答

応答（割合）		例
承諾	積極的な承諾 (63.8%)	いいよー。
		全然いいよ！
		あー別に 500 円くらいなら返さなくていいよ。
	消極的な承諾 (36.2%)	いいよー。今度返してね～。
		いいよ！ちゃんと返してね。
		いいよ！後で返してくれよ。

表 5-14 に提示したように、日本人は親友に 500 円を貸す場面において、【積極的な承諾】を選択した人は 63.8%で、【消極的な承諾】を選択した人は、36.2%であった。なお【間接的な断り】と【直接的な断り】を選択した人はいなかった。4.4 で日本人は 500 円を貸す依頼を受けると、それを負担だと思わない「金銭貸借依頼肯定規範」を顕在化させる傾向が確認された。すべての日本人 47 人がこの規範を DCT でも顕在化させていたため、【断り】の回答が選択されなかったのではないかと考える。

表 5-15 サウジアラビア人の金銭貸借（15 リヤル）における依頼に対する応答

応答（割合）		例
		نعم
		はい。

承諾	積極的な承諾 (100%)	نعم، اسلفه はい、貸す。
		بعطيه واقوله ما يرجعها كلها ١٥ ريال ما تستاهل 大したものじゃないので、返さなくていいよ。
		أعطيه ما اسلفه 貸すのじゃなくて、あげるよ。
		ما عليك علي اليوم 今日は奢らせて。

表 5-15 に提示したように、サウジアラビア人は親友に 15 リヤルを貸す場面において、【積極的な承諾】を選択した人は 100%で、【消極的な承諾】と【間接的な断り】と【直接的な断り】を選択した人はいなかった。これは 4.4 で述べたサウジアラビア人が 15 リヤルを貸す依頼を受けると、それを負担だと思わない「金銭貸借依頼肯定規範」を顕在化する傾向と同様の結果が確認された。すべてのサウジアラビア人 53 人がこの規範を DCT でも強く顕在化させていたことから、【断り】の回答が選択されなかったのではないかと考える。

日・サ被調査者の相違点として、【断り】をしない傾向があるというところは共通していた。しかし、サウジアラビア人は全員【積極的な承諾】を選択している一方で、日本人は【積極的な承諾】だけではなく、3分の1が【消極的な承諾】を選んでいて、この要因としては、4.3 で述べたようにサウジアラビア人のほうが「金銭貸借依頼肯定規範」を強く顕在化する傾向があるからではないかと考える。

### 5.3.2.2. 日・サ被調査者が金銭貸借（10,000 円／300 リヤル）を依頼される場面で使用した応答

表 5-16 日本人の金銭貸借（10,000 円）における依頼に対する応答

応答（割合）		例
承諾	積極的な承諾	いいよ。

	(13.6%)	大丈夫！じゃーATM 行こうか。
		え、大丈夫？いいよ！
	消極的な承諾 (52.4%)	絶対返してくれるならいいよ。
貸すのはいいんだけど、大丈夫？他の人にも借りて るの？		
いいけど、いつ返してくれる？		
断り	間接的な断り (15.9%)	いや俺が借りたいくらいなんだよなー。
		え、何に使うの？一人暮らしだから大きい出費は厳 しいんだよね。
		ええ、さすがに1万円は厳しいかな。
	直接的な断り (18.1%)	うちも今月お金ないから貸せない。
		ごめん、そんな大金貸すのは嫌です。
		10000円はさすがに貸さないわ、ごめんよ。

表 5-16 に提示したように、日本人は親友に 10,000 円を貸す場面で、【積極的な承諾】を選択した人は 13.6%、【消極的な承諾】を選択した人は 52.4%であった。一方、【断り】に関して【間接的な断り】を選択した人は 15.9%で、【直接的な断り】を選択した人は 18.1%であった。

4.3.1.1. で明らかにしたように日本人が 10,000 円を借りる依頼を受けた場合の負担度の回答では、負担だと「非常に思う」と答えた人が 87.9%、「やや思う」と答えた人が 10.3%いた。そのため、DCT の結果では【直接的な断り】を選択する日本人が最も多いのではないかと推論していたが、実際には【消極的な承諾】が最も選択されていた。【消極的な承諾】が最も選択された要因として、親友からの依頼であるため、負担度が高い 10,000 円を貸す依頼でも受け入れたのではないかと考える。以上のことから、日本人は「金銭貸借依頼否定規範」からの逸脱を管理プロセスの評価段階まで進めるが、調整行動を実行せず、親友からの依頼を受け入れる傾向があるのではないかと考える。

表 5-17 サウジアラビア人の金銭貸借（300 リヤル）における依頼に対する応答

	応答（割合）	例
承諾	積極的な承諾 (73.6%)	نعم، اسلفه はい、貸す。
		خذها ولا تردھا 渡すから、返さないで。
		اسلفه اذا كان معاي وبكل سرور お金を持っていたら、喜んで。
	消極的な承諾 (22.4%)	حاضر وإذا جتک الفرصة ردلي ايها いいよ。返せるなら、返してね。
		غالي وطلب رخيص مو نهاية شهر متى ماجاء معك واذا ما قدرت بجل 大丈夫だよ。今月末じゃなくて、返せる時に返して。返せなかったら、大丈夫だよ。
		لو السبب مقتع اسلفه 納得できる理由があれば、いいよ。
断り	間接的な断り (2%)	والله مالدي يا صاحبي لكن خلني اشوف ちょっと何とも言えないけど、考えてみるね。
	直接的な断り (2%)	ما معي طفران お金を持っていないよ。

表 5-17 に提示したように、サウジアラビア人は親友に 300 リヤルを貸す場面で、【積極的な承諾】を選択した人は 73.6%であり、【消極的な承諾】を選択した人は、22.4%であった。一方、【間接的な断り】を選択した人は 2%だけで、【直接的な断り】を選択した人も 2%だけであった。

4.3.2.1. で明らかにしたようにサウジアラビア人が 300 リヤルを借しほしいと依頼を受けた場合の負担度の回答では、負担だと「あまり思わない」と答えた人が 26.4%、「全然思わない」と

答えた人が 46.4%いた。そのため、サウジアラビア人の傾向として【積極的な承諾】が最も選択されるのではないかと推論したが、その通りになった。【積極的な承諾】を選択したサウジアラビア人が最も多かった要因として、親友という親しい間柄からの依頼であることから「金銭貸借依頼肯定規範」を顕在化させたのではないかと考える。

### 5.3.2.3. 日・サ被調査者が時間提供（5分）を依頼される場面で使用した応答

表 5-18 日本人の時間の提供（5分）における依頼に対する応答

応答（割合）	例
積極的な承諾 (100%)	いいよー。
	あー、おっけー！いいよ！
	おっけいです！やります！
	もちろんいいよ～
	いいよ！ 答えるよ。

表 5-18 に提示したように、日本人は親友に 5 分かかるアンケートの回答を依頼された場面において、【積極的な承諾】を選択した人は 100%で、【消極的な承諾】、【間接的な断り】、【直接的な断り】を選択した人はいなかった。4.4 で日本人は 5 分かかるアンケートの回答依頼を受けても、それを負担だと思わない「時間提供依頼肯定規範」を強く顕在化する傾向が確認された。この規範を DCT でも全ての日本人が強く顕在化させたため、【積極的な承諾】が選択されたのではないかと考える。

表 5-19 サウジアラビア人の時間の提供（5分）における依頼に対する応答

応答（割合）		例
承諾	積極的な承諾 (100%)	اوافق 受け入れる。

		<p>وافق، فطلبه بسيط</p> <p>簡単なので、受け入れる。</p>
		<p>وافق بكل سرور</p> <p>もちろん、喜んで。</p>
		<p>او ك مو مشكله</p> <p>オッケー、大丈夫。</p>
		<p>اجاب على الاستبيان</p> <p>アンケートに答える。</p>

表 5-19 に提示したように、サウジアラビア人は親友に 5 分かかるアンケートの回答を依頼された場面において、【積極的な承諾】を選択した人は 100%で、【消極的な承諾】、【間接的な断り】、【直接的な断り】を選択した人はいなかった。4.4 でサウジアラビア人は 5 分かかるアンケートの回答依頼を受けても、それを負担だと思わない「時間提供依頼肯定規範」を強く顕在化させる傾向が確認された。この規範を DCT でも全てのサウジアラビア人が強く顕在化させたため、【積極的な承諾】が選択されたのではないかと考える。

#### 5.3.2.4. 日・サ被調査者が時間の提供（30分）を依頼される場面で使用した応答

表 5-20 日本人の時間の提供（30分）における依頼に対する応答

応答（割合）		例
承諾	積極的な承諾 (44%)	いいよー。
		任せておけ。
		了解です！



	消極的な承諾 (53.6%)	時間ある時に書いとく。
		お菓子奢ってくれるなら！
		しょうがないな～。
断り	間接的な断り (2.4%)	ちょっと時間ないかな。

表 5-20 に提示したように、日本人は親友から 30 分かかるアンケートの回答依頼を受けた場合、【積極的な承諾】を選択した人は 44%で、【消極的な承諾】を選択した人は 53.6%であった。一方、【間接的な断り】を選択した人は 2.4%だけであり、【直接的な断り】を選択した人はいなかった。

4.3.1.2. で明らかにした日本人が親友から 30 分かかるアンケート回答の依頼を受けた場合の負担度では、負担だと「非常に思う」と答えた人が 47.7%、「やや思う」と答えた人が 34.6%いた。そのため、DCT の結果では【直接的な断り】を選択する日本人が最も多いのではないかと推論していたが、実際には【消極的な承諾】が最も選択されていた。【消極的な承諾】が最も選択された要因として、親友からの依頼であるため、負担度が高い 30 分かかるアンケート回答の依頼でも受け入れたのではないかと考える。以上のことから、日本人は「時間提供依頼否定規範」からの逸脱を管理プロセスの評価段階まで進めるが、調整行動を実行せず、親友からの依頼を受け入れる傾向があるのではないかと考える。

表 5-21 サウジアラビア人の時間の提供（30 分）における依頼に対する応答

応答（割合）		例
承諾	積極的な承諾 (51.9%)	اوافق 受け入れる。
		راح اسويه はい、答えるよ。

		اجهز لي شاهي وايداً اكتب 紅茶を入れて、答えておく。
	消極的な承諾 (36.8%)	تم ارسله لي ومتى م فضيت عبيته لك はい、送って。時間がある時に答えるよ。
		ولو انه طويل الا انه بيشر 長いけど、いいよ。
		لازم الله يصبرني عليك ابشر しょうがないな、いいよ。
断り	間接的な断り (11.3%)	طويل شوي واتوقع صعبه ちょっと長いから、難しいかもしれない。
		ياخي ما احب الاستبيانات アンケートは好きじゃないよ。

表 5-21 に提示したように、サウジアラビア人は親友から 30 分かかるアンケートの回答依頼を受けた場合、【積極的な承諾】を選択した人は 76.1%で、【消極的な承諾】を選択した人は 26.1%であった。また、【間接的な断り】を選択した人は 11.3%で、【直接的な断り】を選択した人はいなかった。

4.3.2.2. で明らかにしたサウジアラビア人が親友から 30 分かかるアンケート回答の依頼を受けた場合、負担だと「あまり思わない」と答えた人が 28.2%、「全然思わない」と答えた人が 38.2%いた。そのため、【積極的な承諾】を選択するサウジアラビア人が最も多く、次いで【消極的な承諾】だと想定していたが、DCT の結果も想定通りの結果が見られた。このことから、サウジアラビア人は「時間提供依頼肯定規範」を調整段階でも顕在化させ、調整を実行する傾向があるのではないかと考える。

#### 5.4. まとめ

本節ではまず、日・サ被調査者が依頼者の立場で使用した各場面における意味公式の割合を述

べ、その後意味公式に関する規範をまとめる。次に、日・サ被調査者が被依頼者の立場で使用した依頼の応答の分類をまとめ、どのような規範に基づいた調整行動だったのかを考察する。

まず場面 1 と 2 における日・サ被調査者が使用した依頼に関する意味公式の中で使用率が 10% を超えたものを整理する。日本人の場合、両場面で多い順に【依頼】、【約束】、【謝罪】、【状況説明】の順番であった。一方、サウジアラビア人の場合、場面 1 では多い順に【依頼】、【約束】、【状況説明】で、場面 2 では多い順に【依頼】、【約束】、【状況説明】、【相手への配慮】、【呼びかけ】であった。

次に場面 3 と 4 における日・サ被調査者が使用した依頼に関する意味公式の中で使用率が 10% を超えたものを整理する。日本人の場合、場面 3 では多い順に【依頼】、【状況説明】、【実行しやすさの強調】で、場面 4 では多い順に【依頼】、【状況説明】、【相手への配慮】、【約束】、【謝罪】であった。そして、サウジアラビア人の場合、場面 3 では多い順に【依頼】、【実行しやすさの強調】、【状況説明】で、場面 4 では多い順に【依頼】、【状況説明】、【相手への配慮】、【呼びかけ】であった。

続いて、日・サ被調査者の使用した意味公式から同定した依頼に関する規範をまとめる。

日本人が 500 円を借りる場面 1 と 10,000 円を借りる場面 2 の両場面で顕在化させていた規範は、「貸借動詞使用規範」、「返却約束規範」、「依頼謝罪規範」、「理由説明規範」であった。一方、サウジアラビア人が 15 リヤルを借りる場面 1 と 300 リヤルを借りる場面 2 の両場面で顕在化させていた規範は、「貸借動詞使用規範」、「返却約束規範」、「理由説明規範」で、場面 4 だけで顕在化された規範は「相手配慮規範」と「呼称使用規範」であった。

次に日本人が 5 分かかるアンケートの回答を依頼する場面 3 と 30 分かかるアンケートの回答を依頼する場面 4 の両場面で顕在化させていた規範は「理由説明規範」で、場面 3 でのみ顕在化させた規範は「容易さ強調規範」で、場面 4 でのみ顕在化させた規範は「相手配慮規範」、「報酬約束規範」、「依頼謝罪規範」であった。一方、サウジアラビア人が 5 分かかるアンケートの回答を依頼する場面 3 と 30 分かかるアンケートの回答を依頼する場面 4 の両場面で顕在化させていた規範は「理由説明規範」で、場面 3 でのみ顕在化させた規範は「容易さ強調規範」で、場面 4 でのみ顕在化させた規範は「相手配慮規範」と「呼称使用規範」であった。

また、加藤（2006）の分類方法を用いて本研究で明らかになった規範を分類すると以下の表 5-22 のようになった。

表 5-22 加藤（2006）の分類方法に基づく規範の分類

分類	規範名
共有規範	貸借動詞使用規範
	理由説明規範
	負担謝罪規範
	相手配慮規範
	容易さ強調規範
	返却約束規範
	報酬約束規範
日本語母語規範	金銭依頼謝罪規範
アラビア語母語規範	呼称使用規範

上の表 5-22 で明らかになった依頼者の立場と規範の関係性や相互作用についての考察を行う。

日・サ被調査者ともにすべての場面で顕在化されていた規範は、「理由説明規範」であった。これは、日・サ被調査者ともに依頼の理由を説明することは、相手にその依頼の必要性を理解してもらい、依頼を成立させるために必要な発話だと捉えているため、この規範が全場面で顕在化されたのではないかと考える。

場面 1 と場面 2 でのみ顕在化された規範は「貸借動詞使用規範」、「返却約束規範」、「金銭依頼謝罪規範」で、これら 3 つの規範は金銭借入に関する規範であるため、時間の提供依頼である場面 3 と場面 4 では顕在化されなかったと考えられる。また「金銭依頼謝罪規範」は日本人のみが顕在化させていた規範で、「貸借動詞使用規範」と「返却約束規範」は日・サ被調査者ともに顕在化させていた。

「貸借動詞使用規範」が顕在化された要因は、親友に金銭を借りる依頼を行う際に、貸借動詞

を使用することによって、借りを負うことを明確に伝えるためではないかと考察できる。

また、「返却約束規範」が顕在化された要因は、金銭を借りる際に返却の約束を宣言し、被依頼者を安心させるためではないか。

3番目に、「金銭依頼謝罪規範」が顕在化された要因は、日本社会で金額の大きさに関わらず金銭貸借自体が否定的に評価される行為であり、日本人が負担に感じる依頼内容であるにも関わらず、金銭を借りる依頼をすることに対して、申し訳ないと感じているからだと考えられる。

4番目は「容易さ強調規範」についてで、日・サ被調査者ともにこの規範を場面3でのみ顕在化させていた。このことから、この規範を顕在化させていた日・サ被調査者は、場面3のような5分程度のアンケートへの回答依頼は容易であるが、負担度が大きい場面4や金額の大小に関係なく金銭を借りる依頼は容易でないと考えていたためではないか。そのため、負担度が5分かかるアンケートの回答依頼である場面3で、この規範が顕在化しなかった。また、この規範が顕在化される場合、後述する「報酬約束規範」は潜在化すると考えられる。

5番目は「報酬約束規範」についてで、日本人8人が30分かかるアンケートの回答を依頼する場面4で顕在化させていた。この規範は依頼内容の負担度が大きい場合に顕在化するのではないかと考える。依頼内容の負担度が大きい場合、依頼者は依頼相手に報いるため報酬を約束するが、負担度が小さい場合、上述の「容易さ強調規範」が顕在化され、この「報酬約束規範」は潜在化されるのではないか。また、「容易さ強調規範」が金銭を借りる依頼場面（場面1と場面2）で顕在化しなかった要因として考えられることは、「返却約束規範」の存在である。「報酬約束規範」と「返却約束規範」は、同じ約束に関する規範であるが、場面1と場面2は金銭貸借の依頼場面であるため、借りた金銭の返却を約束することこそ肝要である。従って、「報酬約束規範」よりも「返却約束規範」を顕在化させたほうがより適切であり、後者を顕在化させないと依頼が成立しない可能性がある。そのため、場面1と場面2では「返却約束規範」が強く顕在化し、この「報酬約束規範」を顕在化させる必要がないのではないか。

6番目は「相手配慮規範」と「負担謝罪規範」について考察する。日本人の場合、負担度が大きい場面2と4で「相手配慮規範」が顕在化しており、「負担謝罪規範」は場面4でのみ顕在化していた。一方、サウジアラビア人の場合、「負担謝罪規範」は確認されず、「相手配慮規範」が場面

2 と場面 4 で顕在化されていた。以上のことから、この両規範は負担度の大きい場面で顕在化される傾向があると言えよう。また、サウジアラビア人の場合、「負担謝罪規範」が確認されなかった要因として、親疎関係が影響しているのではないかと考える。サウジアラビア社会では親しい相手に依頼をするとき相手の被る負担に配慮する発話は行われるが、負担に対して謝罪をするとはほとんどない。

また、場面 1 で「相手配慮規範」を顕在化させた日本人が確認されなかった要因としては、「金銭依頼謝罪規範」が顕在化されていたからではないか。山本他（2003）や竹尾他（2005）の報告や、4.4 の結果から、日本人は金銭貸借という行為を否定的に捉える傾向がわかる。そのため、依頼相手が被る負担や迷惑に対して申し訳ない気持ちを明確に伝えるため「相手配慮規範」ではなく「金銭依頼謝罪規範」を顕在化させるのだと考えられる。したがって、日本人の場合、【相手への配慮】よりも【謝罪】の方がより丁寧で、依頼相手の被る負担度に配慮する適切な意味公式であると言えよう。このことを踏まえて場面 4 を見ると、「相手配慮規範」を顕在化させた人は 22 人で、「負担謝罪規範」を顕在化させた人は 7 人であった。そのため、場面 4 で日本人は「相手配慮規範」を顕在化させる傾向が強いが、依頼内容を深刻に捉えた 7 人は「負担謝罪規範」を顕在化させ、【謝罪】の意味公式を使用したのだと考える。

そして最後に、「呼称使用規範」について考察する。この規範が顕在化され、【呼びかけ】が使用された場面は、いずれもアラビア語母語場面で多額の金銭（300 リヤル程度）の借入依頼である場面 2 と 30 分かかるアンケートへの回答依頼を求める場面 4 であった。エシーバ（2019）がアラビア語母語話者はアラビア語母語場面で呼称表現を待遇表現として使用すると報告しているように、この「呼称使用規範」はアラビア語の待遇表現に関する規範でもある。以上の要因から、日本語母語場面でこの規範の使用が確認されず、アラビア語母語場面であっても、負担度の高い依頼場面でのみ顕在化される傾向が見られたと考える。

さらに本研究の DCT の根幹を担う設定は、依頼者が抱えている問題を解決するため、親友に依頼を行うというもので、この設定に基づいて DCT の回答が行われた。そのため、この設定を DCT の基底規範に影響を与えるものと捉え、その根幹となる規範を「依頼問題解決規範」とした。すべての DCT の回答が「依頼問題解決規範」が顕在化された結果であると捉えるため、本研究で明

らかになった依頼に関する意味公式の規範すべてが「依頼問題解決規範」の下位規範であると考えた。以上の規範を階層化すると図 5-1 と図 5-2 のようになった。表 26 と表 27 で示した、黄色の枠組みで囲まれた規範は、共用規範を、青色の枠組みで囲まれた規範は日本語母語規範を緑色の枠組みで囲まれた規範はアラビア語母語規範を意味する。

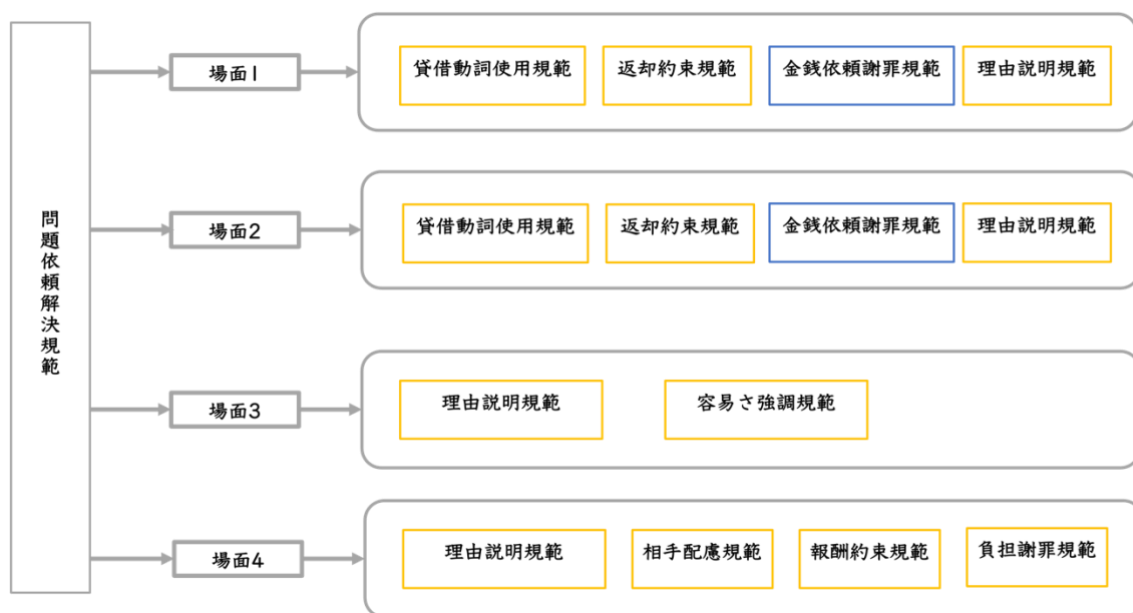


図 5-1 日本人から確認された依頼の際の規範の階層図

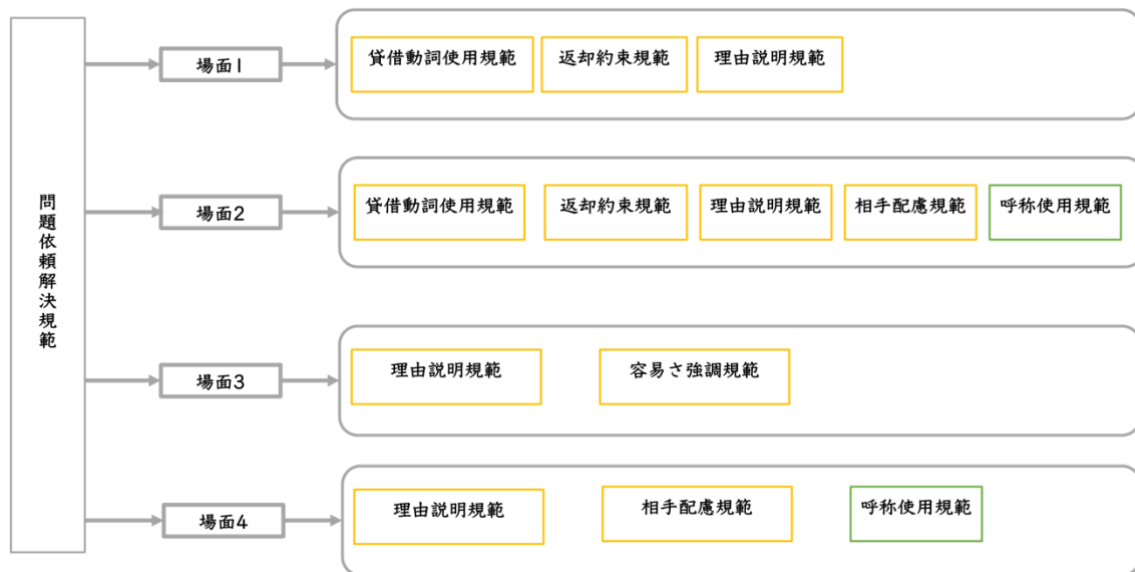


図 5-2 サウジアラビア人から確認された依頼の際の規範の階層図

最後に日・サ被調査者が DCT で設定された依頼を受ける場合の応答をまとめると以下の表 5-23 のようになった。表 5-23 の薄橙色で示したセルは、各場面で最も割合が高い応答を意味している。この表 5-23 の結果から日・サ被調査者ともにすべての場面で【断り】よりも【承諾】を使用する傾向があることが明らかになった。

表 5-23 日・サ被調査者の使用した「依頼」に対する応答の分類

場面	被調査者	承諾		断り	
		積極的な承諾	消極的な承諾	間接的な断り	直接的な断り
場面1	日本人	73.6%	22.4%	—	—
	サウジアラビア人	100%	—	—	—
場面2	日本人	13.6%	52.4%	15.9%	18.1%
	サウジアラビア人	73.6%	22.4%	2%	2%
場面3	日本人	100%	—	—	—
	サウジアラビア人	100%	—	—	—
場面4	日本人	44%	53.6%	2.4%	—



面 4	サウジアラビア 人	51.9%	36.8%	11.3%	—
--------	--------------	-------	-------	-------	---

また表 5-23 の結果は、日・サ被調査者が感じる依頼の負担度をまとめた 4.5 の表 4-8 と表 4-9 の結果と以下の点で同様の傾向が見られた。

表 4-8 各場面における日本人の規範傾向及び最も選ばれた選択肢

場面 負担度	立場	規範の傾向	評価			
			思う		思わない	
			非常に 思う	やや 思う	あまり 思わない	全然 思わない
金銭貸 借・小	依頼者	金銭貸借依頼否定規範	49.5%	36.4%	9.3%	4.7%
	被依頼者	金銭貸借依頼肯定規範	0.9%	15%	32.7%	51.4%
金銭貸 借・大	依頼者	金銭貸借依頼否定規範	87.9%	10.3%	1.9%	0%
	被依頼者	金銭貸借依頼否定規範	47.7%	34.6%	7.5%	10.3%
時間提 供・小	依頼者	時間提供依頼否定規範	9.3%	42.1%	26.2%	22.4%
	被依頼者	時間提供依頼肯定規範	0.9%	8.4%	18.7%	72%
時間提 供・大	依頼者	時間提供依頼否定規範	48.6%	39.3%	6.5%	5.6%
	被依頼者	時間提供依頼否定規範	17.8%	43.9%	14%	24.3%

表 4-9 各場面におけるサウジアラビア人の規範傾向及び最も選ばれた選択肢

場面 負担度	立場	規範の傾向	評価			
			思う		思わない	
			非常に 思う	やや 思う	あまり 思わない	全然 思わない
金銭貸 借・小	依頼者	金銭貸借依頼肯定規範	14.5%	31.8%	41.8%	11.8%
	被依頼 者	金銭貸借依頼肯定規範	0%	0.9%	10%	89.1%
金銭貸 借・大	依頼者	金銭貸借依頼否定規範	47.3%	42.7%	6.4%	3.6%
	被依頼 者	金銭貸借依頼肯定規範	7.3%	20%	26.4%	46.4%
時間提 供・小	依頼者	時間提供依頼肯定規範	1.8%	4.5%	13.6%	80%
	被依頼 者	時間提供依頼肯定規範	0%	2.7%	11.8%	85.5%
時間提 供・大	依頼者	時間提供依頼肯定規範	10.9%	22.7%	25.5%	40.9%
	被依頼 者	時間提供依頼肯定規範	10%	23.6%	28.2%	38.2%

例えば日・サ被調査者ともに場面 1 の被依頼者の立場では「金銭貸借依頼肯定規範」を、場面 3 では「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させる傾向が 4 章のアンケート調査で見られており、DCT でも【承諾】が選択される結果が見られた。

またサウジアラビア人は負担度が大きい場面では、小さい場面よりも「非常に思う」と「やや思う」の数値が増えるが、規範の傾向は変わらず、場面 2 では「金銭貸借依頼肯定規範」を、場面 4 では「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させる傾向が見られた。依頼の負担度に関する意識調査の結果と同様に、DCT でも場面 1 や場面 3 より【承諾】の割合が減少したが、場面 2 や場面

4でも【承諾】が選択される傾向が見られた。

さらに場面3では、日・サ被調査者ともに、依頼の負担度のアンケート調査で「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させる傾向があるため、調整行動においても依頼を肯定的に捉えるのではないかと想定したが、DCTでも【承諾】が選択される傾向が見られた。そして場面2のサウジアラビア人は「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させる傾向があるため、調整行動においても依頼を肯定的に捉えるのではないかと想定したが、DCTでも【承諾】が選択される傾向が見られた。

一般的にサウジアラビア社会では、親疎関係が最も重視されるため、親しい相手からの依頼ならば、負担度が極めて高い依頼を除いて受け入れる傾向が強い。そのため、本研究のサウジアラビア人がすべての場面で【承諾】を選択する傾向が見られたのではないかと考えられる。

一方、日本人は、場面2では負担だと「非常に思う」が、場面4では「やや思う」が最も選択されており、10,000円を貸す依頼と30分かかるアンケートに回答する依頼を負担だと捉える傾向が4章の調査で明らかになった。そのため、DCTの回答では【断り】が使用される傾向が強いのではないかと想定していた。しかしながら、DCTの回答では、日本人は両場面ともに【消極的な承諾】が最も多く、【承諾】の傾向が見られた。

これは、日本社会でも親疎関係はサウジアラビア社会ほどではないが重要な社会的属性であるため、本研究の日本人は親友からの依頼に対して【承諾】を選択する傾向が見られたのではないかと考えられる。また場面2と場面4で【消極的な承諾】が最も選択された要因としては、親友からの依頼を【承諾】すべきだと感じていても、10,000円を貸す依頼と30分かかるアンケートに回答する依頼は日本人にとって負担だと感じる依頼のため、妥協した結果になったのではないかと考えられる。

以上のことから日・サ被調査者ともに親友からの依頼を【承諾】する傾向が見られた要因として、依頼者が親友であるという人間関係が大きく影響しているのであろうと考察できる。

## 第 6 章

### 6. 日本人とサウジアラビア人を参加者とするロールプレイによる依頼会話の接触場面分析

#### 6.1. はじめに

本章ではロールプレイで得られた日本人とサウジアラビア人の接触場面における依頼会話を、言語管理理論を用いて分析する。最初に日・サ被調査者が依頼者の立場で使用した意味公式と依頼に関する接触場面の規範を考察する。次に、日・サ被調査者が被依頼者の立場で使用した依頼に対する応答の種類とその規範を明らかにする。最後に、フォローアップインタビューをもとに、日・サ被調査者が会話中に感じた意識を明らかにしながら、さらに接触場面における依頼の規範の考察を深めていく。

#### 6.2. 研究方法

##### 6.2.1. 被調査者の属性

本章ではロールプレイ会話によるデータを収集した。表 6-1 に示したように、日本人とサウジアラビア人の被調査者計 14 人から協力を得た。日本語を学習しているサウジアラビア人を探すことは困難なため、サウジアラビア人に限り、4 章で分析した依頼の負担度に関するアンケート及び 5 章で分析した DCT においても回答を依頼した。またこのサウジアラビア人は、日本語学習歴が 4 年以上あり、全員が日常会話についてはなんの支障もないレベルの日本語能力を有していた。

ロールプレイ会話はオンライン上で行ったが、自然な会話を得るために、日本の大学に留学しているサウジアラビア人と、サウジアラビア人と面識があり親しい関係にある日本人の大学生を対象とした。そのため、最初にサウジアラビア人依頼者に協力を持ちかけ、その後、サウジアラビア人を經由して日本人に協力を願い出た。両者が研究への協力を許可したら、その日・サ被調査者を 1 ペアと数えた。そして各ペアのスケジュールが重ならないように調整を行い、ロールプレイ実施の前日に当該ペアへ ZOOM のリンクを送った。ロールプレイ当日には、筆

者は被調査者の母語（日本語とアラビア語）で研究内容と研究目的と所要時間等を説明した。また、ロールプレイ会話はレコーディングをされるので、会話中顔を見せるかどうかは被調査者の自由に任せた。ロールプレイカードに関しては、ZOOMのチャット機能を使い、被調査者の母語で書かれたカードを送った。また依頼の順番は、サウジアラビア人大学生が日本人の行う依頼の模倣をするのではないかと考え、最初にサウジアラビア人が依頼をする側の役を、日本人が依頼を受ける側の役を演じてもらった。サウジアラビア人が4つの全場面で依頼役を終えた後、今度は日本人大学生に依頼者の役を、サウジアラビア人に被依頼者の役を演じてもらった。ロールプレイ終了後、収集したデータは文字化された。なお、7ペアのうち3ペアはロールプレイ終了から1週間以内にフォローアップインタビューを行った。

表 6-1 調査対象者の属性とペアの組み合わせ

調査対象者		日本人			サウジアラビア人	
人数		7人			7人	
年齢		20代			20代	
性別		男性			男性	
収集方法		ロールプレイ会話（ZOOMによるオンライン会話）				
期間		2022年3月				
ペア番号	被調査者	所属	学年	性別	年代	日本語学習歴
ペア 1	J1	T 大学	4 年生	男	20 代	-
	S1	T 大学	4 年生	男	20 代	5 年以上
ペア 2	J2	T 大学	4 年生	男	20 代	-
	S2	T 大学	4 年生	男	20 代	5 年以上
ペア 3	J3	T 大学	4 年生	男	20 代	-
	S3	T 大学	4 年生	男	20 代	5 年以上
ペア 4	J4	T 大学	3 年生	男	20 代	-

	S4	T 大学	3 年生	男	20 代	4 年以上
ペア 5	J5	TK 大学	3 年生	男	20 代	-
	S5	TK 大学	3 年生	男	20 代	4 年以上
ペア 6	J6	KK 大学	4 年生	男	20 代	-
	S6	KK 大学	4 年生	男	20 代	5 年以上
ペア 7	J7	HK 大学	3 年生	男	20 代	-
	S7	HK 大学	3 年生	男	20 代	4 年以上

表 6-1 に示したように、データを収集した順番で J1、J2、S1、S2 のように記号を付けた。また、上下関係などが会話に影響を及ぼさないように、所属、学年、性別、おおよその年齢を統一した。3 年生と 4 年生を対象とした理由に関しては、サウジアラビア人留学生は来日した後、通常 2 年間日本語学校で日本語を学習し、その後、大学に入学するので、3 年生の段階で、4 年間以上日本に滞在していることになる。したがって、日本人大学生の同級生とは何の問題もなく日本語で会話ができる日本語能力であると考えられる。また、本研究では親友関係を対象としているので、3 年生や 4 年生になれば、1 年生からの友達がいって、親しい関係になっている可能性が高いからである。

### 6.2.2. 場面設定とロールプレイカード

本研究で使用する場面設定は、3 章で述べた場面設定を用いるが、日本語接触場面を対象とするため、場面 1 と場面 2 では日本円を設定した。ロールプレイの場面設定は以下の 3 章で述べた表 3-2 のとおりである。

表 3-2 本研究におけるロールプレイの場面設定

金銭	場面 1:負担小	親友に 500 円を借りる場面
貸借	場面 2:負担大	親友に 10,000 円を借りる場面
時間提供	場面 3:負担小	親友に 5 分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面
	場面 4:負担大	親友に 30 分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面

また以下に実際に使用した日本語とアラビア語のロールプレイカードを場面ごとに示す。

表 6-2 場面 1 (少額の金銭貸借の依頼)

	日本語版ロールプレイカード	アラビア語版ロールプレイカード
依頼者	<p>依頼者：</p> <p>会話相手は同じ大学に通うサウジアラビア人の親友です。あなたはこの親友と食堂へ行きました。レジのところで財布を出したら、現金がありませんでした。そこで、親友に 500 円を借りることにしました。その場面を思い浮かべながら、会話を始めてください。</p>	<p>الشخص الذي يطلب:</p> <p>الشخص الذي أمامك هو أعز أصدقائك في الجامعة وهو ياباني وتدرسون معاً في نفس التخصص، نفترض أنكم ذهبتُم إلى مطعم في الجامعة، وعند الكاشير أخرجت المحفظة ولم يكن معك نقود وقررت أن تستلف من صديقك 500 ين، تخيل الموقف وابدأ المحادثة مع صديقك.</p>
被依頼者	<p>被依頼者：</p> <p>会話相手は同じ大学に通うサウジアラビア人の親友です。この親友に食堂のレジのところで、あることを頼まれます。普段通りに、会話をしてください。親友からの依頼を受け入れるか、断るかはあなたに任せます。</p>	<p>الشخص الذي يتلقى الطلب:</p> <p>الشخص الذي أمامك هو أعز أصدقائك في الجامعة وهو ياباني وتدرسون معاً في نفس التخصص، نفترض أنك ذهبت مع صديقك إلى مطعم في الجامعة وعندها سيطلب منك طلب، المطلوب منك أن تتخيل الموقف وترد عليه كما لو أن المحادثة حقيقية، قبول الطلب أو رفضه يعتمد عليك أثناء المحادثة.</p>

表 6-3 場面 2 (高額の金銭貸借の依頼)

	日本語版ロールプレイカード	アラビア語版ロールプレイカード
依頼者	<p>依頼者：</p> <p>会話相手は同じ大学に通うサウジアラビア人の親友です。あなたは今お金に困っていて、どうしても 10,000 円が必要です。そこで、親友に 10,000 円を借りることにしました。その場面を思い浮かべながら、会話を始めてください。</p>	<p>الشخص الذي يطلب:</p> <p>الشخص الذي أمامك هو أعز أصدقائك في الجامعة وهو ياباني وتدرسون معاً في نفس التخصص، نفترض أنك تمر بضائقة مالية وتحتاج مبلغ 10,000 ين وقررت أن تستلف من أعز أصدقائك مبلغ 10,000 ين، تخيل الموقف وابدأ المحادثة مع صديقك.</p>
被依頼者	<p>被依頼者：</p> <p>会話相手は同じ大学に通うサウジアラビア人の親友です。この親友にあたることを頼まれます。普段通りに、会話をしてください。親友からの依頼を受け入れるか、断るかはあなたに任せます。</p>	<p>الشخص الذي يتلقى الطلب:</p> <p>الشخص الذي أمامك هو أعز أصدقائك في الجامعة وهو ياباني وتدرسون معاً في نفس التخصص، نفترض أنك ذهبت مع صديقك إلى مطعم في الجامعة وعندها سيطلب منك طلب، المطلوب منك أن تتخيل الموقف وترد عليه كما لو أن المحادثة حقيقية، قبول الطلب أو رفضه يعتمد عليك أثناء المحادثة.</p>

表 6-4 場面 3 (短時間の提供依頼)

	日本語版ロールプレイカード	アラビア語版ロールプレイカード
依頼者	<p>依頼者：</p> <p>会話相手は同じ大学に通うサウジアラビア人の親友です。あなたは別の友達に5分ぐらいかかるアンケートを頼まれました。親友にもそのアンケートに答えてくれるように頼みます。その</p>	<p>الشخص الذي يطلب:</p> <p>الشخص الذي أمامك هو أعز أصدقائك في الجامعة وهو ياباني وتدرسون معاً في نفس التخصص، نفترض أن معك استبيان طلبه منك زميل آخر وقررت حينها أن تطلب من صديقك الذي أمامك أن يقوم بكتابة الاستبيان ومدته 5 دقائق تقريباً، تخيل الموقف وابدأ</p>



	場面を思い浮かべながら、会話を始めてください。	المحادثة مع صديقك.
被 依 頼 者	被依頼者： 会話相手は同じ大学に通うサウジアラビア人の親友です。この親友に頼まれることを頼まれます。普段通りに、会話をしてください。親友からの依頼を受け入れるか、断るかはあなたに任せます。	الشخص الذي يتلقى الطلب: الشخص الذي أمامك هو أعز أصدقائك في الجامعة وهو ياباني وتدرسون معاً في نفس التخصص، سيطلب منك طلب، المطلوب منك أن تتخيل الموقف وترد عليه كما لو أن المحادثة حقيقية، قبول الطلب أو رفضه يعتمد عليك أثناء المحادثة.

表 6-5 場面 4 (長時間の提供依頼)

	日本語版ロールプレイカード	アラビア語版ロールプレイカード
依 頼 者	依頼者： 会話相手は同じ大学に通うサウジアラビア人の親友です。あなたは別の友達に 30 分ぐらいかかるアンケートを頼まれました。親友にもそのアンケートに答えてくれるように頼みます。その場面を思い浮かべながら、会話を始めてください。	الشخص الذي يطلب: الشخص الذي أمامك هو أعز أصدقائك في الجامعة وهو ياباني وتدرسون معاً في نفس التخصص، نفترض أن معك استبيان طلبه منك زميل آخر وقررت حينها أن تطلب من صديقك الذي أمامك أن يقوم بكتابة الاستبيان ومدته 30 دقيقة تقريباً، تخيل الموقف وابدأ المحادثة مع صديقك.
被 依 頼 者	被依頼者： 会話相手は同じ大学に通うサウジアラビア人の親友です。この親友に頼まれることを頼まれます。普段通りに、会話をしてください。親友からの依頼を受け入れるか、断るかはあなた	الشخص الذي يتلقى الطلب: الشخص الذي أمامك هو أعز أصدقائك في الجامعة وهو ياباني وتدرسون معاً في نفس التخصص، سيطلب منك طلب، المطلوب منك أن تتخيل الموقف وترد عليه كما لو أن المحادثة حقيقية، قبول الطلب أو رفضه يعتمد عليك أثناء المحادثة.

	に任せます。	
--	--------	--

### 6.2.3. 発話の定義

宇佐美（1996）が指摘したように、発話を明確に定義せず、話しことばを文字化しても相づちや言いよどみなどの生起によって、話し手の発話を同定することは困難である。従って、本研究では以下の宇佐美（1996：48）に従い、ロールプレイの発話を次のように定義する。

「一単語であったり、また逆に長い文の途中であいづちが入るなどして、話者が一旦、或いは、数回交代したりしていても、同一話者による意味的に一つのまとまりをもった『文』を、中途終了型発話も含めて『一発話』と数えた」（宇佐美 1996：48）

以上の定義と、以下の表 6-6 の加藤（2010：60）を参考に作成した表記法に従い、発話データを文字化した後、伊集院（2004）を踏襲し、発話を相槌的発話と実質的発話に分類した。伊集院（2004）は、相槌的発話を、「応答詞」と「感動詞」だけの発話、笑い声のほか、おうむ返しや単純な聞き返しを包括した発話のこととしている。本研究では、「そう」や「そうです」なども相槌的発話とした。残りの実質的発話とは、全発話から相槌的発話を除いた後に残った発話である。

表 6-6 会話データの表記法（加藤 2010:60 を参考に作成）

表記	意味
・	短いポーズ
・・	3 秒までの間
・・・	5 秒までの間
(～秒)	それ以上は秒数を () 内に書き込む
(?)	() 内のクエスチョンは聞き取れないか不明確な箇所
()	() 内は話し手の笑い、行動、表情などを補ったもの
<>	<>内は聞き手の笑い、行動、表情、あいづちなどを補ったもの
(笑)	大きな笑い声のみのもの
!	声の大きい発話
!!	話者が大声で驚いた反応
?	質問文

:	長音
	発話が重なっている場所
/	発話が遮られている箇所
—	前の話者の発話と次の話者の発話の時間的感覚がない場所
*数字	同一の発話であることを表す
(↗)	上昇のイントネーション
(↘)	下降のイントネーション

#### 6.2.4. 意味公式の分類

本研究では、依頼者の発話を分析するための方法として、意味公式を使用する。意味公式の定義は、5.2.3.で述べた「発話行為を構成する最小の機能的な意味単位」とし、藤森（1995）、池田他（2002）、徐（2008）及び李（2008, 2009）を参考に、本研究で得られたデータから意味公式の分類を以下の表 6-7 のように作成した。

表 6-7 被調査者が使用した意味公式の定義と例

意味公式	定義	日本語例	アラビア語例
依頼	話し手が聞き手に何らかの負担をかけながらも自分の利益になることを実行してもらうように求める表現	例：「500 円借りていい？」 例：「書いて貰えない？」	例：ممکن تسلفني 貸してもらっていい？ 例：ممکن تجاوب على الاستبيان アンケートに答えてもらっていい？
状況説明	自分の状況や依頼内容などの説明	例：「お金おろすの忘れちゃって」 例：「なんかアンケート頼まれてるんだけど」	例：مامعي كاش 「現金はないね」 例：عندي استبيان مدته 5 دقائق 「5分ぐらいかかるアンケートがあるけど」
約束	依頼者が被依頼者に頼むものに対し、その物の返却か別の行為で恩返しをする発話	例：「今度返すからさー」 例：「寿司奢るから」	例：ارجعلك لا سحبت فلوس 「お金を下ろしたら、返すよ」 例：واعتمد على العشاء 「晩御飯をおごるよ」

謝罪	依頼相手に与えてしまう負担に対する申し訳ない気持ちの表明	例：「ごめんね、」 例：(?)「ちょっと悪いんだけど、」	例：عفوًا يا صديقي 「すみませんが、」 例：بقروشك 「悪いけど、」
実行しやすさの強調	依頼内容が被依頼者の負担にならないことを強調する表現	例：「簡単なアンケートだから」 例：「これすぐ終わるアンケートなんだけど」	例：ماراح ياخذ منك وقت 「そんなに時間はかからないよ」 例：كلها ده ماراح تضر 「5分しかかからないよ」
呼びかけ	被依頼者の名前やあだ名のみを呼ぶ行為やお互いの親しさを強調する表現	例：(確認されず)	例：يا فلان 「～君」 例：ما جيتك الا عشان المعزة اللي بيننا 「～君は親しいし、」 例：يا عاز صديق عندي 「やあ、私の一番親しい友達」
相手への配慮	相手が被る負担への配慮の表明	例：「本当にもし余裕あったらでいいんだけど」 例：「今日中じゃなくていいから」	例：اذا ما فيها كلافه عليك 「無理なければ、」 例：متي ما فضيت 「暇な時でもいいけど」
懇願	依頼を受け入れてもらうため、依頼相手に頼み願う行為	例：「お願いがあるんだけど」 例：「お願い！」	例：واتمنى منك اذا ما عليك امر 「お願いだけど」 例：قاصدك بخدمه 「お願いがある」
情報要求	被調査者の都合や依頼内容の実現が可能かを探る表現	例：「500円ある？」 例：「ちょっと時間ある？」	例：معك فلوس زايد شئ 「お金の余裕がある？」 例：مممكن خمس دقائق بس 「5分ぐらいある？」

### 6.2.5. 依頼に対する応答の分類

本研究では 5.2.4. で述べた依頼に対する応答の分類である表 6-8 を用いて、被依頼者が依頼をどのように受け止めるのかを明らかにする。表 6-8 を再掲する。

表 6-8 依頼に対する応答の分類

分類		定義
承諾	① 積極的な承諾	「はい、どうぞ」「いいよ」「分かった」「大丈夫だよ」「了解です」等のように、依頼者の依頼をその場で無条件に実行する意味を持つ応答のこと。
	② 消極的な承諾	「いいけど、返してね」、「いいけど、なんで?」、「しょうがないな!」、「時間がある時にやるね」、「奢ってくれるなら!」等のように、消極的で、時間が経過してから、あるいはなんかの条件付きで依頼を実行する意味を持つ応答のこと。
断り	③ 間接的な拒否	「私が借りたいくらいなんだよなー」、「〇〇〇円はちょっと厳しいかなー」、「ちょっと時間ないかな」等のように、依頼者の依頼を間接的かつあいまいに断る意味を持つ応答のこと。
	④ 直接的な拒否	「できない」、「嫌だ」、「無理」等のように、依頼者の依頼を直接的かつ率直に断る意味を持つ応答のこと。

また、本研究では被依頼者の発話を意味公式でコーティングしないが、例外として表 6-7 の【情報要求】を意味する被依頼者の発話のみはコーティングし、分析の対象とする。それは次の理由による。

先行研究で日本人は依頼を実行する前に、依頼の説明を行うことを複数の研究者が報告（柏崎 1993、張穎 2004、猪崎 2000、徐 2007b、グエン 2017）している。また、本研究でも 5 章で依頼者の置かれた状況を説明するという「理由説明規範」を有する日本人の存在が明らかになった。以

上の結果から、依頼者は依頼相手に対して依頼の説明をすることを当然だと思う規範を被依頼者も顕在化させるのではないかと考えた。そして、依頼者が依頼の説明を行わない場合、被依頼者は「理由説明規範」から逸脱が生じたと判断し、依頼の情報を要求するのではないかと考えた。そのため【情報要求】のみをコーティングすることにした。

また、5章の結果では、「理由説明規範」を有していたサウジアラビア人依頼者がいたことから、サウジアラビア人も被依頼者の立場で「理由説明規範」を顕在化させるのではないかと考えた。そのため、日本人被依頼者だけでなく、サウジアラビア人被依頼者の【情報要求】も分析することとする。

### 6.3. 結果と考察

本研究ではロールプレイ談話を文字化したデータから談話の表層を分析する研究と、文字化データを基に被調査者へフォローアップ・インタビューを行い、被調査者の内省から談話の深層を分析する2種類の分析を行う。

1つ目の分析は6.3.1.から6.3.4.で行い、日・サ被調査者が日本語接触場面で、依頼の開始から依頼が成立もしくは不成立するまでのロールプレイの談話データを分析する。具体的には、6.3.1.では場面1の、6.3.2.では場面2の、6.3.3.では場面3の、6.3.4.では場面4の依頼者が依頼開始から依頼の成立・不成立までの間で使用した意味公式から接触場面において依頼者が有した依頼の規範を同定し、被依頼者が依頼者の発話を受けてどのような応答を選択したのかを明らかにする。

そして、2つ目の分析は6.3.5.で行い、フォローアップ・インタビューの協力が得られた人の分析を行う際には、インタビューで明らかにした被調査者の内省から規範を明らかにする。

また本節で分析の対象とする意味公式は、依頼者が使用した発話から抽出した意味公式に限定する。依頼者が使用した意味公式は、金銭貸借と時間の提供の問題を解決するため、親友に依頼を行うという設定の下で行われたロールプレイ会話から収集されたものである。従って、ロールプレイ会話の根幹である自分自身の問題を解決するため、親友に依頼を行うという設定であるが、そもそも問題を解決しようとする意思があるため、これを「問題依頼解決規範」とする。それゆ

え、依頼の実行から依頼が成立・不成立までの依頼者の発話すべてが、この「問題依頼解決規範」に基づいた談話であると捉える。そして、以下で明らかにする意味公式の規範すべてが「問題依頼解決規範」の下位規範であるとする。

### 6.3.1. 場面 1 で使用された意味公式と規範

本節では、少額の金銭貸借（500 円）を依頼する日本語接触場面のロールプレイ調査で依頼の開始から依頼が成立もしくは不成立するまでの発話で使用された意味公式を明らかにし、意味公式から依頼する側の規範を同定する。また、被依頼者が同場面の依頼を受け入れたか否かも述べる。

#### 6.3.1.1. 日本人が依頼者、サウジアラビア人が被依頼者

まず、日本人が依頼者、サウジアラビア人が被依頼者の立場を演じた際に依頼の開始から依頼が成立もしくは不成立するまでの談話データを談話例 6-1 に示した。

談話例 6-1 場面 1 で見られた日本人の依頼とサウジアラビア人の応答

ペア	日本人が依頼者、サウジアラビア人が被依頼者
1	<p>J1 : やべ、今日さ財布忘れちゃってさ、500 円貸してくれないかな？</p> <p style="text-align: center;">【状況説明】      【依頼】</p> <p>S1 : 全然いいです。</p>
2	<p>J2 : ちょっと今このお弁当をレジへ持って行ったら、全部で 800 円で。</p> <p style="text-align: center;">【状況説明】</p> <p>S2 : 800 円？</p> <p>J2 : 800 円で、僕 300 円しか持ってなくて、で返すのは絶対返すから、500 円だけ借りれないかな今？</p> <p style="text-align: center;">【状況説明】      【約束】      【依頼】</p> <p>S2 : 500 円、食事代だよ。いいよ、大丈夫。</p>

3	<p>J3：あ：ちょっとすみません、実は今えっとそのお会計で財布の中に 500 円足りないので、ちょっと 500 円今ちょっと借りることはできませんか。</p> <p>【謝罪】 【状況説明】 【依頼】</p> <p>S3：はい、できますよ。大丈夫ですよ。</p>
4	<p>J4：あ、ちょっと待って 500 円ないな、ちょっとごめん、貸：してくれる？ 500 円。</p> <p>【状況説明】 【謝罪】 【依頼】</p> <p>S4：いいよ、いいよ。</p>
5	<p>J5：あ、そう。僕は今からごはん食べたいんだけど、ちょっと財布を家に忘れて、500 円貸してくれる？</p> <p>【状況説明】 【依頼】</p> <p>S5：全然、全然いいよ、どうぞ。</p>
6	<p>J6：ちょっと、ごめん。</p> <p>【謝罪】</p> <p>S6：はい。</p> <p>J6：えっと、実は今日お金、財布持ってきてなくて、500 円ちょっと貸して頂きたいんですけど、大丈夫ですか。</p> <p>【状況説明】 【依頼】 【相手への配慮】</p> <p>S6：はい、大丈夫です。どうぞ。</p>
7	<p>J7：お、いけ、ちょっとごめん、お金忘れちゃった。</p> <p>【謝罪】 【状況説明】</p> <p>S7：あれ（笑）、そう？</p> <p>J7：海鮮丼は 500 円だから、貸してくれない？</p> <p>【依頼】</p> <p>S7：ああ、全然いいよ。今日奢るよ。</p>



談話例 6-1 で確認された日本人依頼者が使用した意味公式の数とサウジアラビア人被依頼者の依頼の応答の種類をまとめると表 6-9 の通りになった。以下でそれぞれの意味公式が使用された要因と、各意味公式の規範を明らかにする。その後、サウジアラビア人の依頼の応答の規範を確認する。

表 6-9 日本人依頼者が場面 1 に使用した意味公式と使用率

被調査者	確認された意味公式の回数				
	依頼	状況説明	謝罪	約束	相手への配慮
J1	1	1	-	-	-
J2	1	2	-	1	-
J3	1	1	1	-	-
J4	1	1	1	-	-
J5	1	1	-	-	-
J6	1	1	1	-	1
J7	1	1	1	-	-

表 6-9 で示したように最初に分析する意味公式は【依頼】で、この意味公式を日本人依頼者 7 人全員が使用していた。これはロールプレイカードで、「親友に 500 円を借りることにしました。」と設定されているので、日本人依頼者 7 人全員が【依頼】を使用したという当然の結果が確認された。

また【依頼】で使われた動詞に注目すると、日本人依頼者 7 人全員が貸借を表す動詞（貸す・借りる）を使用していた。そのため、5.3.1.1. で述べた親友に金銭を借りる依頼を行う場合、借りを負うことを明確に伝えるために貸借動詞を使用するという「貸借動詞使用規範」を日本語接触場面でも顕在化させていたのではないか。山本他（2003）や竹尾他（2005）が報告しているように、日本では金銭の貸借を否定的に捉える傾向が強いため、少額の金銭であってもこの規範を

顕在化させたのだと考える。

次は【状況説明】で、この意味公式を日本人依頼者7人全員が依頼者の立場で使用していたことから、5.3.1.1. で述べた親友に金銭を借りる依頼を行う際に、依頼者が置かれた状況を説明するという「理由説明規範」を日本人依頼者全員が顕在化させていたからだと考える。柳

(2012) 等の先行研究では、日本人は依頼を行う際にその説明を行うケースが多いという報告がされているが、本研究でも同様の結果が見られた。また、【状況説明】の意味公式の位置を確認すると、すべての日本人依頼者が【依頼】の前に【状況説明】を行っていた。

次に考察する意味公式は【謝罪】で、J1、J2、J5 を除く4人がこの意味公式を使用していた。この意味公式を使用していた4人は、5.3.1.1. で述べた日本社会で否定的に評価される金銭を借りるという行為を親友に依頼することに対して、申し訳ないと感じ、謝罪表現を用いるという「金銭依頼謝罪規範」を顕在化させていたため、この規範を使用したと考える。

その次の意味公式は【約束】で、J2がこの意味公式を使用しており、J2は5.3.1.1 で述べた親友に金銭を借りる依頼を行う際には、返却の約束も伴わなければならないという「返却約束規範」を顕在化させていたため、この意味公式を使用したと考える。

最後は【相手への配慮】で、J6のみがこの意味公式を使用していた。また、J6は「金銭依頼謝罪規範」も顕在化させており、500円を借りる依頼であっても負担だと感じていると言えよう。そのため、「金銭依頼謝罪規範」だけでなく、5.4. で述べた「相手配慮規範」を顕在化させ、依頼相手であるS6が被る負担を軽減させようと試みたのではないかと推察される。

表 6-10 サウジアラビア人被依頼者が場面1で使用した依頼に対する応答

サウジアラビア人被依頼者		
番号	依頼の応答の種類	【情報要求】使用回数
S1	積極的な承諾	0
S2	積極的な承諾	0
S3	積極的な承諾	0
S4	積極的な承諾	0

S5	積極的な承諾	0
S6	積極的な承諾	0
S7	積極的な承諾	0

表 6-10 に基づいて以下では、サウジアラビア人被依頼者の依頼の応答について分析を行う。4 章の依頼内容の負担度を明らかにしたアンケート調査で、サウジアラビア人はサウジアラビア人の親友とのアラビア語母語場面において少額の金銭を貸す依頼を受けると、それを負担だと思わない「金銭貸借依頼肯定規範」を強く顕在化させる傾向が見られた。また、5 章の DCT では、アラビア語母語場面で親友から少額の金銭を貸す依頼を受けると【積極的な承諾】が選択される傾向が確認された。一方、日本語接触場面のロールプレイ調査では、サウジアラビア人被依頼者 7 人全員が【積極的な承諾】を行っていた。そのため、サウジアラビア人は少額の金銭を貸す依頼を日本語接触場面で受けたとしても、「金銭貸借依頼肯定規範」を強く顕在化する傾向があると考えられる。

また、場面 1 で【情報要求】の意味公式を使用したサウジアラビア人被依頼者は確認されなかった。この理由は、本場面で日本人依頼者すべてが【状況説明】を使用していたことから、「理由説明規範」の逸脱が生じず、そのままこの規範が適用されたと考える。

### 6.3.1.2. サウジアラビア人が依頼者、日本人が被依頼者

次にサウジアラビア人が依頼者、日本人が被依頼者の立場を演じた際に依頼の開始から依頼が成立もしくは不成立するまでの談話データを談話例 6-2 に示した。

談話例 6-2 場面 1 で見られたサウジアラビア人の依頼と日本人の応答

ペア	サウジアラビア人依頼者の依頼の出現順序
1	<p>S1：今日はなんかお金持ってないから、500 円貸して给我せんか。  【状況説明】 【依頼】</p> <p>J1：あ、お金忘れちゃったの？ 【情報要求】</p> <p>S1：はい、そう。</p> <p>J1：いくら？ 【情報要求】</p>

	<p>S1 : 500 円です。</p> <p>J1 : 500 円？</p> <p>S1 : いいですか。</p> <p>【依頼】</p> <p>J1 : 別に 500 円貸してあげるよ。</p>
2	<p>S2 : あのう、ちょっとお弁当買って来るけど&lt;笑&gt;もうお金は足りないので、500 円もらっていいですか。</p> <p>【状況説明】 【依頼】</p> <p>J2 : (笑) どうしたの？大丈夫？【情報要求】</p> <p>S2 : (笑) 大丈夫、大丈夫、でも 500 円だけ足りないので／</p> <p>【状況説明】</p> <p>J2 : /ああ、オッケー大丈夫。</p>
3	<p>S3 : あ、オッケー。500 円ちょうだい (笑)。</p> <p>【依頼】</p> <p>J3 : (笑い) いいけど、どうしたの？【情報要求】</p>
4	<p>S4 : あの、食事代の 500 円ぐらい貸してもらってもいい？</p> <p>【依頼】</p> <p>J4 : 500 円は食事に使うの？【情報要求】</p> <p>S4 : 食事、食事です。今ここでもう料理貰っているの。</p> <p>【状況説明】</p> <p>J4 : ああ、そっか。500 円か：。</p> <p>S4 : 終わったら、ATM とかへ行ったら、ちゃんと下ろして、返すよ。</p> <p>【約束】</p> <p>J4 : あ、そう。じゃ、500 円だったらいいよ。今貸すよ。</p>
5	<p>S5 : あ、なんか、ちょっと 500 円貸してくれますか？</p> <p>【依頼】</p> <p>J5 : ああ。なんで？【情報要求】</p> <p>S5 : あのう、お金を下ろし忘れちゃって、そのまま来ちゃったみたい。</p> <p>【状況説明】</p> <p>J5 : あ：、500 円ならいいよ。</p>
6	<p>S6 : あのう、私はちょっと困ってるけど、500 円を貸してくれる？</p> <p>【状況説明】 【依頼】</p> <p>J6 : いいよ、いいよ、もちろん。</p> <p>S6 : 私の財布を忘れた。</p> <p>【状況説明】</p> <p>J6 : ああ、大丈夫、大丈夫。</p>
7	<p>S7 : 500 円貸してくれない？貸してくれない？ (笑) 500 円。</p> <p>【依頼】</p>

	J7：なんで（笑）【情報要求】 S7： お金忘れちゃった。 【状況説明】 J7：しょうがないな、いいよ（笑）。
--	--

談話例 6-2 で確認されたサウジアラビア人依頼者が使用した意味公式の数と日本人被依頼者の依頼の応答の種類をまとめると表 6-11 の通りになった。以下でそれぞれの意味公式が使用された要因と、各意味公式の規範を明らかにする。その後、サウジアラビア人の依頼の応答の規範を確認する。

表 6-11 サウジアラビア人依頼者が場面 1 に使用した意味公式と使用率

被調査者	確認された意味公式の回数		
	依頼	状況説明	約束
S1	1	1	-
S2	1	2	1
S3	1	1	-
S4	1	1	-
S5	1	1	-
S6	1	2	-
S7	1	1	-

表 6-11 で示したように最初に分析するのは【依頼】の意味公式で、サウジアラビア人依頼者 7 人全員がこの意味公式を使用していたが、ロールプレイカードの設定上、当然の結果であると言えよう。

また【依頼】で使われた動詞に着目すると、サウジアラビア人依頼者 7 人中 5 人が貸借を表す動詞（貸す・借りる）を使用し、残り 2 人は譲渡を表す表現（ちょうだい・くれない）を使用していた。この結果から、貸借動詞を使用した 5 人は「貸借動詞使用規範」を顕在化させ、残りの

2人は潜在化させていたのではないか。

5.3.1.2で、サウジアラビア人は少額の金銭を借りる依頼をアラビア語母語場面で行う際に、貸借動詞を使用した人の割合は30.2%であったが、日本語接触場面では7人中5人(71.4%)が貸借動詞を使用していた。この要因は、本研究のサウジアラビア人依頼者の日本滞在歴が4年以上であるため、日本社会で「貸借動詞使用規範」が強く顕在化される傾向があることを理解していたからだと考える。

2番目は【状況説明】の意味公式で、サウジアラビア人依頼者7人全員がこの意味公式を使用していた。しかしながら、日本人被依頼者から【情報要求】を受ける前に、【状況説明】を使用したサウジアラビア人依頼者は3人だけで、残りの4人は【情報要求】を受けてから【状況説明】を使用していた。5.3.1.2.で明らかにした、アラビア語母語場面だが本研究と同じ場面設定のDCTにおける【状況説明】の使用率は37.7%であったことから、この意味公式がアラビア語母語場面で使用される可能性は高くない。そのため、【状況説明】を使用しなかった4人は、アラビア語母語場面のよう、「理由説明規範」を潜在化させていたのではないか。そして【状況説明】を使用した残りの3人は、日本語接触場面規範であることを意識し、この規範を顕在化させていたと考えられる。

3番目に分析する意味公式は【約束】で、S2がこの意味公式を使用していた。この意味公式を使用していたS2は6.3.1.1で述べた「返却約束規範」を顕在化させていたと考えられる。5.3.1.2.で明らかにした、アラビア語母語場面だが本研究と同じ場面設定のDCTにおける【状況説明】の使用率は47.7%であったことから、約半分のサウジアラビア人はこの意味公式をアラビア語母語場面で使用する可能性があると言えよう。しかしながら、日本語接触場面であるロールプレイ調査では、【約束】の意味公式を使用していたのは1人だけであった。そのため、少額の金銭を借りる依頼を日本語接触場面でする際に「返却約束規範」が潜在化されるのではないか。

表 6-12 日本人被依頼者が場面1で使用した依頼に対する応答

日本人被依頼者		
番号	依頼の応答の種類	【情報要求】使用回数

		【状況説明】 無	【状況説明】 後
J1	消極的な承諾	0	2
J2	積極的な承諾	0	1
J3	積極的な承諾	1	0
J4	消極的な承諾	1	0
J5	消極的な承諾	1	0
J6	積極的な承諾	0	0
J7	消極的な承諾	1	0

表 6-12 に基づいて以下では、日本人被依頼者の依頼の応答について分析を行う。4 章の依頼内容の負担度を明らかにしたアンケート調査では、日本人は日本人の親友との日本語母語場面において少額の金銭を貸す依頼を受けると、それを負担だと思わない「金銭貸借依頼肯定規範」を顕在化させる傾向が見られた。また 5 章の DCT の結果から、日本語母語場面で親友から少額の金銭を貸す依頼を受けると、63.8%が【積極的な承諾】を、36.2%が【消極的な承諾】を選択しており、【積極的な承諾】が取られる傾向が明らかになった。一方、日本語接触場面のロールプレイ調査では、日本人被依頼者 7 人の内、J2、J3、J6 (42.8%) が【積極的な承諾】を、残りの 4 人 (57.1%) が【消極的な承諾】を選択しており、【消極的な承諾】の方が多かった。DCT とロールプレイ調査でこのような違いが明らかになったが、この要因として考えられることは、ロールプレイ調査は日本語接触場面で行われたため、本研究の日本人依頼者は「金銭貸借依頼肯定規範」を日本語母語場面に比べ、弱く顕在化させたからではないか。しかしながら、両調査で【断り】よりも【承諾】を選択する傾向は DCT とロールプレイの両方で共通していたため、日本人は親友のサウジアラビア人から少額の金銭を貸す依頼を日本語接触場面で受けたとしても、「金銭貸借依頼肯定規範」を弱く顕在化する傾向があるといえよう。

次に、何人の日本人被依頼者が【情報要求】を使用したのか概観すると、J6 を除く 6 人がこの意味公式を使用していた。また【情報要求】の発話を確認すると、6 人全員が依頼の理由を尋ね

ていたことから、この6人すべてがサウジアラビア人依頼者から十分な説明を受けていないと感じ、「理由説明規範」から逸脱が生じ、調整行動として【情報要求】を使用したと考えられる。

さらに、規範の強弱の観点から分析すると、【情報要求】を使用したJ4、J5、J6、J7の内4人は、【依頼】の前に【状況説明】を受けていなかった。そして、その4人は【依頼】を受けた後、【情報要求】を行い、サウジアラビア人依頼者から【情報説明】を受け、その後は、それ以上【情報要求】を行っていなかった。一方、残りのJ1とJ2は、【状況説明】を【依頼】の前に受けていたが、再度【情報要求】を行い、さらなる依頼の説明を求めている。そのため、【情報説明】を受けてもなお【情報要求】を行った2人は、「理由説明規範」を強く顕在化させていたのではないか。なお【情報要求】を使用しなかった1人は、【依頼】の前に【状況説明】を受けていたため、「理由説明規範」がそのまま適用されたのだと考えられる。

### 6.3.2. 場面2で使用された意味公式と規範

本節では、多額の金銭貸借（10,000円）を依頼するロールプレイ場面で依頼の開始から依頼が成立もしくは不成立するまでの発話で使用された意味公式を明らかにし、意味公式から依頼する側の規範を同定する。また、被依頼者が同場面の依頼を受け入れたか否かも述べる。

#### 6.3.2.1. 日本人が依頼者、サウジアラビア人が被依頼者

まず日本人が依頼者、サウジアラビア人が被依頼者の立場を演じた際に依頼の開始から依頼が成立もしくは不成立するまでの談話データを談話例6-3に示した。

談話例 6-3 場面2で見られた日本人の依頼とサウジアラビア人の応答

ペア	日本人依頼者の依頼の出現順序
1	<p>J1：最近さ、お金が全然なくて、困ってて。</p> <p>【状況説明】</p> <p>S1：あ、そう？何かあった？【情報要求】</p> <p>J1：どうしても10,000円必要なんだけど、ごめん、今月返すから10,000円、貸してく</p> <p>【状況説明】 【謝罪】 【約束】</p> <p>れないかな？</p> <p>【依頼】</p>



	S1:今持ってないけど、ATM、あとで行ってきます。
2	<p>J2:実は本当申し訳ないけど、クレジットカードに入ってるお金が足りないの、でどうしても1万円が必要なので、ちょっと今払わなきゃいけない状況なんですけど、月末までには絶対返すから、どうか貸していただけませんか？</p> <p>【謝罪】 【状況説明】 【約束】 【依頼】</p> <p>S2:あ、10,000円ですか。何に使うの？どうして必要ですか(笑)。【情報要求】</p> <p>J2:(笑)あ、お支払いはあ、明日までなんですけど、オンラインで買いたいものがある、で、ちょっとどうしても、今払わなければいけないから、お願いします。</p> <p>【状況説明】</p> <p>S2:じゃあ、いいよ。</p>
3	<p>J3:あ、本当すみません、ごめん。実はこれから病院に行かなきゃいけないんです。あ、この、検査のためにちょっと病院に行かなきゃいなくて、でちょっと予約を取ったんですけど、でもお金を持ってくるのを忘れちゃった。明日とか明後日すぐに返すので、今ちょっと10,000円を貸してもらえませんか。</p> <p>【謝罪】 【状況説明】 【約束】 【依頼】</p> <p>S3:はい、大丈夫です。</p>
4	<p>J4:いや、ちょっと今日実習着の買うやつって今日までじゃん？</p> <p>【状況説明】</p> <p>S4:ああ、確かにそう。</p> <p>J4:お金忘れちゃって。</p> <p>【状況説明】</p> <p>S4:(笑)やばいぞ。</p> <p>J4:ちょっと本当に申し訳ないけど、明日返すから、10,000円貸してくれない？</p> <p>【謝罪】 【約束】 【依頼】</p> <p>S4:あ、全然いいよ。</p>
5	<p>J5:いや、なんか最近ちょっとパソコン色々勉強してて、でパソコンの部品色々あるんだけど、ちょっと買いたくて、で10,000円ちょっと高くて、10,000円するんだけど、今お金がね、ちょっと少なくて、10,000円はないんだよね。だから申し訳ないけどちょっと借りたいなっていう気持ちなんですけど。</p> <p>【状況説明】 【謝罪】 【依頼】</p> <p>S5:あ、全然大丈夫だよ。友達だから、遠慮しなくていいですよ。10,000円ぐらいいいよ。</p>
6	<p>J6:あ、この、ちょっとどうしても欲しいものがあるんだけど、オンラインで見たら今日まで安くなってるのね。</p> <p>【状況説明】</p> <p>S6:はい。</p>

	<p>J6: そう、で、今お金なくて、申し訳ないけど、10,000 円欲しい、貸してくれないかな 今月中に絶対返すから</p> <p>【状況説明】 【謝罪】 【依頼】 【約束】</p> <p>S6: 僕も本当に生活費でちょっと困ってるんですけど。</p> <p>J6: うんうんうん。</p> <p>S6: でも（名前）さんのためなら&lt;笑い&gt;、貸します。</p> <p>J6: ごめんね。</p>
7	<p>J7: 僕、明日発売のどうしても欲しいポケモンゲームがあって（笑）</p> <p>【状況説明】</p> <p>S7: ポケモンゲーム！（笑）</p> <p>J7: そう、それをお店で予約したんだけど。</p> <p>【状況説明】</p> <p>S7: うんうんうん。</p> <p>J7: その限定商品が付いてるやつ。でそれがちょっと、お金は今 10,000 円足りなくな っちゃって、10,000 円、今だけちょっと貸してもらえないかな？</p> <p>【依頼】</p> <p>S7: ポケモンのために 10,000 円（笑）。</p> <p>J7: そうそう（笑）、ちょっと限定のグッズが付いてるやつで、ちょっと今しか買えなく て、ちょっと来月になっちゃうかもしれないんだけど、給料が入ったら絶対返すか ら、ごめんちょっとだけ貸してくれないかな？</p> <p>【状況説明】 【約束】 【謝罪】 【依頼】</p> <p>S7: バイトやって頑張ってると思うんで、もちろんあげるよ 10,000 円。【積極的 な承諾】</p>

談話例 6-3 で確認された日本人依頼者が使用した意味公式の数とサウジアラビア人の依頼の応答の種類をまとめると以下の表 6-13 のようになった。以下でそれぞれの意味公式が使用された要因と、各意味公式の規範を明らかにする。その後、サウジアラビア人の依頼の応答の規範を確認する。

表 6-13 日本人依頼者が場面 2 で使用した意味公式と使用率

被調査者	確認された意味公式の回数			
	依頼	状況説明	謝罪	約束
J1	1	2	1	1

J2	1	2	1	1
J3	1	1	1	1
J4	1	2	1	1
J5	1	1	1	-
J6	1	2	2	1
J7	1	2	1	1

表 6-13 で示したように最初に分析するのは【依頼】で、この意味公式を日本人依頼者 7 人全員が使用していた。6.3.1.1. の考察同様、ロールプレイカードの設定上、当然の結果であると言えよう。

また【依頼】で使われた動詞に注目すると、日本人依頼者 7 人全員が貸借動詞を使用していたことから、6.3.1.1. で述べた「貸借動詞使用規範」を顕在化させたのだと考えられる。

2 番目の意味公式は【状況説明】で 7 人全員がこの意味公式を使用していた。このことから、この 7 人全員が、6.3.1.1. で述べた「理由説明規範」を顕在化させ、調整行動として【状況説明】を使用したのではないか。また、少額の金銭（500 円）を借りる場面 1 よりも、多額の金銭（10,000 円）を借りる場面 2 のほうが、【状況説明】の意味公式を繰り返す人が多かったことから、依頼する金額が増額するに比例して、この規範を強く顕在化する人が増加すると考えられる。さらに、本研究の日本人依頼者は、場面 1 と場面 2 の両場面で全員が【状況説明】を使用していた。そのため、「理由説明規範」は依頼する金額の大小に関わらず、金銭を借りる依頼場面で顕在化されるのではないか。また、【状況説明】の意味公式の位置を確認すると、場面 1 同様、すべての日本人依頼者が【依頼】の前に【状況説明】を行っていた。そして後述するサウジアラビア人被依頼者からの【情報要求】よりも前に、この意味公式を使用していた。そのため、本研究の日本人依頼者全員が、金銭の負担度に関わらず「理由説明規範」を強く意識していたと考えられる。

3 番目の意味公式は【謝罪】で、7 人中 7 人がこの意味公式を使用していた。この 7 人全員は

6.3.1.1 で述べた「金銭依頼謝罪規範」を顕在化させていたため、【謝罪】の意味公式を使用したと考えられる。また、この意味公式の場面1における使用者数は3人だけだったのに対し、場面2では7人全員がこの意味公式を使用していた。そのため、依頼する金額が増額するに比例して、この規範を顕在化させる日本人依頼者が増えるのだと考えられる。また場面1で「相手配慮規範」を唯一顕在化させ、「金銭貸借依頼否定規範」も強く顕在化させていたJ6は、【謝罪】を2度使用していた。

4番目は【約束】で、J5を除く6人がこの意味公式を使用していた。この6人は6.3.1.1. で述べた「金銭返却約束規範」を顕在化させていたため【約束】の意味公式を使用したのではないかと考えられる。そして、この意味公式を使用した日本人依頼者は場面1では1人だけだったが、場面2では3人に増加していた。このことから、「金銭返却約束規範」は、依頼する金額が増加するに比例して、顕在化されると考えられる。

表 6-14 サウジアラビア人被依頼者が場面2で使用した依頼に対する応答

サウジアラビア人被依頼者			
番号	依頼の応答の種類	【情報要求】使用回数	
		【状況説明】前	【状況説明】後
S1	消極的な承諾	0	1
S2	消極的な承諾	0	1
S3	積極的な承諾	0	0
S4	積極的な承諾	0	0
S5	積極的な承諾	0	0
S6	消極的な承諾	0	0
S7	積極的な承諾	0	0

表 6-14 に基づいて以下では、サウジアラビア人被依頼者の依頼の応答について分析を行う。4章の依頼内容の負担度を明らかにしたアンケート調査で、サウジアラビア人はサウジアラビア人

の親友とのアラビア語母語場面において多額の金銭を貸す依頼を受けると、それを負担だと思わない「金銭貸借依頼肯定規範」を強く顕在化させる傾向が見られた。また、5章のアラビア語母語場面のDCTでは、親友から多額の金銭を貸す依頼を受けると73.6%が【積極的な承諾】を、22.4%が【消極的な承諾】を、2%が【間接的な断り】を、2%が【直接的な断り】を選択する傾向が確認された。一方、日本語接触場面のロールプレイ調査では、サウジアラビア人被依頼者7人の内、S3、S4、S5、S7の4人(57.1%)が【積極的な承諾】を、S1、S2、S6の3人(42.8%)が【消極的な承諾】を行っていた。アラビア語母語場面のDCTと日本語接触場面のロールプレイ調査の両方で【積極的な承諾】を行うという類似した傾向が確認されたことから、サウジアラビア人は、アラビア語母語場面でも日本語接触場面でも、多額の金銭を貸す依頼に対して、「金銭貸借依頼肯定規範」を顕在化する傾向があると考えられる。

次に、何人のサウジアラビア人被依頼者が【情報要求】を使用したのについては、7人中2人がこの意味公式を使用していた。また【情報要求】の発話内容を確認すると、【状況説明】で触れられなかったより詳細な依頼の理由を尋ねていた。このことから、この2人は日本人依頼者から十分な説明を受けていないと感じ、「理由説明規範」から逸脱が生じ、調整行動として【情報要求】を使用したと考えられる。また、【情報要求】を行った2人は、いずれも【消極的な承諾】を行っていた。

そのため、サウジアラビア人は、日本語接触場面で、日本人の親友から金銭貸借の依頼を受けた際、【情報要求】を使用することによって、その依頼に対して消極的であることを間接的に伝えるという「理由説明規範」に属するストラテジーを使用したのではないかと考えられる。

そして、規範の強弱の観点から【情報要求】と「理由説明規範」を分析すると、【情報要求】を使用した2人は、依頼者から【状況説明】を受けた後、【情報要求】を使用していた。日本人依頼者から【状況説明】で【依頼】の前に説明を受けたにも関わらず、再度【情報要求】を行い、理由を求めていたことから、この2人は「理由説明規範」を強く顕在化させていたと考えられる。

#### 6.3.2.2. 日本人が依頼者、サウジアラビア人が被依頼者

まずサウジアラビア人が依頼者、日本人が被依頼者の立場を演じた際に依頼の開始から依頼が

成立もしくは不成立するまでの談話データを談話例 6-4 に示した。

談話例 6-4 場面 2 見られたサウジアラビア人の依頼と日本人の応答

ペア	サウジアラビア人依頼者の依頼の出現順序
1	<p>S1 : なんかお金はちょっとあまり持ってないけど、あのう家族からくうん&gt;頼んだけど、まだ届いてないから、ちょっとあのう 10,000 欲しいんですけど、もし大丈夫だったら、あのう 10,000 貸してませんか。</p> <p>【状況説明】 【相手への配慮】 【依頼】</p> <p>J1 : 10,000 円！！ 【情報要求】</p> <p>S1 : はい。あのうお金は届いたら、すぐ返します。(名前) !</p> <p>【約束】 【呼びかけ】</p> <p>J1 : すぐ返すなら、貸してあげるよ。</p>
2	<p>S2 : 私はどうしても 10,000 円を (笑) 借りたいけど&lt;笑&gt;、もしできれば、ちょっと困っていることがあって、10,000 円あのう貸してくれない？</p> <p>【依頼】 【相手への配慮】 【状況説明】 【依頼】</p> <p>J2 : いいよ。大丈夫です。</p>
3	<p>S3 : えっと、ちょっと私は 10,000 円が必要です。</p> <p>【状況説明】</p> <p>J3 : ああ、うん。</p> <p>S3 : もし、問題はなければ、ちょっと貸してください。来月奨学金を貰ってから、返します。(名前) 君！</p> <p>【相手への配慮】 【依頼】 【約束】 【呼びかけ】</p> <p>J3 : あ、分かりました。大丈夫です。</p>
4	<p>S4 : あのう、ちょっとお金結構困ってるから、本当にお金があればいいですけど、貸してくれないかな？</p> <p>【状況説明】 【相手への配慮】 【依頼】</p> <p>J4 : え、いくらぐらい？ 【情報要求】</p> <p>S4 : ええ、ちょっと高いですけど、10,000 円／</p> <p>【状況説明】</p> <p>J4 : /10,000 円？</p> <p>S4 : 貸してくれたら、助かります。</p> <p>【依頼】</p> <p>J4 : あ、ちなみに貸したとして、いつぐらい返せる？ 【情報要求】</p> <p>S4 : 一週間後に絶対に返します。</p> <p>【約束】</p>

	J4：一週間か、じゃ、一応貸すけど、絶対返してね。
5	<p>S5：重く感じたら、断っても全然いいんだけど、最近は何、試験が多くて、バイト数が減っちゃって。</p> <p>【相手への配慮】 【状況説明】</p> <p>J5：ああ、確かに。</p> <p>S5：うん、なのでちょっと 10,000 円ぐらいが電気代とガス代を払いたいですけど、10,000 円が貸せるのであれば、貸してくれる？</p> <p>【相手への配慮】 【依頼】</p> <p>J5：どうかな、10,000 円か：。</p> <p>S5：高いけど、後で返すので。</p> <p>【約束】</p> <p>J5：いいよ、いいよ、10,000 円。でも、割と早めに返して欲しいかなって思ってるから。</p>
6	<p>S6：あのちょっと、生活にちょっと困ってるんですから、あのう、10,000 円貸していいですか。</p> <p>【状況説明】 【依頼】</p> <p>J6：いいけど、いつ返してくれますか。【情報要求】</p> <p>S6：あ、今月の 28 日。</p> <p>【約束】</p> <p>J6：28 日に？オッケー、じゃ私はまず ATM 行かないとないんで、ATM 行って、10,000 円とって、渡します。</p>
7	<p>S7：あのう今月のインターネット代、えっと、何か支払い期限 10,000 円分払わないと、インターネットが切ってしまうので、えっと給料日まで返してあげるんだけど、ちょっと 10,000 円ぐらい貸してもらえませんか。</p> <p>【状況説明】 【約束】 【依頼】</p> <p>J7：10,000 円か：。給料日はどれぐらいで給料日になりますか。【情報要求】</p> <p>S7：えっと、26 日 27 日ぐらい。</p> <p>【情報説明】</p> <p>J7：ああ、そっかそっか。</p> <p>S7：それまでは絶対返します。(名前)さん！</p> <p>【約束】 【呼びかけ】</p> <p>J7：返してくれるなら、10,000 円か：。他の人は聞いてみた？【情報要求】</p> <p>S7：ほかの人はまだ聞いてない。まあ、他の人にも聞いてみます。</p> <p>【相手への配慮】</p> <p>J7：そっか、じゃ：一応他の人に聞いてダメだったら、貸します。</p>

談話例 6-4 で確認されたサウジアラビア人依頼者が使用した意味公式の数と日本人被依頼者の依頼の応答の種類をまとめると表 6-15 のようになった。以下でそれぞれの意味公式が使用され

た要因と、各意味公式の規範を明らかにする。その後、サウジアラビア人の依頼の応答の規範を確認する。

表 6-15 サウジアラビア人依頼者が場面 2 で使用した意味公式と使用率

被調査者	確認された意味公式の回数				
	依頼	状況説明	相手への配慮	約束	呼びかけ
S1	1	1	1	1	1
S2	2	1	1	-	
S3	1	1	1	1	1
S4	1	2	1	1	-
S5	1	1	2	1	-
S6	1	1	-	1	
S7	1	2	1	1	1

表 6-15 で示したように最初に分析するのは【依頼】で、この意味公式をサウジアラビア人 7 人全員が使用していた。そのため 6.3.1.1. の考察同様、ロールプレイカードの設定上、当然の結果であると言えよう。

また【依頼】で使われた動詞に着目すると、サウジアラビア人依頼者 7 人全員が貸借動詞を使用していたことから、この 7 人は「貸借動詞使用規範」を顕在化させていたのではないか。

アラビア語母語場面と日本語接触場面を比較すると、5.3.1.2 で、サウジアラビア人は多額の金銭を借りる依頼をアラビア語母語場面で行う際に、貸借動詞を使用した人の割合は 69.8%であった。しかし日本語接触場面のロールプレイ調査における貸借動詞の使用率は 100%であった。この要因は、6.3.1.2. で述べたように、本研究のサウジアラビア人の日本滞在歴が 4 年以上であるため、日本社会で金銭貸借が好まれないことを認識していたからではないか。さらに、サウジアラビア人は、アラビア語接触場面で親友のサウジアラビアに多額の金銭（300 リヤル）を依頼することを負担だと思いう「金銭貸借依頼否定規範」を顕在化させる傾向が見られた。そのため、



相手に依頼者が借りを負うことを明確に伝える「貸借動詞使用規範」が強く顕在化したのではないかと考えられる。

2番目の意味公式は【状況説明】で、7人全員がこの意味公式を使用していた。このことから、この7人全員が、6.3.1.1.で述べた「理由説明規範」を顕在化させ、調整行動として【状況説明】を使用したのではないか。また、少額の金銭（500円）を借りる場面1では、日本人被依頼者から【情報要求】を受けてから【情報説明】をするサウジアラビア人が4人いた。しかし、多額の金銭（10,000円）を借りる場面2では、この7人全員が【依頼】の意味公式よりも前に【状況説明】の意味公式を使用していた。このことから、依頼する金額が増額するに比例して、この規範を顕在化する人が増加すると考えられる。

3番目に分析する意味公式は【相手への配慮】で、7人全員がこの意味公式を使用していた。上の【依頼】の段落で述べたように、サウジアラビア人はアラビア語母語場面で多額の金銭を借りる依頼場面2を負担だと感じる傾向が見られていたことから、7人全員が多額の金銭を借りることは依頼に負担をかけてしまうと感じ、5.3.1.2で述べた「相手配慮規範」を顕在化させ、【相手への配慮】を使用したと考えられる。

4番目は【約束】で、S2を除く6人がこの意味公式を使用していた。この6人は6.3.1.1.で述べた「金銭返却約束規範」を顕在化させていたため【約束】の意味公式を使用したのではないか。そして、この意味公式を使用したサウジアラビア人依頼者は場面1では1人だけだったが、場面2では5人に増加していた。このことから、「金銭返却約束規範」は、依頼する金額が増加するに比例して、顕在化されると考えられる。

5番目は【呼びかけ】で、この意味公式の使用者数はS1、S3、S7の3人であった。この意味公式は日本語母語場面のDCTでも、日本語接触場面のロールプレイ調査でも、日本人依頼者の使用が確認されなかった。そのため、この意味公式は日本語母語場面では使用されない意味公式であり、この3人は5.3.1.2.で述べた「呼称使用規範」を日本語接触場面でも顕在化させていたのではないか。また、この意味公式が使用された場面は負担度の大きい金銭借入の依頼場面であるため、エシーバ（2019：55）が「体系的な敬語がないアラビア語でも、「呼称」表現を待遇的に使用する」と報告したように、【呼びかけ】を待遇表現として使用したと考えられる。

表 6-16 日本人被依頼者が場面 2 で使用した依頼に対する応答

日本人被依頼者			
番号	依頼の応答の種類	【情報要求】使用回数	
		【状況説明】前	【状況説明】後
J1	消極的な承諾	0	1
J2	積極的な承諾	0	0
J3	積極的な承諾	0	0
J4	消極的な承諾	0	2
J5	消極的な承諾	0	0
J6	消極的な承諾	0	1
J7	消極的な承諾	0	2

表 6-16 に基づいて以下では、日本人被依頼者の依頼の応答について分析を行う。4 章の依頼内容の負担度を明らかにしたアンケート調査では、日本人は日本人の親友との日本語母語場面において多額の金銭を貸す依頼を受けると、それを負担だと思ふ「金銭貸借依頼否定規範」を強く顕在化させる傾向が見られた。一方、5 章の DCT の結果では、日本語母語場面で親友から多額の金銭を貸してくれるよう依頼を受けると、13.6%が【積極的な承諾】を、同回答で最多となる 52.4%が【消極的な承諾】を、15.9%が【間接的な断り】を、18.1%が【直接的な断り】を選択していた。このような結果に対して、日本語接触場面のロールプレイ調査では、日本人被依頼者 7 人の内、3 人（42.8%）が【積極的な承諾】を、4 人（57.1%）が【消極的な承諾】を選択しており、日本語母語場面の DCT と類似した傾向が見られた。そのため、日本人は親友のサウジアラビア人から多額の金銭を貸す依頼を日本語接触場面で受けたとしても、「金銭貸借依頼肯定規範」を顕在化させる傾向があるといえよう。

次に、何人の日本人被依頼者が【情報要求】を使用したのか調べると、7 人中 4 人がこの意味公式を使用していた。【情報要求】の発話内容を確認すると、この 4 人全員が【状況説明】で触れ

られなかったより詳細な依頼の理由を尋ねていた。また4人中2人は必要な金額を再度確認していた。このことから、この4人はサウジアラビア人依頼者から十分な説明を受けていないと感じ、「理由説明規範」から逸脱が生じ、調整行動として【情報要求】を使用したと考えられる。

そして、規範の強弱の観点から【情報要求】と「理由説明規範」を分析すると、【情報要求】を使用したこの4人全員が、依頼者から【状況説明】を受けた後に、【情報要求】を使用していた。そのため、彼らは「理由説明規範」を強く顕在化させ、日本人依頼者からの説明を受けたが、説明が不十分であると捉え、逸脱からの調整行動として【情報要求】を使用したと考えられる。

### 6.3.3. 場面3で使用された意味公式と規範

本節では、短時間の提供（5分）を依頼する日本語接触場面のロールプレイ場面で依頼の開始から依頼が成立もしくは不成立するまでの発話で使用された意味公式を明らかにし、意味公式から依頼する側の規範を同定する。また、被依頼者が同場面の依頼を受け入れたか否かも述べる。

#### 6.3.3.1. 日本人が依頼者、サウジアラビア人が被依頼者

日本人が依頼者、サウジアラビア人が被依頼者の立場を演じた際に依頼の開始から依頼が成立もしくは不成立するまでの談話データを談話例6-5に示した。

談話例6-5 場面3で見られた日本人の依頼とサウジアラビア人の応答

ペア	日本人依頼者の依頼の出現順序
1	<p>J1: なんか、俺の友達にさ、なんかアンケートお願いされてて、そのアンケートが5分ぐらいかかるんだけど、そのアンケートやってくれないかな？</p> <p>【状況説明】 【依頼】</p> <p>S1: うん、何について？ 【情報要求】</p> <p>J1: 内容は分からないけど、5分ぐらいかかるアンケートで、友達にお願いされてて、(名前)君もそのアンケート答えてくれないかな？</p> <p>【状況説明】 【依頼】</p> <p>S1: うん、大丈夫。</p>
2	<p>J2: えっと、もし余裕があるなら、あのうあまり時間はかからないと思うけど、私の友達からアンケート頼まれてて、(名前)さんにちょっと答えてもらいたいけど、今時間あるの？</p>

	<p>【相手への配慮】 【実行しやすさの強調】 【状況説明】 【依頼】</p> <p>S2：はい、どのぐらい、時間は？【情報要求】</p> <p>J2：えっと、5分、5分で終わるので。</p> <p>【実行しやすさの強調】</p> <p>S2：あ、5分だったら、どうぞどうぞ、大丈夫です。</p>
3	<p>J3：実は友達はそのアンケートがあって、ちょっと5分で終わるんで、協力してもらいたいけど、やってもらえないかな。</p> <p>【状況説明】 【実行しやすさの強調】 【依頼】</p> <p>S3：はい、もちろんいいですよ。</p>
4	<p>J4：ちょっとさ、別の学部のやつにアンケートに答えて欲しいって、なるべくたくさんの人に答えて欲しいってちょっと頼まれて、ぜひちょっとやって欲しいんだ。</p> <p>【状況説明】 【依頼】</p> <p>S4：あ、オッケーオッケー。</p>
5	<p>J5：なんかさ、昨日友達に言われたんだけど、なんかアンケート、5分くらい終わるんだけど、もらったんで、答えて欲しいんだけど、いい？</p> <p>【状況説明】 【依頼】</p> <p>S5：うん、いいよ。</p>
6	<p>J6：大学の授業でくうん、外国人に5分かかるアンケート、そういう宿題出ちゃって、5分だけで終わると思うんだけど、ちょっとお願いできないかな？</p> <p>【状況説明】 【実行しやすさの強調】 【依頼】</p> <p>S6：5分で終わるやつ、別にいいよ。</p>
7	<p>J7：元気元気。あのさ、授業で外国の人に答えてもらってるんだけど、5分しかかからないけど／</p> <p>【状況説明】 【実行しやすさの強調】</p> <p>S7：／私で大丈夫ですか。【情報要求】</p> <p>J7：うん、大丈夫、ちょっとやってほしい。</p> <p>【依頼】</p> <p>S7：あ、じゃ、オッケー。</p>

談話例 6-5 で確認された日本人依頼者が使用した意味公式の数とサウジアラビア人被依頼者の依頼の応答の種類をまとめると以下の表 6-17 ようになった。以下でそれぞれの意味公式が使用された要因と、各意味公式の規範を明らかにする。その後、サウジアラビア人の依頼の応答の規範を確認する。

表 6-17 日本人被依頼者が場面 2 で使用した依頼に対する応答

被調査者	確認された意味公式の回数			
	依頼	状況説明	実行しやすさの強調	相手への配慮
J1	1	2	-	-
J2	1	1	2	1
J3	1	1	1	-
J4	1	1	-	-
J5	1	1	-	-
J6	1	1	1	-
J7	1	1	1	-

表 6-17 に提示したように、短時間の提供を依頼する場面 3 において、日本人依頼者全員（7 人中 7 人）が【依頼】を使用していた。6.3.1.1. の考察同様、ロールプレイカードの設定上、当然の結果であると言えよう。

2 番目に分析する意味公式は【状況説明】で、日本人依頼者全員（7 人中 7 人）がこの意味公式を使用していた。これは、この日本人依頼者全員が 6.3.1.1. で述べた「理由説明規範」を顕在化させていたからだと考えられる。また、場面 3 でもすべての日本人依頼者が【依頼】の前に【状況説明】を行っていた。さらに、ペア 1 とペア 2 の場合、サウジアラビア人被依頼者が【情報要求】を行っていたが、いずれも【状況説明】が先に行われていた。

3 番目に分析する意味公式は【実行しやすさの強調】で、J2、J3、J6、J7 の 4 人がこの意味公式を使用していた。4 章の依頼内容の負担度を明らかにしたアンケート調査で、日本人は場面 3 のような負担度の小さい時間提供の依頼を受ける場合、「時間提供依頼肯定規範」を強く顕在化させる傾向があることが明らかになった。また、5 章の DCT でも日本人は日本語母語場面の場面 3 でも【実行しやすさの強調】を使用する傾向が見られた。そのため、この意味公式を使用した 4 人は 6.3.3.1. で述べた「容易さ強調規範」を日本語接触場面でも顕在化させていたと考えられる。

4 番目に分析する意味公式は【相手への配慮】で、この意味公式を J2 だけが使用していた。J2

は短時間で済むアンケートへの回答依頼であっても、親友に負担をかけてしまうと感じ、6.3.2.2. で述べた「相手配慮規範」を顕在化させ、【相手への配慮】を行ったと考えられる。

表 6-18 サウジアラビア人被依頼者が場面 3 で使用した依頼に対する応答

サウジアラビア人被依頼者			
番号	依頼の応答の種類	【情報要求】使用回数	
		【状況説明】前	【状況説明】後
S1	積極的な承諾	0	1
S2	積極的な承諾	0	1
S3	積極的な承諾	0	0
S4	積極的な承諾	0	0
S5	積極的な承諾	0	0
S6	積極的な承諾	0	0
S7	積極的な承諾	0	0

表 6-18 に基づいて以下では、サウジアラビア人被依頼者の依頼の応答について分析を行う。4 章の依頼内容の負担度を明らかにしたアンケート調査で、サウジアラビア人はサウジアラビア人の親友とのアラビア語母語場面において 5 分程度で終わるアンケートへの回答依頼を受けると、それを負担だと思わない「時間提供依頼肯定規範」を強く顕在化させる傾向が見られた。また、5 章の DCT でも、同様の依頼場面で【積極的な承諾】を 53 人全員が選択していた。そして、日本語接触場面のロールプレイ調査においても、サウジアラビア人被依頼者 7 人全員が【積極的な承諾】を行っていたことから、本研究のサウジアラビア人は 5 分程度で終わるアンケートへの回答依頼を日本語接触場面で受けたとしても、「時間提供依頼肯定規範」を強く顕在化させる傾向があると考えられる。

次に、何人のサウジアラビア人被依頼者が【情報要求】を使用したのかについては、S1 と S2 の 2 人がこの意味公式を使用していた。また【情報要求】の発話内容を確認すると、【状況説明】で

触れられなかった必要な時間や依頼のアンケートの理由を尋ねていた。このことから、この2人は日本人依頼者から十分な説明を受けていないと感じ、「理由説明規範」から逸脱が生じ、調整行動として【情報要求】を使用したと考えられる。

そして、規範の強弱の観点から【情報要求】と「理由説明規範」を分析すると、【情報要求】を使用した2人は、依頼者から【状況説明】を受けた後、【情報要求】を使用していた。そのため、この2人は「理由説明規範」を強く顕在化させ、日本人依頼者からの説明を受けたが、説明が不十分であると捉え、逸脱からの調整行動として【情報要求】を使用したと考えられる。

### 6.3.3.2. サウジアラビア人が依頼者、日本人が被依頼者

まず、サウジアラビア人が依頼者、日本人が被依頼者の立場を演じた際に依頼の開始から依頼が成立もしくは不成立するまでの談話データを談話例 6-6 に示した。

談話例 6-6 場面 3 で見られたサウジアラビア人の依頼と日本人の応答

ペア	サウジアラビア人依頼者の依頼の出現順序
1	S1: あのを、友達アンケートはありますので、ちょっと5分かかるけど、やってもらえませんか。 【状況説明】 【依頼】 J1: ああ、大丈夫、やるわ。
2	S2: ちょっと答えてもらいたいアンケートがあるけどくうん。5分ぐらいかかると思う。 【依頼】 【状況説明】 J2: 大丈夫、大丈夫。
3	S3: 私の友達のアンケートがあります。5分だけだからやってくれませんか。 【状況説明】 【実行しやすさの強調】 【依頼】 J3: あ、もちろん、大丈夫です。
4	S4: あ、あのを、ちょっと手伝って欲しいと思ったけど。アンケートがあるから、5分だけかかると思うけど。 【依頼】 【状況説明】 【実行しやすさの強調】 J4: あ、いいよ、全然。
5	S5: (笑) あのを、最近友達研究でやってるんですけど、すぐ終わるアンケートですけど、コーヒー飲みながらやってくれと、助かる。 【状況説明】 【実行しやすさの強調】 【依頼】 J5: ああ、いいよいいよ、やりますやります。もちろん。

6	<p>S6：あのうちよっとアンケート、友達が授業のためにアンケートを作っていて、えっと日本人のかたに書いてもらいたいんだけど、一応5分もかからないと思うんで、頼んでもいいですか。</p> <p>【状況説明】 【実行しやすさの強調】 【依頼】</p> <p>J6：5分、5分で終わるのね。全部が5分？【情報要求】</p> <p>S6：そう、全部5分で終わると思うよ。</p> <p>【実行しやすさの強調】</p> <p>J6：ああ、じゃ5分だけだったらやります。</p>
7	<p>S7：ま、さっき授業で、アンケートを答えないといけなくて。</p> <p>【状況説明】</p> <p>J7：うん、はい。</p> <p>S7：ちょっと難しいけど、答えてもらっていいですか。</p> <p>【相手への配慮】 【依頼】</p> <p>J7：ああ、オッケー、どのくらい？【情報要求】</p> <p>S7：なんか、5分しかかからないと思う。</p> <p>【実行しやすさの強調】</p> <p>J7：あ、5分、オッケーオッケー、いいよいいよ。</p>

談話例 6-6 で確認されたサウジアラビア人依頼者が使用した意味公式の数と日本人被依頼者の依頼の応答の種類をまとめると、以下の表 6-19 ようになった。以下でそれぞれの意味公式が使用された要因と、各意味公式の規範を明らかにする。その後、サウジアラビア人の依頼の応答の規範を確認する。

表 6-19 サウジアラビア人依頼者が場面 3 で使用した意味公式と使用率

被調査者	確認された意味公式の回数			
	依頼	状況説明	実行しやすさの強調	相手への配慮
S1	1	1	-	-
S2	1	1	-	-
S3	1	1	1	-
S4	1	1	1	-
S5	1	1	1	-



S6	1	1	2	-
S7	1	1	1	1

表 6-19 に提示したように、短時間の提供を依頼する場面 3 において、サウジアラビア人依頼者全員（7 人中 7 人）が【依頼】を使用していた。6.3.1.1. の考察同様、ロールプレイカードの設定上、当然の結果であると言えよう。

2 番目に分析する意味公式は【状況説明】で、サウジアラビア人依頼者全員（7 人中 7 人）がこの意味公式を使用していた。これは、6.3.1.1. で述べた「理由説明規範」を 7 人全員が顕在化させていたからだと考えられる。また、いずれのサウジアラビア人依頼者も相手から【情報要求】を受ける前に【状況説明】を行っていた。

3 番目に分析する意味公式は【実行しやすさの強調】で、S1 と S2 を除く 5 人がこの意味公式を使用していた。4 章の依頼内容の負担度を明らかにしたアンケート調査で、サウジアラビア人は場面 3 のような負担度の小さい時間提供の依頼を受ける場合、「時間提供依頼肯定規範」を強く顕在化させる傾向があることが明らかになった。また、5 章の DCT でもサウジアラビア人はアラビア語母語場面の場面 3 でも【実行しやすさの強調】を使用する傾向が見られた。そのため、この意味公式を使用した 4 人は 6.3.3.1. で述べた「容易さ強調規範」を日本語接触場面でも顕在化させていたと考えられる。

4 番目に分析する意味公式は【相手への配慮】で S7 の 1 人がこの意味公式を使用していたが、この 1 人は短時間で済むアンケートへの回答依頼であっても、親友に負担をかけてしまうと感じ、6.3.2.2. で述べた「相手配慮規範」を顕在化させ、【相手への配慮】を行ったと考えられる。

表 6-20 日本人被依頼者が場面 3 で使用した依頼に対する応答

日本人被依頼者			
番号	依頼の応答の種類	【情報要求】使用回数	
		【状況説明】前	【状況説明】後
J1	積極的な承諾	0	0

J2	積極的な承諾	0	0
J3	積極的な承諾	0	0
J4	積極的な承諾	0	0
J5	積極的な承諾	0	0
J6	消極的な承諾	0	1
J7	積極的な承諾	0	1

以下では、日本人被依頼者の依頼の応答について分析を行う。4章の依頼内容の負担度を明らかにしたアンケート調査で、日本人は日本人の親友との日本語母語場面において5分程度で終わるアンケートへの回答依頼を受けると、それを負担だと思わない「時間提供依頼肯定規範」を強く顕在化させる傾向が見られた。また、5章の日本語母語場面のDCTでは、同様の依頼場面で【積極的な承諾】を47人全員が選択していたが、日本語接触場面のロールプレイ調査においては、日本人被依頼者J6を除く6人が【積極的な承諾】を、残り1人は【消極的な承諾】を行っていた。このような結果から、【積極的な承諾】を行った6人は「時間提供依頼肯定規範」を強く顕在化させ、【消極的な承諾】を行った1人は「時間提供依頼肯定規範」を弱く顕在化させていたと言えよう。

次に、このロールプレイ調査において何人の日本人被依頼者が【情報要求】を使用したのかについては、J6とJ7に2人がこの意味公式を使用していた（表6-26参照）。また【情報要求】の発話内容を確認すると、【状況説明】で触れられなかったアンケートにかかる時間を尋ねていた。また、【情報要求】を行わなかった日本人被依頼者の場合、サウジアラビア人依頼者がアンケートの所要時間を予め【状況説明】で伝えていた。このことから、日本人被依頼者は日本語接触場面で時間の提供依頼を受ける際に、依頼の理由だけでなく、タスクの完遂に必要な時間の伝達も重視すると考えられる。そのため、日本人被依頼者の場合、「時間提供の依頼を受ける場合、依頼相手は依頼の理由だけでなく、依頼の所要時間も説明すべき」という「理由説明規範」に属するストラテジーが存在すると考えられる。

そして、規範の強弱の観点から【情報要求】と「理由説明規範」を分析すると、【情報要求】を使用した2人は、依頼者から【状況説明】を受けた後、【情報要求】を使用していた。そのため、この2人は「理由説明規範」を強く顕在化させ、日本人依頼者からの説明を受けたが、説明が不十分であると捉え、逸脱からの調整行動として【情報要求】を使用したと考えられる。

#### 6.3.4. 場面4で使用された意味公式と規範

本節では、長時間の提供（30分）を依頼するロールプレイ場面で依頼の開始から依頼が成立もしくは不成立するまでの発話で使用された意味公式を明らかにし、意味公式から依頼する側の規範を同定する。また、被依頼者が同場面の依頼を受け入れたか否かも述べる。

##### 6.3.4.1. 日本人が依頼者、サウジアラビア人が被依頼者

まず日本人が依頼者、サウジアラビア人が被依頼者の立場を演じた際に依頼の開始から依頼が成立もしくは不成立するまでの談話データを談話例6-7に示した。

談話例6-7 場面4で見られた日本人の依頼とサウジアラビア人の応答

ペア	日本人依頼者の依頼の出現順序
1	<p>J1: あとさ、もう一つさ、国際問題についてのアンケートを友達がとってて、それ30分ぐらいかかるアンケートなんだけど、それもやってもらえないかな？</p> <p>【状況説明】 【依頼】</p> <p>S1: 30分は長いですね。今は時間ないから、あとでやってもいい？ どうすればいいですか？ 【情報要求】</p> <p>J1: 分かった。時間がある時でいいよ。</p> <p>【相手への配慮】</p> <p>S1: あ、でも友達だから、今早くちょっと頑張ります。20分ぐらいで頑張ります。【消極的な承諾】</p>
2	<p>J2: あのう、実はその：私の友達のアンケートが、えっとちょっと30分ぐらいかかるので、もし時間があれば、30分のアンケートに答えてもらえればなあと思っています。</p> <p>【状況説明】 【相手への配慮】 【依頼】</p> <p>S2: ああ、30分はちょっと長いね（笑）&lt;笑&gt;あのう、後ででも大丈夫？明日でも？ 【情報要求】</p> <p>J2: 時間がある時で、大丈夫。</p>

	<p>【相手への配慮】 S2：なら大丈夫</p>
3	<p>J3：ちょっと私の友達のアンケートがあるんですけど、協力していただけますか？ 【状況説明】 【依頼】 S3：どのくらい時間かかりますか？【情報要求】 J3：ああ、今じゃなくて大丈夫です。時間がある時で大丈夫です。ちょっともしかしたら30分ぐらいかかるかもしれないですけど、オンライン/ 【相手への配慮】 S3：／30分ですか。 J3：30分です。長いですけど、時間がある時いつでも大丈夫です。今から送るオンラインのアンケートに答えて頂けませんか。 【相手への配慮】 【依頼】 S3：はい、じゃ時間がある時に／</p>
4	<p>J4：ちょっと暇な時でもいいんだけど、別の学部のね、やつにね、30分ぐらいかかるんだけどくうん&gt;アンケートに答えて欲しいって言われたのよ。ぜひとも（名前）にやってもらいたいなと思って。 【相手への配慮】 【状況説明】 【依頼】 S4：今はちょっと忙しいけどくうん&gt;、後でも大丈夫？明日とか。【情報要求】 J4：うん、大丈夫。じゃ、明日お願いしてもいいかな？ 【相手への配慮】 S4：オッケー。</p>
5	<p>J5：一緒に勉強してる子がいるんだけど、その子はさ、なんかいきなりそのプログラミングについて、アンケートみたいな答えてくれと言われて、そう「あなたの勉強をどれぐらいやっていますか」、「何時間やっていますか」30分ぐらいあるんだけど、（名前）もちょっと答えてくれない？ 【状況説明】 【依頼】 S5：長いよね、長いよね（笑）今じゃないとだめ？【情報要求】 J5：いやいや、全然全然、あのう一週間後締め切りだから。 【相手への配慮】 S5：ああ、それなら私はやるよ。</p>
6	<p>J6：あのね、ところでね、日本の料理について、30分ぐらいのアンケートがあるんですけど、ちょっと答えてくれますか。 【状況説明】 【依頼】 S6：あ、長いね。何が必要ですか。【情報要求】 J6：特にないけど、30分かかるのね。 【状況説明】 S6：あ、じゃ、あとでいい？【情報要求】</p>

	J6：うん。
7	<p>J7：大丈夫でした、大丈夫でした、とりあえずあの授業はできてて&lt;うん&gt;、で、また授業の中間のテストで、外国人にインタビューしてきてと言われちゃって&lt;ああ&gt;今回はちょっと長くて、30分ぐらいかかっちゃうかなって思うんですけど。</p> <p>【状況説明】</p> <p>S7：30分！！</p> <p>J7：30分かかるかな、25分間かもしれない。だから時間ある時に、やってくれない？</p> <p>【状況説明】 【相手への配慮】 【依頼】</p> <p>S7：でも、ちょっとこの後授業あるんだけど、授業終わったら、でもいい？ 【情報要求】</p> <p>J7：うん、大丈夫。</p>

談話例 6-7 で確認された日本人依頼者が使用した意味公式の数とサウジアラビア人被依頼者の依頼の応答の種類をまとめると以下の表 6-21 ようになった。以下でそれぞれの意味公式が使用された要因と、各意味公式の規範を明らかにする。その後、サウジアラビア人の依頼の応答の規範を確認する。

表 6-21 日本人依頼者が場面 4 に使用した意味公式と使用率

被調査者	確認された意味公式の回数		
	依頼	状況説明	相手への配慮
J1	1	1	1
J2	1	1	2
J3	1	1	2
J4	1	1	2
J5	1	1	-
J6	1	3	-
J7	1	2	1

表 6-21 に提示したように、長時間の提供を依頼する場面 4 において、日本人依頼者全員（7

人中7人)が【依頼】を使用していた。6.3.1.1.の考察同様、ロールプレイカードの設定上、当然の結果であると言えよう。

2番目に分析する意味公式は【状況説明】で、日本人依頼者全員(7人中7人)がこの意味公式を使用していた。これは、この日本人依頼者全員が6.3.1.1.で述べた「理由説明規範」を顕在化させていたからだと考えられる。また、場面4でもすべての日本人依頼者が【依頼】の前に【状況説明】を行っていた。この結果から、本研究の日本人依頼者は、すべての場面で負担度に関係なく【依頼】の前に【状況説明】を行っていたことが明らかになった。そのため、本研究の日本人依頼者は日本語接触場面で「理由説明規範」を顕在化させた際に、【依頼】の前に【状況説明】を行うというストラテジーを行っていたと言えよう。

3番目に分析する意味公式は【相手への配慮】で、J5とJ6を除く5人がこの意味公式を使用していた。4章の依頼内容の負担度を明らかにしたアンケート調査で、日本人は日本語母語場面で長時間かかるアンケートへの回答を親友に依頼をすることを負担だと感じる「時間提供依頼否定規範」が顕在化する傾向が見られていたこと。この5人は、この規範を顕在化させ、多額の金銭を借りることは依頼に負担をかけてしまうと感じ、5.3.1.2で述べた「相手配慮規範」を顕在化させ、【相手への配慮】を使用したと考えられる。

表 6-22 サウジアラビア人被依頼者が場面4で使用した依頼に対する応答

サウジアラビア人被依頼者			
番号	依頼の応答の種類	【情報要求】使用回数	
		【状況説明】前	【状況説明】後
S1	消極的な承諾	0	1
S2	消極的な承諾	0	1
S3	消極的な承諾	0	1
S4	消極的な承諾	0	1
S5	消極的な承諾	0	1

S6	消極的な承諾	0	2
S7	消極的な承諾	0	1

以下では、サウジアラビア人被依頼者の依頼の応答について分析を行う。4章の依頼内容の負担度を明らかにしたアンケート調査で、サウジアラビア人はサウジアラビア人の親友とのアラビア語母語場面において30分程度で終わるアンケートへの回答依頼を受けると、それを負担だと思わない「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させる傾向が見られた。また、5章のDCTでは、同様の依頼場面で51.9%が【積極的な承諾】を、36.8%が【消極的な承諾】を、11.3%が【間接的な断り】を選択していた。一方、日本語接触場面のロールプレイ調査では、サウジアラビア人被依頼者7人全員が【消極的な承諾】を行っていた。そのためサウジアラビア人被依頼者は、アラビア語母語場面の依頼場面4では、「時間提供依頼肯定規範」が強く顕在化するが、日本語接触場面の依頼場面4では、「時間提供依頼肯定規範」を弱く顕在化させる傾向があるのではないかとと思われる。

次に、何人のサウジアラビア人被依頼者が【情報要求】を使用したのかについてみると、7人中7人がこの意味公式を使用していた。そのため、この7人は6.2.4.で述べた「依頼者説明規範」を顕在化させたと捉える。また【情報要求】の発話内容を確認すると、所要時間の確認をしたS3を除くすべてのサウジアラビア人被依頼者がアンケート実施の日時を選択できるか尋ねていた。またS3の場合、ペアのJ3が時間制限のないオンラインアンケートだからいつでも良いと【状況説明】で述べていた。以上のことから、本研究のサウジアラビア人は所要時間が長いタスクへの協力を求められた場合、協力する日時を選択することができるという規範（以後「日時選択規範」）を有しており、それを顕在化させていたのではないかと考えられる。またこの規範を加藤（2006）の方法に則り、分類すると、都合の良い日時を選択することはユニバーサルな行為であるため、共有規範だと考えられる。さらに、【情報要求】を行った全員が【消極的な承諾】を行っていた。そのため、サウジアラビア人は日本語接触場面で日本人の親友から長時間かかるアンケートの回答依頼をされた場合、【情報要求】を使用することによって、依頼に対して消極的であることを間接的に伝えようとしていたのではないかと考えられる。また、このような傾向は6.3.2.2.で述べ

た多額の金銭貸借の依頼を受けた場面2でも見られた。そのため、サウジアラビア人は依頼内容に関わらず、日本人から負担度の大きい依頼を受けた際に、自身がその依頼に対して消極的であることを間接的に伝えるストラテジーが存在するのではないか。

そして、規範の強弱の観点から【情報要求】と「理由説明規範」を分析すると、【情報要求】を使用した7人全員が、依頼者から【状況説明】を受けた後、【情報要求】を使用していた。そのため、全員が「理由説明規範」を強く顕在化させ、日本人依頼者からの説明を受けたが、説明が不十分であると捉え、逸脱からの調整行動として【情報要求】を使用したと考えられる。

#### 6.3.4.2. サウジアラビア人が依頼者、日本人が被依頼者

サウジアラビア人が依頼者、日本人が被依頼者の立場を演じた際に依頼の開始から依頼が成立もしくは不成立するまでの談話データを談話例6-8に示した。

談話例6-8 場面4で見られたサウジアラビア人の依頼と日本人の応答

ペア	サウジアラビア人被依頼者の依頼の出現順序
1	<p>S1: 30分かかりますけど、友達のアンケートなので、やってもらえませんか。  <b>【状況説明】 【依頼】</b></p> <p>J1: えっ、30分!!</p> <p>S1: うん、そうです。</p> <p>J1: 長いね。</p> <p>S1: ですけど、友達の物なので、必要なんですね。もし、時間あるとき、やってもらえませんか。(名前)君!  <b>【相手への配慮】 【依頼】</b></p> <p>J1: じゃ、家帰ってやるわ。</p>
2	<p>S2: 今もし時間があったら、このアンケートと一緒に、またはあとでやってくれませんか? 30分かかるから、長いかもしれないけど。  <b>【相手への配慮】【依頼】【状況説明】</b></p> <p>J2: ああ、でも、それはオンラインですか? <b>【情報要求】</b></p> <p>S2: オンラインです。</p> <p>J2: あ、オンラインね、大丈夫です、オンラインだったら、楽なので</p>
3	<p>S3: ちょっと時間がかかるアンケートを持っていますけど、時間があるときやってくれませんか?  <b>【状況説明】【相手への配慮】【依頼】</b></p> <p>J3: え: っと、どのくらい時間がかかりますか。 <b>【情報要求】</b></p>



	<p>S3 : 30 分ぐらいかかります。</p> <p><b>【状況説明】</b></p> <p>J3 : あ、30 分ですか。大丈夫です。大丈夫です。</p>
4	<p>S4 : ちょっと今時間あれば、あのう先輩は&lt;ああ&gt;大学の研究で&lt;うんうん&gt;アンケートや ってるらしい。ちょっとすみませんが、時間は 30 分ぐらいかかるけど&lt;うん&gt;、答 えてくれない？</p> <p><b>【相手への配慮】【状況説明】【謝罪】【状況説明】【依頼】</b></p> <p>J4 : あ、今すぐ？ <b>【情報要求】</b></p> <p>S4 : 時間ある時で大丈夫です。<b>【相手への配慮】</b></p> <p>J4 : じゃあ、やるよ。</p>
5	<p>S5 : あのう、言いづらいんだけど、友達もほかの私の友達にお願いしてって言われたの で。</p> <p><b>【相手への配慮】【状況説明】</b></p> <p>J5 : うん。</p> <p>S5 : あのう、(名前)君、暇であれば、やってくれる？</p> <p><b>【呼びかけ】【相手への配慮】【依頼】</b></p> <p>J5 : ちょっと、今じゃなくていい？ <b>【情報要求】</b></p> <p>S5 : うん、暇な時でも大丈夫。あのう、うん助かるよ。</p> <p><b>【相手への配慮】</b></p> <p>J5 : じゃ、ちょっと今日は時間ないから、あさってくらいだったら 30 分あるから／</p> <p>S5 : /わかりました。</p> <p>J5 : そんなときでいい？</p> <p>S5 : うん。</p> <p>J5 : OK。</p>
6	<p>S6 : 友達は自分の授業についてのアンケートを集めてるけど、ちょっと時間があれば、 時間がある時に答えてもいいですか。</p> <p><b>【状況説明】 【相手への配慮】 【依頼】</b></p> <p>J6 : いつやればいい？ <b>【情報要求】</b></p> <p>S6 : 30 分ぐらいかかる、ちょっと長いんですけど。</p> <p><b>【状況説明】【相手への配慮】</b></p> <p>J6 : んなら、授業の後、授業が終わったらのほうがいいな。</p> <p>S6 : はい、じゃあ後で。</p>
7	<p>S7 : えっと実はね、社会学を勉強してる友達がえっと今度日本人にアンケートえっと書 いて欲しいんだけど、まあ一応ちょっと 30 分ぐらいかかるアンケートなので、時 間があるときでいいから、えっとやってくれるなら、えっとスターバックス一杯奢 ってあげるよ。</p> <p><b>【状況説明】 【相手への配慮】 【依頼】 【約束】</b></p> <p>J7 : スターバックス一杯か。社会学は大丈夫、僕で大丈夫？ <b>【情報要求】</b></p>

	S7：まあ、一応なんか普通の日本人の方だと、大丈夫だと思うんで。
	J7：そっか、30分でスターバックス一杯か。じゃ、やろう。

談話例 6-8 で確認されたサウジアラビア人依頼者が使用した意味公式の数と日本人被依頼者の依頼の応答の種類をまとめると以下の表 6-23 ようになった。以下でそれぞれの意味公式が使用された要因と、各意味公式の規範を明らかにする。その後、サウジアラビア人の依頼の応答の規範を確認する。

表 6-23 サウジアラビア人依頼者が場面 4 で使用した意味公式と使用率

被調査者	確認された意味公式の回数				
	依頼	状況説明	相手への配慮	約束	呼びかけ
S1	2	1	1	-	-
S2	1	1	1	-	-
S3	1	2	1	-	-
S4	1	2	2	-	-
S5	1	1	3	-	1
S6	1	2	2	-	-
S7	1	1	1	1	-

表 6-23 に提示したように、長時間の提供を依頼する場面 4 において、サウジアラビア人依頼者全員（7 人中 7 人）が【依頼】を使用していた。6.3.1.1. の考察同様、ロールプレイカードの設定上、当然の結果であると言えよう。

2 番目に分析する意味公式は【状況説明】で、サウジアラビア人依頼者全員（7 人中 7 人）がこの意味公式を使用していた。これは、このサウジアラビア人依頼者全員が 6.3.1.1. で述べた「理由説明規範」を顕在化させていたからだと考えられる。また、場面 1 から場面 4 までの全場面でこの意味公式の使用が確認された。

3番目に分析する意味公式は【相手への配慮】で、7人中7人全員がこの意味公式を使用していた。これは、6.3.2.2.で述べた「相手配慮規範」をこの6人が顕在化させていたからだと考えられる。また、5章のアラビア語母語場面のDCTで、サウジアラビア人は場面4で【相手への配慮】を使用する傾向が見られたが、日本語接触場面のロールプレイ調査でも同様の結果が見られたことから、サウジアラビア人は30分かかるアンケートの依頼を行う際に、アラビア語母語場面と日本語接触場面の両場面で「相手配慮規範」を顕在化させる傾向があるのではないかと考えられる。

4番目に分析する意味公式は【呼びかけ】で、この意味公式をS5が使用していた。この意味公式を使用したS5は、30分かかるアンケートへの回答依頼を負担だと思い、5.3.1.2.で述べたアラビア語の待遇表現である呼称表現を使用する「呼称使用規範」を日本語接触場面でも顕在化させていたのではないかと考えられる。

5番目に分析する意味公式は【約束】で、この意味公式をS7が使用していた。この意味公式を使用したS7は、30分かかるアンケートへの回答依頼を日本人被依頼者は否定的に捉えたと考え、その対策として5.3.1.3.で明らかにした依頼を受けることに対する報酬を約束する「報酬約束規範」を顕在化させ、【約束】を行ったのではないかと考えられる。

表 6-24 日本人被依頼者が場面4で使用した依頼に対する応答

日本人被依頼者			
番号	依頼の応答の種類	【情報要求】使用回数	
		【状況説明】前	【状況説明】後
J1	消極的な承諾	0	0
J2	積極的な承諾	0	1
J3	積極的な承諾	0	0
J4	消極的な承諾	0	1
J5	消極的な承諾	0	0
J6	消極的な承諾	0	1

J7	積極的な承諾	0	1
----	--------	---	---

以下では、日本人被依頼者の依頼の応答について分析を行う。4章の依頼内容の負担度を明らかにしたアンケート調査で、日本人は日本人の親友との日本語母語場面において30分程度で終わるアンケートへの回答依頼を受けると、それを負担だと思ふ「時間提供依頼否定規範」を顕在化させる傾向が見られた。また、5章の日本語母語場面のDCTで、日本人は日本人の親友との日本語母語場面において30分程度で終わるアンケートへの回答依頼を受けると、44%が【積極的な承諾】を、53.6%が【消極的な承諾】を、2.4%が【間接的な断り】を選択する傾向が見られた。日本語接触場面のロールプレイ調査では、J2、J3、J7【積極的な承諾】を、残りの4人が【消極的な承諾】を使用しており、【消極的な承諾】を使用した日本人被依頼者のほうが多かった。この結果は、日本語母語場面のDCTと類似していたことから、日本語接触場面でも「時間提供依頼肯定規範」が弱く顕在化される傾向があるのではないかと考えられる。

次に、何人の日本人被依頼者が【情報要求】を使用したのかを見てみると、J2、J4、J6、J7の4人がこの意味公式を使用していた。【情報要求】の発話内容を確認すると、J4、J5はアンケート回答日時を選択できるかについて、J6は所要時間の確認を、J2はアンケートの形式について尋ねていた。また、J6が確認したアンケートの所要時間に注目すると、ペア6を除くサウジアラビア人依頼者はアンケートの所要時間を述べていた。そのため、J6を除く日本人被依頼者は、所要時間の確認をする必要がなかったため、【情報要求】を使用しなかったのではないかと考えられる。また、J4とJ5はアンケートの回答日時を選択できるか【情報要求】で確認していたことから、「回答日時選択規範」を顕在化させていたと考えられる。なおS4とS5を除くサウジアラビア人依頼者は【相手配慮】でアンケートの回答日時の選択権を日本人被依頼者に委ねていた。そのため、J1、J2、J3、J6、J7の場合、「日時選択規範」が顕在化され、規範がそのまま適用されていたのではないかと考えられる。J2とJ7はフォローアップインタビューを行ったので、6.5で「日時選択規範」が顕在化されていたかを確認する。

そして、規範の強弱の観点から【情報要求】と「理由説明規範」を分析すると、【情報要求】を使用した3人全員が、依頼者から【状況説明】を受けた後、【情報要求】を使用していた。そのた

め、この3人は「理由説明規範」を強く顕在化させ、日本人依頼者からの説明を受けたが、説明が不十分であると捉え、逸脱からの調整行動として【情報要求】を使用したと考えられる。

#### 6.4. フォローアップインタビューの分析

本節では、フォローアップインタビューに応じたペア2、ペア4、ペア7の回答から、彼らの内省を分析し、J2、S2、J4、S4、J7、S7が日本語接触場面で顕在化・潜在化させた依頼に関する規範を明らかにする。

##### 6.4.1. ペア2のロールプレイ会話

###### 6.4.1.1. 場面1：少額の金銭（500円）貸借依頼場面

###### J2が依頼者、S2が被依頼者のロールプレイ

まず、依頼者であるJ2のフォローアップインタビューの回答を分析する。J2のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が1つ、構造的な質問1つの合計2つに対するものである。

1つ目は依頼者自身に振り返ってもらおうオープンエンドな質問への回答で、J2は以下のようなことを語っていた。

###### フォローアップインタビューの回答1

そうそう、そういえば後輩とかは奢る時、後輩はたぶん奢る（笑）奢る時がある、時がある。そんなにたぶんないかな、日本ではたぶん返したい、返さなきゃいけないと思ってる人が多いので、奢られてしまうと、返すのはまた考えるのが面倒くさいし、でも返さなくていいんだけど、やっぱり何かの形で返さないとなあと私自身思っちゃう、対等だったら余計に。後輩とかだったら、まあ、ありがとうございますって感じなんですけど、同じ立場だと面倒くさいので、奢らないじゃないかな。

この回答の下線部から、山本他（2003）や竹尾他（2005）の報告のようにJ2は、金額の大小に関わらず金銭の貸し借りを否定的に捉えていることがわかる。そのため、J2は日本語母語場面だ

けでなく日本語接触場面においても、金銭貸借の依頼そのものを否定的に捉えているため、「金銭貸借依頼否定規範」を顕在化させていたと言えよう。

そして構造的な質問として、依頼するときに何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそれは日本人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、J2 は以下のように語った。

#### フォローアップインタビューの回答 2

どんなふうに理由を説明しようか悩みましたね (笑)。お金、金額に関係なくお金を借りるから、相手が納得してくれる説明をしなきゃって。(中略) 日本人か。まあ同じだと思いますね。

この回答から、J2 は 6.3.3.1. で述べた「理由説明規範」を日本語母語場面だけでなく日本語接触場面でも強く顕在化させることがわかる。

被依頼者である S2 のフォローアップインタビューの回答を分析する。S2 のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が 1 つ、構造的な質問 1 つの合計 2 である。

まず、オープンエンドな質問への回答で、S2 は J2 の金銭感覚について少し違和感を感じたと、次のように語った。

#### フォローアップインタビューの回答 3

قال الياباني "ما معي إلا 300 ين" مادري أحس كان دقيق جدا والموضوع مايساهل. عموما أنا أعرف اليابانيين دائما كذا كلامهم يستخدموا مثلا كلمات فيها تكلف. غير كذا هو جالس يطلب 500 ين، لو بالعربي مثلا: إذا معك فلوس ياليت تدفع لي بالله. أو يا (فلان) عطني 1000 ين تكفى. بشكل عام يمكن احنا متعودين مانكون دقيقين في كلامنا. ممكن تكون اختلافات ثقافية بيننا وبينهم.

J2 は『300 円しか持っていない』などと言って、ちょっと細かすぎると思った。日本人は日常会話でもこのような気を遣った表現をよく使うのは分かっている。500 円ぐらいを頼む場面なので、アラビア語だと、例えば、『私の分を払える金額があれば、払って』とか『(名前) 君、1000 円貸して』みたいな細かくしない話し方のほうが私は慣れてい

る。まあこれは文化の違いだと思う。

6.3.3.1. で述べた談話例 6-1 のペア 2 の会話を確認すると、S2 は「返さなくてもいいよ。今回奢るよ」と返却を求めていなかった。フォローアップインタビューの回答によってその理由が明らかになった。また S2 は以下のような回答を続けた。

フォローアップインタビューの回答 4

إذا كان اللي قدامي سعودي، احراج أقوله رجّع لي ال 10 ريال (بضحك)، بالعادة يمكن اللي يتسلف يقول مشكور ويعطيك العافية والمرّة الجاية تراك معزوم

相手がサウジアラビア人の友達だと、10 リヤルを返してとかと言うのは恥ずかしいから(笑)、普通、借りる側は『ありがとう、今度奢らせてね』だと言うと思う。

以上の回答 4 からの結果、S2 には少額の金銭貸借の依頼場面で、借りた金銭の返却を気に留めないという規範（以下「少額返却不要規範」）を有していると考えられる。そして、この規範が顕在化したゆえ、「返さなくてもいいよ。今回奢るよ」という調整行動が実行されたのだと考えられる。また、S2 はフォローアップインタビューで相手がサウジアラビア人の友達ならと仮定しているため、「少額返却不要規範」を加藤（2006）に従い分類すると、アラビア語母語規範であると考えられる。

そして構造的な質問で、なぜ依頼を受け入れたのか、母語場面でも同じなのかを尋ねると以下の回答 5 のように語った。

フォローアップインタビューの回答 5

بصراحه هو يساعدي في أشياء كثير في الجامعه يصحح لي التقارير قبل مآقدمها ودائم مايقصر. فمقارمنه بهذي اشوف 500 ين ولاشي بصراحه.

J2 は日本語のレポートをチェックしてくれたりして、色々お世話になっているから、それと比べると、500 円は大した金額ではないと思ったから。サウジアラビア人の友達の

場合、500円あげるよ (笑)。

この回答 5 から、S2 が日本語接触場面で【積極的な承諾】を選択した理由は、「金銭貸借依頼肯定規範」を強く顕在化させたからだといえよう。また、アラビア語母語場面でも S2 はこの規範を強く顕在化させると考えられる。

### S2 が依頼者、J2 が被依頼者のロールプレイ

依頼者である S2 のフォローアップインタビューの回答を分析する。S2 のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が 1 つ、構造的な質問 1 つの合計 2 に対するものである。

まずオープンエンドな質問への回答で、S2 は以下のようなことを語っていた。

#### フォローアップインタビューの回答 6

والله ما ادري عن اليابانيين بس انا متعود مع اخوي اياي اذا بطلب منه مبلغ بسيط أقول له عطني يا ابو فلان, احس صعبه أقول له  
سلفني كم بالريال تقريبا؟ 10 ريال أو 20 ريال (بضحك)

日本人はどうなのか分からないけど、普通サウジアラビア人の友達に小さい金額を頼む時に、『～君、お金ちょうだい』という。リヤルにすると、どのぐらいだろう？10 リヤルまたは 20 リヤルを貸してと頼むのはおかしいね (笑)

この回答 6 から、S2 は J2 が依頼承諾後の「今度返してね」という返却要請に違和感を感じていたことが明らかになった。S2 自身、被依頼者の立場では少額の金銭は返却の必要がないとフォローアップインタビュー6 で語っていた。また、談話例 6-2 のペア 2 のデータを確認すると、S2 は貸借動詞を使用していなかった。そのため、S2 が上述の「少額返却不要規範」を顕在化させていたと言えよう。しかしながら、J2 の「今度返してね」に対して、S2 は何ら調整行動を実行しなかった。そのため、なぜ調整行動を実行しなかったのか尋ねると、次のように S2 は答えた。



#### フォローアップインタビューの回答 7

تصدق لو خويبي هذا سعودي وقال لي رجعتها بقوله أنا عازمك في الجايه. ما ادري عن اليابانيين كيف يريدون عشان كذا ماقلت له شي.

サウジアラビア人の友達から、「今度返してね」って言われたら、「いや、今度おごるよ」  
って言うけど、日本人はどうかかわからないから、何も言わなかった。

上の回答 7 からから、S2 は当該談話が日本語接触場面であることを意識していたことがわかる。そして、日本語接触場面であるため調整行動を行わなかったと語っていた。このことから、S2 は依頼者の立場でも、「少額返却不要規範」を顕在化させていたが、母語場面よりも弱くこの規範を顕在化させ、日本語接触場面に適用させたと考えられる

そして構造的な質問として、依頼するときに何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそれはサウジアラビア人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、S2 は以下のように語った。

#### フォローアップインタビューの回答 8

ما فيه شي محدد لكن خويبي والمبلغ كله 500 ين وتوفعت أكيد لو بطلب ماراح يرديني.

特にない。友達だし、それに 500 円だけだから、依頼すれば当然貸してくれると思っ  
てた。

上の回答から、S2 は依頼相手が親しい友達で、依頼の負担度も小さければ、相手は依頼を受け入れるべきだと考えていた。そのため S2 は日本語接触場面の場面 1 で「金銭貸借依頼肯定規範」を強く顕在化させ、依頼に臨んでいたことが明らかになった。

被依頼者である J2 のフォローアップインタビューの回答を分析する。J2 のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が 1 つ、構造的な質問 1 つの合計 2 つに対するものである。

まず、オープンエンドな質問への回答で、J2 は S2 が貸借動詞を使用しなかったことに対して、

会話当時から違和感を感じていたと語っている。

#### フォローアップインタビューの回答 9

ここ、ここ。お弁当を買って来るから、お金もらっていい?って、なんか物足りないかな。もうちょっと、なぜ、なにがあったのかとか言って欲しいよね (笑)。

この回答 9 から J2 は被依頼者の立場で「貸借動詞使用規範」を弱く顕在化させていたと言えよう。また、山本他 (2003) や竹尾他 (2005) の報告のように J2 は、金額の大小に関わらず金銭の貸し借りを否定的に捉えていることが次の回答から明らかになった。

#### フォローアップインタビューの回答 10

私は貸したから、「返してね」というのは当たり前だと思うけど、皆さんはどうだろう。日本人の場合はみんなそうね、たぶんお金の貸し借り自体しないほうがいいと私も小さいころから言われてたしね。それに依頼受けたときも、頭の中よぎったかな。

この結果から、J2 は S2 から 500 円借入の依頼を受けた際に、金銭貸借を否定的に捉えていることが明らかになった。しかしながら、談話例 6-2 で J2 は S2 からの依頼を受け入れていた。そのため、その理由と日本人の友達から同じ依頼をされたとき受け入れるのかどうかを構造的な質問で尋ねると、以下のように語った。

#### フォローアップインタビューの回答 11

金額も 500 円だし、仲いい友達だからしょうがないと思って。それに、返してねって念押ししといたから大丈夫だと思って。でも日本人の場合も同じかな。

この回答 11 から、J2 が日本語接触場面で【積極的な承諾】を選択した理由は、負担となる金額が小さいことと、親しい間柄であること、つまり、親疎関係と依頼の負担度の影響を受けて「金

「金銭貸借依頼肯定規範」が顕在化したと言えよう。また、J2は日本語母語場面においても「金銭貸借依頼肯定規範」を顕在化させることが明らかになった。

#### 6.4.1.2. 場面2：多額の金銭（10,000円）貸借依頼場面

##### J2が依頼者、S2が被依頼者のロールプレイ

まず依頼者であるJ2のフォローアップインタビューの回答を分析する。J2のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が1つ、構造的な質問1つの合計2つに対するものである。

オープンエンドな質問の回答で、J2が場面2の依頼者の立場で意識したこととして以下のことを挙げていた。

##### フォローアップインタビューの回答12

やむを得ない状況じゃなければ、そうね、たぶん10,000円は頼まないね。なんか、借りないと、めっちゃやばい状況じゃなければ、親友に借りないよね。それに普通、親友じゃなくて親に頼むだろうし。でも、親に内緒にしたい場合だけ親友かな。(笑)

この回答12から、J2は日本社会で、非常に急を要し、困難な場合を除き、親友に10,000円を借りることは起こり得ないことだと認識していることがわかる。そのため、J2は「金銭貸借依頼否定規範」を強く顕在化させていたと言えよう。

そして構造的な質問として、依頼するときに何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそれは日本人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、J2は以下のように語った。

##### フォローアップインタビューの回答13

10,000円という高い金額だと、相手に対して、本当申し訳ないと思う。相手も自分の事情があるだろうから、迷惑をかけたくないなという気持ちはあったね。だから理由の説明だけでなく、迷惑かけたことを謝らなきゃって考えてましたね。(中略) 今回だけ

じゃなくて、日本人の場合でも、借りればラッキー、借りられなくて当然って感じ  
んで同じだと思うね。

6.3.2.1. で述べた談話例 6-3 のペア 2 の会話を確認すると、実際に J2 は【謝罪】と【状況説明】を使用していたことから、「金銭依頼謝罪規範」と「理由説明規範」を日本語接触場面で顕在化させていたと言えよう。また、回答 13 の下線部から、J2 が「金銭貸借依頼否定規範」を強く顕在化させていることがわかる。そして、「同じだと思う」と述べているから、日本語接触場面と日本語母語場面の両場面で同じ規範を顕在化させると考えられる。

次は被依頼者 S2 のフォローアップインタビューの回答を分析する。S2 のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が 1 つ、構造的な質問 1 つの合計 2 に対するものである。

まずはオープンエンドな質問の回答で、S2 が場面 2 の被依頼者の立場で意識していたことを以下のように語った。

フォローアップインタビューの回答 14

حسيته متكلف مره وهو يطلب(بضحك) وقلت بمزح معه واسأله وش يتسوي فيها بس. انا عنى لو معى المبلغ فى حسابى  
ومالحاجه يبشر به بحوله ومراح يرجع.

J2 は気を遣うような頼み方をしたけど、友達だから 10,000 円くらい気にしないのにと  
思った (笑)。もし口座にその金額が入ってて、その時必要はなければ、『返さないで』  
と言って、普通に振り込むと思う。

上の回答 14 から、S2 は友達が相手ならば多額 (10,000 円程度) の金銭貸借を負担に思わない  
「金銭貸借依頼肯定規範」を強く顕在化させていたと言えよう。

そして構造的な質問として、なぜ依頼を受け入れたのか、母語場面でも受け入れるのか尋ねると、S2 は以下のような回答を行った。

フォローアップインタビューの回答 15

والله خويي وبابن عليه متورط فأكيد اني بساعده. وحتى لو سعودي بساعده واتوقع ماراح اسأله ليش محتاج.

友達だし、困っていたみたいだから、助けたいと思って受け入れた。サウジアラビア人の場合も当然助けるし、理由も聞かないかな。

上の回答 15 からも S2 が J2 のことを親友だと思い、J2 を助けたいと考えていたことがわかる。以上の理由から、S2 は「金銭貸借依頼肯定規範」を強く顕在化させ、【積極的な承諾】を行ったのだと考えられる。また、S2 はアラビア語母語場面においては、この規範を日本語接触場面よりも強く顕在化させると言えよう。

#### S2 が依頼者、J2 が被依頼者のロールプレイ

依頼者である S2 のフォローアップインタビューの回答を分析する。S2 のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が 1 つ、構造的な質問 1 つの合計 2 に対するものである。

まずはオープンエンドな質問の回答で、S2 が場面 2 の依頼者の立場で意識していたことを以下のように語った。

フォローアップインタビューの回答 16

ماقد فكرت فيها بس تصدق توني انتبه اني طلبت في البدايه(بضحك), بس أتوقع لو بالعربي يمكن اطلب زي كذا, يمكن لان

(J2) امون عليه وهو يعرف سعوديين كثير عشان كذا ماخذ راحتى معه.

今このデータ（文字化データ）をみて思ったけど、アラビア語だと、このような頼み方をすると思う。(J2) は親しいし、彼は多くのサウジアラビア人を知っているから、仲間だと思って気を遣わずに話していたかもしれない。

この回答から、6.3.2.2. で述べた談話例 6-16 のペア 2 の談話で、S2 が【状況説明】をせずに、【依頼】を行っていた理由は、J2 を「仲間」だと思い、アラビア語で話すように【依頼】したか

らだと明らかになった。そのため、S2 は日本語接触場面で「理由説明規範」を無意識的に潜在化させていたのではないか。そして、J2 が【情報要求】を行った後、「理由説明規範」を顕在化させたのだと考えられる。

そして構造的な質問として、依頼するときに何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそれはサウジアラビア人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、S2 は以下のように語った。

フォローアップインタビューの回答 17

أتوقع مراح افكر فيها. صح ان المبلغ 10.000 بين لكن توقعت يسلفني لانه خويبي. مادري عن اليابانيين لكن لو سعودي يعني تتكلم عن 250 ريال 300 ريال؟ أتوقع مبلغ بهالحدود مراح يكون عنده مشكله.

特に気にしなかったかな。10,000 円だけど友達だから貸してくれると思ったから。

(中略) 日本人はわからないけど、サウジアラビア人なら 10,000 円、だから 250 リヤル、300 リヤル？それくらいなら貸してくれると思う。

上の回答 17 から S2 が、多額の金銭を借りる依頼であっても、友達ならばその依頼を受け入れると考えていたことがわかった。そのため、S2 は接触場面の多額の金銭を借りる場面 2 であっても「金銭貸借依頼肯定規範」を強く顕在化させていたと考えられる。また、回答 17 の下線部から、アラビア語母語場面の場合、日本語接触場面よりもこの規範を強く顕在化させることが明らかになった。

次は被依頼者 J2 のフォローアップインタビューの回答を分析する。J2 はオープンエンドな質問と構造的な質問に対して、それぞれ 1 回ずつ回答を行った。

まずはオープンエンドな質問の回答で、J2 が場面 2 の被依頼者の立場で意識していたことを以下のように語った。

フォローアップインタビューの回答 18

理由の説明がなくお金を借りたいというのは急すぎると思ったね (笑)。

6.3.2.2 の談話例 6-4 のペア 2 の会話で、J2 が【情報要求】を行った理由は、S2 が【依頼】の理由をしなかったからであり、「理由説明規範」からの逸脱の調整行動であったことがこの回答 18 から明らかになった。

そして構造的な質問として、なぜ依頼を受け入れたのか、母語場面でも受け入れるのか尋ねると、J2 は以下のような回答を行った。

フォローアップインタビューの回答 19

まあ外国人の友達がたくさんいるんで、気にしないかな。なんか、嫌に思うとかってことはなかったから、会話の時にも笑ってたね (笑)。でも日本人の場合は気にするなー。悪いけど、他をあたってくれないっていうね。

上の回答 19 から、J2 は日本語接触場面で日本語非母語話者から 10,000 円程度の金銭借入の依頼を受けても「金銭貸借依頼肯定規範」を強く顕在化させるが、日本語母語場面の場合「金銭貸借依頼否定規範」を弱く顕在化させることが明らかになった。

#### 6.4.1.3. 場面 3：短時間（5 分程度）の時間提供依頼場面

J2 が依頼者、S2 が被依頼者のロールプレイ

場面 3 では J2、S2 とともに依頼者と被依頼者の両立場でオープンエンドな質問への回答を行わなかった。そのため、構造的な質問のみを尋ねた。

依頼するときに何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそれは日本人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、J2 は以下のように語った。

フォローアップインタビューの回答 20

5分だけだからやってくれると思うけど、一応説明だけはしたほうがいいと思うね。そうそう、日本人なら依頼の理由をしないとやばいアンケートだと思われそう (笑)。

上の回答 20 から、日本語接触場面と日本語母語場面の両場面で、J2 が「理由説明規範」を顕在化させていたことが明らかになった。また、回答 20 の下線部で「5 分だけだから」と語っていることから、J2 は場面 3 の依頼内容を負担だと感じていないと捉えることができる。そのため、J2 は「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させていたと言えよう。

日本語母語場面では【状況説明】が行われないと、依頼が成立しないと J2 は考えていた。そのため、日本語母語場面でも J2 は「理由説明規範」を強く顕在化させると考えられる。

次は被依頼者の立場の S2 のフォローアップインタビューの回答を分析する。

構造的な質問として、なぜ場面 3 の依頼を受け入れたのか、母語場面でも受け入れるのか尋ねると、S2 は以下のような回答を語った。

フォローアップインタビューの回答 21

لا بما انه 5 دقائق ماني مضطر اني ارفض خصوصا انه خويي. وحتى لو كان سعودي أكيد بساعده

5 分で終わるし、友達からの依頼だから断らない。もちろんサウジアラビア人の友達の場合も助ける。

上の回答 21 から、S2 は依頼相手が親しい友達で、依頼の負担度も小さければ、相手は依頼を受け入れるべきだと考えていた。そのため S2 は日本語接触場面の場面 3 で「時間提供依頼肯定規範」を強く顕在化させ、依頼に臨むことが明らかになった。また、アラビア語母語場面においても「時間提供依頼肯定規範」を強く顕在化させることが明らかになった。

### S2 が依頼者、J2 が被依頼者のロールプレイ

依頼者の立場の S2 に構造的な質問として、依頼するときには何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそれはサウジアラビア人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、以下のよう回答した。



フォローアップインタビューの回答 22

يعني كلها 5 دقائق وانت تطلب من خويك فأحس ما يحتاج تفصل في الطلب. لا الجنسية مالها دخل

5分だけだし、友達だから、依頼するだけでいいと思う。国籍は関係ない。

上の回答から、S2 は依頼相手が親しい友達で、依頼の負担度も小さければ、相手は依頼を受け入れるべきだと考えていた。そのため S2 は日本語接触場面の場面 3 で「時間提供依頼肯定規範」を強く顕在化させ、依頼を行っていることが明らかになった。

そして被依頼者の立場の J2 になぜ場面 3 の依頼を受け入れたのか、母語場面でも受け入れるのか尋ねると以下のような回答を行った。

フォローアップインタビューの回答 23

5分で終わる短いアンケートだからですかね。5分なら日本人のアンケートもやるとおもいますね。

上の回答 23 から、J2 は日本語接触場面における短時間で終わるアンケートの依頼場面で「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させ、【積極的な承諾】を行うことが明らかになった。また、日本語母語場面においても「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させ、【積極的な承諾】を行うと考えられる。

#### 6.4.1.4. 場面 4：長時間（30 分程度）の時間提供依頼場面

J2 が依頼者、S2 が被依頼者のロールプレイ

依頼者である J2 のフォローアップインタビューの回答を分析する。J2 のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が 1 つ、構造的な質問 1 つの合計 2 に対するものである。

まずはオープンエンドな質問の回答で、J2 が場面 4 の依頼者の立場で感じたことを次のように語った。

#### フォローアップインタビューの回答 24

まあ、確かに 30 分は、長いからね。日本人だろうが外国人だろうが嫌がる人はいっぱいいるでしょ。でも 10,000 円借りる依頼よりはまだ頼みやすいかな。

上の回答 24 から、J2 は日本語接触場面だけでなく日本語母語場面においても、場面 4 の依頼内容を負担に感じていることが明らかになった。これは 4 章で明らかになった、場面 4 で日本人依頼者は「時間提供依頼否定規範」を顕在化させる傾向と一致した。また、J2 は 10,000 円の借入依頼の方が 30 分のアンケート回答協力依頼より負担度が大きいと感じていることも明らかにした。

そして構造的な質問として、依頼するときに何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそれは日本人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、J2 は以下のように語った。

#### フォローアップインタビューの回答 25

30 分の長い依頼だから、相手に迷惑かかるし。気を遣わないとね。それにやっぱり理由の説明も大事でしょ。(中略) ああー、あと日本人の場合ね。(中略) それでもサウジアラビア人と同じかな。

この 25 の回答から、J2 が「相手配慮規範」と「理由説明規範」を顕在化させていたことがわかる。また、J2 は 6.3.4.2 のペア 2 の会話で「もし時間があれば」や「いつでも大丈夫」と語り、【相手への配慮】を 2 回行っていたが、いずれの発話も被依頼者に回答日時の選択権を委ねる発話である。これらの発話から、「相手配慮規範」に属する「タスク遂行日時の選択権を被依頼者に委ねる」というストラテジーを J2 は日本語接触場面で使用し、依頼を成立させようとしたのではないかと考えられる。さらに「あー、あと日本人の場合ね。(中略) それでも同じかな。」と語っていることから、J2 は日本語接触場面と日本語母語場面の両場面で、同様の規範を同程度顕在化させると言えよう。

次は被依頼者である S2 のフォローアップインタビューの回答を分析する。S2 はフォローアップインタビューでオープンエンドな質問への回答を行わなかったため、構造的な質問 1 つのみである。

被依頼者の立場の S2 に構造的な質問として、なぜ依頼を受け入れたのか、母語場面でも受け入れられるのか尋ねると以下のような回答を行った。

フォローアップインタビューの回答 26

بينني وبينك نص ساعه طويله ولو الموقف حقيقي والله ورطه (يضحك), اذا عادي اقسما اليوم نص وبكره نص مثلا عادي  
أو مثلا نطلع كوفي واخصها وحنا نتقهوى. لو قال تخلصها وقتها أتوقع برفض لكن قال عادي أي وقت وبكذا تهون. ولو  
سعودي والله نص ساعه طويله(يضحك) لكن عادي لو بيخيرني في الوقت.

本当の場面だったら、30分待たされるのは困るね(笑)。もし、今日は半分で、もう半分は明日とか、または喫茶店でコーヒーを飲みながら、答えるとかだったら、まだまだ大丈夫だと思う。でも、その場でやってと言われたら、断ると思うけど、いつでもいいということで、受け入れてあげた。(中略) サウジアラビア人も30分は長いね(笑)でも時間選ぶことができるならやるよ。

上の回答 26 から、S2 は日本語接触場面だけでなくアラビア語母語場面でも、10,000 円を貸す場面 2 の依頼よりも 30 分かかるアンケートへの回答依頼をされる方が負担に感じるようになった。S2 が日本語接触場面で依頼を受け入れた要因は、回答日時の選択権を J2 が被依頼者 S2 に委ねたからではないか。このことから、所要時間が長いタスクへの協力を求められた場合、協力する日時を選択することができるという「日時選択規範」を S2 は有しており、それを顕在化させていたのではないかと考えられる。そして、S2 は回答 26 の下線部で「サウジアラビア人の友達も時間選べればやる」と語っていることから、アラビア語母語場面でも「日時選択規範」を顕在化させると言えよう。

S2 が依頼者、J2 が被依頼者のロールプレイ

依頼者である J2 のフォローアップインタビューの回答を分析する。J2 のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が 1 つ、構造的な質問 1 つの合計 2 に対するものである。

まずはオープンエンドな質問の回答で、J2 が場面 4 の依頼者の立場で感じたことを次のように語った。

フォローアップインタビューの回答 27

تصدق نص ساعه طويله عشان كذا يحق له يرفض بصراحه. وانا لو ينطلب مني أتوقع يرفض(بضحك)

30 分は長くて、断られても全然嫌に思わない。私も依頼されたら断りたい (笑)。

上の回答 27 から、S2 は依頼者の立場で「時間提供依頼否定規範」を強く顕在化させていたことが明らかになった。上のフォローアップインタビューの回答 27 で語ったように、S2 は被依頼者の立場でも、タスクの日時が選択できない場合、依頼を断ると語っている。そのため、日本語接触場面で依頼を行う際に、相手がタスクの日時を選択できるように配慮していたが、これは被依頼者に「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させるためではないか。

そして構造的な質問として、依頼するときに何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそれはサウジアラビア人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、S2 は以下のように語った。

フォローアップインタビューの回答 28

أتوقع يمكن اختيار الوقت. خاصة السعوديين أتوقع يبي يختار الوقت المناسب له عشان يخدمك.

やっぱり相手が時間を選べること。特にサウジアラビア人は、日時を選べないと絶対にやってくれないと思う。

上の回答から、S2 は日本語接触場面とアラビア語母語場面の両場面で場面 4 の依頼を成立させるため、「相手配慮規範」に属する「タスク遂行日時の選択権を被依頼者に委ねる」というストラテジーを行使することが明らかになった。また、S2 はアラビア語母語場面の方が日本語接触場

面よりもこの戦略が必須であると考えていることがわかった。

次は被依頼者である J2 のフォローアップインタビューの回答を分析する。J2 はフォローアップインタビューでオープンエンドな質問への回答を行わなかったため、構造的な質問 1 つのみである。

構造的な質問として、被依頼者の立場の J2 に、なぜ場面 4 の依頼を受け入れたのか、母語場面でも受け入れるのか尋ねると以下のような回答を行った。

フォローアップインタビューの回答 29

30 分のアンケートは長いけど、外国人の友達だから手伝わないって思って。それに 時間あるときでいいって言ったし。日本人の友達なら手伝うけど、もっとこっちの都合に合わせてもらうかな。

上の回答 29 から、J2 は日本語接触場面において長時間かかるアンケートへの回答依頼場面で「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させ、【積極的な承諾】を行うことが明らかになった。また、日本語語母語場面においても「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させるが、日本語接触場面より強く顕在化させると言えよう。さらに、回答 29 の下線部で、「時間あるときでいいって言ったし」と語っていることから、J2 は「日時選択規範」を顕在化させていたと考えられる。

#### 6.4.1.5. J2 と S2 がすべての場面で依頼を受け入れた要因

すべての場面の意識を確認した後、最後の質問として、J2 と S2 それぞれに「なぜ相手からの依頼を断らなかったのか」を尋ねると、J7 は以下のように答えた。

フォローアップインタビューも回答 30

実際大変な依頼もあったけど、(S2) は大切なサウジアラビア人の友達だから、困っていたら助けたって思ったね。

また、S2 も、J2 と同様の回答を以下のように行っていた。

フォローアップインタビューの回答 31

في السعوديه انك تساعد صاحبك هذا شي طبيعي. أكيد فيه أشياء مراح تقدر عليها لكن معروف عندنا انه اذا انا قادر راح  
اساعد

サウジアラビアでは、友達を助けることはあたり前だからね。もちろんできないこと  
もあるけど、可能なら受け入れてあげたいと思う。

以上の回答から、J2 も S2 も友達が困っているなら助けるという規範（以下「友達援助規範」）を有しており、それが顕在化されたことによって、負担だと感じた依頼であっても、日・サ被調査者ともにすべての場面で【承諾】を行ったのだと考えられる。また、この規範を加藤（2006）に従って分類すると、友達を助ける行為はユニバーサルな行為であるため、共有規範であると考えられる。さらに J2 の場合、回答 30 から、相手が外国人であることを意識していると言えよう。そのため、J2 は「友達援助規範」を接触場面ではより強く顕在化させていたと言えよう。一方、S2 の場合、「親友を助けることはあたり前」だと語っていた。そのため、S2 はアラビア語母語場面でも「友達援助規範」を強く顕在化させると言えよう。

#### 6.4.2. ペア 4 のロールプレイ会話

##### 6.4.2.1. 場面 1：少額の金銭（500 円）貸借依頼場面

J4 が依頼者、S4 が被依頼者のロールプレイ

まず依頼者である J4 のフォローアップインタビューの回答を分析する。J4 のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が 2 つ、構造的な質問 1 つの合計 3 に対するものである。

1 つ目は依頼者自身に振り返ってもらうオープンエンドな質問への回答で、J4 は以下のようなことを述べていた。

フォローアップインタビュー：32

「最初はお金の貸し借りだったね。お金じゃなくて、何か物だったら、たぶん普通に貸してっていうかもしれないけど、お金は借りないほうがいいとか、まあたぶん日本ではお金の貸し借りはしないほうがいいとかよく言われている。私はサウジアラビア人の友達が多くて、毎回毎回一人がみんなを奢ったりして、他の人は、じゃ、今度僕はみんなを奢るよみたいなことは多いね。ただ日本人はいつも割り勘で払って、それで終わり。でもやっぱり、日本人は借りる側も貸す側も、貸し借りはあまりよくないから、避けようと思ってるかな。」

この回答の下線部から、J4 は J2 同様、金額の大小に関わらず金銭の貸し借りを否定的に捉えていることがわかる。そのため、J4 は日本語接触場面の場面 1 の負担度の小さい依頼に対しても「金銭貸借依頼否定規範」を顕在化させていたと言えよう。

そして J4 に、構造的な質問として、依頼するときには何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそれは日本人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、以下のように語った。

フォローアップインタビューの回答 33

500 円といえど、お金を借りるから、少し気が重かったね (笑)。んーっと、(S4) に困ってることわかってもらいたかったから、説明しようと思ったね。(中略) 日本人にもできるけど、ちょっとね (笑)。方法だっけ? 同じじゃないかな。

この回答から、J4 は 6.3.3.1. で述べた「理由説明規範」を日本語接触場面でも強く顕在化させていたことがわかる。また、「金銭貸借依頼否定規範」を弱く顕在化させていたとも言えよう。

被依頼者である S4 のフォローアップインタビューの回答を分析する。S4 のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が 1 つ、構造的な質問 1 つの合計 2 に対するものである。

まず、オープンエンドな質問への回答で、S4 は次のように語った。

#### フォローアップインタビューの回答 34

لأنه يعز علي ودايم نجتمع مع الشباب بالنسبه لي 500 ين مبلغ بسيط ومايستاهل سلف بالعكس لو سلفته بتصير العلاقه كأنها رسميه.

(J4) 君は親しいし、よくサウジアラビア人の友達と遊んでいるから、500 円は大した金額ではない。

S4 はオープンエンドな質問の回答 34 で、J4 は親友だし、他のサウジアラビア人からの信用もあるから、J4 の依頼を受け入れたと述べていた。6.3.3.1. で述べた談話例 6-5 のペア 4 の会話を確認すると、S4 は「いいよ、いいよ」と実際に【積極的な承諾】を行っていたことから、「金銭貸借依頼肯定規範」を顕在化させたと考えられる。

次は構造的な質問である。S4 が受け入れた理由はオープンエンドな質問の回答 34 で述べていたので、母語場面でも受け入れるかどうかを尋ねると、S4 は以下のような回答を行った。

#### フォローアップインタビューの回答 35

ما توقع موقفي بيختلف لو كان سعودي. لكن لو اللي خويي السعودي أتوقع بيقول علي هالمره.

サウジアラビア人でも同じだと思う。でも、依頼相手がサウジアラビア人の友達なら、「15 リヤルだから奢るよ」って言うと思う。

この回答 35 から、S4 はアラビア語母語場面でも「金銭貸借依頼肯定規範」を強く顕在化させると言えよう。また、S4 は「15 リヤルだから奢る」と言っていることから、6.4.1.1. で述べた「少額返却不要規範」をアラビア語母語場面では顕在化させると考えられる。しかし、日本語接触場面で S4 は「奢る」と発話しなかったため、この規範が潜在化していたと考えられる。

#### S4 が依頼者、J4 が被依頼者のロールプレイ

まず依頼者である S4 のフォローアップインタビューの回答を分析する。S4 のフォローアップ



インタビューの回答は、オープンエンドな質問が1つ、構造的な質問1つの合計2に対するものである。

まずオープンエンドな質問への回答で、S4は以下のようなことを述べていた。

フォローアップインタビューの回答 36

*أتوقع ان اليابانيين مو متعودين يُعيروا أو يستعيروا أغراضهم الخاصة لبعض، عشان كذا قلت إني يرجعها له ولكن لو اللي قدامي سعودي وقلت له يرجعها راح يضحك علي (يضحك). وعندي أصدقاء يابانيين في الجامعة وإذا بطلب منه شي تلقاني غالبا ما أطلب منه أغراضه الخاصة، مثلاً: أقوله ياليت تساعدني في كذا أو ياليت تسوي لي كذا شي معين .*

日本人は相手の物を借りたり、自分の物を貸したりすることに慣れていないかもしれない。だから、返すと言ったけど、でもアラビア語で返すと言ったら、笑われちゃうと思う (笑)。大学に日本人の友達はあるけど、例えば何かを頼むときに、ものじゃなくて、これをやってくれないとか、手伝ってくれないとかというお願いしかしない。

談話例 6-4 のペア 4 のデータを確認すると、S4は「ちゃんと下ろして、返すよ。」と発話しており、「金銭返却約束規範」を顕在化させたと考えよう。この規範は、5章の場面1のDCTで、日本語母語場面で顕在化される傾向が高い規範であった。S4は日本語接触場面で「金銭返却約束規範」を顕在化させることによって、日本人が肯定的に捉える【約束】を使用し、依頼を成立させようとしたと考えられる。しかしながらフォローアップインタビューの回答 36 から、S4はアラビア語母語場面で「金銭返却約束規範」を顕在化させることを否定的に捉え、「少額返却不要規範」を顕在化させると考えられる。そのため、S4にとって「金銭返却約束規範」と「少額返却不要規範」は、どちらか一方が顕在化すると、もう一方は潜在化する関係性だと言えよう。本研究は日本語接触場面であるため、S4はこの規範を意識的に顕在化させたということがわかる。

そしてS4に、構造的な質問として、依頼するときに何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそれはサウジアラビア人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、以下のように語った。

#### フォローアップインタビューの回答 37

غير كذا كلها 500ين. وبغض النظر اذا انه خويبي سواء سعودي او ياباني أتوقع مراح يرفض. عشان الطلب عادي وبسيط.

それに 500 円だけでしょ。日本人でもサウジアラビア人でも親友なら、受け入れてくれると思う。だから普通に依頼をすればいいと思う。

上の回答から、S4 も S2 同様、場面 1 で依頼をする際、相手が親しい友達で依頼の負担度も小さければ、相手は依頼を受け入れるべきだと考えていた。そのため S4 は日本語接触場面の場面 1 で「金銭貸借依頼肯定規範」を強く顕在化させていたと言えよう。

次に被依頼者である J4 のフォローアップインタビューの回答を分析する。J4 のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が 1 つ、構造的な質問 1 つの合計 2 に対するものである。

まず、オープンエンドな質問への回答で、J4 は少額であろうと金銭貸借の依頼を否定的に捉えていたと以下のように語った。

#### フォローアップインタビューの回答 38

なんかどうなんですかね、僕は結構前からお父さんかお母さんからお金をあげるとかあまりよくないみたいなのを（笑）まあ、そもそも貸し借り自体があまりよくないよみたいなのは、どうなんでしょう皆さん！でもうちは結構言われることができましたね。理由は何だろう、仲が悪くなっちゃう可能性もあるし、というかんじだと思いますね。また、お金のトラブルだと、また面倒くさくなっちゃったりすることがあると思うので、ということだと思いますけど、結構そういうのがちっちゃいころからありますね。

この回答 38 から J4 は被依頼者の立場でも「金銭貸借依頼否定規範」を顕在化させていたと言えよう。

そして構造的な質問で、なぜ依頼を受け入れたのか、母語場面でも同じどうかを尋ねると、J4 は以下のような回答を行った。

フォローアップインタビューの回答 39

昔からお金の貸し借りはだめだと言われてきたから、500 円でも貸すのは抵抗があったね。でも S4 は友達だし、困ってたのがわかったから、貸してあげようと思って。それに返す約束をしてくれたし。日本人の友達なら、うーん、同じかな。

この回答 39 から、J4 は「金銭貸借依頼否定規範」を顕在化させていたことがわかる。しかし、依頼者との関係が親しく、【状況説明】と【約束】が行われていることから、【消極的な承諾】を行ったと言えよう。また、日本人の友達が相手でも同様だと語ったことから、J4 は日本語母語場面と日本語接触場面の両場面で、「理由説明規範」と「金銭返却約束規範」を強く顕在化させると言えよう。

#### 6.4.2.2. 場面 2：多額の金銭（10,000 円）貸借依頼場面

J4 が依頼者、S4 が被依頼者のロールプレイ

依頼者である J4 のフォローアップインタビューの回答を分析する。J4 のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が 1 つ、構造的な質問 1 つの合計 2 に対するものである。

まずはオープンエンドな質問の回答で、J4 が場面 2 の依頼者の立場で意識したこととして以下のことを挙げていた。

フォローアップインタビューの回答 40

この内容もそうだよ。お金の貸し借り、それも 10,000 円はちょっと、いや、かなりきついよね。10,000 円はお願いしたくないよね。本当に困ってたら、親にお願いするね。

6.4.1.2. で述べた J2 同様、J4 も親友に依頼する前に両親に依頼をすると語っていた。そのため、この回答 40 から、J4 は「金銭貸借依頼否定規範」を非常に強く顕在化させていたと言えよ

う。

そして J4 に、構造的な質問として、依頼するときには何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそれは日本人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、以下のように語った。

フォローアップインタビューの回答 41

重要なこと。うーん、なんだろう。そもそも 10,000 円は親友に依頼したくないかな。それでもしないとまずい状況なら、うーん、えー、土下座覚悟でお願いするかな。それで理由も説明しないとね。ああーもちろん、いつ返せるかも言わないとだめね。(中略) 日本人ね。日本人でも変わらないかな。この依頼自体が嫌だもん。

6.3.2.1. で述べた談話例 6-2 のペア 4 の会話を確認すると、実際に J4 は【謝罪】、【状況説明】、【約束】を使用していたが、上の回答 41 から「金銭依頼謝罪規範」、「理由説明規範」、「金銭返却約束規範」を顕在化させていたため、以上の意味公式を使用したのだと明らかになった。また、J4 は日本語母語場面と日本語接触場面の両場面で、以上の規範を同じように顕在化させると言えよう。

次は被依頼者 S4 のフォローアップインタビューの回答を分析する。S4 のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が 1 つ、構造的な質問 1 つの合計 2 に対するものである。

まずはオープンエンドな質問の回答で、S4 が場面 2 の被依頼者の立場で意識していたことを以下のように語った。

フォローアップインタビューの回答 42

قلت له متى ويجسبني أقول متى ترجعها (بضحك). أنا بالنسبة عادي كونه خويي ومحتاج عادي ماليه بيرجعها. خاصة اذا كنت مااحتاجها هنديك القتره. بس حتى لو احتاجها احس صعبه أقول له رجعها.

いつぐらい?と聞いたら、いつ返すと思ってたね(笑)。(J4) 君は親しいし、お金が欲しいと言っているから、別に返してくれなくていい。特にそのお金はその時期に必要な

ければ、別に大丈夫。でも、必要だとしても返してって言えないかな。

上の回答 42 から、S4 は J4 が相手ならば多額（10,000 円程度）の金銭貸借を負担に思わない「金銭貸借依頼肯定規範」を強く顕在化させていたと言えよう。

次は構造的な質問である。S4 が受け入れた理由はオープンエンドな質問の回答 42 で述べていたゆえ、母語場面でも受け入れるかどうかを尋ねると、S4 は以下のような回答を行った。

フォローアップインタビューの回答 43

إذا صاحبي سعودي في الحاله هذي بين الاصحاب اللي يعزون على بعض إذا طلب منك صاحبك فلوس وكان معك مبلغ كافي وما تحتاجه هذيك الفترة صعب انك ترفض. في مثل هالحاله أشوف لازم يسلفني لأنه تعرف صاحبي يعني. واذا ما أعطاني يمكن أخذ في خاطري منه.

サウジアラビア人の場合、親友はちょっと余るぐらいのお金を持っていて、その時期に必要なければ、相手の親友に頼まれたら、断れないと思う。そういう時に貸してくれるべきだと思う、親友だから。国籍は関係ないよ。もし貸してくれなかったら、ちょっと嫌に思うね。

上の回答 43 から、S4 はアラビア語母語場面の場合、アラビア語母語場面でも日本語接触場面でも「金銭貸借依頼肯定規範」を非常に強く顕在化させることが明らかになった。

#### S4 が依頼者、J4 が被依頼者のロールプレイ

依頼者である S4 のフォローアップインタビューの回答を分析する。S4 のフォローアップインタビューの回答は、構造的な質問 1 つだけであった。

構造的な質問として、依頼するときには何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそれはサウジアラビア人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、以下のように語った。

フォローアップインタビューの回答 44

أنا عارف ان اليابانيين ما عندهم نظام سلفني واسلفك. لكن بما اننا نمون على بعض توقعات بيسلفني. واتوقع لو سعودي اذا ظروفه تسمح بيكون ملزوم بيسلفني.

日本人とお金の貸し借りはできないことは知っていた。でも (J4) 君は親しいから、依頼すれば貸してくれると思った。(中略) サウジアラビア人なら、お金に困っていなければ貸してくれるはず。

上の回答 44 から S4 は、日本語接触場面で多額の金銭を借りることは難しいと考えていると同時に、親しい J4 ならば、依頼を受け入れると考えていたことがわかった。そのため、S4 は日本語接触場面で「金銭貸借依頼肯定規範」を弱く顕在化させていたと言えよう。また、アラビア語母語場面の場合、「サウジアラビア人なら、お金に困っていなければ貸してくれるはず」と語っていることから、「金銭貸借依頼肯定規範」を強く顕在化させると考えられる。

次は被依頼者 J4 のフォローアップインタビューの回答を分析する。J4 はオープンエンドな質問と構造的な質問として、それぞれ 1 回ずつ回答を行った。

まずはオープンエンドな質問の回答で、J4 は場面 2 の被依頼者の立場で意識していたことを以下のように語った。

フォローアップインタビューの回答 45

10,000 円 (1) ってびっくりしたね (笑)。まあ、10,000 円は大きいね、だから、何に使  
うかってそれによって、たぶん日本人は貸すか貸さないかを決めると思うね。どうだろ  
う、10,000 円とかそんな大きい金額だと、友達同士だと、日本人は友達だから借りない  
という人は多いかな、お金のトラブルとか避けて。まあ、借りてもいいかもしれないけ  
ど、なんか特別な事情はなければ、貸し借りはしないほうがいいかなと僕は思う。

上の回答 45 から J4 が「金銭貸借依頼否定規範」を顕在化していたことが明らかになった。

そして上の回答 45 を踏まえた構造的な質問として、なぜ依頼を受け入れたのか、母語場面でも受け入れるのか尋ねると、J4 は以下のような回答を行った。

フォローアップインタビューの回答 46

S4は友達だし、何より外国人だから仕方ないなって。あと本当に困っているみたいだったし、返す約束もしてくれたからね。日本人の友達からされたら、うーん、まともな理由と確実に返すという約束があれば、しょうがないけど貸すかな。

6.3.2.2. の談話例 6-4 のペア 4 の会話を見ると、J4 は【消極的な承諾】を行っていたが、上の回答 46 から、その理由は親しい関係の外国人だということが明らかになった。この理由から、J4 は日本語接触場面であるため、「金銭貸借依頼肯定規範」を顕在化させたのではないか。一方、日本語母語場面の場合、回答 46 の下線部から「まともな理由と確実に返すという約束があれば、しょうがないけど貸すかな」と語っていることから、「理由説明規範」と「返却約束規範」からの逸脱が生じなければ「金銭貸借依定肯定規範」を弱く顕在化させると言えよう。

#### 6.4.2.3. 場面 3：短時間（5分程度）の時間提供依頼場面

J4 が依頼者、S4 が被依頼者のロールプレイ

場面 3 では J4、S4 とともに依頼者と被依頼者の両立場でオープンエンド質問への回答を行わず、構造的な質問のみを尋ねた。

構造的な質問として、依頼するときには何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそれは日本人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、J4 は以下のように語った。

フォローアップインタビューの回答 47

5分だけだから、手伝ってくれると思ったね。 まあ、理由と5分で終わること説明しとけば大丈夫じゃない。(中略) ああ、日本人の場合もね。うーん、まあ同じじゃない。

上の回答 47 から、J4 が「理由説明規範」を日本語接触場面で強く顕在化させていたことが明らかになった。また【状況説明】で、依頼の理由とアンケートの所要時間を伝えるべきだと考え

ていた。そして、回答 47 の下線部から、J4 が日本語母語場面と日本語接触場面で、この依頼を負担に感じないことがわかる。そのため、J4 は両場面で「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させると言えよう。

そして次は被依頼者の立場の S4 に構造的な質問として、なぜ依頼を受け入れたのか、母語場面でも受け入れるのか尋ねると以下のような回答を行った。

フォローアップインタビューの回答 48

لانه بصراحه عزيز على قلبي وبخدمتي كثير غير كذا بيخلص في 5 دقائق عشان كذا ردي بيكون واحد سواء ياباني او

سعودي

5分で終わると言われたから、それに (J4) 君は親しいし。サウジアラビア人の友達も同じだよ。

上の回答 48 から、S4 は依頼相手が親しい友達で、依頼の負担度も小さいから、「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させていたことが明らかになった。また、アラビア語母語場面においても「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させることが明らかになった。

#### S4 が依頼者、J4 が被依頼者のロールプレイ

依頼者の立場の S4 に構造的な質問として、依頼するときに何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそれはサウジアラビア人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、S4 は以下のように語った。

フォローアップインタビューの回答 49

اذا 5 دقائق ماله داعي أفضل الطلب لحاله يكفي. يمكن اكنفي بابلاغه انها 5 دقائق. تقصد الفرق لو كان سعودي أو ياباني لا

مافيه ذاك الفرق.

30分はめんどくさいけど、5分だけなら依頼するだけ。5分で終わることを伝えることかな。日本人とサウジアラビア人の違い？とくにないね。



上の回答 49 から、S4 は短時間で終わるアンケートの回答依頼を行う際に、短時間で終わることを説明すべきだと考え、【状況説明】を行ったことがわかった。また、依頼の負担度が小さいため、相手の被る負担も高くないと感じていたと言えよう。さらに、日本語接触場面とアラビア語母語場面で違いはないと語っていた。以上のことから、S4 は日本語接触場面とアラビア語母語場面で、「理由説明規範」と「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させることが明らかになった。

続いて被依頼者の立場の J4 に構造的な質問として、なぜ依頼を受け入れたのか、母語場面でも受け入れるのか尋ねると以下のような回答を行った。

フォローアップインタビューの回答 50

*5分だけだったからね。あと友達だし。(中略)日本人の友達の場合も同じだよ。*

上の回答 50 から、J4 は S4 の依頼が負担度の小さい短時間で終わるアンケートへの回答だったため、日本語接触場面で「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させ、【積極的な承諾】を行ったのだということが明らかになった。また、日本語母語場面においても「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させ、【積極的な承諾】を行うと考えられる。

#### 6.4.2.4. 場面 4：長時間（30 分程度）の時間提供依頼場面

##### J4 が依頼者、S4 が被依頼者のロールプレイ

依頼者である J4 のフォローアップインタビューの回答を分析する。J4 のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が 1 つ、構造的な質問 1 つの合計 2 に対するものである。

まずはオープンエンドな質問の回答で、J4 は場面 4 の依頼者の立場で感じたことを次のように語った。

フォローアップインタビューの回答 51

*いや、頼みにくいということはないと思うね。でも 10,000 円より全然簡単だよ (笑)。*

私は別にアンケートは30分でも、いや15分くらいだったらすぐやる。30分はもう少し  
例えば15分に分けてやるとかかな。

上の回答51から、J4は日本語接触場面においても場面4の依頼内容をそれほど負担に感じて  
いなかったことが明らかになった。また、J4もJ2同様、10,000円の借入依頼の方が30分のアン  
ケート回答協力依頼より負担度が大きいと感じていることも明らかになった。

そして構造的な質問として、依頼するときに何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそ  
れは日本人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、J4は以下のように語った。

フォローアップインタビューの回答52

日本人でも同じだけど、30分は長いから、相手の都合に合わせてることかな。そうしな  
いと手伝ってくれないでしょ。だからそのへんをしっかりと説明しなきゃなと思ったね。

この回答52から、J4が「相手配慮規範」と「理由説明規範」を顕在化させていたことがわか  
る。また、J4は【相手への配慮】をする際に「ちょっと暇な時でもいいんだけど」と、相手の都  
合に配慮していた。そのため、「タスク遂行日時の選択権を被依頼者に委ねる」という「相手配慮  
規範」に属するストラテジーを使用していたと言えよう。また、「日本人でも同じだけど、30分  
は長いから」と答えていることから、日本語母語場面でも日本語接触場面と同様の規範を顕在化  
させると言えよう。

次は被依頼者であるS4のフォローアップインタビューの回答を分析する。S4のフォローアッ  
プインタビューの回答は、オープンエンドな質問が1つ、構造的な質問1つの合計2つに対する  
ものである。

まずはオープンエンドな質問の回答で、J4が場面4の依頼者の立場で感じたことを次のように  
語った。

フォローアップインタビューの回答53

نص ساعه والله طويله (بضحك) كونه يخيليني انتظر 30 دقيقه بصراحه ثقيله جدا. وما أتذكر فيه احد طلب مني استبيان 30 دقيقه دايمًا تكون 5 دقائق 10 دقائق اذا طويل. عشان كذا نخليها مثلا نخلص الحين جزء والباقي في وقت ثاني. أو اذا أصر الحين خلاص أتوقع نطلع لكوفي ونخلصها وحنا نتقهوى.

30分は長いね (笑)、30分待たされるのはちょっと負担的に重い。今まで30分のアンケートは頼まれたことないけど、いつも5分、長くても10分ぐらい頼まれる。だから、今一部やって、残りは後でやるとか、もし今じゃなければだめだったら、コーヒーショップに行って、コーヒーを飲みながら、やると思う。

上の回答 54 から、S4 が 30 分かかかるアンケートの回答依頼を非常に負担だと思っていることがわかる。そのため、S4 は「時間提供依頼否定規範」を日本語接触場面で顕在化させていたと言えよう。

被依頼者の立場の S4 に構造的な質問として、なぜ依頼を受け入れたのか、母語場面でも受け入れるのか尋ねると以下のような回答を行った。

フォローアップインタビューの回答 55

لأني مخير في الوقت. بيني وبينك لو ماعطاني حريتي في الوقت ممكن أرفض. طلب زي كذا السعوديين أكيد وده يساعد خويه لكن تلقاه من داخله ماوده يسويه.

日時を選べたからね。選ぶことができなかつたら、断ると思う。サウジアラビア人？やりたくないけど、友達なら助けるかな。もちろん日時を選択できればね。

上の回答 55 から、S4 が日本語接触場面で依頼を受け入れた要因は、回答日時の選択権を J4 が委ねたからだと言えよう。そのため S4 は 6.4.4.1. で述べた「日時選択規範」を強く顕在化させていたと考えられる。また以上の事例から、S2 と S4 は、30 分かかかるアンケートの回答依頼を日本語接触場面で受けた場合、依頼者が「相手配慮規範」に属する「タスク遂行日時の選択権を被依頼者に委ねる」というストラテジーを実行すれば、「日時選択規範」が適用され、「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させると言えよう。また S4 はアラビア語母語場面でも、友達からの依頼で

日時を選択できるなら受け入れると語っていたことから、アラビア語母語場面でも、「日時選択規範」を適用させていることがわかる。そして、同場面で「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させ、【消極的な承諾】を行うと考えられる。

#### S4 が依頼者、J4 が被依頼者のロールプレイ

依頼者である S4 のフォローアップインタビューの回答を分析する。S4 のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が 1 つ、構造的な質問 1 つの合計 2 つに対するものである。

まずはオープンエンドな質問の回答で、J4 が場面 4 の依頼者の立場で感じたことを次のように語った。

フォローアップインタビューの回答 56

مثل ماقلت لك قبل شوي 30 دقيقه ياخي صعبه ولاودي اطلب من احد ولا احد يطلب مني شي زي كذا. عشان كذا قبل المحاضره جالس أتذكر المحادثات اللي درسناها أيام اللغة (يضحك).

さっき、言ったように 30 分は大変だね、このような依頼をしたくないし、されたくない。だから、会話を始める前に、日本語学校で習っていた会話を思い出そうとしていた(笑)。

上の回答 56 から、S4 は依頼者の立場で「時間提供依頼否定規範」を強く顕在化させていたことが明らかになった。

そして依頼者の立場の S4 に構造的な質問として、依頼するときに重要だと思ったことがあったかどうかを尋ねると、以下のように語った。

フォローアップインタビューの回答 57

والله نص متعبه عشان كذا عادي متى ماسمحت ظروفه. هو أصلا هنا قال «أحس طبيعي بيخلصه متى ماينغى».

30 分は大変だから、都合がいいときやってもらいたいと思った。だから、(J4) 君が

「今すぐじゃなければ」って言ったけど、当然だと思った。

上の回答から、S4 は日本語接触場面とアラビア語母語場面の両場面で場面 4 の依頼を成立させるため、「相手配慮規範」に属する「タスク遂行日時の選択権を被依頼者に委ねる」というストラテジーが重要だと考えていたことがわかる。

次は被依頼者である J4 のフォローアップインタビューの回答を分析する。J4 はフォローアップインタビューでオープンエンドな質問への回答を行わなかったため、分析の対象は構造的な質問 1 つのみである。

構造的な質問として、被依頼者の立場の J4 になぜ依頼を受け入れたのか、母語場面でも受け入れるのか尋ねると以下のような回答を行った。

フォローアップインタビューの回答 58

*確かに 30 分は長いけど、10,000 円よりはマシだよ。あと、今すぐじゃなくていいって言ってくれたからかな。（中略）日本人の友達から同じ依頼をされても、時間選べれば、手伝うと思う。*

上の回答 58 から、日本語接触場面と日本語母語場面の両場面で、J4 は「日時選択規範」を顕在化させることが明らかになった。そのため、依頼者が「タスク遂行日時の選択権を被依頼者に委ねる」というストラテジーを行使していれば、J4 は「時間提供依頼肯定規範」を弱く顕在化させ、依頼を受け入れると言えよう。

#### 6.4.2.5. J4 と S4 がすべての場面で依頼を受け入れた要因

すべての場面の意識を確認した後、最後の質問として、J4 と S4 それぞれに「なぜ相手からの依頼を断らなかったのか」を尋ねると、J4 は以下のように答えた。

フォローアップインタビューの回答 59

ぶっちゃけ、嫌な依頼が多かったけど、(S4) は外国人の友達だから、リアルでも受け入れると思う。

また、S4 も J4 同様、親疎関係を大切にしているとの回答を以下のように行っていた。

フォローアップインタビューの回答 60

ما اعرف يمكن عشانني سعودي بس مو حلوه خويك يكون محتاجك وانت قادر تساعد و ماتساعده

自分はサウジアラビア人だからか、親友は困っていて、力を貸すことができるのに、助けないことは良くない。

以上の回答から、J4 と S4 は友達が困っているなら助けるという「友達援助規範」を強く顕在化させていたことがわかる。そして、この規範が顕在化されたことによって、J4 と S4 は、すべての場面で依頼内容を負担だと感じていても【承諾】を行ったと考えられる。また J4 の場合も、回答 59 から、相手が外国人であることを意識していると言えよう。そのため、J4 も「友達援助規範」を接触場面で強く顕在化させていたと言えよう。一方、S4 の場合、親友であれば、国籍に関わらず助けるべきだと考えていることが明らかになった。そのため、S4 はアラビア語母語場面でも「友達援助規範」を強く顕在化させると言えよう。

### 6.4.3. ペア 7 のロールプレイ会話

#### 6.4.3.1. 場面 1：少額の金銭（500 円）貸借依頼場面

J7 が依頼者、S7 が被依頼者のロールプレイ

まず依頼者である J7 のフォローアップインタビューの回答を分析する。J7 のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が 1 つ、構造的な質問 1 つの合計 3 つに対するものである。

1 つ目は依頼者自身に振り返ってもらおうオープンエンドな質問への回答で、J7 は場面 1 について以下のようなことを述べていた。

フォローアップインタビューの回答 61

まあ、そうね、特に思いつくことはないかな。でも、これは本当の場面じゃないからまだいいんだけど、本当にこんな状況にいたら、どうかな、たぶん頼まない？自分の中で頼みたくないかな。そもそもお金の貸し借りって友達同士やめたほうがいいというか、トラブルとか問題とかを避けるべきだと思う。

この回答の下線部から、J7 は J2 や J4 と同様、金額の大小に関わらず金銭の貸し借りを否定的に捉えていることがわかる。そのため、日本語接触場面で J7 は場面 1 の依頼に対して「金銭貸借依頼否定規範」を強く顕在化させていたことが明らかになった。

また構造的な質問として、依頼するときに何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそれは日本人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、J7 は以下のように語った。

フォローアップインタビューの回答 62

500 円玉はそんなに大きい金額じゃないけど、お金の貸し借り自体どうなのって思ってるから、嫌だったね。だけど、依頼しないといけないと考えて、謝って、理由を説明しようと思ったね。さっき言ったみたいに自分の中で頼みたくないって気持ちが強いよね。  
(中略) だから日本人の友達に依頼するとしても、やっぱり、ごめんとか悪いんだけどとか言って訳を言うと思うね。

J7 は 6.3.3.1. の談話例 6-1 のペア 7 で【謝罪】と【状況説明】を使用していたが、上の回答 62 で「謝って、理由を説明しようと思ったね」と語っていることから、J7 が【謝罪】と【状況説明】を使用した理由が明らかになった。また、回答 62 の下線部から、J7 が日本語母語場面でも「理由説明規範」と「金銭依頼謝罪規範」を強く顕在化させると言えよう。

次に、被依頼者である S7 のフォローアップインタビューにおけるオープンエンドな質問の回答 1 つと構造的な質問の回答 1 つの合計 2 を分析する。

まずオープンエンドな質問への回答で、S7 は場面 1 について以下のようなことを語っていた。

フォローアップインタビューの回答 63

هو طالب 500 بين ولا لا. ياخي مبلغ زي كذا ماتقول لخبوك رجعتها بالعكس تقول خذها حلاك.

依頼された金額は 500 円だったでしょ。500 円程度なら、友達に「返さないで」と言っ  
て、あげるべきだと思う。

この回答 63 から S7 が「金銭貸借依頼肯定規範」を強く顕在化させていたことがわかる。また  
談話例 6-2 のペア 7 のデータを確認すると、S7 は「今日奢るよ。」と発話したが、その理由は回  
答 53 の下線部から「少額返却不要規範」を強く顕在化させていたからだったと言えよう。

そして、構造的な質問として、被依頼者の立場の S7 になぜ依頼を受け入れたのか、母語場面で  
も同じかどうかを尋ねると、以下のような回答した。

フォローアップインタビューの回答 64

(J7) صاحبي وكلها ٥٠٠ بين (بضحك)، والله مادري بس بالنسبه لي مراح نكون اخويا لو ماساعته وهي كلها ٥٠٠ بين. والسعوديين مار  
اح يقولون رجعتها في النهايه ٥٠٠ بين.

J7 は友達だし、500 円だよ (笑)。500 円なのに助けないのは友達じゃない。サウジアラ  
ビア人の友達なら、「返して」と言わないね。15 リヤルだよ (笑)

この回答 64 から、談話例 6-1 のペア 7 の会話で S7 が、【積極的な承諾】を使用した理由は、J7  
が S7 と親しい間柄であり、負担度の小さい依頼内容だったからだということが明らかになった。  
また、日本語接触場面であろうと、アラビア語母語場面だろうと、友達なら受け入れるとも語っ  
ていたことから、S7 は両場面で「金銭貸借依頼肯定規範」を強く顕在化させると言えよう。

**S7 が依頼者、J7 が被依頼者のロールプレイ**

まず、依頼者である S7 の構造的な質問の回答 1 つを分析する。なお S7 はオープンエンドな質



間で特にないと答えた。

構造的な質問として、依頼するときには何か重要だと思ったことがあったのか否かを尋ねたところ、S7 は以下のように回答した。

フォローアップインタビューの回答 65

*يقول عندي شي مهم (بضحك). بالنسبه لي احس شي طبيعي يكون بينك وبين خويك سلف في مبالغ زي كذا.*

大事なことって (笑)。友達同士の 500 円の貸し借りは当たり前でしょ。500 円だよ！

上の回答から、S7 は S2 と S4 同様、場面 1 で依頼をする際、相手が親しい友達で依頼の負担度も小さければ、相手は依頼を受け入れるべきだと考えていた。そのため S7 は日本語接触場面の場面 1 で「金銭貸借依頼肯定規範」を強く顕在化させていたと言えよう。

次に被依頼者である J7 のフォローアップインタビューの回答を分析する。J7 はオープンエンドな質問への回答は特にないと答えたため、分析の対象は構造的な質問 1 つのみである。

構造的な質問で、なぜ依頼を受け入れたのか、母語場面でも同じかどうかを尋ねると、J7 は以下のような回答をした。

フォローアップインタビューの回答 66

*外国人は知ってるか分からないけど、日本ではお金を借りることってあまりよくないと  
言われてる。でも (S7) 君とは仲が良いから、「しょうがないな」と思って、貸したよね。*

*日本人の友達から言われても、嫌だよ。まあ 500 円なら貸すけどさ。*

この回答 66 から、J7 は S7 の親友であるため、日本語接触場面で「金銭貸借依頼肯定規範」を弱く顕在化させていたことがわかる。また、回答 66 の下線部から J7 は日本語母語場面でも「金銭貸借依頼肯定規範」を弱く顕在化させると考えられる。

#### 6.4.3.2. 場面 2：多額の金銭（10,000 円）貸借依頼場面

##### J7 が依頼者、S7 が被依頼者のロールプレイ

まず依頼者である J7 のオープンエンドな質問の回答 1 つと構造的な質問の回答 1 つの合計 2 つを分析する。

オープンエンドな質問の回答で、J7 が場面 2 の依頼者の立場で意識したこととして以下のよう  
に語った。

##### フォローアップインタビューの回答 67

まあ、優先度というか、生活のために必要なものじゃないので、そういう表現を使っ  
たと思う。日本人だと、この表現は意味的に言うと、断られるのが半分、またいいよ  
と言ってくれるのが半分、まあ質問をする時に貸してくれませんかと依頼をする時に  
半分は相手が断ると分かった上で質問するね。

この回答 67 の下線部から、J7 は場面 2 の依頼は負担度が非常に高いと感じていることから、  
「金銭貸借依頼否定規範」を強く顕在化させていたと言えよう。

そして構造的な質問として、依頼するときに何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそ  
れは日本人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、J7 は以下のように回答した。

##### フォローアップインタビューの回答 68

やっぱりお金の貸し借り、それも 10,000 円だから、貸してもらえなくてもしょうがな  
いと、貸してもらえてまあ良かったと、幸運だったとかというか、そういうふうで考  
えることだよね。少しでも成功率あげたいなら、なんで必要なのか、必死に説明すべ  
きだと思う。（中略）さっきも言ったかもしれないけど、友達とお金の貸し借りしな  
いほうがいいと思ってるから日本人でも嫌だよね。理由を説明して、貸してくれたら  
儲けもんって感じ。

6.3.2.1. で述べた談話例 6-3 のペア 7 の会話を確認すると、J7 は【依頼】をする理由を【状況説明】で詳細に述べていたが、その理由は「なんで必要なのか、必死に説明すべきだと思う」と考えていたからだということが回答 68 の下線部から明らかになった。そのため、J7 は「理由説明規範」を強く顕在化させていたと言えよう。また、「理由を説明して、貸してくれたら儲けもなくて感じ」と語っていることから、日本語母語場面でも「金銭貸借依頼否定規範」と「理由説明規範」を強く顕在化させると考えられる。

次は被依頼者 S7 のフォローアップインタビューの回答を分析する。S7 のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が 1 つ、構造的な質問 1 つの合計 2 である。

まずはオープンエンドな質問の回答で、S7 が場面 2 の被依頼者の立場で意識していたことを以下のように語った。

フォローアップインタビューの回答 69

اعرف انه يجب الألعاب كثير لكن في بداية المحادثة قال: "أنا عندي مشكلة الآن"، عشان كذا توقعت انه صار له شي وفي النهاية يقول وده يشتري لعبة بكيمون (بضحك). ولكن إذا كان معي فلوس وما احتاجها الآن راح أسلفه لأنه عزيز علي بصراحه.

J7 はゲームが大好きだけど、会話の最初に『ちょっと今困ってて』と言っているから、何があったのかと思ったら、ゲーム、しかもポケモンゲームを買いたいと言っていた（笑）。でも、お金があって、今すぐ使う必要がなければ、J7 は親しい友達だから、助けたと思った。

上の回答 69 の下線部から、S7 は J7 のことを親しい友達だと認識し、「J7 が困っているから助けてい」と語っていたことから、多額（10,000 円程度）の金銭貸借を負担に思わない「金銭貸借依頼肯定規範」を強く顕在化させていたと言えよう。

次は構造的な質問である。S7 が受け入れた理由はオープンエンドな質問の回答 69 で述べていたゆえ、母語場面でも受け入れるかどうかを尋ねると、S7 は以下のような回答を行った。

## フォローアップインタビューの回答 70

بينى بينك الأيام الأخيرة مشغول مرة في العمل وحسيت ظروفه صعبه يوم قال محتاج 10000 بين عشان كذا قلت امدحه وأقول له (اعرف إنك شاد حيلك في عملك)، وإذا ظروفه تسمح وما فيه كلافه عليه ودي يرجعها. وإذا ظروفه ما تسمح عادي لو ما يرجعها. لأنه بصراحة ساعدني كثير الأيام اللي راحت. وحتى لو اللي قدامي سعودي راح يكون نفس الرد اتوقع.

J7は最近バイトで忙しいのに、10,000 足りないと聞いて、大変だと思い、「バイトやって頑張ってると思うんで」とほめてあげたかった。J7にとって無理でなければ事情が許す限り、返して欲しい。そうじゃなければ、返さなくても問題ない。今までいろいろ手伝ってくれたから。相手がサウジアラビア人の友達であっても、返事は変わらないと思う。

上の回答 70 の下線部から、S7 は日本語接触場面と同様の対応をアラビア語母語場面の場合でも取ると考えられる。そのため、日本語接触場面とアラビア語母語場面の両場面で「金銭貸借依頼肯定規範」を非常に強く顕在化させると考えられる。

## S7 が依頼者、J7 が被依頼者のロールプレイ

まず、依頼者である S7 のオープンエンドな質問の回答 1 つと構造的な質問の回答 1 つの合計 2 つを分析する。

オープンエンドな質問の回答で、S7 が場面 2 の依頼者の立場で意識していたことを以下のよう

に語った。

## フォローアップインタビューの回答 71

وقت ما يتعلق الموضوع بالفلوس، عندي انطباع ان اليابانيين يهتمون حتى بالمبالغ الصغيرة، عشان كذا كنت متوقع انه مستحيل يسلفني 10000 بين. حتى لو كان فيه موقف مثل هذا صدق، أتوقع أن اخر شي أفكر فيه اني اتسلف من (فلان).

日本人はお金の話になると、小さい金額でも気を遣っている印象があるから、10,000 円を貸してくれることは無理かなと思いました。もし、本当にこのような場面があったとしても、J7にお金を借りることは最後の選択に思う。

上の回答 71 の下線部から S7 は、日本語接触場面で金銭を借りることが非常に難しいと考えており、「金銭貸借依頼否定規範」を強く顕在化させていたことがわかる。

そして構造的な質問として、依頼するときに何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそれはサウジアラビア人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、S7 は以下のように回答した。

フォローアップインタビューの回答 72

الياباني ما أتوقع بسلفني 10,000 بين. عشان كذا يمكن ما اطلب منه واذا بطلب أحس لازم توضح وتقله متى بترجعها وتوضح له سبب مقنع مثلاً. إذا كان اللي قدامي سعودي، أتوقع إني بقوله أنا محتاج مبلغ في هذه اليومين فيالبيت إذا معك فلوس ما تحتاجها لنهاية الشهر. وأكد راح أحس إني بثقل عليه لكن عموماً مثل هذا الطلب أتوقع انه صعب أطلبه باللغة اليابانية.

基本的に日本人は 10,000 円を貸してくれないと思う。だから、日本人には依頼しないと思う。それでもどうしても日本人に依頼するなら、理由を説明して、返す約束をすることかな。相手がサウジアラビア人の友達だと、普通にこの頃お金がどうしても必要なんだけど、月末まで使わないお金ある？みたいな感じでももちろん相手にかかる負担を感じているけど、このような頼み方はちょっと日本語で頼みにくい。

上の回答 72 の下線部から、S7 は日本語接触場面で 10,000 円を借りることは不可能だと捉えていることから「金銭貸借依頼否定規範」を強く顕在化させていたことが明らかになった。また不可能だと思いつつ依頼せざるを得ない場合、「理由を説明して、返す約束をすること」が重要だと語っていた。実際 6.3.2.2. の談話例 6-4 のペア 7 の会話でも、S7 は「理由説明規範」と「金銭返却約束規範」を顕在化させ、【状況説明】と【約束】を使用していたが、その理由がフォローアップインタビューの回答 72 から明らかになった。また、「相手にかかる負担を感じている」と答えていることから、アラビア語母語場面では「金銭貸借依頼否定規範」を弱く顕在化させると言えよう。さらに、「サウジアラビア人の友達だと、普通にこの頃お金がどうしても必要なんだけど、

月末まで使わないお金ある」と語っていることから、「理由説明規範」も顕在化させると考えられる。

次に被依頼者である J7 のフォローアップインタビューの回答を分析する。J7 はオープンエンドな質問への回答は特にないと答えたため、分析の対象は構造的な質問 1 つのみである。

構造的な質問として、なぜ依頼を受け入れたのか、母語場面でも受け入れるのか尋ねると、J7 は以下のような回答を行った。

フォローアップインタビューの回答 73

10,000 円は厳しいけど、その給料日というちゃんとした返還の約束と説明をしっかりとしてくれたし、(S7) は仲の良い外国人の友達だから、まあちょっと考えようかなと (笑)。  
というか、まあ貸す分はいいけど、返してもらいに行くのもあまり好きじゃないからね。  
だから、最終手段として思ってもらいたかった。(中略) 日本人なら、断るかな。やっぱり、10,000 円は厳しいよ。

6.4.2.2. の談話例 6-4 のペア 7 の会話を見ると、J7 は日本語接触場面で「金銭貸借依頼肯定規範」を弱く顕在化させていたことがわかる。その理由は、日本語接触場面であり、S7 が J7 にとって親友であること、そして S7 が【状況説明】と【約束】を行ったからだということが回答 73 の下線部から明らかになった。一方、日本語母語場面の場合、「断るかな」と語っていることから、J7 は日本語母語場面では「金銭貸借依頼否定規範」を強く顕在化させると考えられる。

### 6.4.3.3. 場面 3：短時間（5 分程度）の時間提供依頼場面

J7 が依頼者、S7 が被依頼者のロールプレイ

まず、依頼者である J7 のオープンエンドな質問の回答 1 つと構造的な質問の回答 1 つの合計 2 つを分析する。

オープンエンドな質問の回答で、S7 が場面 2 の依頼者の立場で意識していたことを以下のように語った。

#### フォローアップインタビューの回答 74

5分で終わる短いアンケートだから、二つ返事ですぐにいいと言うと思ってたけど、実際には、自分でいいか確認してきたり、5分で終わるのか聞いてきたから、ちょっと驚いたかな。でも、その後やってくれると答えたから、特に気にしなかったかな。

上の回答 74 から、J7 は 5 分で終わるアンケートへの回答協力を負担だと感じていなかったことがわかる。そのため「時間提供依頼肯定規範」を強く顕在化させていたと言えよう。

そして構造的な質問として、依頼するときに何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそれは日本人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、S7 は以下のように回答した。

#### フォローアップインタビューの回答 75

5分で終わる簡単なアンケートだよって伝えることかな。時間をはっきりさせないと答えてくれないかもしれないし。あと日本人の友達もだっけ？まあおんなじだと思うかな。

6.3.3.1. の談話例 6-5 のペア 7 を確認すると、J7 は「5分しかかからないけど」と【実行しやすさの強調】を行っていたが、その理由が回答 75 から明らかになった。そのため、「容易さ強調規範」を J7 は顕在化させていたと言えよう。また、「まあおんなじだと思うかな」と答えていることから、日本語母語場面でも「容易さ強調規範」を顕在化させると考えられる。

次は被依頼者である S7 のフォローアップインタビューの回答を分析する。J7 はオープンエンドな質問への回答は特にないと答えたため、分析の対象は構造的な質問 1 つのみである。

構造的な質問として、S7 に依頼するときに何か重要だと思ったことがあったのかを尋ねると、以下のように語った。

#### フォローアップインタビューの回答 76

والله كلها 5 دقائق و (J7) علاقتي فيه قوية ودائم تتقابل وأمون عليه كثير عشان كذا بوافق. وأكيد لو سعودي بيكون نفس الرد.

5分だけだしJ7は親しくて、よく会っているから、大丈夫だと思って受け入れた。この依頼も相手がサウジアラビア人の友達であっても、返事は変わらないと思う。

上の回答 76 の下線部から、S7 が 6.3.3.1. の談話例 6-5 のペア 7 で【積極的な承諾】を受け入れた理由は、親疎関係を重視したからだということが明らかになった。また、「5分だけ」と語っていることから、この依頼を負担だと捉えておらず、「時間提供依頼肯定規範」を強く顕在化させていたと言えよう。また、回答 76 で「サウジアラビア人の友達であっても変わらない」と述べていることから、アラビア語母語場面においても「時間提供依頼肯定規範」を強く顕在化させることが明らかになった。

#### S7 が依頼者、J7 が被依頼者のロールプレイ

依頼者である S7 のフォローアップインタビューの回答を分析するが、S7 はオープンエンドな質問への回答は特にないと答えたため、分析の対象は構造的な質問 1 つのみである。

構造的な質問として、S7 に依頼するときには何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそれはサウジアラビア人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、以下のように語った。

#### フォローアップインタビューの回答 77

قلت اذا 5 دقائق اكيد بيسويه وقلت خلني أنكره انه 5 دقائق. اكيد الشباب السعوديين لو أقول لهم 5 دقائق أتوقع ماتفرق معهم.

5分の短いアンケートだと強調すること。5分ならやってくれると思った。サウジアラビア人も5分って言えば大丈夫だと思う。

上の回答 77 から、S7 は短時間で終わるアンケートの回答依頼を行う際に、短時間で終わることを強調すべきだと考え、【実行しやすさの強調】を行ったことから、日本語接触場面で「容易さ強調規範」を強く顕在化させていたことが明らかになった。また S7 は、依頼の負担度が小さいと考えていたため、場面 3 の依頼内容に対して「時間提供依頼肯定規範」を強く顕在化させていたと言えよう。さらに、「サウジアラビア人も5分って言えば大丈夫だと思う。」と語っていたこと



から、アラビア語母語場面でも「時間提供依頼肯定規範」と「容易さ強調規範」を顕在化させると考えられる。

被依頼者である J7 のフォローアップインタビューの回答を分析するが、J7 はオープンエンドな質問への回答は特にないと答えたため、分析の対象は構造的な質問 1 つのみである。

構造的な質問として、J7 になぜ依頼を受け入れたのか、母語場面でも受け入れるのか尋ねると以下のような回答を行った。

フォローアップインタビューの回答 78

依頼内容がアンケートの手伝いで、しかも 5 分で終わるって言うから、全然難しくなくてむしろ簡単でしたね。会話当時はそんなことでいいんだと考えました。日本人の友達から同じ依頼をされてもぜんぜん大丈夫ですね。

6.3.3.2. の談話例 6-6 のペア 7 を見ると、J7 は【積極的な承諾】を行っていたが、その理由は 5 分かかるアンケートへの回答協力を負担だと思っていなかったからだということが上の回答 78 から明らかになった。また、この結果から、J7 が「時間提供依頼肯定規範」を日本語接触場面だけでなく日本語母語場面でも同程度強く顕在化させると考えられる。

#### 6.4.3.4. 場面 4：長時間（30 分程度）の時間提供依頼場面

J7 が依頼者、S7 が被依頼者のロールプレイ

依頼者である J7 のフォローアップインタビューの回答を分析する。J7 のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が 1 つ、構造的な質問 1 つの合計 2 つである。

まずはオープンエンドな質問の回答で、J7 が場面 4 の依頼者の立場で感じたことを次のように語った。

フォローアップインタビューの回答 79

30 分だと長いから、直接 25 分、25 分（笑）、5 分間ちょっとさばを読みました。でも、

(S7) 君は授業終わったら、やってくれると、優しい人だね。30分はちょっと長いから、

(S7) 君も 30! って言ってるから、ちょっと申し訳ないなと思って、5分だけ短くしたね。(笑)

上の回答 79 の下線部で、J7 は場面 4 の依頼内容を「30分はちょっと長いから」と評価していたことから、S7 に少し迷惑をかける依頼だと思っていたことがわかる。そのため、J7 は日本語接触場面で「時間提供依頼否定規範」を弱く顕在化させていたと言えよう。

そして構造的な質問として、依頼するときに何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそれは日本人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、J7 は以下のように回答した。

フォローアップインタビューの回答 80

ちょっと長いアンケートだからね。嫌がるかなって。(笑)だから、断りづらくするため、理由をダラダラ説明しましたね。(中略) そうそう、この「時間ある時に」ってのも言わないって思いましたね。流石に 30分は長いから (S7) くん都合も考えなきゃって。

(中略) あーそんで日本人のときね、うーん同じように相手に合わせて、理由を言ってお願ひするかな。

この回答 80 の下線部からで、J7 が日本語母語場面で「理由説明規範」を強く顕在化させていたからだと明らかになった。また、6.3.4.1. の談話例 6-7 のペア 7 の会話で、J7 は「時間ある時に」と【相手への配慮】を示していた。そのため、J7 は「相手配慮規範」に属する「タスク遂行日時の選択権を被依頼者に委ねる」というストラテジーも使用していたと言えよう。さらに、日本語母語場面でも日本語接触場面のように依頼すると答えたことから、日本語母語場面でも同様の規範を顕在化させると言えよう。

次は被依頼者である S7 のフォローアップインタビューの回答を分析する。S7 のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が 1 つ、構造的な質問 1 つの合計 2 つである。

まずはオープンエンドな質問の回答で、J7 が場面 4 の依頼者の立場で感じたことを次のように

話った。

#### フォローアップインタビューの回答 81

صدمني يوم قال 30 دقيقه (بضحك) ما اتذكر احد طلب مني زي هالطلب. 30 دقيقه والله طويل وماتوقع بخلصه له أتوقع بسحب عليه (بضحك).

今までこのような長いアンケートを頼まれことはないので、びっくりした (笑)。30分はとても長いから、やらないと思う。(笑)

上の回答 81 から、S7 が 30 分かかるアンケートの回答依頼を非常に負担だと思っていることがわかる。

被依頼者の立場の S7 に構造的な質問として、なぜ依頼を受け入れたのか、母語場面でも受け入れるのか尋ねると以下のような回答を行った。

#### フォローアップインタビューの回答 82

لا بس (J7) يعز علي وماتوقع برفض بس ماراح اسويه وقتها يمكن اذا رجعت أو أقسمه على كم يومين مثلا. بشكل عام يقبل الطلب بس بختار اليوم والوقت المناسب لي(بضحك). وحتى لو كان سعودي كونه خويي بساعده. اذا بختار انا اهم شي عندي تكون علاقتنا قويه وحتى لو كان سعودي بساعده

でも、(J7) 君は親友だから、断らないと思った。だから二日に分けてやるとか、とにかくその場でやりたくない。とりあえず受け入れたけど、後で都合の良い日時を選択する (笑)。(中略) 選ばせてくれるなら親友ならサウジアラビア人の友達も助けるね。

上の回答 82 の下線部から、S7 は、J7 を親友だと思っていたから日本語接触場面で「時間提供依頼肯定規範」を弱く顕在化させ、依頼を受け入れたということがわかる。また、6.3.4.1. の談話例 6-7 のペア 7 の会話で、J7 は S7 にアンケート回答の日時を選択させる発話を行っていなかった。そのため、「日時選択規範」からの逸脱が生じ、S7 は調整行動として、「授業終わったら、

でもいい？」と発話し、S7に都合の良い日時を選択しようとしたと言えよう。また、S7はアラビア語母語場面でも、日本語接触場面同様、「時間提供依頼肯定規範」を弱く顕在化、そして「日時選択規範」も顕在化させることが回答82から明らかになった。

### S7が依頼者、J7が被依頼者のロールプレイ

依頼者であるS7のフォローアップインタビューの回答は、オープンエンドな質問が1つ、構造的な質問1つの合計2である。

まずはオープンエンドな質問の回答で、J7が場面4の依頼者の立場で感じたことを次のように語った。

フォローアップインタビューの回答83

لو رفض مألومه وتوقعت انه بيرفض لان الوقت طويل لكن غريبه قبل الطلب بسهولة مقارنه بالمواقف الثانيه

断られても平気だと思った。というか、30分は長いから、断ると思ってたけど、他の場面と比べると、この依頼を簡単に受け入れている。

上の回答83から、S7は日本語接触場面で場面4の依頼内容を負担だと強く感じていることがわかる。そのため、「時間提供依頼否定規範」を強く顕在化させていたことが明らかになった。

そして依頼者の立場のS7に構造的な質問として、依頼するときに何か重要だと思ったことがあったのか、そしてそれはサウジアラビア人の友達に依頼するときも同じかどうかを尋ねると、以下のように語った。

フォローアップインタビューの回答74

30دقيقه طويله عشان كذا قلت بضبط وقتي معاه. وانا لو أحد بيطلب مني 30 دقيقه بدور اقرب طريق للهروب(بضحك)

واتوقع

عشان مايتهرب قلت خلني اعزمه على كوفي ستاربكس(بضحك). أتوقع اليابانيين هنا بيكون تقبلهم للطلب أكبر من

السعوديين. والطلب هذا تعرف يعتمد كثير على ظروفك وقتها. غير كذا أتوقع لازم يعرف خويي ان الموضوع مهم بالنسبغ

30分は長いから、彼の予定に合わせたいと思った。そして、私だったら逃げたいから(笑)、

(J7) 君が逃げないように好きなスターバックス (笑) で奢りたいと思った。サウジアラビア人は日本人よりも受け入れてくれないと思う。だから、相手の予定が1番大事だね。あとこの依頼がとても大事だということを相手が理解しないとイケない。

上の回答から、S7 は日本語接触場面の場面 4 の依頼を成立させるため、「理由説明規範」と「相手配慮規範」を顕在化させ、「タスク遂行日時を選択権を被依頼者に委ねる」というストラテジーを実行していることと言えよう。また回答 74 の下線部で「サウジアラビア人は日本人よりも受け入れてくれないと思う」と語っていることから、アラビア語母語場面では日本語接触場面よりも「理由説明規範」と「相手配慮規範」を強く顕在化させると考えられる。

次に被依頼者である J7 のフォローアップインタビューの回答を分析する。J7 はオープンエンドな質問への回答は特にないと答えたため、分析の対象は構造的な質問 1 つのみである。

構造的な質問として、被依頼者の立場の J7 になぜ依頼を受け入れたのか、母語場面でも受け入れられるのか尋ねると以下のような回答を行った。

フォローアップインタビューの回答 85

そうね、僕はたぶんどんなに長いアンケートでも時間を選べれば、断らないかな。時間をえらべなきゃ、ごめんと言って、断ると思う。(中略) うん、国籍関係なく友達から依頼されたら、同じかな。

回答 85 の下線部で「どんな長いアンケートでも時間を選べれば、断らないかな」と答えていることから、日時の選択を重視していることがわかる。そのため、J7 は日本語接触場面で「日時選択規範」を強く顕在化させていたといえよう。また、談話例 6-8 のペア 7 の会話で S7 は「時間があるときでいいから」と【相手への配慮】を行っていた。回答 85 の下線部で「時間を選べれば、断らない」と答えていることから、J7 は日本語接触場面で「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させていることが明らかになった。そして、「国籍関係なく」と述べていることから、日本語母語場面でも「日時選択規範」を顕在化させ、条件が整えば「時間提供依頼肯定規範」も顕在化させる

と言えよう。

#### 6.4.3.5. J7 と S7 がすべての場面で依頼を受け入れた要因

すべての場面の意識を確認した後、最後の質問として、J7 と S7 に「なぜ相手からの依頼を断らなかったのか」を尋ねたが、J7 は以下のように答えた。

フォローアップインタビューの回答 86

やっぱり、本当に仲の良い友達だからだと思う。あと外国人だし、お金の貸し借りは良くないみたいな日本のルールというか、文化しらないから、しょうがないかなって。

また、S7 も以下のように親疎関係を重視していることがわかる回答を行っていた。

フォローアップインタビューの回答 87

يمكن لأن السعوديين متعودين اذا قادر معناه لازم تساعد

サウジアラビアだと助けられるなら親友を助けることは当たり前だから。

以上の回答 86 と回答 87 から、J7 と S7 が「友達援助規範」を強く顕在化させていたことがわかる。この規範が適用されたことにより、J7 と S7 はたとえ依頼内容が負担だと感じて、すべての場面で【承諾】を行ったのだと考えられる。また J7 も、J2 と J4 同様、回答 86 から、相手が外国人であることを意識していると言えよう。そのため、J7 も「友達援助規範」を接触場面で強く顕在化させていたと言えよう。一方、S7 の場合も、親友であれば、助けるべきだと考えていることが明らかになった。そのため、S4 はアラビア語母語場面でも「友達援助規範」を強く顕在化させると言えよう。

### 6.5. まとめ

本節ではまず 6.5.1. で、日・サ被調査者が日本語接触場面の依頼者の立場で使用した各場面に

における意味公式の割合を述べ、その後意味公式に関する規範をまとめる。次に 6.5.2. で、日・サ被調査者が被依頼者の立場で使用した依頼の応答の分類をまとめ、どのような規範に基づいた調整行動だったのかを考察する。そして最後に 6.5.3. で、フォローアップインタビューで明らかになったペア 2 とペア 4 とペア 7 の日・サ被調査者の内省から、日本語接触場面で顕在化された依頼に関する規範を明らかにする。

### 6.5.1. 日本語接触場面における日・サ依頼者の意味公式とその規範のまとめ

まず、日本語接触場面のロールプレイの文字化データから、日・サ被調査者が使用した依頼者の立場の意味公式とその意味公式の規範を明らかにする。(以下、表 6-25 参照)

場面 1 で日本人依頼者が使用した意味公式は、【依頼】を J1、J2、J3、J4、J5、J6、J7 全員が、【状況説明】を J1、J2、J3、J4、J5、J6、J7 全員が、【謝罪】を J3、J4、J6、J7 が、【約束】を J2 が、【相手への配慮】を J6 が使用した。一方、サウジアラビア人依頼者の場合、【依頼】を S1、S2、S3、S4、S5、S6、S7 全員が、【状況説明】を S1、S2、S3、S4、S5、S6、S7 全員が、【約束】を S2 が使用した。そして、以上の意味公式の使用から、次の規範を日・サ被調査者が日本語接触場面の場面 1 で顕在化させたと分析する。日本人依頼者の場合、「貸借動詞使用規範」を J1、J2、J3、J4、J5、J6、J7 全員が、「理由説明規範」を J1、J2、J3、J4、J5、J6、J7 全員が、「金銭依頼謝罪規範」を J3、J4、J6、J7 が、「返却約束規範」を J2 が、「相手配慮規範」を J6 が顕在化させたと考えられる。一方、サウジアラビア人依頼者の場合、「貸借動詞使用規範」を S1、S4、S5、S6、S7 が、「理由説明規範」を S1、S2、S3、S4、S5、S6、S7 全員が、「返却約束規範」を S2 が顕在化させていた。

次は場面 2 で、日本人依頼者が使用した意味公式は、【依頼】を J1、J2、J3、J4、J5、J6、J7 全員が、【状況説明】を J1、J2、J3、J4、J5、J6、J7 全員が、【謝罪】を J1、J2、J3、J4、J5、J6、J7 全員が、【約束】を J1、J2、J3、J4、J6、J7 が使用した。一方、サウジアラビア人依頼者の場合、【依頼】を S1、S2、S3、S4、S5、S6、S7 全員が、【状況説明】を S1、S2、S3、S4、S5、S6、S7 全員が、【相手への配慮】を S1、S2、S3、S4、S5、S7 が【約束】を S1、S3、S4、S5、S6、S7 が、【呼びかけ】を S1、S3、S7 が使用した。そして、以上の意味公式の使用から、次の規範を

日・サ被調査者が日本語接触場面の場面 2 で顕在化させたと分析する。日本人依頼者の場合、「貸借動詞使用規範」を J1、J2、J3、J4、J5、J6、J7 全員が、「理由説明規範」を J1、J2、J3、J4、J5、J6、J7 全員が、「金銭依頼謝罪規範」を J1、J2、J3、J4、J5、J6、J7 全員が、「返却約束規範」を J1、J2、J3、J4、J6、J7 が顕在化させていたと考えられる。一方、サウジアラビア人依頼者の場合、「貸借動詞使用規範」を S1、S2、S3、S4、S5、S6、S7 全員が、「理由説明規範」を S1、S2、S3、S4、S5、S6、S7 全員が、「相手配慮規範」を S1、S2、S3、S4、S5、S6、S7 全員が「返却約束規範」を S1、S3、S4、S5、S6、S7 が、「呼称使用規範」を S1、S3、S7 が顕在化させていた。

そして場面 3 で、日本人依頼者が使用した意味公式は、【依頼】を J1、J2、J3、J4、J5、J6、J7 全員が、【状況説明】を J1、J2、J3、J4、J5、J6、J7 全員が、【実行しやすさの強調】を J2、J3、J6、J7 が、【相手への配慮】を J2 が使用した。一方、サウジアラビア人依頼者の場合、【依頼】を S1、S2、S3、S4、S5、S6、S7 全員が、【状況説明】を S1、S2、S3、S4、S5、S6、S7 全員が、【実行しやすさの強調】を S3、S4、S5、S6、S7 が、【相手への配慮】を S7 が使用した。以上の意味公式の使用から、次の規範を日・サ被調査者が日本語接触場面の場面 3 で顕在化させたと分析する。

日本人依頼者の場合、「理由説明規範」を J1、J2、J3、J4、J5、J6、J7 全員が、「容易さ強調規範」を J2、J3、J6、J7 が、「相手配慮規範」を J2 が顕在化させていたと考えられる。一方、サウジアラビア人依頼者の場合、「理由説明規範」を S1、S2、S3、S4、S5、S6、S7 全員が、「容易さ強調規範」を S3、S4、S5、S6、S7 が、「相手配慮規範」を S7 が顕在化させていた。

最後に場面 4 で、日本人依頼者が使用した意味公式は、【依頼】を J1、J2、J3、J4、J5、J6、J7 全員が、【状況説明】を J1、J2、J3、J4、J5、J6、J7 全員が、【相手への配慮】を J1、J2、J3、J4、J7 が使用していた。一方、サウジアラビア人依頼者の場合、【依頼】を S1、S2、S3、S4、S5、S6、S7 全員が、【状況説明】を S1、S2、S3、S4、S5、S6、S7 全員が、【相手への配慮】を S1、S2、S3、S4、S5、S6、S7 全員が、【約束】を S7 が、【呼びかけ】を S5 が使用した。以上の意味公式の使用から、次の規範を日・サ被調査者が日本語接触場面の場面 4 で顕在化させたと分析する。日本人依頼者の場合、「理由説明規範」を J1、J2、J3、J4、J5、J6、J7 全員が、「相手配慮規範」を J1、J2、J3、J4、J7 が顕在化させていたと考えられる。一方、サウジアラビア人依頼者の場合、「理由説明規範」を S1、S2、S3、S4、S5、S6、S7 全員が、「容易さ強調規範」を S3、S4、S5、S6、



S7 が、「相手配慮規範」を S7 が顕在化させていた。

以上の結果をまとめると以下の表 6-25 と表 6-26<sup>15</sup>のようになった。

表 6-25 各場面における日本人依頼者の意味公式と対応する規範の顕在化・潜在化

場面	顕在化していた規範名	各被調査者の意味公式使用数と規範の顕在化有無						
		J1	J2	J3	J4	J5	J6	J7
場面 1	貸借動詞使用規範	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在
	理由説明規範	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在
	金銭依頼謝罪規範	潜在	潜在	顕在	顕在	潜在	顕在	顕在
	返却約束規範	潜在	顕在	潜在	潜在	潜在	潜在	潜在
	相手配慮規範	潜在	潜在	潜在	潜在	潜在	顕在	潜在
場面 2	貸借動詞使用規範	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在
	理由説明規範	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在
	金銭依頼謝罪規範	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在
	返却約束規範	顕在	顕在	顕在	顕在	潜在	顕在	顕在
場面 3	理由説明規範	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在
	容易さ強調規範	潜在	顕在	顕在	潜在	潜在	顕在	顕在
	相手配慮規範	潜在	顕在	潜在	潜在	潜在	潜在	潜在
場面 4	理由説明規範	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在
	相手配慮規範	顕在	顕在	顕在	顕在	潜在	潜在	顕在

表 6-26 各場面におけるサウジアラビア人依頼者の意味公式と対応する規範の顕在化・潜在化

場面	意味公式と対応する規範	各被調査者の意味公式使用数と規範の顕在化有無						
		S1	S2	S3	S4	S5	S6	S7
場面 1	貸借動詞使用規範	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在
	理由説明規範	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在
	返却約束規範	潜在	顕在	潜在	潜在	潜在	潜在	潜在
場面 2	貸借動詞使用規範	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在
	理由説明規範	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在
	相手配慮規範	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	潜在	顕在
	返却約束規範	顕在	潜在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在
	呼称使用規範	顕在	潜在	顕在	潜在	潜在	潜在	顕在
場面 3	理由説明規範	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在
	容易さ強調規範	潜在	潜在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在

<sup>15</sup> 注で表の中の数字は生じた回数である

	相手配慮規範	潜在	潜在	潜在	潜在	潜在	潜在	潜在	潜在
場面 4	理由説明規範	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在
	相手配慮規範	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在	顕在
	報酬約束規範	潜在	潜在	潜在	潜在	潜在	潜在	潜在	顕在
	呼称使用規範	潜在	潜在	潜在	潜在	顕在	潜在	潜在	潜在

さらに表 6-25 と表 6-26 を見ると、日・サ被調査者ともに、場面 1 や場面 3 で顕在化された規範を、依頼の負担度が大きい場面 2 と場面 4 で、顕在化の可能性が増加していることがわかる。また、負担度の大きい場面 2 や場面 4 では、被依頼者の被る負担を軽減させる規範を顕在化させる傾向が見られた。

#### 6.5.2. 日本語接触場面の日・サ被依頼者の依頼への応答・情報要求とその規範のまとめ

次は、日本語接触場面の各場面で日・サ被調査者が被依頼者の立場で使用した依頼への応答と応答に関する規範を同定する。また、依頼の応答の規範を同定する際に、日・サ被調査者が場面 1 と場面 2 で【積極的な承諾】が使用した場合、「金銭貸借依頼肯定規範」を強く、【消極的な承諾】を使用した場合、同規範を弱く顕在化させたと捉える。さらに、日・サ被調査者が場面 3 と場面 4 で【積極的な承諾】が使用した場合、「時間提供依頼肯定規範」を強く、【消極的な承諾】を使用した場合、同規範を弱く顕在化させたと捉える。

まずは場面 1 で、日本人被依頼者全員が【承諾】を使用していた。詳細な内訳としては、【積極的な応答】を J2、J3、J6 が、【消極的な承諾】を J1、J4、J5、J7 が使用していた。またサウジアラビア人被依頼者の場合、【積極的な応答】を S1、S2、S3、S4、S5、S6、S7 全員が使用し、他の応答は確認されなかった。そのため、日本人被依頼者の場合、【積極的な応答】を使用した J2、J3、J6 は「金銭貸借依頼肯定規範」を強く、【消極的な承諾】を使用した J1、J4、J5、J7 は同規範を弱く顕在化させたと見えよう。またサウジアラビア人被依頼者の場合、全員が【積極的な承諾】を使用していたことから、S1、S2、S3、S4、S5、S6、S7 全員が「金銭貸借依頼肯定規範」を強く顕在化させていたと考えられる。

次の場面 2 でも、日本人被依頼者全員が【承諾】を使用していた。詳細な内訳としては、【積極的な応答】を J2、J3 が、【消極的な承諾】を J1、J4、J5、J6、J7 が使用していた。またサウジアラビア人被依頼者も全員が【承諾】を使用していたが、被依頼者ごとに応答の積極性が異なっていた。【積極的な応答】を使用したのは S3、S4、S5、S7 で、残りの S1、S2、S6 は【消極的な応答】を使用していた。以上の結果から、日本人被依頼者の場合、【積極的な応答】を使用した J2、J3 は「金銭貸借依頼肯定規範」を強く、【消極的な承諾】を使用した J1、J4、J5、J6、J7 は同規範を弱く顕在化させたと見えよう。またサウジアラビア人被依頼者の場合、【積極的な応答】を使用した S3、S4、S5、S7 は「金銭貸借依頼肯定規範」を強く、【消極的な応答】を使用した S1、S2、S6 は同規範を弱く顕在化させていたと考えられる。

続く場面 3 においても、日本人被依頼者全員が【承諾】を使用していた。詳細な内訳としては、【積極的な応答】を J1、J2、J3、J4、J5、J7 が、【消極的な承諾】を J6 が使用していた。またサウジアラビア人被依頼者の場合、被依頼者全員が【積極的な応答】を使用していた。そのため、日本人被依頼者の場合、【積極的な応答】を使用した J1、J2、J3、J4、J5、J7 は「時間提供依頼肯定規範」を強く、【消極的な承諾】を使用した J6 は同規範を弱く顕在化させたと見えよう。またサウジアラビア人被依頼者の場合、全員が【積極的な承諾】を使用していたことから、S1、S2、S3、S4、S5、S6、S7 全員が「時間提供依頼肯定規範」を強く顕在化させていたと考えられる。

最後の場面 4 でも、日本人被依頼者全員が【承諾】を使用していた。詳細な内訳としては、【積極的な応答】を J2、J3、J7 が、【消極的な承諾】を J1、J4、J5、J6 が使用していた。またサウジアラビア人被依頼者の場合、全員が【消極的な応答】を使用していた。以上の結果から、日本人被依頼者の場合、【積極的な応答】を使用した J2、J3、J7 は「時間提供依頼肯定規範」を強く、【消極的な承諾】を使用した J1、J4、J5、J6 は同規範を弱く顕在化させたと見えよう。またサウジアラビア人被依頼者の場合、全員が【消極的な応答】を使用したことから、S1、S2、S3、S4、S5、S6、S7 全員が「時間提供依頼肯定規範」を弱く顕在化させていたと考えられる。

以上の結果をまとめると、以下の表 6-27 と表 6-28 のようになる。

表 6-27 各場面における日本人被依頼者の依頼への応答と応答規範の動態性

場面	番号	依頼への応答の種類	依頼への応答の規範	規範の動態性
日本人 被依頼 者場面 1	J1	消極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	弱く顕在化
	J2	積極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	強く顕在化
	J3	積極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	強く顕在化
	J4	消極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	弱く顕在化
	J5	消極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	弱く顕在化
	J6	積極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	強く顕在化
	J7	消極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	弱く顕在化
日本人 被依頼 者場面 2	J1	消極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	弱く顕在化
	J2	積極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	強く顕在化
	J3	積極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	強く顕在化
	J4	消極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	弱く顕在化
	J5	消極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	弱く顕在化
	J6	消極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	弱く顕在化
	J7	消極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	弱く顕在化
日本人 被依頼 者場面 3	J1	積極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	強く顕在化
	J2	積極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	強く顕在化
	J3	積極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	強く顕在化
	J4	積極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	強く顕在化
	J5	積極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	強く顕在化
	J6	消極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	弱く顕在化
	J7	積極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	強く顕在化
日本人	J1	消極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	弱く顕在化
	J2	積極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	強く顕在化

被依頼者場面4	J3	積極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	強く顕在化
	J4	消極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	弱く顕在化
	J5	消極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	弱く顕在化
	J6	消極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	弱く顕在化
	J7	積極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	強く顕在化

表 6-28 各場面におけるサウジアラビア人被依頼者の依頼への応答と応答規範の動態性

場面	番号	依頼への応答の種類	依頼への応答の規範	規範の動態性
サウジアラビア人被依頼者場面1	S1	積極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	強く顕在化
	S2	積極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	強く顕在化
	S3	積極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	強く顕在化
	S4	積極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	強く顕在化
	S5	積極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	強く顕在化
	S6	積極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	強く顕在化
	S7	積極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	強く顕在化
サウジアラビア人被依頼者場面2	S1	消極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	弱く顕在化
	S2	消極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	弱く顕在化
	S3	積極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	強く顕在化
	S4	積極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	強く顕在化
	S5	積極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	強く顕在化
	S6	消極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	弱く顕在化
	S7	積極的な承諾	金銭貸借依頼肯定規範	強く顕在化
サウジアラビア	S1	積極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	強く顕在化
	S2	積極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	強く顕在化
	S3	積極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	強く顕在化

ア人被 依頼者 場面 3	S4	積極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	強く顕在化
	S5	積極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	強く顕在化
	S6	積極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	強く顕在化
	S7	積極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	強く顕在化
サウジ アラビ ア人被 依頼者 場面 4	S1	消極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	弱く顕在化
	S2	消極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	弱く顕在化
	S3	消極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	弱く顕在化
	S4	消極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	弱く顕在化
	S5	消極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	弱く顕在化
	S6	消極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	弱く顕在化
	S7	消極的な承諾	時間提供依頼肯定規範	弱く顕在化

次に各場面で日・サ被調査者が被依頼者の立場で使用した【情報要求】の意味公式使用数をまとめ、この意味公式の規範である「理由説明規範」を何人の日・サ被調査者が顕在化させていたのか明らかにする。

まずは場面 1 で、日本人被依頼者の場合、【情報要求】を使用した人は、J6 を除く J1、J2、J3、J4、J5、J6、J7 の 6 人であった。【情報要求】の発話を確認すると、6 人全員が依頼の理由を尋ねていたことから、この 6 人すべてがサウジアラビア人依頼者から十分な説明を受けていないと感じ、「理由説明規範」からの逸脱が生じ、調整行動として【情報要求】を使用したと考えられる。さらに、規範の強弱の観点から分析すると、J4、J5、J6、J7 は、サウジアラビア人依頼者が【依頼】を行った際に説明されなかった情報のため【情報要求】を行っていたが、残りの J1 と J2 は、【情報要求】で、さらなる依頼の説明を求めている。そのため、【情報説明】を受けてもなお【情報要求】を行った 2 人は、「理由説明規範」を強く顕在化させていたのではないか。なお【情報要求】を使用しなかった 1 人は、【依頼】の前に【状況説明】を受けていたため、「理由説明規範」がそのまま適用されたのだと考えられる。

一方、サウジアラビア人被依頼者の場合、場面1で【情報要求】が使用されなかった。

次は場面2の日本人被依頼者の場合、【情報要求】を使用した人は、J1、J4、J6、J7の4人であった。【情報要求】の発話を確認すると、この4人全員がサウジアラビア人依頼者の【状況説明】で触れられなかったより詳細な依頼の理由を尋ねていた。また4人内のJ1とJ4の2人は必要な金額を再度確認していた。また、残りのJ6、J7は、S6とS7が説明しなかった明確な返却日を尋ねていた。以上の例から、この4人はサウジアラビア人依頼者から十分な説明を受けていないと感じ、「理由説明規範」から逸脱が生じ、調整行動として【情報要求】を使用したと考えられる。

次はサウジアラビア人被依頼者についてで、S1とS2が【情報要求】を使用していた。【情報要求】の発話内容を確認すると、【状況説明】で触れられなかったより詳細な依頼の理由を尋ねていた。このことから、この2人は日本人依頼者から十分な説明を受けていないと感じ、「理由説明規範」からの逸脱が生じ、調整行動として【情報要求】を使用したと考えられる。また、【情報要求】を行った2人は、いずれも【消極的な承諾】を行っていた。そのため、サウジアラビア人被依頼者の場合、日本語接触場面で、日本人の親友から金銭貸借の依頼を受けた際、【情報要求】を使用することによって、その依頼に対して消極的であることを間接的に伝えるという「理由説明規範」に属するストラテジーを使用したのではないかと考えられる。そして、規範の強弱の観点から【情報要求】と「理由説明規範」を分析すると、【情報要求】を使用した2人は、依頼者から【状況説明】を受けた後、【情報要求】を使用していた。日本人依頼者から【状況説明】で【依頼】の前に説明を受けたにも関わらず、再度【情報要求】を行い、理由を求めていたことから、この2人は「理由説明規範」を強く顕在化させていたと考えられる。

続く場面3の日本人被依頼者の場合、【情報要求】を使用した人は、J6とJ7の2人であった。この2人の発話内容を確認すると、【状況説明】で触れられなかったアンケートにかかる時間を尋ねていた。また、【情報要求】を行わなかった日本人被依頼者の場合、サウジアラビア人依頼者がアンケートの所要時間を予め【状況説明】で伝えていた。このことから、日本人被依頼者は日本語接触場面で時間の提供依頼を受ける際に、依頼の理由だけでなく、タスクの完遂に必要な時間の伝達も重視すると考えられる。そのため、日本人被依頼者の場合、「時間提供の依頼を受ける場

合、依頼相手は依頼の理由だけでなく、依頼の所要時間も説明すべき」という「理由説明規範」に属するストラテジーが存在すると考えられる。そして、規範の強弱の観点から【情報要求】と「理由説明規範」を分析すると、【情報要求】を使用した2人は、依頼者から【状況説明】を受けた後、【情報要求】を使用していた。そのため、この2人は「理由説明規範」を強く顕在化させ、日本人依頼者からの説明を受けたが、説明が不十分であると捉え、逸脱からの調整行動として【情報要求】を使用したと考えられる。

そしてサウジアラビア人被依頼者の場合、S1とS2が【情報要求】の意味公式を場面3で使用していた。2人の発話内容を確認すると、【状況説明】で触れられなかった必要な時間や依頼のアンケートの理由を尋ねていた。このことから、この2人は日本人依頼者から十分な説明を受けていないと感じ、「理由説明規範」からの逸脱が生じ、調整行動として【情報要求】を使用したと考えられる。そして、規範の強弱の観点から【情報要求】と「理由説明規範」を分析すると、【情報要求】を使用した2人は、依頼者から【状況説明】を受けた後、【情報要求】を使用していた。そのため、この2人は「理由説明規範」を強く顕在化させ、日本人依頼者からの説明を受けたが、説明が不十分であると捉え、逸脱からの調整行動として【情報要求】を使用したと考えられる。

そして最後に、場面4の日本人被依頼者の場合、J2、J4、J6、J7の4人が【情報要求】を使用していた。J2、J4、J6、J7の発話内容を分類すると、J4、J5はアンケート実施の日時を選択できるかについて、J6は所要時間の確認を、J2はアンケートの形式について尋ねていた。また、J6が確認したアンケートの所要時間に注目すると、ペア6を除くサウジアラビア人依頼者はアンケートの所要時間を述べていた。そのため、J6を除く日本人被依頼者は、所要時間の確認をする必要がなかったため、【情報要求】を使用しなかったのではないかと考えられる。また、6.3.3.2.で述べたように、短時間で終わるアンケートへの回答を依頼する場面3でも、アンケートの所要時間を確認する【情報要求】が確認された。そのため、日本人被依頼者には、時間提供依頼を日本語接触場面で受ける際に、「依頼の理由説明だけでなく、タスク完遂に必要な所要時間も依頼者は述べるべき」という「依頼者説明規範」に属するストラテジーが存在すると考えられる。そして、規範の強弱の観点から【情報要求】と「理由説明規範」を分析すると、【情報要求】を使用した4人全員が、依頼者から【状況説明】を受けた後、【情報要求】を使用していた。そのため、この4



人は「理由説明規範」を強く顕在化させ、日本人依頼者からの説明を受けたが、説明が不十分であると捉え、逸脱からの調整行動として【情報要求】を使用したと考えられる。

そして、サウジアラビア人被依頼者の場合、場面4で7人全員が【情報要求】を使用していた。また【情報要求】の発話内容を確認すると、所要時間の確認をしたS3を除くすべてのサウジアラビア人被依頼者がアンケート実施の日時を選択できるか尋ねていた。以上のことから、本研究のS3を除くサウジアラビア人被依頼者が、場面4で「回答日時選択規範」を顕在化させていたのではないかと考えられる。なお、S3の場合、ペアのJ3が時間制限のないオンラインアンケートだからいつでも良いと【状況説明】で述べていたので「回答日時選択規範」からの逸脱が生じなかったと考えられる。さらに、【情報要求】を行った全員が【消極的な承諾】を行ってことから、サウジアラビア人は日本語接触場面で日本人の親友から長時間かかるアンケートの回答依頼をされた場合、【情報要求】を使用することによって、依頼に対して消極的であることを間接的に伝えようとしていたのではないかと分析できる。

### 6.5.3. フォローアップインタビューの分析のまとめ

フォローアップインタビューを分析した結果、ペア2、ペア4、ペア7がロールプレイで意識していた依頼に関する規範が以下の表6-29から表6-34で示したように明らかになった。

表 6-29 フォローアップインタビューで明らかになったJ2とS2の依頼者の立場の規範

場面	規範名	J2			S2		
		母語 場面	接触 場面	動態性	母語 場面	接触 場面	動態性
場面1	金銭貸借依頼否定規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	潜在	潜在	両場面で潜在化
	金銭貸借依頼肯定規範	潜在	潜在	両場面で潜在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 強く顕在化
	理由説明	顕在	顕在	両場面で意識的に強く	顕在	顕在	両場面で無意識的

	規範			顕在化			に顕在化
	少額返却不要規範	潜在	潜在	両場面で潜在化	顕在	顕在	両場面で意識的に顕在化。母語場面でより強く顕在化
場面	金銭貸借依頼否定規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	潜在	潜在	両場面で潜在化
	2 金銭貸借依頼肯定規範	潜在	潜在	両場面で潜在化	顕在	顕在	両場面で意識的に顕在化。母語場面でより強く顕在化
	金銭依頼謝罪規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	潜在	潜在	両場面で潜在化
	理由説明規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	顕在	顕在	両場面で無意識的に顕在化
場面	時間提供依頼肯定規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化
	3 理由説明規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	顕在	顕在	両場面で無意識的に顕在化
	容易さ強調規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	顕在	顕在	両場面で無意識的に顕在化
場面	時間提供依頼否定規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化
	4 相手配慮規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化
	理由説明規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	顕在	顕在	両場面で無意識的に顕在化

以下では表 6-29 から依頼者の立場の J2 と S2 が日本語接触場面の各場面で顕在化させていた規範をまとめる。

まずは J2 の場面 1 で、フォローアップインタビューの回答から、J2 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は「金銭貸借依頼否定規範」と「理由説明規範」の 2 つであったことが明らかになった。また、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、依頼者である J2 は日本語母語場面の場面 1 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

次は場面 2 で、フォローアップインタビューの回答から、J2 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は「金銭貸借依頼否定規範」、「理由説明規範」、「金銭依頼謝罪規範」の 3 つであったことが明らかになった。フォローアップインタビューでこれらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、依頼者である J2 は日本語母語場面の場面 2 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

続いて場面 3 で、フォローアップインタビューの回答から、J2 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は「時間提供依頼肯定規範」と「理由説明規範」、「容易さ強調規範」の 3 つであったことが明らかになった。フォローアップインタビューでこれらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、依頼者である J2 は日本語母語場面の場面 3 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

最後は場面 4 で、フォローアップインタビューの回答から、J2 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は「時間提供依頼否定規範」、「理由説明規範」、「相手配慮規範」の 3 つであったことが明らかになった。フォローアップインタビューでこれらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、依頼者である J2 は日本語母語場面の場面 4 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

続いて、依頼者の立場の S2 が日本語接触場面の各場面で顕在化させていた規範をまとめる。

フォローアップインタビューの回答から、場面 1 で S2 が規範は「金銭貸借依頼肯定規範」、「少額返却不要規範」、「理由説明規範」の 3 つであったことが明らかになった。この内、S2 は

「金銭貸借依頼肯定規範」と「少額返却不要規範」は、S2 が意識して顕在化させていた規範であった。またフォローアップインタビューで、「理由説明規範」について語っていなかったが、ロールプレイの文字化データでこの規範の顕在が確認されたため、無意識的に顕在化させた認定した。そして、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、依頼者である S2 はアラビア語母語場面の場面 1 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

次は場面 2 で、フォローアップインタビューの回答から、S2 が意識した上で顕在化させていた規範は「金銭貸借依頼肯定規範」と「理由説明規範」の 2 つであったことが明らかになった。フォローアップインタビューでこれらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。さらに、アラビア語母語場面の場合、「金銭貸借依頼肯定規範」を日本語接触場面よりも強く顕在化させることフォローアップインタビューで語っていた。そのため、依頼者である S2 はアラビア語母語場面の場面 2 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

続く場面 3 で、フォローアップインタビューの回答から、S2 が顕在化させていた規範は「時間提供依頼肯定規範」、「理由説明規範」、「容易さ強調規範」の 3 つであったことが明らかになった。この内、「時間提供依頼肯定規範」は意識した上で顕在化させていたとフォローアップインタビューで語っていたが、「理由説明規範」と「容易さ強調規範」についての回答はなかった。しかしながら、ロールプレイの談話データで「理由説明規範」と「容易さ強調規範」に関する意味公式の使用が確認されたことから、これらの規範は無意識的に顕在化されたと言えよう。そして、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、依頼者である S2 はアラビア語母語場面の場面 3 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

最後に場面 4 で、フォローアップインタビューの回答から、S2 が顕在化させていた規範は「時間提供依頼否定規範」と「理由説明規範」、「相手配慮規範」の 3 つであったことが明らかになった。

この内、S2 は「時間提供依頼否定規範」と「相手配慮規範」を意識的に顕在化させていたとフ

フォローアップインタビューで語っていたが、「理由説明規範」については何も述べていなかった。しかしながら、ロールプレイの談話データで「理由説明規範」に関する意味公式の使用が確認されたことから、これらの規範は無意識的に顕在化されたと言えよう。そして、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、依頼者である S2 はアラビア語母語場面の場面 4 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

表 6-30 フォローアップインタビューで明らかになった J4 と S4 の依頼者の立場の規範

場面	規範名	J4			S4		
		母語 場面	接触 場面	動態性	母語 場面	接触 場面	動態性
場面 1	金銭貸借依頼否定規範	顕在	顕在	意識的に顕在化。母語 場面でより強く顕在化	潜在	潜在	両場面で潜在化
	金銭貸借依頼肯定規範	潜在	潜在	両場面で潜在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 強く顕在化
	理由説明 規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	顕在	顕在	両場面で無意識的 に顕在化
	金銭返却約束規範	潜在	潜在	両場面で潜在化	潜在	顕在	接触場面でのみ顕 在化
	少額返却不要規範	潜在	潜在	両場面で潜在化	顕在	潜在	母語場面でのみ顕 在化
場面 2	金銭貸借依頼否定規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	潜在	潜在	両場面で潜在化
	金銭貸借依頼肯定規範	潜在	潜在	両場面で潜在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 顕在化。母語場面

							でより強く顕在化
	金銭依頼謝罪規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	潜在	潜在	両場面で潜在化
	理由説明規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	顕在	顕在	両場面で無意識的に顕在化
	金銭返却約束規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	顕在	顕在	両場面で無意識的に顕在化
場面3	時間提供依頼肯定規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化
	理由説明規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	顕在	顕在	両場面で無意識的に顕在化
	容易さ強調規範	潜在	潜在	両場面で潜在化	顕在	顕在	両場面で無意識的に顕在化
場面4	時間提供依頼否定規範	潜在	潜在	両場面で潜在化	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化
	時間提供依頼肯定規範	顕在	顕在	両場面ともに弱く意識的に顕在化	潜在	潜在	両場面で潜在化
	相手配慮規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化
	理由説明規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	顕在	顕在	両場面で無意識的に顕在化

以下では表 6-30 から依頼者の立場の J4 と S4 が日本語接触場面の各場面で顕在化させていた規範をまとめる。

まずは場面 1 で、フォローアップインタビューの回答から、J4 が意識した上で顕在化させてい

た規範は「金銭貸借依頼否定規範」と「理由説明規範」の2つであったことが明らかになった。また、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、依頼者であるJ4は日本語母語場面の場面1でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

次は場面2で、フォローアップインタビューの回答から、J4が意識した上で顕在化させていた規範は「金銭貸借依頼否定規範」と「理由説明規範」、「金銭依頼謝罪規範」、「金銭返却約束規範」の4つであったことが明らかになった。フォローアップインタビューでこれらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、依頼者であるJ4は日本語母語場面の場面2でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

続く場面3のフォローアップインタビューの回答から、J4が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は「時間提供依頼肯定規範」と「理由説明規範」、「容易さ強調規範」の3つであったことが明らかになった。フォローアップインタビューでこれらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、依頼者であるJ4は日本語母語場面の場面3でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

最後に場面4で、フォローアップインタビューの回答から、J4が意識した上で顕在化させていた規範は「時間提供依頼肯定規範」と「理由説明規範」、「相手配慮規範」の3つであったことが明らかになった。フォローアップインタビューでこれらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、依頼者であるJ4は日本語母語場面の場面4でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

続いて、依頼者の立場のS4が日本語接触場面の各場面で顕在化させていた規範をまとめる。

まずフォローアップインタビューの回答から、場面1でS4が規範は「金銭貸借依頼肯定規範」、「金銭返却約束規範」、「理由説明規範」の3つであったことが明らかになった。この内、S4は「金銭貸借依頼肯定規範」と「金銭返却約束規範」を意識的に顕在化させていたことが明らかになった。またフォローアップインタビューで、「理由説明規範」について語っていなかったが、ロールプレイの文字化データでこの規範の顕在が確認されたため、無意識的に顕在化させた認定した。そして、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、「金銭貸借依頼

肯定規範」と「理由説明規範」のそれを認める回答を行っていた。一方、「金銭返却約束規範」を母語場面では潜在化させ、代わりに「少額返却約束規範」を顕在化させるとフォローアップインタビューで語っていた。そのため、依頼者である S4 はアラビア語母語場面の場面 1 で、「金銭貸借依頼肯定規範」と「理由説明規範」、そして「少額返却約束規範」を顕在化させると考えられる。

次は場面 2 で、フォローアップインタビューの回答から、S4 が意識した上で顕在化させていた規範は「金銭貸借依頼肯定規範」と「理由説明規範」、「金銭返却約束規範」の 3 つであったことが明らかになった。フォローアップインタビューでこれらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。さらに、アラビア語母語場面の場合、「金銭貸借依頼肯定規範」を日本語接触場面よりも強く顕在化させることフォローアップインタビューで語っていた。そのため、依頼者である S4 はアラビア語母語場面の場面 2 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

そして場面 3 のフォローアップインタビューの回答から、S4 が同場面で顕在化させていた規範は「時間提供依頼肯定規範」、「理由説明規範」、「容易さ強調規範」の 3 つであったことが明らかになった。この内、「時間提供依頼肯定規範」は意識した上で顕在化させていたとフォローアップインタビューで語っていたが、「理由説明規範」と「容易さ強調規範」についての回答はなかった。しかしながら、ロールプレイの談話データで「理由説明規範」と「容易さ強調規範」に関する意味公式の使用が確認されたことから、これらの規範は無意識的に顕在化されたと言えよう。そして、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、依頼者である S4 はアラビア語母語場面の場面 3 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

最後に場面 4 のフォローアップインタビューの回答から、同場面で S4 が顕在化させていた規範は「時間提供依頼否定規範」と「理由説明規範」、「相手配慮規範」の 3 つであったことが明らかになった。この内、S4 は「時間提供依頼否定規範」と「相手配慮規範」を意識的に顕在化させていたとフォローアップインタビューで語っていたが、「理由説明規範」については何も述べていなかった。しかしながら、ロールプレイの談話データで「理由説明規範」に関する意味公式の使用が確認されたことから、これらの規範は無意識的に顕在化されたと言えよう。そして、これら



の規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、依頼者である S4 はアラビア語母語場面の場面 4 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

表 6-31 フォローアップインタビューで明らかになった J7 と S7 の依頼者の立場の規範

場面	規範名	J7			S7		
		母語 場面	接触 場面	動態性	母語 場面	接触 場面	動態性
場面 1	金銭貸借依頼否定規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	潜在	潜在	両場面で潜在化
	金銭貸借依頼肯定規範	潜在	潜在	両場面で潜在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 強く顕在化
	少額返却不要規範	潜在	潜在	両場面で潜在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 顕在化。母語場面で より強く顕在化
	理由説明規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	顕在	顕在	両場面で無意識的に 顕在化
	金銭依頼謝罪規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	潜在	顕在	両場面で潜在化
場面 2	金銭貸借依頼否定規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	潜在	潜在	両場面で潜在化
	金銭貸借依頼肯定規範	潜在	潜在	両場面で潜在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 顕在化。母語場面で より強く顕在化
	金銭依頼謝罪規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	潜在	潜在	両場面で潜在化

	罪規範			顕在化			
	理由説明 規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	顕在	顕在	両場面で無意識的 に顕在化
	金銭返却約 束規範	顕在	顕在	両場面で無意識的に顕 在化	潜在	顕在	接触場面でのみ顕 在化
場 面 3	時間提供依 頼肯定規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 強く顕在化
	容易さ強調 規範	潜在	潜在	両場面で意識的に強く 顕在化	顕在	顕在	両場面で無意識的 に顕在化
	理由説明 規範	顕在	顕在	両場面で無意識的に顕 在化	顕在	顕在	両場面で無意識的 に顕在化
場 面 4	時間提供依 頼否定規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 強く顕在化
	相手配慮 規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 強く顕在化
	理由説明 規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	顕在	顕在	両場面で無意識的 に顕在化

以下では表 6-31 から依頼者の立場の J7 と S7 が日本語接触場面の各場面で顕在化させていた規範をまとめる。

まずは J7 で、フォローアップインタビューの回答から、場面 1 で J7 が意識した上で顕在化させていた規範は「金銭貸借依頼否定規範」と「理由説明規範」、「金銭依頼謝罪規範」の 3 つであったことが明らかになった。また、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、依頼者である J7 は日本語母語場面の場面 1 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

次は場面 2 で、フォローアップインタビューの回答から、同場面で J7 が顕在化させていた規範は「金銭貸借依頼否定規範」と「理由説明規範」、「金銭依頼謝罪規範」、「金銭返却約束規範」の 4 つであったことが明らかになった。この内、J7 は「金銭貸借依頼肯定規範」と「理由説明規範」、「金銭返却約束規範」を意識的に顕在化させていたことが明らかになった。またフォローアップインタビューで、「金銭返却約束規範」について語っていなかったが、ロールプレイの文字化データでこの規範の顕在が確認されたため、無意識的に顕在化させた認定した。そして、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、依頼者である J7 は日本語母語場面の場面 2 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

続く場面 3 のフォローアップインタビューの回答から、J7 が同場面で顕在化させていた規範は「時間提供依頼肯定規範」と「理由説明規範」、「容易さ強調規範」の 3 つであったことが明らかになった。この内、J7 は「金銭貸借依頼肯定規範」と「容易さ強調規範」を意識的に顕在化させていたことが明らかになった。またフォローアップインタビューで、「理由説明規範」について語っていなかったが、ロールプレイの文字化データでこの規範の顕在が確認されたため、無意識的に顕在化させた認定した。そして、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、依頼者である J7 は日本語母語場面の場面 3 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

最後に、フォローアップインタビューの回答から、場面 4 で J7 が意識した上で顕在化させていた規範は「時間提供依頼肯定規範」と「理由説明規範」、「相手配慮規範」の 3 つであったことが明らかになった。フォローアップインタビューでこれらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、依頼者である J7 は日本語母語場面の場面 4 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

続いて、依頼者の立場の S7 が日本語接触場面の各場面で顕在化させていた規範をまとめる。

まずフォローアップインタビューの回答から、場面 1 で S7 が規範は「金銭貸借依頼肯定規範」、「少額返却不要規範」、「理由説明規範」の 3 つであったことが明らかになった。この内、S7 は「金銭貸借依頼肯定規範」と「少額返却不要規範」を意識的に顕在化させていたことがフォロー

アップインタビューから明らかになった。またフォローアップインタビューで、「理由説明規範」について語っていなかったが、ロールプレイの文字化データでこの規範の顕在が確認されたため、無意識的に顕在化させた認定した。そして、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。さらにアラビア語母語場面の場合、「少額返却不要規範」を日本語接触場面よりも強く顕在化させることフォローアップインタビューで語っていた。そのため、依頼者である S7 はアラビア語母語場面の場面 1 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

次は場面 2 で、フォローアップインタビューの回答から、S7 が同場面で顕在化させていた規範は「金銭貸借依頼肯定規範」と「理由説明規範」、「金銭返却約束規範」の 3 つであったことが明らかになった。この内、S7 は「金銭貸借依頼肯定規範」と「金銭返却約束規範」を意識的に顕在化させていたことを認める回答をフォローアップインタビューで行っていたが、「理由説明規範」を示唆する回答は行わなかった。しかしながら、ロールプレイの文字化データでこの規範の顕在が確認されたため、無意識的に顕在化させた認定した。そして、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。さらにフォローアップインタビューでこれらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、「金銭貸借依頼肯定規範」と「理由説明規範」は意識するが、「金銭返却約束規範」は意識しないと答えていた。そのため、アラビア語母語場面で S7 は「金銭貸借依頼肯定規範」と「理由説明規範」を顕在化させるが、「金銭返却約束規範」は潜在化されるのではないかと考えられる。

続く場面 3 で、フォローアップインタビューの回答から、S7 が顕在化させていた規範は「時間提供依頼肯定規範」と「理由説明規範」、「容易さ強調規範」の 3 つであったことが明らかになった。この内、S7 は「金銭貸借依頼肯定規範」を意識的に顕在化させていたことが明らかになった。またフォローアップインタビューで、「容易さ強調規範」と「理由説明規範」について語っていなかったが、ロールプレイの文字化データでこの規範の顕在が確認されたため、無意識的に顕在化させた認定した。そして、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、依頼者である S7 はアラビア語母語場面の場面 3 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

最後にフォローアップインタビューの回答から、場面 4 で S7 が顕在化させていた規範は「時間提供依頼否定規範」と「理由説明規範」、「相手配慮規範」の 3 つであったことが明らかになった。この内、S7 は「時間提供依頼否定規範」と「相手配慮規範」を意識的に顕在化させていたとフォローアップインタビューで語っていたが、「理由説明規範」については何も述べていなかった。しかしながら、ロールプレイの談話データで「理由説明規範」に関する意味公式の使用が確認されたことから、これらの規範は無意識的に顕在化されたと言えよう。そして、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、依頼者である S7 はアラビア語母語場面の場面 4 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

表 6-32 フォローアップインタビューで明らかになった J2 と S2 の被依頼者の立場の規範

場面	規範名	J2			S2		
		母語場面	接触場面	動態性	母語場面	接触場面	動態性
場面 1	金銭貸借依頼肯定規範	顕在	顕在	意識的に顕在化。接触場面でより強く顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化
	貸借動詞使用規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	潜在	潜在	両場面で潜在化
	友達援助規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化
場面 2	金銭貸借依頼否定規範	顕在	潜在	母語場面でのみ意識的に弱く顕在化	潜在	潜在	両場面で潜在化
	金銭貸借依頼肯定規範	潜在	顕在	接触場面でのみ意識的に弱く顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に弱く顕在化
	理由説明規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	顕在	顕在	両場面で無意識的に顕在化

	友達援助 規範	潜在	顕在	接触場面でのみ意識的に強く顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化
場面 3	時間提供依頼肯定規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化
	友達援助 規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化
	時間提供依頼肯定規範	顕在	顕在	意識的に顕在化。接触場面でより強く顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に弱く顕在化
場面 4	日時選択 規範	顕在	顕在	意識的に顕在化。母語場面でより強く顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化
	友達援助 規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化
	友達援助 規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に強く顕在化

以下では表 6-32 から被依頼者の立場の J2 と S2 が日本語接触場面の各場面で顕在化させていた規範をまとめる。

まずは場面 1 で、フォローアップインタビューの回答から、J2 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は「金銭貸借依頼肯定規範」と「貸借動詞使用規範」、「友達援助規範」の 3 つであったことが明らかになった。また、日本語接触場面では、「金銭貸借依頼肯定規範」を日本語母語場面よりも強く顕在化させるとフォローアップインタビューで語っていた。以上の結果から、被依頼者である J2 は日本語母語場面の場面 1 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

次は場面 2 で、フォローアップインタビューの回答から、J2 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は、「金銭貸借依頼肯定規範」と「理由説明規範」、「友達援助規範」の 3 つであった。以上の規範を母語場面でも顕在化させるか尋ねると、J2 は「理由説明規範」は顕在化させるが、「金銭貸借依頼肯定規範」と「友達援助規範」を潜在化させることを示唆する回答を行った。そして、「金銭貸借依頼肯定規範」の代わりに「金銭貸借依頼否定規範」を意識的に顕在化させる

と述べていた。

その次は場面 3 で、フォローアップインタビューの回答から、J2 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は「時間提供依頼肯定規範」と「友達援助規範」の 2 つであったことが明らかになった。また、以上の規範を母語場面でも顕在化させるか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、被依頼者である J2 は日本語母語場面の場面 3 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

最後は場面 4 で、フォローアップインタビューの回答から、J2 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は、「時間提供依頼肯定規範」と「日時選択規範」、「友達援助規範」の 3 つであったことが明らかになった。また、以上の規範を母語場面でも顕在化させるか尋ねると、それを認める回答を行ったが、「時間提供依頼肯定規範」と「日時選択規範」の両規範に限り、場面によって動態性が異なることを示唆していた。すなわち、J2 は前者の規範を日本語接触場面でより強く顕在化するが、日本語母語場面では後者の規範をより強く顕在化させると語ったのである。そのため被依頼者である J2 は、日本語母語場面の場面 4 でもこれらの規範を顕在化させるが、規範によって、「日時選択規範」と「友達援助規範」は、日本語母語場面と日本語接触場面によって顕在化の度合いが異なると言えよう。

続いて、被依頼者の立場の S2 が日本語接触場面の各場面で顕在化させていた規範をまとめる。

まずは S2 の場面 1 で、フォローアップインタビューの回答から、S2 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は「金銭貸借依頼肯定規範」と「友達援助規範」の 2 つであったことが明らかになった。また、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、被依頼者である S2 はアラビア語母語場面の場面 1 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

次は場面 2 で、フォローアップインタビューの回答から、S2 が同場面で顕在化させていた規範は「金銭貸借依頼肯定規範」と「理由説明規範」、「金銭依頼謝罪規範」、「友達援助規範」の 4 つであったことが明らかになった。この内、S2 は「金銭貸借依頼肯定規範」と「友達援助規範」を意識的に顕在化させていたことが明らかになった。またフォローアップインタビューで、「理由説明規範」について語っていなかったが、ロールプレイの文字化データでこの規範の顕在が確認

されたため、無意識的に顕在化させた認定した。そして、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、被依頼者である S2 はアラビア語母語場面の場面 2 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

その次は場面 3 で、フォローアップインタビューの回答から、S2 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は「時間提供依頼肯定規範」と「友達援助規範」の 2 つであったことが明らかになった。また、以上の規範を母語場面でも顕在化させるか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、被依頼者である S2 はアラビア語母語場面の場面 3 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

最後は場面 4 で、フォローアップインタビューの回答から、S2 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は「時間提供依頼否定規範」と「日時選択規範」、「相手配慮規範」の 3 つであったことが明らかになった。フォローアップインタビューでこれらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、被依頼者である S2 はアラビア語母語場面の場面 4 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

表 6-33 フォローアップインタビューで明らかになった J4 と S4 の被依頼者の立場の規範

場面	規範名	J4			S4		
		母語 場面	接触 場面	動態性	母語 場面	接触 場面	動態性
場面 1	金銭貸借依頼肯定規範	顕在	顕在	両場面で意識的に弱く 顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 顕在化。母語場面でより強く顕在化
	理由説明規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	潜在	潜在	両場面で潜在化
	少額返却不要規範	潜在	潜在	両場面で潜在化	顕在	潜在	母語場面でのみ顕在化
	金銭返却約	顕在	顕在	両場面で意識的に強く	潜在	潜在	両場面で潜在化



	束規範			顕在化			
	友達援助 規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 強く顕在化
場 面 2	金銭貸借依 頼否定規範	顕在	潜在	母語場面でのみ弱く顕 在化	潜在	潜在	両場面で潜在化
	金銭貸借依 頼肯定規範	潜在	顕在	接触場面でのみ弱く顕 在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 顕在化。母語場 面 でより強く顕在化
	理由説明 規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	潜在	潜在	両場面で潜在化
	金銭返却約 束規範	顕在	顕在	両場面で無意識的に顕 在化	潜在	潜在	両場面で潜在化
	友達援助 規範	潜在	顕在	接触場面でのみ顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 強く顕在化
	時間提供依 頼肯定規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 強く顕在化
場 面 3	友達援助 規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 強く顕在化
	時間提供依 頼肯定規範	顕在	顕在	両場面で意識的に弱く 顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 弱く顕在化
場 面 4	日時選択 規範	顕在	顕在	両場面で意識的に顕在 化。接触場面でより強 く顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 強く顕在化
	友達援助 規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 強く顕在化

以下では表 6-33 から被依頼者の立場の J4 と S4 が日本語接触場面の各場面で顕在化させていた規範をまとめる。

まずは場面 1 で、フォローアップインタビューの回答から、J4 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は「金銭貸借依頼肯定規範」と「理由説明規範」、「金銭返却約束規範」、「友達援助規範」の 4 つであったことが明らかになった。また、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、被依頼者である J4 は日本語母語場面の場面 1 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

次は場面 2 で、フォローアップインタビューの回答から、J4 が同場面で顕在化させていた規範は、「金銭貸借依頼肯定規範」と「理由説明規範」、「金銭返却約束規範」、「友達援助規範」の 4 つであった。この内、J4 は「金銭貸借依頼肯定規範」と「理由説明規範」、「友達援助規範」を意識的に顕在化させていたことがフォローアップインタビューから明らかになった。またフォローアップインタビューで、「金銭返却約束規範」について語っていなかったが、ロールプレイの文字化データでこの規範の顕在が確認されたため、無意識的に顕在化させた認定した。そして、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、「理由説明規範」と「金銭返却約束規範」の顕在化は示唆したが、「金銭貸借依頼肯定規範」と「友達援助規範」は意識しないと語っていた。さらに、「金銭貸借依頼肯定規範」ではなく、「金銭貸借依頼否定規範」の顕在化を認めていた。以上のことから、被依頼者である J4 は日本語母語場面の場面 2 で「金銭貸借依頼否定規範」と「理由説明規範」、「金銭返却約束規範」を顕在化させると考えられる。

その次は場面 3 で、フォローアップインタビューの回答から、J4 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は「時間提供依頼肯定規範」と「友達援助規範」の 2 つであったことが明らかになった。また、以上の規範を母語場面でも顕在化させるか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、被依頼者である J4 は日本語母語場面の場面 3 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

最後は場面 4 で、フォローアップインタビューの回答から、J4 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は、「時間提供依頼肯定規範」と「日時選択規範」、「友達援助規範」の 3 つであっ

たことが明らかになった。また、以上の規範を母語場面でも顕在化させるか尋ねると、「時間提供依頼肯定規範」と「日時選択規範」は両言語場面で同程度だが、「日時選択規範」は日本語母語場面でより強く顕在化させることを示唆した。そのため被依頼者である J4 は、日本語母語場面の場面 4 でもこれらの規範を顕在化させるが、「日時選択規範」を日本語母語場面でより強く顕在化させると考えられる。

続いて、被依頼者の立場の S4 が日本語接触場面の各場面で顕在化させていた規範をまとめる。

まずは S4 の場面 1 で、フォローアップインタビューの回答から、S4 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は「金銭貸借依頼肯定規範」と「友達援助規範」の 2 つであったことが明らかになった。また、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認めただけでなく、「金銭貸借依頼肯定規範」を日本語接触場面よりも強く顕在化させると回答した。さらにアラビア語母語場面の場合、「少額返却不要規範」の顕在化も示唆していた。そのため、被依頼者である S4 はアラビア語母語場面の場面 1 で、「友達援助規範」と「少額返却不要規範」を顕在化させるだけでなく、「金銭貸借依頼肯定規範」をより強く顕在化させると考えられる。

次は場面 2 で、フォローアップインタビューの回答から、S4 が同場面で意識的に顕在化させていた規範は「金銭貸借依頼肯定規範」と「友達援助規範」の 2 つであったことが明らかになった。また、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、「金銭貸借依頼肯定規範」は日本語接触場面よりも強く顕在化させることが明らかになった。そのため、被依頼者である S4 はアラビア語母語場面の場面 2 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

その次は場面 3 で、フォローアップインタビューの回答から、S4 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は「時間提供依頼肯定規範」と「友達援助規範」の 2 つであったことが明らかになった。また、以上の規範を母語場面でも顕在化させるか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、被依頼者である S4 はアラビア語母語場面の場面 3 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

最後は場面 4 で、フォローアップインタビューの回答から、S4 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は「時間提供依頼否定規範」と「日時選択規範」、「相手配慮規範」の 3 つであったことが明らかになった。フォローアップインタビューでこれらの規範の意味公式を母語場面

においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、被依頼者である S4 はアラビア語母語場面の場面 4 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

表 6-34 フォローアップインタビューで明らかになった J7 と S7 の被依頼者の立場の規範

場面	規範名	J7			S7		
		母語 場面	接触 場面	動態性	母語 場面	接触 場面	動態性
場面 1	金銭貸借依 頼肯定規範	顕在	顕在	両場面で意識的に弱く 顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 強く顕在化
	友達援助 規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 強く顕在化
場面 2	金銭貸借依 頼否定規範	顕在	潜在	母語場面でのみ弱く顕 在化	潜在	潜在	両場面で潜在化
	金銭貸借依 頼肯定規範	潜在	顕在	接触場面でのみ弱く顕 在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 強く顕在化
	友達援助 規範	潜在	顕在	接触場面でのみ顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 強く顕在化
場面 3	時間提供依 頼肯定規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 強く顕在化
	友達援助 規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 強く顕在化
場面 4	時間提供依 頼肯定規範	顕在	顕在	両場面で意識的に弱く 顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 弱く顕在化
	日時選択 規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 強く顕在化

	友達援助 規範	顕在	顕在	両場面で意識的に強く 顕在化	顕在	顕在	両場面で意識的に 強く顕在化
--	------------	----	----	-------------------	----	----	-------------------

以下では表 6-34 から被依頼者の立場の J7 と S7 が日本語接触場面の各場面で顕在化させていた規範をまとめる。

まずは場面 1 で、フォローアップインタビューの回答から、J7 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は「金銭貸借依頼肯定規範」と「友達援助規範」の 2 つであったことが明らかになった。また、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、被依頼者である J7 は日本語母語場面の場面 1 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

次は場面 2 で、フォローアップインタビューの回答から、J7 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は、「金銭貸借依頼肯定規範」と「友達援助規範」の 2 つであった。またフォローアップインタビューで、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、「金銭貸借依頼肯定規範」と「友達援助規範」の両規範を意識しないことを示唆していた。さらに、日本語母語場面では両規範の代わりに「金銭貸借依頼否定規範」を顕在化させると意識していた。以上のことから、被依頼者である J7 は日本語母語場面の場面 2 で「金銭貸借依頼否定規範」を顕在化させると考えられる。

その次は場面 3 で、フォローアップインタビューの回答から、J7 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は「時間提供依頼肯定規範」と「友達援助規範」の 2 つであったことが明らかになった。また、以上の規範を母語場面でも顕在化させるか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、被依頼者である J7 は日本語母語場面の場面 3 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

最後は場面 4 で、フォローアップインタビューの回答から、J7 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は、「時間提供依頼肯定規範」と「日時選択規範」、「友達援助規範」の 3 つであったことが明らかになった。また、以上の規範を母語場面でも顕在化させるか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、被依頼者である J7 は、日本語母語場面の場面 4 でもこれら

の規範を顕在化させると考えられる。

続いて被依頼者の立場の S7 が日本語接触場面の各場面で顕在化させていた規範をまとめる。

まずは S7 の場面 1 で、フォローアップインタビューの回答から、S7 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は「金銭貸借依頼肯定規範」と「友達援助規範」の 2 つであったことが明らかになった。また、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、被依頼者である S7 はアラビア語母語場面の場面 1 でこれらの規範を顕在化させると考えられる。

次は場面 2 で、フォローアップインタビューの回答から、S7 が同場面で意識的に顕在化させていた規範は「金銭貸借依頼肯定規範」と「友達援助規範」の 2 つであったことが明らかになった。また、これらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、被依頼者である S7 はアラビア語母語場面の場面 2 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

その次は場面 3 で、フォローアップインタビューの回答から、S7 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は「時間提供依頼肯定規範」と「友達援助規範」の 2 つであったことが明らかになった。また、以上の規範を母語場面でも顕在化させるか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、被依頼者である S7 はアラビア語母語場面の場面 3 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

最後は場面 4 で、フォローアップインタビューの回答から、S7 が同場面で意識した上で顕在化させていた規範は「時間提供依頼否定規範」と「日時選択規範」、「相手配慮規範」の 3 つであったことが明らかになった。フォローアップインタビューでこれらの規範の意味公式を母語場面においても使用するか尋ねると、それを認める回答を行っていた。そのため、被依頼者である S7 はアラビア語母語場面の場面 4 でもこれらの規範を顕在化させると考えられる。

## 第7章

### 7. 結論と今後の課題

#### 7.1. はじめに

本研究の目的は、日本人とサウジアラビア人の友情を壊す原因になり得る依頼の考え方の違いを明らかにするため、日・サ被調査者にとってどのような依頼内容の負担度が大きいのか、また負担の大小により依頼方法や意識がどのように変化するのも明らかにすることである。その上で、日本人とサウジアラビア人の依頼会話の共通点と相違点を明らかにすることも目的とした。この目的のために、次のような課題を設定した。第4章では、アンケート調査を使用し、日本語母語場面とサウジアラビア人のアラビア語母語場面の依頼会話で両言語話者が金銭及び時間に関わる依頼をどの程度負担に感じるのかを明らかにした。第5章では、談話完成テストを使用し、日本語母語場面とサウジアラビア人のアラビア語母語場面の依頼会話において、どのような意味公式とその意味公式の出現順序が現れるかを明らかにした。第6章では、言語管理理論を使用し、日本語による日ア接触場面で、日・サ被調査者が感じ取った誤解や不快な思い等をフォローアップインタビューから明らかにした。以下に章ごとに明らかになった結果をまとめる。

#### 7.2. 第4章で明らかになった結果

ここではまず日本人が依頼する立場で感じる各依頼内容の負担度を述べ、次に日本人が依頼される立場の負担度を、その次にサウジアラビア人が依頼する立場の負担度を、そして最後にサウジアラビア人が依頼される立場の負担度をそれぞれまとめる。

日本人は、依頼する立場で場面1でも、場面2でも「金銭貸借依頼否定規範」を強く顕在化させる傾向が見られた。規範意識の強弱に関しては、依頼する金銭の負担度が大きくなると、9割近くの日本人が同規範をより強く意識化する傾向が確認された。

場面3と場面4では「時間提供依頼否定規範」を顕在化する人が過半数を超えていた。規範意識の強弱に関しては、依頼の負担度が増加すると規範を強く意識化する人が多くなるという想

定通りの結果が見られた。

一方、日本人が依頼される立場で場面1において、負担だと「全然思わない」と回答した人が多いが、場面2においては、負担だと「非常に思う」と回答した人のほうが多く、正反対になっていることが分かる。場合3の場合、負担だと「全然思わない」と回答した人のほうが多く、場面4の場合、負担だと「やや思う」と回答した人が多かった。日本人は時間に関わる依頼の場面と比べると、金銭に関わる依頼の場面のほうがより負担に感じるということが言えるだろう。

次に、サウジアラビア人は依頼する立場で、場面1において、負担だと「あまり思わない」と回答した人のほうが多かった。場面2において、負担だと「非常に思う」と回答した人が多かった。時間に関わる依頼をする場面において、場面3も4も負担だと「全然思わない」と回答した人が多かった。

また、サウジアラビア人が依頼される立場で、場面1と場面2において、負担だと「全然思わない」と回答した人が多かった。場面3と場面4においても、場面1と場面2と同様に、負担だと「全然思わない」と答えた人のほうが多かった。サウジアラビア人は被依頼者の場合、金銭と時間という要因が違っても感じている負担度はほぼ変わらないということが分かる。

日本人とサウジアラビア人は依頼者の場合、親友に10,000円を借りる場面が一番大きな負担と感じていることで共通している。一方、依頼をされる場面で被調査者の相違点が表れた。呉(2020)が指摘したように、日本人は金銭を貸す依頼場面を負担に感じていることが分かった。サウジアラビア人は30分かかるアンケートを依頼される場面は10,000円を貸す場面とほぼ同様の負担度に上がった。

アンケートで収集したデータから、「金銭貸借依頼否定規範」、「金銭貸借依頼肯定規範」、「時間提供依頼否定規範」、「時間提供依頼肯定規範」を日本人及びサウジアラビア人が有していることが想定できる。

日本人が親友からの依頼を肯定的に評価する規範を顕在化させる傾向が高かったのは、場面1で「金銭貸借依頼肯定規範」を、場面3で「時間提供依頼肯定規範」を被依頼者の立場で顕在化させていたときだけであった。他の場面と立場では、依頼を否定的に評価する規範を顕在化



させる傾向が高かった。一方、サウジアラビア人の場合、依頼を肯定的に評価する規範を日本人よりも多くの場面で顕在化させる傾向が高かった。具体的には、場面1と2で被依頼者の立場に置かれた場合に「金銭貸借依頼肯定規範」を、場面3の依頼者と被依頼者の両立場で「時間提供依頼肯定規範」を顕在化させる傾向が高かった。

### 7.3. 第5章で明らかになった結果

まず、場面1と2における日・サ被調査者が使用した依頼に関する意味公式の中で使用率が10%を超えたものを整理する。日本人の場合、両場面が多い順に【依頼】、【約束】、【謝罪】、【状況説明】の順番であった。一方、サウジアラビア人の場合、場面1では多い順に【依頼】、【約束】、【状況説明】で、場面2では多い順に【依頼】、【約束】、【状況説明】、【相手への配慮】であった。

次に場面3と4における日・サ被調査者が使用した依頼に関する意味公式の中で使用率が10%を超えたものを整理する。日本人の場合、場面3では多い順に【依頼】、【状況説明】、【実行しやすさの強調】で、場面4では多い順に【依頼】、【状況説明】、【相手への配慮】、【約束】、【謝罪】であった。そして、サウジアラビア人の場合、場面3では多い順に【依頼】、【実行しやすさの強調】、【状況説明】で、場面4では多い順に【依頼】、【状況説明】、【相手への配慮】であった。

続いて、日・サ被調査者の使用した意味公式から同定した依頼に関する規範をまとめる。

日本人が500円を借りる場面1と10,000円を借りる場面2の両場面で顕在化させていた規範は、「貸借動詞使用規範」、「返却約束規範」、「依頼謝罪規範」、「理由説明規範」であった。一方、サウジアラビア人が15リヤルを借りる場面1と300リヤルを借りる場面2の両場面で顕在化させていた規範は、「貸借動詞使用規範」、「返却約束規範」、「理由説明規範」で、場面4だけで顕在化された規範は「相手配慮規範」であった。

次に日本人が5分かかるアンケートの回答を依頼する場面3と30分かかるアンケートの回答を依頼する場面4の両場面で顕在化させていた規範は「理由説明規範」で、場面3でのみ顕在化させた規範は「容易さ強調規範」で、場面4でのみ顕在化させた規範は「相手配慮規範」、

「報酬約束規範」、「依頼謝罪規範」であった。一方、サウジアラビア人が5分かかるアンケートの回答を依頼する場面3と30分かかるアンケートの回答を依頼する場面4の両場面で顕在化させていた規範は「理由説明規範」で、場面3でのみ顕在化させていた規範は「容易さ強調規範」で、場面4でのみ顕在化させた規範は「相手配慮規範」であった。

また、加藤（2006）の分類方法を用いて本研究で明らかになった規範を分類すると、表5-23のようになった。日・サ被調査者ともにすべての場面で顕在化されていた規範は、「理由説明規範」であった。これは、日・サ被調査者ともに依頼の理由を説明することは、相手にその依頼の必要性を理解してもらい、依頼を成立させるために必要な発話だと捉えているため、この規範が全場面で顕在化されたのではないかと考えられる。

場面1と場面2でのみ顕在化された規範は「貸借動詞使用規範」、「返却約束規範」、「金銭依頼謝罪規範」で、これら3つの規範は金銭借入に関する規範であるため、時間の提供依頼である場面3と場面4では顕在化されなかったと考えられる。また「金銭依頼謝罪規範」は日本人のみが顕在化させていた規範で、「貸借動詞使用規範」と「返却約束規範」は日・サ被調査者ともに顕在化させていた。

「貸借動詞使用規範」が顕在化された要因は、親友に金銭を借りる依頼を行う際に、貸借動詞を使用することによって、借りを負うことを明確に伝えるためではないかと考察できる。

また、「返却約束規範」が顕在化された要因は、金銭を借りる際に返却の約束を宣言し、被依頼者を安心させるためではないか。

3番目は「金銭依頼謝罪規範」が顕在化された要因は、日本社会で金額の大きさに関わらず金銭貸借自体が否定的に評価される行為であり、日本人が負担に感じる依頼内容であるにも関わらず、金銭を借りる依頼をすることに対して、申し訳ないと感じているからだと考えられる。

4番目は「容易さ強調規範」で、日・サ被調査者ともにこの規範を場面3でのみ顕在化させていた。このことから、この規範を顕在化させていた日・サ被調査者は、場面3のような5分程度のアンケートへの回答依頼は容易であるが、負担度が大きい場面4や金額の大小に関係なく金銭を借りる依頼は容易でないと考えていたためではないか。そのため、負担度が5分かかるアンケートの回答依頼である場面3で、この規範が顕在化されなかったのではないかと考えら

れる。また、この規範が顕在化される場合、後述する「報酬約束規範」は潜在化すると考えられる。

5番目に「報酬約束規範」については、日本人8人が30分かかるアンケートの回答を依頼する場面4で顕在化させていた。この規範は依頼内容の負担度が大きい場合に顕在化されるのではないかと考えられる。依頼内容の負担度が大きい場合、依頼者は依頼相手に報いるため報酬を約束するが、負担度が小さい場合、上述の「容易さ強調規範」が顕在化され、この「報酬約束規範」は潜在化されるのではないか。また、「容易さ強調規範」が金銭を借りる依頼場面（場面1と場面2）で顕在化されなかった要因として考えられることは、「返却約束規範」の存在である。同じ約束に関する規範であるが、場面1と場面2では「返却約束規範」の方がこの「報酬約束規範」よりも適切であり、前者を顕在化させないと依頼が成立しない可能性がある。そのため、場面1と場面2では「返却約束規範」が強く顕在化され、この「報酬約束規範」を顕在化させる必要がないのではないか。

最後に「相手配慮規範」と「負担謝罪規範」について考察する。日本人の場合、負担度が大きい場面2と4で「相手配慮規範」が顕在化されており、「負担謝罪規範」は場面4でのみ顕在化されていた。一方、サウジアラビア人の場合、「負担謝罪規範」は確認されず、「相手配慮規範」が場面2と場面4で顕在化されていた。以上のことから、この両規範は負担度の大きい場面で顕在化される傾向があると言えよう。また、サウジアラビア人の場合、「負担謝罪規範」が確認されなかった要因として、親疎関係が影響しているのではないかと考えられる。サウジアラビア社会では親しい相手に依頼をするとき相手の被る負担に配慮する発話は行われるが、負担に対して謝罪をすることはほとんどない。

また、場面1で「相手配慮規範」を顕在化させた日本人が確認されなかった要因としては、「金銭依頼謝罪規範」が顕在化されていたからではないか。山本他（2003）や竹尾他（2005）の報告や、4.4の結果から、日本人は金銭貸借という行為を否定的に捉える傾向がわかる。そのため、依頼相手が被る負担や迷惑に対して申し訳ない気持ちを明確に伝えるため「相手配慮規範」ではなく「金銭依頼謝罪規範」を顕在化させるのだと考えられる。したがって、日本人の場合、【相手への配慮】よりも【謝罪】の方がより丁寧で、依頼相手の被る負担度に配慮する意

味公式であると言えよう。このことを踏まえて場面4を見ると、「相手配慮規範」を顕在化させた人は22人で、「負担謝罪規範」を顕在化させた人は7人であった。そのため、場面4で日本人は「相手配慮規範」を顕在化させる傾向が強いが、依頼内容を深刻に捉えた7人は「負担謝罪規範」を顕在化させ、【謝罪】の意味公式を使用したのだと考えられる。

さらに本研究のDCTの根幹を担う設定は、依頼者が抱えている問題を解決するため、親友に依頼を行うというもので、この設定に基づいてDCTの回答が行われた。そのため、この設定をDCTの基底規範に影響を与えるものと捉え、その根幹となる規範を「依頼問題解決規範」とした。すべてのDCTの回答が「依頼問題解決規範」が顕在化された結果であると捉えるため、本研究で明らかになった依頼に関する意味公式の規範すべてが「依頼問題解決規範」の下位規範であると考えた。

#### 7.4. 第6章で明らかになった結果

言語管理理論を使用し、日本語による日本語接触場面で、日・サ被調査者が感じ取った誤解や不快な思い等、フォローアップインタビューのデータを参考に分析した。その結果、場面1で日本人依頼者が使用した意味公式は、【依頼】と【状況説明】を全員が使用し、【謝罪】をJ3、J4、J6、J7が、【約束】をJ2が使用していた。一方、サウジアラビア人依頼者の場合、【依頼】と【状況説明】を全員が使用し、【約束】をS2が使用していた。そして、以上の意味公式の使用から、次の規範を日・サ被調査者が日本語接触場面の場面1で顕在化させていたと分析する。日本人依頼者が顕在化させていた規範は、「貸借動詞使用規範」と「理由説明規範」で全員が使用していた。また、「金銭依頼謝罪規範」はJ3、J4、J6、J7が、「返却約束規範」はJ2が使用していた。

一方、サウジアラビア人依頼者の場合、「貸借動詞使用規範」はS2、S3を除く全員が、「理由説明規範」は全員が、「返却約束規範」はS2が使用した。

次は場面2で、日本人依頼者が使用した意味公式は、【依頼】、【状況説明】、【謝罪】を全員が、【約束】はJ5を除く全員が使用していた。一方、サウジアラビア人依頼者の場合、【依頼】と【状況説明】は全員が、【相手への配慮】はS6を除く全員が、【約束】はS2を除く全員が、【呼

びかけ】は S1、S3、S7 が使用していた。そして、以上の意味公式の使用から、次の規範を日・サ被調査者が日本語接触場面の場面 2 で顕在化させていたと分析する。日本人依頼者が顕在化させた規範は、「貸借動詞使用規範」、「理由説明規範」、「金銭依頼謝罪規範」を全員が、「返却約束規範」は J5 を除く全員が使用した。一方、サウジアラビア人依頼者の場合、「貸借動詞使用規範」と「理由説明規範」と「相手配慮規範」を全員が、「返却約束規範」は S2 を除く全員が、「呼称使用規範」を S1、S3、S7 が使用していた。

そして場面 3 で、日本人依頼者が使用した意味公式は、【依頼】と【状況説明】を全員が、【実行しやすさの強調】を J2、J3、J6、J7 が、【相手への配慮】を J2 が使用した。一方、サウジアラビア人依頼者の場合、【依頼】、【状況説明】を全員が、【実行しやすさの強調】を S1、S2 を除く全員が、【相手への配慮】を S7 が使用した。以上の意味公式の使用から、次の規範を日・サ被調査者が日本語接触場面の場面 3 で顕在化させたと分析する。日本人依頼者が顕在化させた規範は、「理由説明規範」を全員が、「容易さ強調規範」は J2、J3、J6、J7 が、「相手配慮規範」は J2 が使用した。一方、サウジアラビア人依頼者の場合、「理由説明規範」を全員が、「容易さ強調規範」は S1、S2 を除く全員が、「相手配慮規範」は S7 が使用した。

最後に場面 4 で、日本人依頼者が使用した意味公式は、【依頼】と【状況説明】を全員が、【相手への配慮】は J5、J6 を除く全員が使用していた。一方、サウジアラビア人依頼者の場合、【依頼】、【状況説明】、【相手への配慮】を全員が、【約束】を S7 が、【呼びかけ】を S5 が使用していた。以上の意味公式の使用から、次の規範を日・サ被調査者が日本語接触場面の場面 4 で顕在化させたと分析する。日本人依頼者が顕在化させた規範は、「理由説明規範」を全員が、「相手配慮規範」を J5、J6 を除く全員が使用した。一方、サウジアラビア人依頼者の場合、「理由説明規範」を全員が、「容易さ強調規範」を S1、S2 が、「相手配慮規範」を S7 が使用した。

## 7.5. 母語場面の規範と日本語接触場面の規範の比較

本研究で明らかになった規範を接触場面の観点から分析すると、日本語母語場面と日本語接触場面及びアラビア語母語場面と日本語接触場面（以下両母語場面と日本語接触場面）で顕在が確

認された規範、アラビア語母語場面と日本語接触場面でのみ確認された規範、日本語母語場面と日本語接触場面でのみ確認された規範母語場面でのみ顕在が確認された規範、日本語接触場面でのみ顕在が確認された規範の4つのグループに分けられる。以下では各グループがなぜそれぞれの場面で顕在化されたのかを考察する。

まず両母語場面と日本語接触場面で共通して確認された規範についてで、貸借動詞使用規範、理由説明規範、返却約束規範、相手配慮規範、容易さ強調規範が挙げられる。これらの規範の共通点は、いずれも3.2.1.で述べた加藤(2006)の参加者の有する選択領域からの分類方法で、共通規範に属す規範だということである。これらの規範は、「比較的ユニバーサルな、少なくとも当該接触場面の参加者が共通して持っている規範(加藤 2006:2)」であるため、場面に関係なく顕在化されたのではないかと考える。

また4章で明らかになった金銭貸借依頼肯定規範、金銭貸借依頼否定規範、時間提供依頼肯定規範、時間提供依頼否定規範は、本研究の依頼会話の成立を担う規範であり、他の規範の選択にも影響を与えるため、上位に位置する規範である。そのため、これら4つの規範も両母語場面と日本語接触場面で顕在化されたのではないかと考えられる。

次はアラビア語母語場面と日本語接触場面でのみ確認された規範についてで、これに該当する規範は呼称使用規範であった、5.3.1.2.で述べたようにこの規範はアラビア語母語規範であるため、この規範の存在を本研究の日本人は知らず、日本語母語場面と日本語接触場面で確認されなかったのではないかと考えられる。また例えこの規範を有していたとしても、それを顕在化するとは限らない。日本語には「親しき仲にも礼儀あり」という慣用句があるが、この慣用句を規範として意識する日本人は多いと感じる。また依頼は相手に負担をかける行為でもある。そのため、例え呼称使用規範を有していても、この慣用句を意識し、この規範を潜在化させていたのではないかと考えられる。

またこの規範は、アラビア語母語場面と日本語接触場面ともに、負担度の大きい場面2と場面4で顕在化されていた。従って、この規範の動態性は負担度の影響を受けるのではないかと考えられる。

その次は、日本語母語場面と日本語接触場面でのみ確認された規範についてである。このグループに該当する規範は金銭依頼謝罪規範で、5.3.1.1.で述べたようにこの規範は日本語母語規

範である。この規範をアラビア語母語場面と日本語接触場面で顕在化させたサウジアラビア人は確認されなかったが、その要因としてサウジアラビアが金銭貸借の依頼を負担だと捉えていないからではないかと考える。フォローアップインタビューの回答 14 や回答 44、回答 70 を見ると、10,000 円程度の金銭貸借を負担に感じていないことがわかる。また、表 4-9 でサウジアラビア人は、10,000 円程度の金銭貸借を依頼する場合、金銭貸借依頼否定規範を顕在化させる傾向が強いが、依頼される場合は金銭貸借依頼肯定規範を顕在化させる傾向が見られた。そのため、サウジアラビア人は 10,000 円程度の金銭を借りる際に、申し訳ないと感じつつも、相手が受け入れてくれると確信しているのではないか。以上のことから、サウジアラビア人は 10,000 円程度の金銭貸借依頼を、負担の大きい依頼内容だと捉えていないことから、この金銭依頼謝罪規範を顕在化させなかった、もしくは有していないのではないかと考えられる。

またこの規範は、日本語母語場面と日本語接触場面ともに、場面 1 と場面 2 で顕在化されていたが、負担度の大きい場面 2 で強く顕在化される傾向が見られた。そのため、この規範の動態性は依頼内容の負担度が影響しているのではないかと考えられる。

最後は接触場面でのみ確認された規範についてである。この分類に属する規範は、日時選択規範と友達援助規範である。これら両規範の特徴は、フォローアップインタビューにより参加者の内省から明らかになったことである。そのため、母語場面を対象とした談話完成テストの参加者たちにもフォローアップインタビューを行えば、両規範の存在を確認できたかもしれない。特に母語場面の談話完成テストで【積極的な承諾】と【消極的な承諾】を選択していた被調査者たちは、友達援助規範を顕在化させていたから依頼を受け入れたのではないかと考えられる。

## 7.6. 日本語教育への示唆と今後の課題

本研究では、日本人とサウジアラビア人の両母語場面及び日本語接触場面における依頼会話を金銭及び時間の依頼会話における参加者の負担度を考察した。日本人は時間提供に関わる依頼場面と比較して、金銭貸借の依頼場面のほうが負担に思う傾向があった。一方、サウジアラビア人は金銭貸借に関わる依頼場面と比較すると、時間提供に関わる依頼場面のほうが負担に

思う傾向があるなどの点が観察された。サウジアラビア人日本語学習者に次のような点に注目させる必要があるかと考えられる。

前提として、日本人は金銭貸借の依頼を非常に負担に感じるため、可能な限り金銭貸借の依頼を避けるべきだということである。それでもなお依頼する必要がある場合、以下の点に注意すべきだと教授すべきだと考えられる。

まず少額の金銭貸借の依頼場面では、日本人が「貸借動詞使用規範」、「理由説明規範」、「金銭依頼謝罪規範」を顕在化させる傾向があった。そのため、サウジアラビア人日本語学習者に日本人に対し負担度が小さい金銭貸借に関わる依頼をする際、必ず「貸す・借りる」などのような貸借を表す動詞を使用し、依頼をする理由を説明するように指導をおこなったほうがいい。また、日本人に金銭に関わる依頼をする際、依頼の前に「すみません」や「ごめん」などのような謝罪を示したほうが自然な日本語会話に近づくと指導すべきだと考えられる。

次に多額の金銭貸借の依頼場面では、日本人が「貸借動詞使用規範」と「理由説明規範」、「金銭依頼謝罪規範」、「金銭返却約束規範」を顕在化させる傾向があった。そのため、場面1と同様にサウジアラビア人日本語学習者に日本人に対し負担度が大きい金銭貸借に関わる依頼をする際、必ず「貸す・借りる」などのような貸借を表す動詞を使用し、依頼をする理由を説明したほうがいいと指導すべきであろう。また、日本人に金銭に関わる依頼をする際、依頼の前に「すみません」や「ごめん」などのような謝罪を示した上で、返却日の約束も一緒にすれば自然な日本語会話に近づくと指導すべきだと考えられる。

一方、日本人は、負担度に限らず、時間提供の依頼を断らない傾向が見られた。そのため、時間提供の依頼を行ったとしても、コミュニケーション問題が生じる恐れは少ないと思われるが、問題の発生を少しでも抑えるため、日本人が何を重視しているのか明らかにし、その対策を講じる必要があると考え、以下の点を列挙した。

まず短時間で済むタスクへの協力を依頼する際に、日本人は「理由説明規範」と「容易さ強調規範」を顕在化させる傾向があったことから、サウジアラビア人日本語学習者に日本人に対し負担度が小さい時間提供に関わる依頼をする際、依頼の理由を説明し、「5分だけ」や「すぐ終わるけど」などのような「容易さ強調規範」を使用したほうが自然な日本語会話に近づくと



指導すべきだと考えられる。

一方長時間かかるタスクの協力を依頼する際に、場面4で日本人は「理由説明規範」と「相手配慮規範」を顕在化させる傾向があった。したがって、サウジアラビア人日本語学習者には日本人に対し負担度が大きい時間提供に関わる依頼をする際、依頼をする理由を説明し、「ちょっと時間があれば」や「時間がある時でもいいので」などのような「相手配慮規範」を顕在化させたほうが自然な日本語会話に近づくと指導すべきだと考える。

本研究では日本人が時間と手間のかかる依頼内容より金銭のかかる依頼内容のほうが負担に思っていることが明らかになった。先行研究の（岡田・安藤, 2001 や呉, 2020）と同様の結果であり、これに関してサウジアラビア人日本語学習者に注意を払う必要があるかと考えられる。日本人とサウジアラビア人とでは所有する金銭や時間に対する意識は非常に異なるものと思われる。そこで、サウジアラビア人日本語学習者に日本人の友達といくら親しくなっても、相手の所有するものと自分が所有するものは別のものであり、相手の所有する何かを頼む時に、簡単に手に入れると思うと、誤解が生じやすいし、距離が生まれるきっかけになると思われる。このように、日本人の親友といくら親しくなっても何らかの見えない距離を置いておいたほうが親友関係は長く続くと考えられるだろう。本研究ではアンケート調査、談話完成テスト、ロールプレイ会話を中心に分析を行ってきた。そこで、日本人の大学生（男性）とサウジアラビア人の大学生（男性）を対象に母語場面及び接触場面の共通点と相違点を明らかにした。分析方法では依頼の出現順序や言語管理理論を使用した。今後、ポライトネスのフェイス概念を使用し、会話時被調査者のポジティブフェイスとネガティブフェイスを明らかにしたい。

本研究では男性のみ対象としたが、今後男女による依頼会話も視野に入れ、相手の性別が変わることによって、依頼会話はどのように変わるかについても研究したい。また、今回は金銭と時間という日常会話でよく待遇する場面のみであったが、今後、日常生活でよく使用される要因を視野に入れて研究を行っていきたい。

## 参考文献

### [日本語文献]

- アクドーアン プナル・大浜るい子 (2008)『日本語会話とトルコ語会話に見られる繰り返しとその応答について—依頼場面を中心として—』日本語教育, 137 pp. 1-10.
- アルモーメン・アブドーラ (2010)『地図が読めないアラブ人、道を聞けない日本人』小学館.
- アルモーメン・アブドーラ (2021)『足して二で割れない日本とアラブ世界: 深層文化へのアプローチ』デザインエッグ社.
- 池田裕・三好理英子・村木万里子 (2002)『中国語話者と英語話者の日本語における依頼—ロール・プレイによる発話データの分析—』多摩留学生センター教育研究論集, 東京学芸大学編, 第 3 号 pp. 51-60.
- 井出祥子 (2006)『わきまへの語用論』大修館書店.
- 猪崎保子 (2000)「接触場面における「依頼」のストラテジー: 日本人とフランス人日本語学習者の場合」『世界の日本語教育第 10 号』 pp. 129-145.
- ウヴェ・フリック著 ; 小田博志 [ほか] 訳 (2011)『質的研究入門 : <人間の科学>のための方法論』春秋社.
- 宇佐美まゆみ (1992). 「談話研究とディスコースポライトネス理論」(東海大学大学院日本語研究特論 1 配布資料) .
- 宇佐美まゆみ (1995)「談話レベルから見た敬語使用— スピーチレベルシフト生起の条件と機能—」『学苑』662 号 昭和女子大学近代文学研究所 pp. 27-42.
- 宇佐美まゆみ (1996)「初対面二者間会話における話題導入頻度と対話相手の年齢・社会的地位・性の関係について」『ことば』17 号 現代日本語研究会 pp. 44-57. 14 頁.
- 宇佐美まゆみ (2001)「談話のポライトネス — ポライトネスの談話理論構想」国立国語研究所編『談話のポライトネス』国立国語研究所.
- 大友沙樹 (2009)「電子メールにおける依頼のストラテジー—日中対照の観点から—」『国際文化研究』15, pp. 61-72.
- 岡田安代・安藤美保 (2001)「中国人と日本人の依頼の許容範囲」『愛知教育大学教育実践総合センター紀要』4, pp. 113-119.
- 尾崎喜光 (2005)「依頼行動と感謝行動〈関係〉に関する日韓対照」『社会言語科学』8 (1), pp. 106-119.
- 柏崎秀子 (1993)「話しかけ行動の談話分析—依頼・要求表現の実際を中心に—」『日本語教育』79, pp. 53-63.
- 加藤好崇 (2005)「接触場面における社会言語的行動規定 (規範)」『第 15 回社会言語科学大会予稿集』 p. 206-209.

- 加藤好崇 (2006) 「接触場面における文体・話題の社会言語規範」『東海大学紀要留学生教育センター』16, 東海大学留学生教育センター
- 加藤好崇 (2007) 『日本語教育における接触場面の規範研究 -管理プロセスと規範の動態性に関する考察-』早稲田大学, 博士論文.
- 加藤好崇 (2010a) 「タイ人日本語学習者-日本語母語話者の初対面接触場面における話題選択」『東海大学紀要. 留学生教育センター』30 東海大学留学生センター, pp. 17-27.
- 加藤好崇 (2010b) 『異文化接触場面のインターアクション-日本語母語話者と日本語非母語話者のインターアクション規範-』東海大学出版会
- 加藤好崇 (2016) 「移民の言語リソースにおける管理とその変容 : 二人の中国人移民のケーススタディ」『グローバル・コミュニケーション研究所紀要』特別号, p. 61-86.
- 加藤好崇 (2018) 「観光接触場面における「やさしい日本語」の可能性と課題 -柳川市やさしい日本語ツーリズム事業の実例からの考察-」『東海大学大学院日本語教育学論集』5, p. 30-44.
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵 (1993) 「依頼表現方略の分析と記述-待遇表現教育への応用に向けて」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』5, pp. 52-69, 早稲田大学日本語研究教育センター
- グエン・ティ・ニューイー (2017) 「日本語とベトナム語の依頼場面における配慮 -待遇コミュニケーションの観点から-」大阪大学, 博士論文.
- 熊井浩子 (1992) 「外国人の待遇行動の分析 1-依頼行動を中心にして-」『静岡大学教養部研究報告人文・社会編』28 巻 1, pp. 1-44.
- 呉彦妍 (2020) 「日本人と中国人の依頼場面における負担度に関する意識調査」『日本語教育法研究会誌』Vol. 26, No. 2, p. 64-65.
- 小池真理 (2000) 「日本語母語話者が失礼と感じるのは学習者のどんな発話か: 「依頼」の場面における母語話者の発話と比較して」『北海道大学留学生センター紀要』4, pp. 58-80.
- 笹川洋子 (2016) 『日本語のポライトネス再考-発話行為・発語媒介行為・相互行為-』春風社.
- 佐藤郁哉 (2008) 『質的データ分析法』新曜社.
- 施信余 (2005b) 「依頼に対する「断り」の言語行動について-日本人と台湾人の大学生の比較」『早稲田大学日本語教育研究』6, pp. 45-61, 早稲田大学大学院日本語教育研究科.
- 施信余 (2006a) 「依頼に対する断りの行動展開パターンに関する日台対照研究-女性友人同士の電話会話データの分析から-」『国語学研究と資料』29, pp. 43-54, 国語学研究と資料の会.
- 施信余 (2006b) 「日本語における「依頼・断り」のコミュニケーションについて-日本人女子大学生同士の電話会話を分析対象に-」『早稲田大学日本語教育研究』8, pp. 51-62, 早稲田大学大学院日本語教育研究科.

- 施信余 (2006c) 「依頼・断り」のコミュニケーションについて—日本人同士と台湾人同士による電話会話の分析から— 『待遇コミュニケーション研究』 4, pp. 17-32, 早稲田大学待遇コミュニケーション研究会.
- 徐孟鈴 (2006) 「依頼会話の【終結部】の考察—日本人・台湾人・台湾人上級学習者の接触場面のロールプレイデータを比較して—」 『言語と文化』 7, pp. 67-84.
- 徐孟鈴 (2007a) 「上級の台湾人日本語学習者の「再依頼のストラテジー」—日台両母語場面のロールプレイデータを比較して—」 『表現研究』 85, pp. 22-33.
- 徐孟鈴 (2007b) 「依頼会話【先行部】の考察—日本語母語場面, 台湾人母語場面, 日台接触場面のロールプレイデータを比較して—」 『言語と文化』 8, 219-238.
- 高木美嘉 (2003a) 「会話における待遇の方法—依頼者はどうやって意図を実現しようとするのか—」 『早稲田日本語研究』 11, 25-36, 早稲田大学日本語学会.
- 高木美嘉 (2003b) 「依頼に対する「受諾」と「断り」の方法」 『早稲田大学日本語教育研究』 2, pp. 137-149, 早稲田大学大学院日本語教育研究科.
- 高木美嘉 (2003c) 「依頼における「説得」の待遇ストラテジー—情報のやりとりと待遇との関係を中心に—」 『待遇コミュニケーション研究』 1, pp. 37-52, 早稲田大学 待遇コミュニケーション研究会.
- 竹尾和子・片成男・高橋登・サトウタツヤ・山本登志哉・呉宣児・金順子・崔順子 (2005) 「お金のやりとりから見た子どもの親子関係と友だち関係—ソウル調査から—」 『発達研究 : 発達科学研究教育センター紀要』 19, pp. 13-26.
- 田中久美子 (1995) 「依頼場面における理由提示形式—「から」の待遇上の制約—」 『日本文化と日本語教育』 9, pp. 123-133.
- 田中慎也・木村哲也・宮崎里司編 (2009) 『移民時代の言語教育』 ココ出版.
- 張穎 (2004). 「依頼会話の展開パターンに関する日中対照研究」 『言語文化と日本語教育』 28, 8-14.
- 張雪梅 (2013) 「日本語と延辺朝鮮語における「依頼—拒絶—再依頼」の展開について—談話構造とストラテジーの考察を中心に—」 『国際協力研究誌』 19 (3), pp. 83-97.
- 趙宏杰 (2010) 「依頼の言語行動の日中対照研究—「依頼・承諾」のコミュニケーションを対象に—」 『国際文化研究』 16, pp. 235-248.
- 趙丹楠 (2021) 「依頼発話行為に関する日中対照研究 : 意味公式から見る依頼負担度の影響を中心に—」 『大東文化大学外国語学研究』 23, pp. 57-64.
- 陳臻渝 (2007) 「日本語会話における前置き表現」 『言語文化学研究. 言語情報編』 2, pp. 99-115, 大阪府立大学.
- ツォウン, ティマイ (2007) 「依頼の E メールに対するベトナム人・日本人の評価意識の比較—対人配慮に注目して—」 『政策研究大学院大学日本言語文化研究会論集』 3, pp. 169-196, 日本言語文化研究会.

- 津田早苗 (1999) 『談話分析とコミュニケーション』 リーベル出版.
- 中井陽子 (2012) 『インターアクション能力を育てる日本語の会話教育』 ひつじ書房.
- 中井陽子編著 ; 大場美和子 [ほか] 著 (2017) 『文献・インタビュー調査から学ぶ会話データ分析の広がり軌跡 : 研究から実践まで』 ナカニシヤ出版.
- ネウストプニー, J. V. (1982) 『外国人とのコミュニケーション』 岩波書店.
- ネウストプニー, J. V. (1987) 「日本社会のタイポロジー」ロス・マオア・杉本良夫共編『個人・間人・日本人』 pp283-316. 学陽書房.
- ネウストプニー, J. V. (1995a) 『新しい日本語教育のために』 大修館書店.
- ネウストプニー, J. V. (1995b) 「日本語教育と言語管理理論」『阪大日本語研究』 7, pp. 67-82.
- ネウストプニー, J. V.・宮崎里司 (2002) 『言語研究の方法 : 言語学・日本語学日本語教育学に関わる人のために』
- 橋内武 (1999) 『ディスコース—談話の織りなす世界』 くろしお出版
- ファン, S. K. (2002) 「対象者の内省を調査する (1) フォローアップ・インタビュー」 J. V. ネウストプニー・宮崎里司共編『言語研究の方法 : 言語学・日本語学・日本語教育に関わる人のために』 pp. 87-96, くろしお出版
- フェアブラザー, L. C (2000) 「言語管理モデルからインターアクション管理モデルへ」『接触場面の言語管理研究』 1, pp. 55-65.
- フェアブラザー, L. C (2000) 「相手言語接触場面における日本語母語話者の規範適用メカニズム. 接触場面における言語管理プロセスについて (Ⅱ)」『社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書』 38, pp. 1-12.
- ペネロピ・ブラウン, スティーヴン・C・レヴィンソン著 ; 斉藤早智子 [ほか] 訳 (2011) 『ポライトネス—言語使用における、ある普遍現象—』 研究社
- ヘレン・スペンサー＝オーティアー (2004) 『異文化理解の語用論—理論と実践』 研究社
- 眞鍋雅子 (2013) 『ポライトネスの視点から見た中上級日本語学習者の発話: 依頼と断りの発話行為より』 言語科学研究: 神田外国語大学大学院紀要, 19 pp. 77-100.
- 宮崎里司 (1990) 「接触場面における仲介訂正ネットワーク」『日本語教育』 71, pp. 171-180.
- 宮崎里司 (1991) 「日本語教育と敬語: 主として敬語回避の観点から」『世界の日本語教育』 1, pp. 91-103.
- 宮崎里司・杉野俊子編著 (2017) 『グローバル化と言語政策: サステイナブルな共生社会・言語教育の構築に向けて』 明石書店.
- 宮崎里司・西郡仁朗・神村初美・野村愛 (2018) 『外国人看護・介護人材とサステナビリティ持続可能な移民社会と言語政策』 くろしお出版.
- 宮寄由美 (2005) 「対人配慮からみた携帯メールにおける依頼表現」『専修国文』 76, pp. 1-14, 専修大学日本語日本文学会.

- 村岡英裕 (2006) 「接触場面における社会文化管理プロセス—異文化で暮らすとはどのようなことか—」『日本語教育の新たな文脈—学習環境、接触場面、コミュニケーションの多様性—』国立国語研究所.
- ヤズィード ナーセル (2015) 「接触場面と母語場面におけるサウジアラビア人の再依頼の談話管理—親しい男性同士の友人の会話から—」文東海大学, 修士論文.
- ヤズィード ナーセル (2022) 「母語場面における日本人とサウジアラビア人の依頼会話—親友同士の談話に着目して—」『東海大学大学院日本語教育学論集』9, pp. 60-70.
- 柳田直美 (2015) 『接触場面における母語話者のコミュニケーション方略—情報やりとり方略の学習に着目して』ココ出版.
- 山本登志哉・高橋登・サトウタツヤ・片成男・呉宣児・金順子・崔順子 (2003) 「お金をめぐる子どもの生活世界に関する比較文化的研究：済州島調査報告」『共愛学園前橋国際大学論集』3, pp. 13-28.
- 柳慧政 (2004) 「日韓の依頼談話の対照研究—談話構成の面から—」『社会言語科学会第4回研究大会予稿集』196-199.
- 吉田さち (2009) 「韓国人日本語学習者のメール文における『断り』—日本語母語話者との比較を通じて—」『日本語学習者による言語運用とその評価をめぐる調査研究：「日本語能力の評価基準・項目の開発」成果報告書』国立国語研究所
- 吉田さち (2014) 「断りのメール文において韓国人日本語学習者が日本語母語話者と異なる働きかけ方をするのはなぜか—言語管理理論の枠組みを用いた事例研究を通じて—」『コミュニケーション文化』8, pp. 44-55.
- 頼美麗 (2008) 『依頼場面における「謝罪」と「感謝」—「待遇コミュニケーション」の視点から—』早稲田大学, 博士論文.
- 李宜真 (2008) 「依頼の言語行動に関する日中語対照研究—ポライトネスの観点から—」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』3, pp. 117-129.
- 李宜真 (2009) 「中国語での再依頼のストラテジー—相手との社会的距離に注目して—」『社会言語科学会, 第23回大会発表論文集』pp. 170-173.
- LEADKITLAX Triktima (2013) 「タイ人と日本人の『誘い』と『依頼』への『断り行為の意識』について」『国際交流基金バンコク日本文化センター 日本語教育紀要』10, pp. 97-106.
- ルース・ベネディクト著; 福井七子訳 (1997) 『日本人の行動パターン』日本放送出版協会.
- ルンティエラ・ワンウィモン (2004) 「タイ人日本語学習者の「提案に対する断り」表現における語用論的転移—タイ語と日本語の発話パターンの比較から—」『日本語教育』121, pp. 46-55.
- 渡辺文夫 (1995) 『異文化接触の心理学—その現状と理論—』川島書店

和田由里恵・堀江薫・吉本啓（2010）「依頼表現における日本語学習者の中間言語：中国語母語話者・韓国語母語話者の母語転移」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』Vol. 5, pp. 171-177.

母育新（2011）「依頼行動における中国人日本語学習者の問題点—ディスコース・ポライトネス理論の観点からの考察—」『東京外国語大学日本研究教育年報』15, pp. 41-56.

[英語文献]

Ayman Tawalbeh & Emran Al-Oqaily (2012) In-directness and Politeness in American English and Saudi Arabic Requests: A Cross-Cultural Comparison. *Asian Social Science*, 8(10), pp.85-98.

Brown, P. and Levinson, S. C. (1987). *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge: Cambridge University Press.

Jernudd, B. H. & Neustupný, J.V. (1987) Language planning as a focus for language correction. *Proceedings of the International Symposium on Language Planning*, pp.69- 84.

Jernudd, B. H. and J. V. Neustupný (1987) Language planning: for whom? L. Laforge (Ed.), *proceeding of the international Colloquium on Language Planning*, pp.71-84. Quebec: Les presses de l'Universite Laval

Leech, G.N.(1983) *Principles of Pragmatics*. London:Longman. (池上嘉彦・河上誓作訳(1987)『語用論』、紀伊国屋書店)

Neustupný, J.V. (1985a) Language norms in Australian - Japanese contact situations. In J.B.Pride (Ed.), *Cross-cultural encounters: Communication and mis-communication*. River Seine Publications.

Neustupný, J.V. (1985b) Problems in Australian – Japanese contact situations. In G.M. Clyne (Ed.), *Australia, Meeting place of languages* (pp.161-70.) Canberra: Pacific Linguistics.

Neustupný, J.V. (1987) *Communicating with the Japanese*. The Japan times.

Trosborg, A. (1995). "Interlanguage Pragmatics: Requests, Complaints and Apologies" Berlin, New York: Mouton Gruyter.

## 付録 1 実際に使用したアンケート調査

本調査はアラブ人と日本人のコミュニケーションに関する研究のために行うものです。本調査の対象者は日本人の大学生、大学院生の男性を考えており、あなたにぜひご協力をお願いしたいと思っております。具体的には、ある場面を想像して、もっとも適切な答えを選択していただきます。本調査では、お名前やご住所などのような個人情報は聞きません。得られたデータは分析をした上で、東海大学内もしくは学外の学会で発表し、論文とすることを考えております。

疑問点や苦情等があれば、いつでも下記の研究者にご連絡下さい。

ご協力を頂き、ありがとうございます。

研究者（連絡先）

東海大学 文学研究科 日本文学専攻 日本語教育学コース

ヤズィード ナーセル

TEL :

Email :

次の（A-B-C-D）のような四つの場面があります。

- A. \*親友に 500 円を借りる場面。
- B. 親友に 10,000 円を借りる場面。
- C. 親友に 5 分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面。
- D. 親友に 30 分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面。

上記の場面で（依頼をする側）と（依頼を受ける側）の立場で、それぞれ回答してくだ



さい。回答に関しては（①全然思わない ②あまり思わない ③やや思う ④非常に思う）のうち、一番、当てはまるものを一つ選択してください。

尚、それぞれの場面の最後のところに、コメントを書く欄があります。もしその場面に對して何か感じたことや思ったことなどがあれば、とても参考になるので、コメント欄にご記入をお願いします。

\*ここでいう「親友」というのは、大学でほとんどの授業を一緒にとっている一番親しい友達のことです。

大学名：

年齢：

Email：

A. 親友に 500 円を借りる場面。

あなたは親友と一緒に食堂へ行って、レジのところで財布を出したら、現金がありませんでした。そこで、親友に 500 円を借りることにしました。次の質問に答えてください。

問. あなたはこのお願いをするときに、申し訳ないと思いますか。

- 全然思わない
- あまり思わない
- やや思う
- 非常に思う

B. 親友に 10,000 円を借りる場面。

あなたは親友と一緒にいつも集まる場所にいます。あなたは月末までにどうしても 10,000 円が必要な状況にいます。親友に 10,000 円を借りることにしました。次の質問に答えてください。

問. あなたはこのお願いをするときに、申し訳ないと思いますか。

- 全然思わない
- あまり思わない
- やや思う
- 非常に思う

C. 親友に 5 分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面。

あなたは親友と一緒にいつも集まる場所にいます。あなたは別の友達に頼まれた 5 分ぐらいかかるアンケートがあります。それに答えてもらうように親友に頼みます。次の質問に答えてください。

問. あなたはこのお願いをするときに、申し訳ないと思いますか。

- 全然思わない
- あまり思わない
- やや思う
- 非常に思う

D. 親友に 30 分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面。

あなたは親友と一緒にいつも集まる場所にいます。あなたは別の友達に頼まれた 30 分ぐらいかかるアンケートがあります。それに答えてもらうように親友に頼みます。次の

質問に答えてください。

問. あなたはこのお願いをするときに、申し訳ないと思いますか。

- 全然思わない
- あまり思わない
- やや思う
- 非常に思う

E. 親友に 500 円を貸す場面。

あなたは親友と一緒に食堂へ行って、親友はレジのところで財布を出したら、現金はありませんでした。そこで、親友に 500 円を貸してほしいと頼まれます。次の質問に答えてください。

問. あなたはこのお願いをされたときに、負担だと思いますか。

- 全然思わない
- あまり思わない
- やや思う
- 非常に思う

F. 親友に 10,000 円を貸す場面。

あなたは親友と一緒にいつも集まる場所にいるとします。親友は月末までどうしても 10,000 円が必要な状況にいます。親友に 10,000 円を貸してほしいと頼まれます。次の質問に答えてください。

問. あなたはこのお願いをされたときに、負担だと思いますか。

- 全然思わない
- あまり思わない

- やや思う
- 非常に思う

G. 親友に5分ぐらいのアンケートに答えてもらうように頼まれる場面。

あなたは親友と一緒にいつも集まる場所にいます。親友は別の友達に頼まれた5分ぐらいかかるアンケートがあります。それに答えてもらうように親友に頼まれました。次の質問に答えてください。

問. あなたはこのお願いをするときに、負担だと思いますか。

- 全然思わない
- あまり思わない
- やや思う
- 非常に思う

H. 親友に30分ぐらいのアンケートに答えてもらうように頼まれる場面。

あなたは親友と一緒にいつも集まる場所にいます。親友は別の友達に頼まれた30分ぐらいかかるアンケートがあります。それに答えてもらうように親友に頼まれました。次の質問に答えてください。

問. あなたはこのお願いをするときに、負担だと思いますか。

- 全然思わない
- あまり思わない
- やや思う
- 非常に思う

場面に対する感想

I. あなたは（依頼をするとき）次の場面の中で、どれが一番大きい負担だと思いますか。

親友に500円を借りる場面

親友に10,000円を借りる場面

親友に5分ぐらいのアンケートを答えてもらう場面

親友に30分ぐらいのアンケートを答えてもらう場面

J. あなたは（依頼を受けるとき）次の場面の中で、どれが一番大きい負担だと感じますか。

親友に500円を借りる場面

親友に10,000円を借りる場面

親友に5分ぐらいのアンケートを答えてもらう場面

親友に30分ぐらいのアンケートを答えてもらう場面

アンケートはこれで終わりです。ご協力を頂き、ありがとうございました。

أنا اخوكم يزيد الدليمي وحاليا طالب في مرحلة الدكتوراه في جامعة توكاي اليابانية، وهذا الاستبيان هو تحضير لرسالتي في الدكتوراه وهي عن أوجه التشابه والاختلاف في المحادثات اللغوية لدى اليابانيين والسعوديين، الفئة المستهدفة في هذا الاستبيان هم طلاب الجامعات السعوديين (الذكور) وإذا كنت من هذه الفئة أمل أن تعطيني من وقتك ٣ دقائق تقريبا للإجابة على الأسئلة الاختيارية .

السئلة هي عبارة عن مواقف معينة تحصل في الحياة اليومية بحيث تختار الإجابة المناسبة أو الأقرب بالنسبة لك .  
تعاونكم يعني لي الكثير خصوصا أن النتائج سيتم الاعتماد عليها في بحثي للدكتوراه، لذا أتقدم مسبقاً بالشكر للجميع متمنياً لكم دوام التوفيق والنجاح .

للتواصل مع الباحث

الاسم: يزيد ناصر الدليمي

الايمل:

رقم الجوال:

نفترض وجود أربعة مواقف وهي كالتالي:

أ. تستلف من أعز أصدقائك\* مبلغ ١٥ ريال .

ب. تستلف من أعز أصدقائك مبلغ ٣٠٠ ريال .

ج. تطلب من أعز أصدقائك الإجابة على استبيان مدته ٥ دقائق .

د. تطلب من أعز أصدقائك الإجابة على استبيان مدته ٣٠ دقيقة .

المطلوب منك هنا أن تتخيل نفسك في كل موقف وتختار الإجابة المناسبة لك .

ويوجد بعد كل موقف خانة لكتابة أي انطباع أو رأي (إذا وجد) تجاه الموقف نفسه أو الاستبيان بشكل عام .

\*\*المقصود بكلمة أعز أصدقائك هو صديقك الذي تدرس معه أغلب المحاضرات وتقضي معه أغلب وقتك في الجامعة.

اسم الجامعة:

العمر:

Email:

أ. تستلف من أعز أصدقائك مبلغ ١٥ ريال

نفترض أنك ذهبت مع أعز أصدقائك إلى كافيتريا أو مطعم الجامعة، وعند الكاشير أخرجت محفظتك ولم يكن معك المال نقداً، هنا قررت أن تستلف من أعز أصدقائك مبلغ ١٥ ريال، أجب على الأسئلة التالية .

هل تشعر بالحرج تجاه أعز أصدقائك كونك تطلب منه هذا الطلب؟

- لا أشعر مطلقاً
- لا أشعر إلى ذلك الحد
- نعم أشعر
- نعم أشعر بشكل كبير

ب. تستلف من أعز أصدقائك مبلغ ٣٠٠ ريال

نفترض أنك كنت مع أعز أصدقائك في الجامعة، وكنت عندها تمر بضائقة مالية وقررت أن تستلف من أعز أصدقائك مبلغ ٣٠٠ ريال حتى نهاية الشهر، أجب على الأسئلة التالية .

هل تشعر بالحرج تجاه أعز أصدقائك كونك تطلب منه هذا الطلب؟

- لا أشعر مطلقاً
- لا أشعر إلى ذلك الحد
- نعم أشعر
- نعم أشعر بشكل كبير

ج. تطلب من أعز أصدقائك الإجابة على استبيان مدته ٥ دقائق

نفترض أنك كنت مع أعز أصدقائك في الجامعة، وكان معك استبيان طلبه منك زميل آخر وقررت حينها أن تطلب من أعز أصدقائك أن يقوم بكتابة الاستبيان ومدته ((٥ دقائق)) تقريباً، أجب على الأسئلة التالية .

هل تشعر بالحرج تجاه أعز أصدقائك كونك تطلب منه هذا الطلب؟

- لا أشعر مطلقاً
- لا أشعر إلى ذلك الحد



نعم أشعر

نعم أشعر بشكل كبير

د. تطلب من أعز أصدقائك الإجابة على استبيان مدته ٣٠ دقيقة

نفترض أنك كنت مع أعز أصدقائك في الجامعة، وكان معك استبيان طلبه منك زميل آخر وقررت حينها أن تطلب من أعز

أصدقائك أن يقوم بكتابة الاستبيان ومدته ((30 دقيقة)) تقريبا، أجب على الأسئلة التالية.

هل تشعر بالحرج تجاه أعز أصدقائك كونك تطلب منه هذا الطلب؟

لا أشعر مطلقا

لا أشعر إلى ذلك الحد

نعم أشعر

نعم أشعر بشكل كبير

الجزء الثاني من الاستبيان

عندما يكون (صديقك الذي يطلب منك)

هـ. أعز أصدقائك يستلف منك مبلغ ١٥ ريال

نفترض أنك ذهبت مع أعز أصدقائك إلى كافيتريا أو مطعم الجامعة، وعند الكاشير أخرج صديقك محفظته ولم يكن معه المال

نقدًا، فطلب منك أن تسلفه مبلغ ١٥ ريال، أجب على الأسئلة التالية.

هل تشعر أن هذا الطلب من أعز أصدقائك هو عبء بالنسبة لك؟

لا أشعر مطلقا

لا أشعر إلى ذلك الحد

نعم أشعر

نعم أشعر بشكل كبير

و. أعز أصدقائك يستلف منك مبلغ 300 ريال

نفترض أنك كنت مع أعز أصدقائك في الجامعة، فذكر صديقك أنه يمر بضائقة مالية وطلب منك أن تسلفه مبلغ ٣٠٠ ريال

حتى نهاية الشهر، أجب على الأسئلة التالية

هل تشعر أن هذا الطلب من أعز أصدقائك هو عبء بالنسبة لك؟

لا أشعر مطلقا

لا أشعر إلى ذلك الحد

نعم أشعر

نعم أشعر بشكل كبير

ز. أعز أصدقائك يطلب منك الإجابة على استبيان مدته ٥ دقائق

نفترض أنك كنت مع أعز أصدقائك في الجامعة، وكان مع صديقك استبيان طلبه منه زميل آخر وقرر حينها أن يطلب منك

أن تقوم بكتابة الاستبيان ومدته ((٥ دقائق)) تقريبا، أجب على الأسئلة التالية

هل تشعر أن هذا الطلب من أعز أصدقائك هو عبء بالنسبة لك؟

لا أشعر مطلقا

لا أشعر إلى ذلك الحد

نعم أشعر

نعم أشعر بشكل كبير

ح. أعز أصدقائك يطلب منك الإجابة على استبيان مدته 30 دقائق

نفترض أنك كنت مع أعز أصدقائك في الجامعة، وكان مع صديقك استبيان طلبه منه زميل آخر وقرر حينها أن يطلب منك

أن تقوم بكتابة الاستبيان ومدته ((30 دقيقة)) تقريبا، أجب على الأسئلة التالية

هل تشعر أن هذا الطلب من أعز أصدقائك هو عبء بالنسبة لك؟

لا أشعر مطلقا

لا أشعر إلى ذلك الحد

نعم أشعر

نعم أشعر بشكل كبير

الانطباع تجاه المواقف

في النهاية أريد أن أعرف انطباعتك بشكل عام تجاه المواقف التي تم ذكرها في هذا الاستبيان

ط. عندما تكون أنت الذي تطلب من أعز أصدقائك، ماهو أكثر موقف تشعر بصعوبه عندما تطلبه؟

تستلف من أعز أصدقائك مبلغ ١٥ ريال

تستلف من أعز أصدقائك مبلغ ٣٠٠ ريال

تطلب من أعز أصدقائك الإجابة على استبيان مدته ٥ دقائق

تطلب من أعز أصدقائك الإجابة على استبيان مدته ٣٠ دقيقة

ي. عندما يكون أعز أصدقائك الذي يطلب منك، ماهو أكثر موقف تشعر أنه عيب بالنسبة لك؟

تستلف من أعز أصدقائك مبلغ ١٥ ريال

تستلف من أعز أصدقائك مبلغ ٣٠٠ ريال

تطلب من أعز أصدقائك الإجابة على استبيان مدته ٥ دقائق

تطلب من أعز أصدقائك الإجابة على استبيان مدته ٣٠ دقيقة

نهاية الاستبيان، أشكر الجميع متمنياً لكم دوام التوفيق والنجاح

## 付録 2 実際に使用した談話完成テスト

本調査は日本人とサウジアラビア人のコミュニケーションに関する研究のために行うものです。

本調査の対象者は日本人の大学生、大学院生の男性を考えており、あなたにぜひご協力をお願いしたいと思っております。具体的には、ある場面を想像して、質問に答えていただきます。本調査では、お名前やご住所などのような個人情報は何いけません。得られたデータは分析をした上で、東海大学内もしくは学外の学会で発表し、論文とすることを考えております。

疑問点等があれば、いつでも下記の研究者にご連絡下さい。

ご協力を頂き、ありがとうございます。

研究者（連絡先）

東海大学 文学研究科 日本文学専攻

ヤズィード ナーセル

TEL :

Email :

次の（A-B-C-D）のような場面があります。

- A. \*親友に 500 円を借りる場面。
- B. 親友に 10,000 円を借りる場面。
- C. 親友に 5 分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面。
- D. 親友に 30 分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面。

上記の場面で（依頼をする側）と（依頼を受ける側）の立場で、それぞれ回答してください。

尚、コメントを書く欄があります。もしその場面に対して何か感じたことや思ったことなどがあれば、とても参考になるので、コメント欄にご記入をお願いします。

\*ここでいう「親友」というのは、大学でほとんどの授業を一緒にとっている一番親しい友達のことです。

大学名 :

年齢 :

Email :

A. 親友に 500 円を借りる場面

あなたは親友と一緒に食堂へ行って、レジのところまで財布を出したら、現金がありませんでした。そこで、親友に 500 円を借りることにしました。何と言いますか。

答え : \_\_\_\_\_。

B. 親友に 10,000 円を借りる場面。

あなたは親友といつも集まる食堂にいます。あなたは月末までにどうしても 10,000 円が必要な状況にいます。親友に 10,000 円を借りることにしました。何と言いますか。

答え：\_\_\_\_\_。

C. 親友に 5 分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面。

あなたは親友といつも集まる食堂にいます。あなたは別の友達に頼まれた 5 分ぐらいかかるアンケートがあります。それに答えてもらうように親友に頼むことにしました。何と言いますか。

答え：\_\_\_\_\_。

D. 親友に 30 分ぐらいのアンケートに答えてもらう場面。

あなたは親友といつも集まる食堂にいます。あなたは別の友達に頼まれた 30 分ぐらいかかるアンケートがあります。それに答えてもらうように親友に頼むことにしました。何と言いますか。

答え：\_\_\_\_\_。

E. 親友に 500 円を貸す場面

あなたは親友と一緒に食堂へ行って、レジのところでは財布を出したら、現金がありませんでした。そこで、親友に 500 円を借りることにしました。何と言いますか。

答え：\_\_\_\_\_。

F. 親友に 10,000 円を貸す場面。

あなたは親友といつも行っている食堂にいます。親友は月末までにどうしても 10,000 円が必要な状況にいます。親友に 10,000 円を貸してほしいと頼まれます。あなたはそのお願いを受け入れるか、断るか、会話文で書いてください。

答え：\_\_\_\_\_。

G. 親友に 5 分ぐらいのアンケートに答えてもらうように頼まれる場面。

あなたは親友といつも行っている食堂にいます。親友は別の友達に頼まれた 5 分ぐらいか

かかるアンケートがあります。それに答えてもらうように親友に頼られました。あなたはそのお願いを受け入れるか、断るか、会話文で書いてください。

答え：\_\_\_\_\_。

H. 親友に30分ぐらいのアンケートに答えてもらうように頼まれる場面。

あなたは親友といつも行っている食堂にいます。親友は別の友達に頼まれた30分ぐらいかかるアンケートがあります。それに答えてもらうように親友に頼られました。あなたはそのお願いを受け入れるか、断るか、会話文で書いてください。

答え：\_\_\_\_\_。

場面に対する感想

I. あなたは（依頼をするとき）次の場面の中で、どれが一番大きい負担だと感じますか。

親友に500円を借りる場面

親友に10,000円を借りる場面

親友に5分ぐらいのアンケートを答えてもらう場面

親友に30分ぐらいのアンケートを答えてもらう場面

J. あなたは（依頼を受けるとき）次の場面の中で、どれが一番大きい負担だと感じますか。

親友に500円を借りる場面

親友に10,000円を借りる場面

親友に5分ぐらいのアンケートを答えてもらう場面

親友に30分ぐらいのアンケートを答えてもらう場面

アンケートはこれで終わりです。ご協力を頂き、ありがとうございました。

أنا اخوكم يزيد الدليمي وحاليا طالب في مرحلة الدكتوراه في جامعة توكاي اليابانية، وهذا الاستبيان هو تحضير لرسالتي في الدكتوراه وهي عن أوجه التشابه والاختلاف في المحادثات اللغوية لدى اليابانيين والسعوديين، الفئة المستهدفة في هذا الاستبيان هم طلاب الجامعات السعوديين (ذكور) وإذا كنت من هذه الفئة أمل التكرم بالإجابة على الأسئلة.

الأسئلة هي عبارة عن مواقف معينة تحصل في الحياة اليومية بحيث تكتب الإجابة المناسبة لك إذا حصل لك ذلك الموقف. تعاونكم يعني لي الكثير خصوصا أن النتائج سيتم الاعتماد عليها في بحثي للدكتوراه، لذا أتقدم مسبقاً بالشكر للجميع متمنياً لكم دوام التوفيق والنجاح.

للتواصل مع الباحث

الاسم: يزيد ناصر الدليمي

الايمل:

رقم الجوال:

نفترض وجود أربعة مواقف وهي كالتالي:

أ. تستلف من أعز أصدقائك \* مبلغ ١٥ ريال .

ب. تستلف من أعز أصدقائك مبلغ ٣٠٠ ريال .

ج. تطلب من أعز أصدقائك الإجابة على استبيان مدته ٥ دقائق .

د. تطلب من أعز أصدقائك الإجابة على استبيان مدته ٣٠ دقيقة .

المطلوب منك هنا أن تتخيل نفسك في كل موقف وتكتب الرد المناسب لك.

ويوجد خانة لكتابة أي انطباع أو رأي (إذا وجد) تجاه الموقف نفسه أو الاستبيان بشكل عام.

المقصود بكلمة أعز أصدقائك هو صديقك الذي تدرس معه أغلب المحاضرات وتقضي معه أغلب وقتك في الجامعة\*

اسم الجامعة:

العمر:

Email:

أ. تستلف من أعز أصدقائك مبلغ ١٥ ريال

نفترض أنك ذهبت مع أعز أصدقائك إلى كافيتيريا أو مطعم الجامعة، وعند الكاشير أخرجت محفظتك ولم يكن معك المال

نقداً، هنا قررت أن تستلف من أعز أصدقائك مبلغ ١٥ ريال، ماذا ستقول؟

الجواب:

ب. تستلف من أعز أصدقائك مبلغ ٣٠٠ ريال

نفترض أنك كنت مع أعز أصدقائك في الجامعة، وكنت عندها تمر بضائقة مالية وقررت أن تستلف من أعز أصدقائك مبلغ

٣٠٠ ريال حتى نهاية الشهر، ماذا ستقول؟

الجواب:

ج. تطلب من أعز أصدقائك الإجابة على استبيان مدته ٥ دقائق

نفترض أنك كنت مع أعز أصدقائك في الجامعة، وكان معك استبيان طلبه منك زميل آخر وقررت حينها أن تطلب من أعز

أصدقائك أن يقوم بكتابة الاستبيان ومدته ٥ دقائق تقريباً، ماذا ستقول؟

الجواب:

د. تطلب من أعز أصدقائك الإجابة على استبيان مدته ٣٠ دقيقة

نفترض أنك كنت مع أعز أصدقائك في الجامعة، وكان معك استبيان طلبه منك زميل آخر وقررت حينها أن تطلب من أعز

أصدقائك أن يقوم بكتابة الاستبيان ومدته ٣٠ دقيقة تقريباً، ماذا ستقول؟

الجواب:

هـ. أعز أصدقائك يستلف منك مبلغ ١٥ ريال

نفترض أنك ذهبت مع أعز أصدقائك إلى كافيتيريا أو مطعم الجامعة، وعند الكاشير أخرج صديقك محفظته ولم يكن معه

المال نقداً، فطلب منك أن تسلفه مبلغ ١٥ ريال، هل تسلفه أم ترفض؟ أكتب ردك:

و. تستلف من أعز أصدقائك مبلغ ٣٠٠ ريال



<p>نفترض أنك كنت مع أعر أصدقائك في الجامعة، فذكر صديقك أنه يمر بضائقة مالية وطلب منك أن تسلفه مبلغ ٣٠٠ ريال حتى نهاية الشهر، هل تسلفه أم ترفض؟ اكتب ردك:</p>
<p>ز. أعر أصدقائك يطلب منك الإجابة على استبيان مدته ٥ دقائق .</p> <p>نفترض أنك كنت مع أعر أصدقائك في الجامعة، وكان مع صديقك استبيان طلبه منه زميل آخر وقرر حينها أن يطلب منك أن تقوم بكتابة الاستبيان ومدته ٥ دقائق تقريباً، هل توافق أم ترفض؟ اكتب ردك:</p>
<p>ح. أعر أصدقائك يطلب منك الإجابة على استبيان مدته ٣٠ دقائق .</p> <p>نفترض أنك كنت مع أعر أصدقائك في الجامعة، وكان مع صديقك استبيان طلبه منه زميل آخر وقرر حينها أن يطلب منك أن تقوم بكتابة الاستبيان ومدته ٣٠ دقيقة تقريباً، هل توافق أم ترفض؟ اكتب ردك:</p>
<p>نهاية الاستبيان،، أشكر الجميع متمنياً لكم دوام التوفيق والنجاح.</p>

### 付録 3 実際に使用したロールプレイカード

場面	立場	日本語版ロールプレイカード	アラビア語版ロールプレイカード
場面 1	依頼者	<p>依頼者：</p> <p>会話相手は同じ大学に通うサウジアラビア人の親友です。あなたはこの親友と食堂へ行きました。レジのところで財布を出したら、現金がありませんでした。そこで、親友に 500 円を借りることにしました。その場면을思い浮かべながら、会話を始めてください。</p>	<p>الشخص الذي يطلب:</p> <p>الشخص الذي أمامك هو أعر أصدقائك في الجامعة وهو ياباني وتدرسون معاً في نفس التخصص، نفترض أنكم ذهبتُم إلى مطعم في الجامعة، وعند الكاشير أخرجت المحفظة ولم يكن معك نقود وقررت أن تستلف من صديقك 500 ين، تخيل الموقف وابدأ المحادثة مع صديقك.</p>
	被依頼者	<p>被依頼者：</p> <p>会話相手は同じ大学に通うサウジアラビア人の親友です。この親友に食堂の</p>	<p>الشخص الذي يتلقى الطلب:</p> <p>الشخص الذي أمامك هو أعر أصدقائك في الجامعة وهو ياباني وتدرسون معاً في نفس التخصص،</p>

	者	レジのところで、あることを頼まれます。普段通りに、会話をしてください。親友からの依頼を受け入れるか、断るかはあなたに任せます。	نفترض أنك ذهبت مع صديقك إلى مطعم في الجامعة وعندها سيطلب منك طلب، المطلوب منك أن تتخيل الموقف وترد عليه كما لو أن المحادثة حقيقية، قبول الطلب أو رفضه يعتمد عليك أثناء المحادثة.
場面	依頼者	依頼者： 会話相手は同じ大学に通うサウジアラビア人の親友です。あなたは今お金に困っていて、どうしても 10,000 円が必要です。そこで、親友に 10,000 円を借りることにしました。その場面を思い浮かべながら、会話を始めてください。	الشخص الذي يطلب: الشخص الذي أمامك هو أعز أصدقائك في الجامعة، وهو ياباني وتدرسون معاً في نفس التخصص، نفترض أنك تمر بضائقة مالية وتحتاج مبلغ 10,000 ين وقررت أن تستلف من أعز أصدقائك مبلغ 10,000 ين، تخيل الموقف وابدأ المحادثة مع صديقك.
	被依頼者	被依頼者： 会話相手は同じ大学に通うサウジアラビア人の親友です。この親友にあることを頼まれます。普段通りに、会話をしてください。親友からの依頼を受け入れるか、断るかはあなたに任せます。	الشخص الذي يتلقى الطلب: الشخص الذي أمامك هو أعز أصدقائك في الجامعة، وهو ياباني وتدرسون معاً في نفس التخصص، نفترض أنك ذهبت مع صديقك إلى مطعم في الجامعة وعندها سيطلب منك طلب، المطلوب منك أن تتخيل الموقف وترد عليه كما لو أن المحادثة حقيقية، قبول الطلب أو رفضه يعتمد عليك أثناء المحادثة.
	依頼者	依頼者： 会話相手は同じ大学に通うサウジアラビア人の親友です。あなたは別の友達に 5 分ぐらいかかるアンケートを頼まれました。親友にもそのアンケートに答えてくれるように頼みます。その場	الشخص الذي يطلب: الشخص الذي أمامك هو أعز أصدقائك في الجامعة، وهو ياباني وتدرسون معاً في نفس التخصص، نفترض أن معك استبيان طلبه منك زميل آخر وقررت حينها أن تطلب من صديقك الذي أمامك أن يقوم بكتابة الاستبيان ومدته 5 دقائق تقريباً، تخيل الموقف وابدأ

場面		面を思い浮かべながら、会話を始めてください。	المحادثة مع صديقك.
	3	被依頼者 : 会話相手は同じ大学に通うサウジアラビア人の親友です。この親友にあることを頼まれます。普段通りに、会話をしてください。親友からの依頼を受け入れるか、断るかはあなたに任せます。	الشخص الذي يتلقى الطلب: الشخص الذي أمامك هو أجز أصدقائك في الجامعة وهو ياباني وتدرسون معاً في نفس التخصص، سيطلب منك طلب، المطلوب منك أن تتخيل الموقف وترد عليه كما لو أن المحادثة حقيقية، قبول الطلب أو رفضه يعتمد عليك أثناء المحادثة.
場面	依頼者	依頼者 : 会話相手は同じ大学に通うサウジアラビア人の親友です。あなたは別の友達に30分ぐらいかかるアンケートを頼まれました。親友にもそのアンケートに答えてくれるように頼みます。その場を思い浮かべながら、会話を始めてください。	الشخص الذي يطلب: الشخص الذي أمامك هو أجز أصدقائك في الجامعة وهو ياباني وتدرسون معاً في نفس التخصص، نفترض أن معك استبيان طلبه منك زميل آخر وقررت حينها أن تطلب من صديقك الذي أمامك أن يقوم بكتابة الاستبيان ومدته <u>30 دقيقة</u> تقريباً، تخيل الموقف وابدأ المحادثة مع صديقك.
	4	被依頼者 : 会話相手は同じ大学に通うサウジアラビア人の親友です。この親友にあることを頼まれます。普段通りに、会話をしてください。親友からの依頼を受け入れるか、断るかはあなたに任せます。	الشخص الذي يتلقى الطلب: الشخص الذي أمامك هو أجز أصدقائك في الجامعة وهو ياباني وتدرسون معاً في نفس التخصص، سيطلب منك طلب، المطلوب منك أن تتخيل الموقف وترد عليه كما لو أن المحادثة حقيقية، قبول الطلب أو رفضه يعتمد عليك أثناء المحادثة.

## 謝辞

この論文を完成するには、指導教員の加藤先生の下で、4年間半研究してきました。最初の1年間半は、主に発話行為に関する本や様々な面から分析されている論文を読んでいた。2年目の後半から、パイロットスタディを行いながら、本研究の研究方法を設定し、加藤先生からのアドバイスや親切なご指導などを頂きながら、データ収集を始めた。3年目と4年目は学内外で研究発表をし、そこで頂いたアドバイスや批判等を参考にしながら、次々と論文の修正を行い、論文投稿に力を入れた。恩人の加藤先生に心から感謝致します。

加藤先生以外にも、モーメン先生、外崎先生、元田先生をはじめ、日本語教育学コースの先生の方々からも貴重なアドバイスを頂きながら、無事本論文を書くことができました。先生の皆さんに心から感謝致します。

本研究の特に前半、いわゆる研究方法や場面設定などに色々相談に乗って頂いた親友の米田さん（当時国際交流基金派遣日本語専門家）と本研究の様々な設定などに関して、お忙しい中長い間意見交換をして頂きました。親友の米田さんに心から感謝を致します。

また、本研究の後半、いわゆる分析方法や考察のところなどに色々相談に乗って頂いた鈴木さん（当時アラブ首長国連邦の公立高校で日本語教師）と本研究の結論などに関して、お忙しい中長い間様々な修正や意見交換などをして頂きました。親友の鈴木さんに心から感謝を致します。

そして、提出する半年前の段階、日本語のチェックをして頂いた宮城先生に心から感謝を致します。最後の一年で、分析のところで迷った時期があったが、そこで宮城先生に親切に相談に乗って頂きました。ご親切にどうもありがとうございました。

加藤先生のゼミで、友達の皆さんから研究方法に対する批判を頂いたおかげで、少しずつ論文を修正したり、新しいアイデアを使用したりして、研究方法をまとめることができました。友達の皆さんに心から感謝致します。

親友からの恩恵を言いますと、日本に留学している間、落ち込んだりした際にお互い慰めたり、一緒に外食したりしてくれた後輩のハカミ君にも心から感謝を致します。

パイロットスタディとデータ収集に協力した下さった日本人の皆さんと、サウジアラビア人の皆さんから貴重な協力を頂けなかったら、この論文を書き終わることができませんでした。協力

者の皆さんに心から感謝致します。

加藤先生、モーメン先生、先生の方々、4年間半お世話になりました。どうもありがとうございました。

最後に、長期にわたって修士課程からここまでいつも支えてくれた妻に心から感謝します。日本に留学している間に文化と言語が違うのに、毎日幼稚園から小学校2年生まで近所の友達を作りながら、楽しく頑張ってくれた娘にも感謝します。

2022年9月22日